

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
出会いが生み出す学びのレシピ
～ 学校 × 博物館 = ∞ ～

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
出会いが生み出す学びのレシピ
～ 学校 × 博物館 = ∞ ～

学校向けプログラム（館内）



■ ガイダンス



■ 展示室案内



■ 展示室案内



■ 長崎版画体験



■ 職場体験学習

学校向けプログラム（館外）



■遠隔授業



■遠隔授業



■移動博物館



■出張授業



■出張授業

協力校、パートナーズ・プログラム



■2008 年度報告会



■説明会のようす



■企画展示 見学



■研究員による常設展示解説講座



■教材研究

ごあいさつ

長崎歴史文化博物館

館長 大堀 哲

かつて“博物館行き”という言葉があった。古色蒼然、なんとなくカビ臭いところ、役に立たなくなったもの、時代遅れのものが並べてあるところが博物館というイメージがあったことから言われた言葉である。そういう見かたをすれば、博物館は既に機能を喪失した過去の遺物の収容所であり、歴史の冷凍庫ということになる。

しかし今や、博物館行きといった言葉は死語になっているといえると思う。決して古いモノを保管しておくだけの過去の収納庫ではない。いうまでもなく博物館は過去のことを取り扱うが、同時に現在のこと、未来のこともきちんと見据えている。時代を超えた文明の伝達装置として機能しているのが現代博物館である。

そのような視点に立って、2005年11月3日に開館した長崎歴史文化博物館は、“進化する博物館”づくりを進めてきた。交流・連携・発見というコンセプトを掲げながらも、大きな理念は、たえず進化する博物館である。その核として、博物館は究極的に「教育」でなければならないという考えのもとに運営に当たってきた。研究の成果は展示や資料の収集・保存などに活かされるが、最終的に人々の理解を深めることにつながらなければならないからである。

私は進化する博物館、博物館利用者にとって役に立つ博物館をつくるために、展示方法であれ、児童生徒の活動であれ、博物館としての「組織化」「体系化」が必要であると考え、その実現に努めてきた。とりわけ、博物館教育の組織化、体系化については教育方法論が未整備であったこともあり、体系だった実施は十分ではなかった。

もとより博物館教育には二つの経路がある。それは（１）博物館側（学芸員や教育担当者）が、来館者（児童生徒、成人、家族、専門家など）に展示（物）や教育情報を参加・体験、解説などを通して行う博物館教育と、（２）博物館側（学芸員や教育担当者）が、学校教員あるいはボランティアなどに博物館の利用法や教育情報を伝達する博物館教授法、学校の教員またはボランティアなどが児童生徒または来館者に、展示の内容や教育情報を参加、体験、解説等により伝える教授法である。

博物館の教育が資料、コレクションを用いた教育活動であっても、この（１）と（２）は組み合わせられるべきであろう。しかし、わが国の現状を見ると（１）の博物館教育（education）よりも（２）の博物館教授法（pedagogy）を分けて考えた方がよいであろう。どちらのパイプを広くするかによって、結果は異なる。

いずれにしても博物館教育は、博物館教育活動の中核であり、博物館教育そのものが博物館の存在理由である。欧米の博物館では、既に「教育」に「サービス」という概念を導

入しているが、わが長崎歴史文化博物館もその思想は同様で、その実践に最大の努力を払ってきており、今後も一層強化を図ることとしている。学校教育との連携の重視、相互補完的な機能の充実を図ることに変わりはない。

長崎の小・中・高校の30人を超える先生が、当博物館「協力校・パートナーズプログラム」に参加していただき、博物館の活用、児童生徒の教育の質の向上のために博物館側と熱心に研究を進められたことに深く敬意を表したい。本報告書は、その貴重な成果であり、博物館や学校の今後の教育活動のモデルとして十分にご活用いただけるものと確信している。

多くの関係の皆様にご一読いただき、忌憚のないご意見等を賜ることができれば幸いである。

目次

巻頭写真

ごあいさつ	1
I 学校との連携 これまでの活動を振り返って	5
II 教育普及事業(学校向けプログラム)について	11
III 博学連携事業「協力校・パートナーズプログラム」について	17
実践報告 小学校編	24
中学校編	147
高等学校編	166
IV 資料編	205

I 学校との連携

これまでの活動を振り返って

学校との連携 これまでの活動を振り返って

教育普及グループ リーダー

竹内 有理

はじめに

長崎歴史文化博物館では 2005 年の開館以来、教育を博物館活動の重要な柱に据え、その実践に取り組んできた。開館から 7 年が経過し、手探りで始めたいろいろな活動もようやく定着し、浸透してきた感がある。教育と一口に言っても、その対象や内容は様々である。大人を対象とした講座・講演会等の生涯学習活動もあれば、こどもや家族連れを対象とした教育プログラムもある。さらに博物館を地域や社会に開いていく活動も含めるとしたら、コンサートや伝統芸能などのイベントも教育活動の一つと捉えることができる。

本報告書はそのなかでも特に学校との連携に関わる取り組みに絞って、これまで実践してきたことをまとめたものである。学校の先生や博物館関係者など多くの方々のご意見やご批判をいただきながら、これからの事業の更なる発展に役立てていきたいと思う。

学校の博物館利用の状況

学校団体向けの教育活動は、博物館の教育活動の中でも重要な位置を占める。対象とするこどもの数が個人で来館するこどもの数よりはるかに多いので、来館者数の点からも博物館にとって重要な顧客であるといえるが、それ以上に、教育の場として博物館が学校教育やこどもの成長に大きな効果をもたらすという意味において、学校利用を増やすことの意義は大きい。

また多くのこどもたちにとって、学校の授業や社会科見学で博物館を訪れる経験が、初めての博物館訪問（体験）になる。初めての体験が楽しく、いい思い出に残るものであれば、その後も博物館を利用する大人になるかもしれない。長い目で博物館利用者を育てる意味においても、学校での見学経験を軽視することはできない。

このように博物館としては学校団体の利用を重要なものとして捉えているが、一方の学校の立場からみると、博物館をこどもたちの教育に重要なものとは必ずしも捉えていない。

長崎歴史文化博物館には毎年、県内県外合わせると 1,000 校近くの学校団体が来館する。そのうち県内の学校は 2 割から 3 割を占める。長崎は修学旅行のメッカでもあるため、県外からの学校団体が多く訪れる。

長崎県においては、学校による博物館利用は決して多いとはいえない。当館のような郷土の歴史や日本史に直接関わる内容の展示をしている博物館であっても、せいぜい年に 1 回程度の利用か、まったく利用しない学校のほうがむしろ多いのが実状である。2005 年に当館が開館し、同じ年に長崎県美術館も開館するなど、県内の中核博物館といわれる施設が誕生し、以前よりは博物館や美術館の利用は増えたようであるが、まだまだ学校教育の

なかで日常的に博物館を利用する環境にはなっていない。

2011年度から施行された学習指導要領では「総合的な学習の時間」の時間数が削られるなど、学校現場で博物館を利用することが今後ますます難しくなるのではないかと危惧される。よほど教師に博物館利用の意義や価値を理解してもらわないと、博物館利用を促すことは難しいであろう。

博物館を知る 学校を知る

すでに触れたように学校にとって博物館の利用が当たり前のものになっていない環境のなかで、博物館開館後まず考えたのが、学校の教師と博物館の職員が歩み寄れる場をつくることであった。両者は同じ教育機関でありながら、出自や目的が異なるため、まったく異世界にいるといっても過言ではない。博物館は学校のことをよく知らないし、学校は博物館のことをよく知らない。博物館で学校向けに提供するプログラムやサービスを考える際に、学校側のニーズを知ること、こどもの学習レベルや志向を知ることが重要であると考え、市の教育委員会の職員に推薦していただいた6名の小中学校の教師をメンバーとした博物館利用検討委員会というワーキンググループを開館翌年度の2006年度に立ち上げた。同委員会では、当館の教育担当研究員が中心となって、当館の常設展示のワークシートや子ども向けガイドブック、その他の教育サービスについて定期的に会合を開き、検討を行った。

2008年度からは、「協力校・パートナーズプログラム」と名称を変え、さらなる発展をめざした。2012年度現在、メンバーの数は30人近くとなり、当館の様々な教育プログラムについて意見を聴くだけでなく、博物館を使った授業計画を教師に考えてもらう研修会となっている。博物館の研究員と共に考えた授業の実践数も増え、その内容も徐々に高度なものに変わりつつある。詳細は「第3章実践の報告」を参照されたい。

当初めざしていた異世界にいた教師と博物館研究員が歩み寄り、気軽に相談し、情報交換できる場を作ることができた意義は大きい。この成果は当館の展示や教育プログラムにも様々な形で生かされている。

博物館の利用のしかた

数のうえでは修学旅行など県外から来館する学校団体の数のほうが県内の学校の来館校数より多い。博物館に来るすべての学校に対して効果的な見学プログラムを提供できればいいのだが、現実には難しい。次章に紹介しているような様々な種類の見学プログラムを用意しているが、残念ながらすべての学校がそれを利用するわけではない。事前の申し込みと相談があれば、学校の要望に合わせた見学プログラムを提供することができるが、そうでない場合は学校側に任せるしかないのも、どれだけ効果的な学習ができたのか、あるいは記憶に残る博物館見学になったのか疑わしいところである。

一方、本報告書に収録している実践事例は、事前の打合せや場合によっては見学後の事

後学習まで、学校の教師と博物館研究員が入念に計画を立てて実施したものである。県外からの修学旅行によく見られるような、足早に展示を見て通り過ぎていくような見学とは違い、学習効果の高い見学内容となっていることがわかる。

博物館を利用する教科は、社会科が最も多いが、国語や生活科、総合学習、理科などの授業の一環として利用する場合もある。

地元の学校と県外の学校では、郷土の歴史についてこどもが持っている知識や認識が異なるので、同じプログラムをそのまま使用するわけにはいかない。市内か市外か、県内か県外かによって説明のしかたや見学プログラムを変えるなどきめ細かな対応が求められる。また人数によっても対応できるプログラムが変わってくる。

いずれにしても学校側の求めているものは、地域や学年によっても様々なので、博物館としては、より多くのプログラムの引き出しを用意しておくことが望ましい。当館のような歴史系の展示は、こどもが自らの力だけでその内容を読み解くにはハードルが高すぎる。そこを補うのが教育プログラムであるといえる。こどもが博物館で費やした貴重な時間を無駄なものにしないためには、何らかのプログラムを利用することをお勧めする。

学校教育と博物館教育

学校と博物館は同じ教育機関であるが、目的も性格もまったく異なる。学校教育は特定の年齢のこどもを対象に、その成長段階に合わせて国が定めた学習指導要領にもとづいて教育する機関で、より多くの知識をつけるために画一的に「教え込む」ことに重きが置かれる。それに対し、博物館は様々な年代の人々が集まる場であり、知識を「教える」ことよりも、展示や人々との交流を通して学習者がみずから学ぶことに重きが置かれる。学習者の学びを促す働きかけをどのように行うかが教育プログラムの鍵となる。このような博物館を含めた社会教育や生涯学習は、学校教育と区別してインフォーマルな学習と呼ばれ、学習者に主体をおいた構成主義の理論にもとづく教育が近年の博物館教育の主流となっている。

このように学校と博物館ではその教育方法が異なるが、両者が一緒になったとき、やり方次第で思わぬ効果を発揮する。博物館では認知的な側面だけでなく、それ以外の心理的、情緒的、芸術的な様々なこどもの能力や感性を刺激し、学びが促される。もっとわかりやすく言えば、博物館で経験した発見や喜びや感動、驚きといった感情や感覚が、こどもの好奇心や探究心を促し、知識が獲得されていくのである。

博物館を利用することにより、学校だけではなし得ない学習効果が期待できることは、本報告書に収録された様々な授業の実践例を見ても明らかである。より学習効果の高い授業をめざすのであれば、教師と博物館職員とが共に目的を共有し、それぞれの立場から博物館の最良の利用のしかたを考えることが肝要である。

さらなる発展に向けて

博物館が開館して 7 年が経過したが、市内・県内の学校による博物館利用の頻度にはまだ課題が残る。「協力校・パートナーズプログラム」に参加している学校の利用の頻度やその内容の質は確実に上がっているが、より多くの学校に利用してもらえるような働きかけと環境づくりが求められる。

一つは博物館を利用することの有効性について、学校にもっと知ってもらう必要がある。博物館に対する理解は学校現場でまだ十分に認知されていない。博物館側が積極的に説明し、アピールしていく必要があるだろう。

二つ目は、学校のニーズに応えられるサービスや教育プログラムの充実とその質の向上をはかる必要がある。それは何を誰がどのように実施するかという問題とも関わってくる。現在、教育担当の研究員が教育プログラムの内容を考え、実施にあたっては、職員だけでなく当館のボランティアにも展示室での説明などのサポートをお願いしている。職員はもちろんのこと、こどもと直接対峙するボランティアのスキルも磨く必要がある。

最後に博物館の努力だけではどうにもならない問題もある。一つは移動手段の問題である。学校から博物館までの移動手段が確保されないと博物館訪問が難しいという学校は多い。これまでに行政の予算措置により、何度か博物館がバスの運行費を負担する支援サービスを実施したことがある。このサービスがあったから博物館に来館できた学校も多い。

繰り返しになるが、博物館を利用することの価値について学校現場での理解を深めるためには、個々の博物館が主張するだけでなく、教育委員会をはじめ行政の力も必要である。教育施策として博物館の利用をきちんと位置づけ、それを奨励するような行政の取り組みを期待したい。

こどもは学校だけでなく、家庭で、そして地域で育っていく。博物館も地域の一員としてこどもたちを育てる大きな役割を担っている。郷土の歴史に少しでも興味関心を持ってもらえるよう、これからも教育活動の充実と発展に努めていきたい。

II 教育普及事業（学校向けプログラム） について

II. 教育普及事業（学校向けプログラム）について

長崎歴史文化博物館では、開館以来、多様な年齢層を対象に様々なプログラムを実施している。本章では、学校向けにおこなっている様々なプログラムについて、その概要を紹介する。

1. 博物館でおこなうプログラム

学校が博物館来館時に利用できるように展示室紹介や見学コース例、学校向けプログラムをまとめたパンフレット『学校のための長崎歴史文化博物館利用ガイド』（2005～2007年）を作成した。このパンフレットは開館当初に作成したため、見学プログラムよりも展示室紹介に重点が置かれていた。そのため2008年度からは、来館時に利用できるプログラムを充実させた『学校向けプログラム』を新たに作成し、長崎県内の小中学校や高等学校、修学旅行の下見で来館する教員に配布している。

このプログラムは大きくは「知るプログラム」「つくるプログラム」「学ぶプログラム」「お仕事プログラム」に分かれている。

「知るプログラム」

博物館見学前にホールや1階エントランスなどで博物館の展示や施設の紹介や、学習の導入として長崎の歴史について所蔵資料を交えながら紹介する「博物館ガイダンス」、研究員やボランティアによる常設展示室の案内や、学習目的にあわせてテーマを絞り、テーマに沿った資料案内をする「展示室案内」、収蔵庫や荷物用エレベータなど展示室以外の博物館の施設を見学する「博物館探検」をおこなっている。

「つくるプログラム」

当館には長崎の伝統工芸品の制作体験ができる「伝統文化体験工房」と「貸工房」がある。「伝統工芸体験工房」では長崎市が実施している長崎伝習所事業、長崎市伝統工芸人材育成事業において活動してきた5つの塾の塾生が、ボランティアで「長崎刺繍」「現川焼」「長崎の染め」「銀細工」「ステンドグラス」の活動を日替わりでおこない、来館者の体験をサポートしている。また貸工房では長崎の「べっ甲」や五島の「ばらもん凧」（2010年まで）、佐世保の「佐世保独楽」といった県内の伝統工芸を担う職人が交代で活動しており、作品の制作や絵付けを体験することができる。

また研究員が講師を務めるものに「長崎版画」と「拓本」がある。江戸時代の長崎でお土産品として人気があった「長崎版画」の摺り方体験や、博物館の敷地に江戸時代に建っていた長崎奉行所立山役所出土の瓦の形を、墨を使って写し取る拓本の体験である。

つくるプログラムで製作する作品の多くは、展示室内で本物を見学することができる。そのため学校団体で体験を行う場合には、制作体験と展示室見学を組み合わせることを推奨している。なぜなら体験をとおして材料や作り方を学ぶことと作品の見学をあわせてお

こなうことで、資料をより深く理解できると考えるためである。

「学ぶプログラム」

当館の展示に関連した長崎の歴史文化に関する質問への回答や、学校の授業に対応した利用プランにあわせて、所蔵資料をもとにおこなう講話「テーマ学習、聞き取り調査」と、長崎の有名な人物を取り上げた映像と展示室の見学をあわせて紹介する「長崎の人物調査」がある。長崎の人物調査では、子どもたちにもなじみ深いアニメを使って、「上野彦馬」「松浦静山」「天正遣欧少年使節」など県内の著名な人物について詳しく紹介したあとに、展示品を見ることで、子どもたちの学びをより深めることを目的としている。

「お仕事プログラム」

中学生や高校生を対象に職場体験や職場見学の受入をおこなっている。職場体験では2～3日間の期間中に接客やワークショップの事前準備、広報補助などの活動をおこなう。ただし、資料の取り扱いはおこなっていない。

また職場見学では博物館の役割や仕事、展示の特徴について研究員が紹介したり、事前に送ってもらった質問への回答をおこなう。また博物館の役割についての理解を深めるためバックヤードなど博物館の裏側を見学することもできる。

2. 学校でおこなうプログラム

当館では学校でおこなうアウトリーチ活動として「出張授業」「移動博物館」「遠隔授業」を実施している。

「出張授業」

当館の研究員が申込のあった学校に出向き、授業をおこなう。学習テーマは先生方との打ち合わせに基づき決定し、テーマに沿った所蔵資料の複製品や学習素材を学校に持ち込む形式で、年間で5、6校程度実施している。出張授業は2009年度から「協力校、パートナーズ・プログラム」参加者を対象に行っていたが、2011年度からは対象を広げ、長崎県内の小中学校や高等学校向けに実施している。

「移動博物館」

2008年度からは遠隔地やその他の理由で来館することが困難な学校や福祉施設を対象に、所蔵資料の複製品や学習素材を館用車で学校に持ち込み、体育館や空き教室、エントランスなどを使って、博物館のミニ展示をおこなう「移動博物館」を実施している。1日で設営・実施・撤去をおこなうため、実施時間は3～4時間を想定していて、展示資料の輸送費・保険料・館研究員の旅費は博物館側で負担し、会場提供・展示什器の準備（机・パネルなど）は申請者に提供してもらっている。離島からの申込があった場合にも移動時間を考慮しながら対応しており、2011年度には佐世保市立宇久中学校、五島市立本山小学校で

移動博物館をおこなっている。

展示資料は江戸時代を中心としており、6年生を対象にすることが多いが、体験用の学習素材も多くあるため全学年に開放する学校も多い。1年生が南蛮屏風の絵合わせや、出島や唐人屋敷のパズルを組み立てる姿もよく見られる。

「遠隔授業」

学校と博物館をインターネット回線をつなぎ、テレビ会議システムを使った授業を「遠隔授業」と呼び、離島などの当館への来館が困難な地域を対象に、開館時から実施している。2005年度から2007年度までは長崎県立壱岐高等学校と年間2回(2005年度は1回のみ)実施した。2008年度・2009年度には長崎県立壱岐高等学校、壱岐市立盈科小学校と年間1回ずつの実施となった。

2010年度からは会場を壱岐市から五島列島の小値賀町に移し、小値賀町立小値賀小学校と小値賀町立小値賀中学校の2校と、それぞれ年に1回実施した。授業テーマは先生との打ち合わせに基づき決定し、指導案は博物館で作成している。授業では博物館が一方的に話すのではなく、テレビ会議システムの利点を生かし、参加する児童や生徒と対話をしながら、資料を詳しく見ていく形式でおこなっている。

当館の資料の中には教科書に掲載されている資料も多く、社会科や歴史の授業と関連づけたり、特に小学校の場合は修学旅行で長崎市を訪れるため、修学旅行の事後指導としても活用している。

「貸出教材」

「寛文長崎図屏風」など教科書に掲載されている資料を中心に、写真を拡大したパネルや「長崎の人物調査」で述べた「上野彦馬」「天正遣欧少年使節」「松浦静山」について紹介したDVDの貸出も行っている。

「ワークシート」「館内マップ」

常設展示室のコーナーごとに1枚のワークシートを作成して、当館のホームページで掲載している。また各コーナーの見所や博物館見学のマナーを紹介した「館内マップ」はホームページでの掲載や、入館時に希望者に配布している。

最後に、これらの「学校向けプログラム」は開館当初から全てが整っていたわけではない。2008年度にはじまった博物館と学校の教員との連携事業「協力校、パートナーズプログラム」をはじめ、学校の教員とのさまざまな連携事業をとおして、少しずつ整えていったものが現在の「学校向けプログラム」となった。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

〔凡例〕

協力校・パートナーズプログラム参加者の所属校名は、報告書提出時のものです。

Ⅲ 博学連携事業 「協力校・パートナーズプログラム」 について

Ⅲ. 協力校・パートナーズプログラムについて

「博物館利用検討委員会」について

当館の教育普及事業について先生方と意見交換を行う場として、2006年度に「博物館利用検討委員会」（以下、利用検討委員会）を設置した。委員は長崎市教育委員会の推薦を受けた小・中学校教員3名ずつと、当館の学校担当の研究員で構成し年間5回協議の場を設けた。

利用検討委員会では、学校担当の研究員が制作した教育ツールを事前にメンバーに送付し、会議の場で意見交換をおこないながら、2年間実施した。成果物としてワークシートや常設展に設置する子ども向けキャプションを制作している。

これらの成果物は実施前に、委員による試行をおこなっている。ワークシートは委員が担任する5年生のクラスが実際に博物館で試行し、所要時間や問題点を洗い出した。また貸出教材は、学校での掲示や研究授業、文化祭で使用するなど可能な限り事前評価につとめ、成果物に反映させている。

「協力校・パートナーズプログラム」について

博物館利用検討委員会の成果をもとに、対象を県内小中学校・高等学校の教員に広げ、より開かれた教育普及活動を目指すため、「協力校・パートナーズプログラム」を設置した。

「協力校・パートナーズプログラム」は、①長崎歴史文化博物館と県内の学校教員との相互理解を深め、学校教育を通じた博物館利用に関する連携を強化すること、②当館を使った効果的な活用方法について、教員と当館研究員が共同して授業実践をおこない、すぐれた活用事例をつくること、③小中学校や高等学校の違いを超えて教員・当館研究員・当館ボランティアが情報交換する機会とすること、④長崎の歴史や文化に興味関心のある教員を対象とした研修の機会とすることを目的としている。

「協力校・パートナーズプログラム」の参加者は近隣の学校が、学校単位で参加する「協力校」と県内の小中学校、高等学校の教員が個人で参加する「パートナーズプログラム」に分かれているが、研修会など活動は合同でおこなっている。

活動は年度初めの説明会に続き、2ヶ月に1回を目安に研修会を開催している。研修会では企画展や常設展の見学と、実践事例や実践計画、当館の教育普及事業について情報交換をおこなっている。また当館研究員が長崎の歴史や文化に関する特別講座をおこなうほか、学校教育の場で当館をより効果的に活用できるような学習素材や展示内容の検討をおこなっている。参加者には可能な範囲内で出席を依頼している。

研修会では、「小学生向けの解説方法について」「学校団体申込書のフォーマット」「ボランティア・先生・当館研究員を交えた意見交換会」「出張授業の形式」「常設展示室リニューアルによる子ども向け解説・体験コーナーの設置」など毎年数多くの成果を上げている。

この制度を設置した当初、参加者は博物館近隣の小学校教員が多かったが、参加者の同

僚や知人の教員への紹介で、参加者の輪が広がりつつある。また公立・私立の中学校や高等学校、特別支援学校の教員が参加することで、校種を超えた相互理解や交流の場にもなっている。

参加者には特典として、①学校行事の一環として博物館を利用する場合には、常設展・企画展（自主企画のみ）とも引率の教員を含め無料、②メンバーズカードの提示により担当の先生に限り、常設展・企画展とも観覧無料、③出張授業や移動博物館の優先開催、④公式ガイドブック、企画展図録の贈呈などをおこなっている。

また参加者に当館の学習素材（学校向けプログラム、貸出教材、出張授業）を活用した授業、実践内容を実践報告シートにまとめてもらい、活動報告会での報告もしくは授業実践が難しい場合は授業案の提出を依頼している。

本章では 2008 年度から 2011 年度までに「協力校・パートナーズプログラム」参加者より、提出された実践報告シートを校種ごとに掲載している。

当館研究員と学校が連携し、作り出した「実践」の成果をまとめたものである。

（当館教育普及グループ 研究員 下田幹子）

協力校・パートナーズプログラム 研修会・参加者一覧

2008 年度（平成 20 年度）

研修会	開催日	研修内容
第 1 回	7 月 17 日（土）	趣旨説明、実践事例に関する情報交換、学校向けプログラムの体験
第 2 回	9 月 27 日（土）	実践事例に関する情報交換、報告フォーマットに関する意見交換、バックヤードツアー
第 3 回	11 月 15 日（土）	実践事例に関する情報交換、常設展示の学年別対応状況に関する調査、団体申込書書式に関する意見交換
第 4 回	1 月 10 日（土）	実践事例に関する情報交換会、常設展示の学年別対応状況に関する調査、団体申込書書式に関する意見交換
報告会	2 月 29 日（土）	実践報告

協力校参加校（小学校・中学校 各 3 校）

橋本貴亮（長崎市立桜町小学校）、小川希巳絵（長崎市立上長崎小学校）、森山哲（長崎市立伊良林小学校）、山野健二（長崎県立長崎東中学校）、小田教哉（長崎市立桜馬場中学校）、中野浩一（長崎市立片淵中学校）

パートナーズ・プログラム参加者

○小学校（17 名）

赤瀬妙子・宇土剛・平健太・田崎勇・田中耕太郎・中尾里香子・林田巧・東啓子・福崎徹・松本治子・山口由美（長崎市立伊良林小学校）、川口邦春・中山美加（長崎市立西山台小学校）、梅林一城（長崎市立晴海台小学校）、川端健一（長崎市立西城山小学校）、福田浩久（西海市立瀬戸小学校）、松尾恵子（長崎市立虹が丘小学校）、村上兼一（長崎市立稲佐小学校）

○中学校（2 名）

小林正一（精道三川台中学校）、野口孝（長崎市立戸町中学校）

2009 年度（平成 21 年度）

研修会	開催日	研修内容
説明会	5 月 16 日（土）	趣旨説明、実践事例に関する情報交換、学校向けプログラムの体験
第 1 回	6 月 28 日（土）	実践事例に関する情報交換、学校向けプログラム（企画展）の体験、研究員による常設展示解説講座
第 2 回	9 月 26 日（土）	実践事例に関する情報交換、3 者（先生・ボランティア・研究員）交流会
第 3 回	11 月 14 日（土）	実践事例に関する情報交換、こども向け解説に関する意見交換
第 4 回	2 月 6 日（土）	実践事例に関する情報交換、教育用体験キットに関する意見交換
報告会	2 月 20 日（土）	実践報告

協力校参加校（小学校・中学校 各 3 校）

山田裕介（長崎市立桜町小学校）、前田雄司（長崎市立上長崎小学校）、森山哲（長崎市立伊良林小学校）、松本英樹（長崎市立諏訪小学校）、山野健二（長崎県立長崎東中学校）、井手一夫（長崎市立片淵中学校）、（長崎市立桜馬場中学校）

パートナーズ・プログラム参加者

○小学校（12名）

岩隈佳子（長崎市立高浜小学校）、梅林一城（長崎市立畝刈小学校）、加藤尊城（長崎市立小ヶ倉小学校）、川口邦春・中山美加（長崎市立西山台小学校）、川端健一（長崎市立西城山小学校）、小林輝子（長崎市立日見小学校）、田中英明（長崎市立村松小学校）、西村慎一郎（長崎市立晴海台小学校）、福田浩久・深堀昭三（西海市立瀬戸小学校）、松尾恵子（長崎市立虹が丘小学校）

○中学校（1名）

小林正一（精道三川台中学・高等学校）

○高等学校（1名）

小嶺嘉浩（島原中央高等学校）

2010年度（平成22年度）

研修会	開催日	研修内容
説明会	5月15日（土）	趣旨説明と昨年の活動報告、今年度の活動計画に関する意見交換
第1回	7月17日（土）	実践事例に関する情報交換、常設展示室の改善点のチェック
第2回	8月21日（土）	実践事例に関する情報交換、常設展示の点検、バックヤードツアー
第3回	10月2日（土）	実践事例に関する情報交換、研究員による常設展示解説講座
第4回	11月20日（土）	実践事例に関する情報交換会、常設展示改修計画の進捗状況報告
第5回	1月29日（土）	実践事例に関する情報交換、研究員による常設展示解説講座
報告会	2月20日（土）	実践報告

協力校参加校（小学校3校、中学校2校）

山田裕介（長崎市立桜町小学校）、安達亜紀子（長崎市立上長崎小学校）、坂本陽一（長崎市立諏訪小学校）、山崎浩一（長崎県立長崎東中学校）、中野浩一（長崎市立片淵中学校）

パートナーズ・プログラム参加者

○幼稚園（1名）

小嶺典子（有明幼稚園）

○小学校（12名）

梅林一城（長崎市立畝刈小学校）、加藤尊城（長崎市立深堀小学校）、桑原重久・田中英明・南部弥生・山田俊介（長崎市立村松小学校）、小林輝子（長崎市立日見小学校）、中山美加（長崎市立西山台小学校）、西村慎一郎（長崎市立為石小学校）、深堀昭三（長崎市立女の都小学校）、福田浩久（西海市立瀬戸小学校）、松尾恵子（長崎市立虹が丘小学校）

○中学校（4名）

上田清人（長崎市立茂木中学校）、小林正一（精道三川台中学・高等学校）、袖山道典（純心中学校）、田中康之（諫早市立飯盛中学校）、

○高等学校（6名）

安達典久（長崎県立長崎西高等学校）、岩永崇史（活水高等学校）、小嶺嘉浩・的野幸一郎（島原中央高等学校）、陶山美紀（長崎県立希望が丘高等特別支援学校）、橋本正信（長崎県立長崎明誠高等学校）

2011年度（平成23年度）

研修会	開催日	研修内容
説明会	5月14日（土）	趣旨説明と昨年の活動報告、今年度の活動計画に関する意見交換
第1回	6月25日（土）	実践事例に関する情報交換、ボランティアとの意見交換
第2回	8月24日（土）	常設展示にリニューアルに伴う子ども向け解説パネルの検討
第3回	10月15日（土）	実践事例に関する情報交換、子ども向け解説パネルの原稿チェック
第4回	11月23日 （水・祝）	実践事例に関する情報交換、子ども向け解説パネルの原稿チェック、「学校向けプログラム」の改訂
第5回	1月21日（土）	実践事例に関する情報交換、「学校向けプログラム」の改訂、リニューアル現場の視察
報告会	2月25日（土）	実践報告、リニューアルに関する概要説明

協力校参加校（小学校1校）

山田裕介（長崎市立桜町小学校）

パートナーズ・プログラム参加者

○小学校（15名）

安達亜紀子（長崎市立上長崎小学校）、梅林一城（南島原市立飯野小学校）、江嶋弘海・中山美加・村井豊（長崎市立西山台小学校）、加藤尊城（長崎市立深堀小学校）、桑原重久・田中英明・朝長浩二・南部弥生・山田俊介（長崎市立村松小学校）、小林輝子（長与町立長与南小学校）、深堀昭三（長崎市立女の都小学校）、福田浩久（西海市立瀬戸小学校）、松尾恵子（長崎市立朝日小学校）

○中学校（1名）

小林正一（精道三川台中学・高等学校）

○高等学校（7名）

岩永崇史・貝野尚子（活水高等学校）、小嶺嘉浩・的野幸一郎（島原中央高等学校）、袖山道典（純心中学校・純心女子高等学校）、橋本正信（長崎県立長崎明誠高等学校）、藤村誠（長崎県立鳴滝高等学校定時制昼間部）

○その他（1名）

古賀亮介

小学校の実践報告について

小学校との連携では、様々な教科・単元で博物館の持つ「資料」や「人」との出会いを通じた授業実践がおこなわれている。それらの多くは学校の教員からの提案や電話での問い合わせからはじまることが多い。

2008年度に西城山小学校の川端健一先生が行った『長崎再発見』は、博物館見学と長崎さるく（市内史跡めぐり）を関連づけた事例である。例年、西城山小学校では長崎の歴史文化全体のイメージを捉えさせる目的で当館の見学をおこなっていたが、午後に長崎さるくで回る見学地に焦点をあてた当館の見学に切り替え、長崎の過去と現在をつなぐ授業を実践した。本事例は現在、多くの学校が参考にする実践である。

また中学年の活用の仕方として、長崎市立西山台小学校の中山美加先生は、博物館の「施設や公共性」に着目した「公共のマナーについて学ぶ」「バリアフリーについて学ぶ」という実践をおこなった。同じく中山先生の実践としては社会科見学で博物館の周辺施設の見学時に、博物館を昼食会場として利用し見学の時間を確保している。これも新たな博物館の利用方法の一つであると思う。

また移動博物館や出張授業など博物館以外での連携活動も当初は協力校、パートナーズプログラム参加者を対象におこなっていた。

学校として移動博物館を最初に活用したのは晴海台小学校の梅林一城先生である。晴海台小学校は1月に6年生の見学、2月初旬に全学年を対象とした移動博物館、2月中旬に5年生の見学をおこなうことで、博物館見学の事前・事後学習として移動博物館を位置づけた。

出張授業は晴海台小学校の西村慎一郎先生の発案によって始まった。総合的な学習と社会科の単元で2日間、2時間ずつ出張授業をおこなった。社会科の学習以外での博物館との連携や、授業時の当館研究員と教員との役割分担などの提案は、その後の出張授業の指針ともなっている。

また2011年度には西海市立瀬戸小学校の福田浩久先生は、出張授業を歴史学習の導入として捉え、資料の読み解きや、体験用に資料に触れたり、匂いをかいだりすることをとおして、歴史学習の楽しさをこどもたちに伝え、歴史への興味関心を高める授業を実践している。

小学校との連携では、授業（見学）でこどもたちに何を学んで欲しいことや、期待する効果について、学校の教員と当館研究員とが共通のイメージを描くことが、何より重要であると考えている。

「協力校、パートナーズプログラム」の活動が教員と研究員とのコミュニケーションを育む場として作用しており、提案や打ち合わせなどを気軽にこなうことができる環境が整っていることが、さまざまな実践事例を生む原動力の一つとなっているように感じている。

（当館教育普及グループ 研究員 下田幹子）

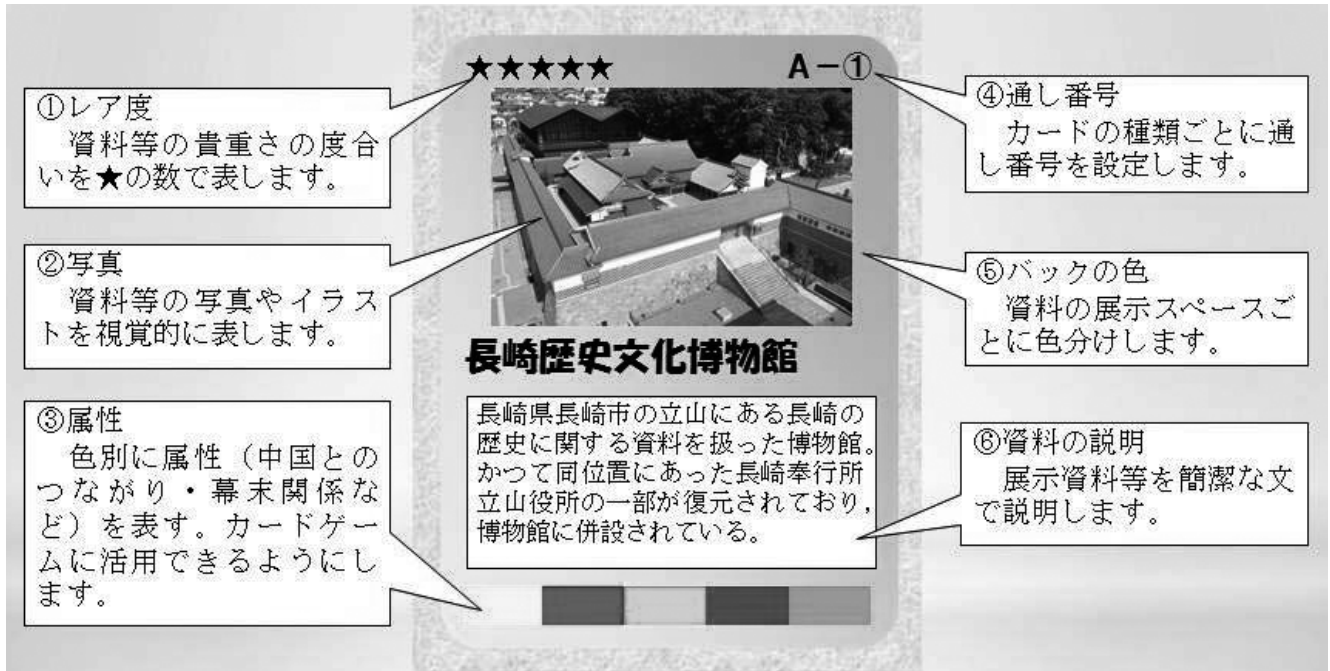
小学校 実践一覧

学年	教科	テーマ	学校名	年度	
1年生		歴史に行こう！（実践案）	長崎市立桜町小学校	2010/2011	
3年生	総合的な学習の時間	大すき長崎！うきうきたんけん隊！	長崎市立上長崎小学校	2008～2011	
		だいすき！長崎！だいすき！西山台小学校	長崎市立西山台小学校	2009	
4年生	総合的な学習の時間	高浜歴史文化博物館（実践案）	長崎市立高浜小学校	2009	
		「みんなでいきる」	長崎市立西山台小学校	2010	
		ふるさと長崎体験学習	長崎市立村松小学校	2010/2011	
5年生	総合的な学習の時間	私たちの街 長崎	長崎市立桜町小学校	2009	
		歴史博教育研究プログラム活用授業 略案	長崎市立深堀小学校	2010	
6年生	社会	戦国の世は、どう統一されたの	長崎市立桜町小学校	2008	
		江戸時代の長崎	長崎市立晴海台小学校	2008	
		「南蛮貿易とくらし」	長崎市立畝刈小学校	2009	
		地域の歴史を伝えるもの（実践案）	西海市立瀬戸小学校	2008	
		「徳川の世」はどんな世の中だったの	西海市立瀬戸小学校	2009	
		歴史ってなあに？（実践案）	西海市立瀬戸小学校	2010	
		歴史を調べる手がかり	西海市立瀬戸小学校	2011	
		歴史博教育研究プログラム活用授業 略案	長崎市立深堀小学校	2010	
		戦国の世は、どう統一されたのか	長崎市立女の都小学校	2011	
	総合的な学習の時間	「長崎に感動！」（総合）	長崎市立西山台小学校	2008	
		「長崎再発見」	長崎市立西城山小学校	2008	
		「長崎再発見」Ver. 2（実践案）	長崎市立西城山小学校	2009	
		龍馬の足跡	長崎市立伊良林小学校	2008/2009	
		長崎再発見！熊本新発見！	長崎市立小ヶ倉小学校	2009	
		長崎よかところ こんなところ	長崎市立日見小学校	2010	
		長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	長崎市立村松小学校	2009～2011	
	社会科・総合的な学習	レッツ・トライ！将来の夢／江戸時代の長崎・出島	長崎市立晴海台小学校	2009	
		長崎よかところ来てみんなね／徳川の世はどんな世の中だったの	長崎市立日見小学校	2009	
		ながさきさるくを楽しもう	長崎市立女の都小学校	2010	
		わたしたちのふるさと長崎再発見／「徳川の世」はどんな世の中だったの？	長崎市立虹が丘小学校	2010	
		江戸の文化と新しい学問	長与町立長与南小学校	2011	
	その他	小学校の学習と博物館との連携に関する一考察	長崎市立深堀小学校	2011	
	全学年		移動博物館	長崎市立村松小学校	2010
	3～6年		歴史チャレンジモデルプラン（実践案）	長崎市立畝刈小学校	2010
	その他		貸出教材の活用について	西海市立瀬戸小学校	2008

1年生	教科：	単元名：歴史に行こう！	年間を通じて	
実践校：長崎市立桜町小学校（実践案）		授業担当者：山田裕介		
目 標	低学年の子どもたちが、私たちの街長崎の歴史や文化について見学したり、話を聞いたりするなどの体験活動ができる長崎歴史文化博物館に気軽に足を運ぶことを通して、展示資料等の価値について理解し、高学年で歴史を学ぶ基礎を養う。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
<p>（低学年の子ども）</p> <p>○歴史カードをもとに、歴史文化博物館に足を運ぶ。</p> <p>（高学年の子ども）</p> <p>○歴史カードをもとに、歴史文化博物館に足を運び、資料の歴史的価値や文化的価値について学ぶ。</p> <p>（修学旅行生・観光客）</p> <p>○歴史カードをもとに、見学ルートなどの予定を立て、歴史文化博物館に足を運び、資料をもとに長崎の歴史や文化を感じ取る。</p>		<p>○低学年の子どもは、歴史や文化への興味関心がかなり低い。そこで、②の写真（学習活動の軌跡参照、以下略）で視覚的にとらえさせたり、①のレア度や③の属性で興味を持たせたりする。子どもたちは、星の数が多いカードや、色々な属性があるカードを見て、資料等の価値やその資料が歴史や文化にどのように関係しているのかをおぼろげながら掴ませることができる。</p> <p>○高学年の子どもは、歴史や文化への興味関心に個人差がある。そこで、興味関心が低い子どもには、低学年の子どもと同じ手立てにより、興味を引き出す。興味が高い子どもは、⑤のバックの色で資料を探したり、⑥の資料の説明を見たりする活動を通して、より歴史や文化への興味関心を高めたいと思う。また、④の通し番号を見て、コンプリート（すべて集める）を目指したりすることも考えられる。</p> <p>○修学旅行生（観光客）は、時間に制限があるので、歴史を巡るコースを設定する。たとえば、「長崎と中国文化～チャイナタウンの光と影～（仮）」というコースがあったとする。コースを選べるメディアからコース名を選択すると、そのコースに関係のあるカードを自動で選択してコースガイドを作成する。カードに載っている②の写真や資料名から実際の展示資料を見つけることで、長崎の歴史や文化を学ぶ事ができると考える。また、歴史のホームページでダウンロードできるようにしておけば、修学旅行や観光に来る前に各自コースを設定したり、好きなコースをプリントアウトしたりして持参し、来場者数が増えることも予想される。</p>		
評 価 規 準				

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

歴史カード（仮）



① レア度

★1つから7つまで（仮）設定する。展示資料等の価値を正確に表すという目的ではなく、価値についておぼろげながら理解する程度でよい。また、「レアカード（より貴重なもの）」も作ると、コレクターも満足すると考える。

② 写真

著作権等の関わりもあると思うが、カードに載せる写真は、画素数を落としておけば良いのでは。それでも難しい場合は、白くぼかして「unknown」などの張り紙をしておけば、実物を見たいという人も出てくると思う。

③ 属性

これはまだ思考中だが、黄色は中国関係、赤は幕末関係、青は・・・などの属性を設定しておけば、ただで長崎の歴史や文化との関わりが分かると考える。また、中国+幕末はオランダ+幕末より強い（関係が深い）などの強弱をつけておけば、カードゲームにも応用できると思う。

④ 通し番号

Aは施設関係、Bは中国との関わり関係などの通し番号を設定する。分類もしやすいし、コレクターも大満足。

⑤ バックの色

主に展示資料等があるエリアで色分けする。ただで館内のどの辺りにその資料等があるか分かる。

⑥ 資料の説明

簡潔な文で書くことで、もっと詳しく知りたいという気持ちをくすぐる。あまり詳細に書く必要はない。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○カードの取り扱い

プリントアウトできるものは、厚上質紙のようなものでよい。実際に足を運んで見学した人には、ちゃんとしたカードを1日1枚渡すというようにすれば、カード自体の価値も高まると考える。また、カードのコンプリート具合でショップや入館料のサービスがあるなどの活用もできる。子どもたちも歴史に足を運ぶと考える。

○作成や維持

カードの作成や維持については、専門家に依頼した方がよい。費用対効果を十分に見極める必要がある。しかしながら、プリントアウトするものだけであれば、それほどの費用はかからないのではないだろうか。（手間暇はかかると思われるが・・・）。

1年生	教科：	単元名：歴史に行こう！	年間を通じて	
実践校：長崎市立桜町小学校（実践案）		授業担当者：山田裕介		
目標	低学年の子どもたちが、長崎歴史文化博物館（以後歴史）で、学習の中で私たちの街長崎の歴史や文化について見学したり、話を聞いたりする体験活動を通して、展示資料等の価値について理解し、高学年で歴史を学ぶ基礎を養う。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
(国語) 「こないしをみつけたよ」 「かけるようになった」 「かたかなをみつけよう」 「しらせたいな、みせたいな」 「たぬきの糸車」 「これは、なんでしょう」 「いいこといっぱい、1年生」 (算数) 「大きいかず」 (音楽) 「ことばをたいせつにして、きもちをこめてうたいましょう」 (図画工作) 「かんじたこと、おもったこと」 (生活科) 「がっこうにくるみちでみつけたよ」 「みんなのこうえんだね」		○…本来の学習活動 ●…歴史を活用した学習活動 ○ 見つけた石に名前をつけて紹介する。 ● 歴史の中で見つけたものに名前をつけて紹介する。 ○ 絵日記や手紙を書く。 ● 歴史のバックヤードツアーなどで印象に残ったことを絵日記に書いたり、見学のお礼の手紙を書いたりする。 ○ 学校生活の中で使うカタカナを学習する。 ● 歴史の中のカタカナを調べて学習する。 ○ 知らせたいものを絵と文で書いて紹介する。 ● 歴史の中で知らせたいものを絵と文で書いて紹介する。 ○ 絵や写真で糸車を知る。 ● 糸車の実物を見る。 ○ 問題を作るための事柄を集めて、問題を作る。 ● 問題を作るための事柄を歴史の中から集めて、問題を作る。 ○ 1年間の思い出アルバムを作る。 ● 歴史で学習したこと（活動したこと）を思い出アルバムの中に入れる。 ○ 100までの数字を見つける。 ● 歴史で使われている100までの数字を見つける。 ○ 歌詞をよく読んで、言葉の感じを大切に歌う。 ● 長崎に昔から伝わる歌の歌詞をよく読んで、言葉の感じを大切に歌う。 ○ 感じたことや思ったことを絵に描く。 ● 歴史を見学して、感じたことや思ったことを絵に描く。 ○ 通学路を探検して、安全に気をつけて登下校できるようにする。 ● 歴史の周りを探検して、安全に歩行できるようにする。 ○ 地域の公園や施設などに親しみ、仲良く遊ぶ。		

<p>「なつとなかよし」</p> <p>「たのしくあそんだよ」</p> <p>「あきとなかよし」</p> <p>「あきがいっぱいだね」</p> <p>「ふゆのなかよし」</p> <p>「おしえてもらったよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴文の内外の施設に親しみ、見学したり、仲良く遊んだりする。 ○ 夏のことを話し合う。 ● 長崎の夏のことを、町屋を見学して知る。 ○ いろいろな容器を使って遊び道具を作り、水や砂を使って遊ぶ。 ● 歴文の広場で、遊ぶ。 ○ 秋のことを話し合う。 ● 長崎の秋のことを、町屋を見学して知る。 ○ 地域の公園や施設などに親しみ、仲良く遊び、春の様子と比べる。 ● 歴文の内外の施設に親しみ、見学したり、仲良く遊び、春の様子と比べたり、新しく発見したりする。 ○ 冬のことを話し合う。 ● 長崎の冬のことを、町屋を見学して知る。 ○ 昔からの伝統的な遊びを、家族や地域の方に教えてもらい、遊びを工夫する。 ● 長崎に昔から伝わる伝統的な遊びを、歴文の方に教えてもらい、遊びを工夫する。 	
<p>評価 規 準</p>		

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

高学年，特に6年生は社会科の学習で歴文を活用することができる。しかしながら，他の学年，特に低学年はどのような場面で活動できるかが難しく，二の足を踏みがちである。

今回1年生が活動できる学習内容を挙げてみたが，「歴文でもできるよ」というレベルのことが多い。「歴文でなければ」「歴文で学ぶ方がいい」と思わせるような活動を計画して発信していくことで，見学者も増え，長崎に親しみ長崎を好きになる子どもたちが増えると考えられる。奇しくも，常設展示がリニューアルする今だからこそ，まず歴文に足を運ばせるような学習計画を歴文側から学校側に提案していかなければならないと感じる。そのための情報収集が今後必要だと思う。

3年生	教科:総合的な学習の時間	単元名:大すき長崎!うきうきたんけん	9月~12月	17時間
実践校:長崎市立上長崎小学校		授業担当者:馬場清子・梅枝理香・野川知彦		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市の公共施設について興味を持ち、年中行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりを通して、郷土のよさに気づくことができる。 ・公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身につけるとともに、公共の施設を使うことのよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	1~3	・「長崎」についてのウェビングを行い、年中行事や建物について知る。		
○前時までに児童から出てきた言葉の中から、「おくんち」を取り上げ、調べる。	4~7 (7)	・本年度の「おくんち」の踊り町や出し物について、新聞などから情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	1	・くんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。		
○施設見学のマナーについて学習をする。	2	・施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。		
○長崎歴史文化博物館に見学に行く。	3~6	・おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○博物館について分かったことをまとめる。	7~10 (10)	・調べてきた時にとったメモなどをもとに、新聞にまとめるようにする。		
評 価 規 準	<p>(問題解決の能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけ、施設を見学することで、興味をもったことを調べ、新聞にまとめることができたか。 <p>(情報活用能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を解決するために、必要な資料をパンフレットやインターネットを使い、調べることができたか。 <p>(自己の生き方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学にあたり、公共施設を利用するマナーを知り、適切に行動し、進んで利用しようとすることができたか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



※クラスに1名ずつガイドさんがついてくださり、展示室の案内をしてくださっている様子（企画展・常設展）



※ガイドさんの案内が終わり、残った時間で質問をしている様子



※おくんちについておおまかな説明を全体にして下さっている様子



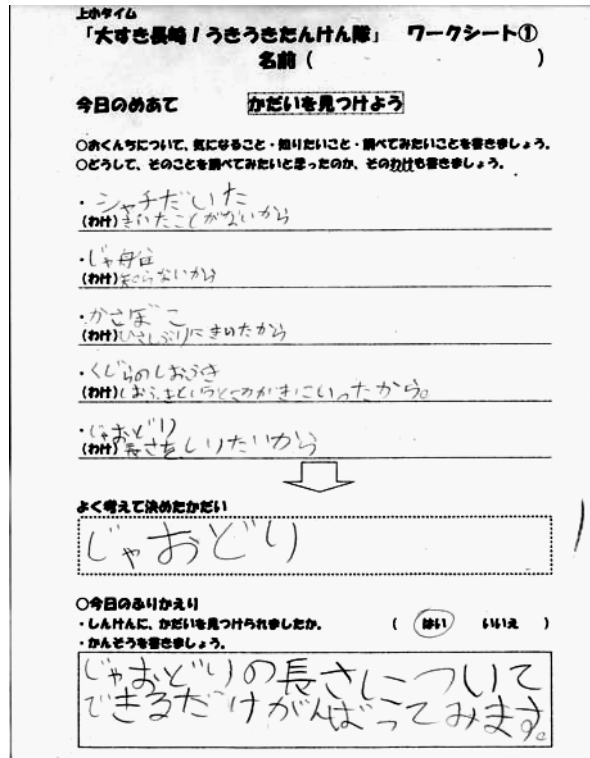
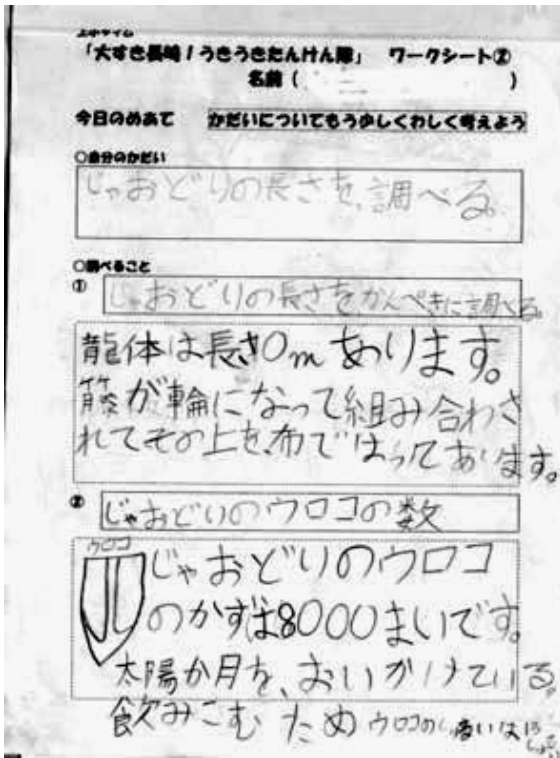
※説明後、残った時間で展示室を自由に見学をしている様子

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 一クラスに案内のガイドさんが1人ずつついて下さり、説明していただいたことが大変良かったです。
- 子ども達への説明の時、難しい言葉や声の大きさで、説明が分かりづらいことがありました。子ども向けの言葉でなるべく説明していただけると助かります。
- 長崎歴史文化博物館にてマナーの学習や調べ学習の仕方が身につき、長崎県美術館での見学に生かすことができました。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：山崎久美子・野川知彦		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長崎市の公共施設について興味を持ち、年中行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。 ○ 公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身に付けるとともに、公共の施設を使うことの良さに気付き、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつくの行事・建物などについて知る。	3	○「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	社会科の年中行事	
○おくんちについて調べる。	5	○本年度の「おくんち」の踊り町や出し物について、新聞などから情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	2	○おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。	社会科「さぐってみよう、人びとのしごと」	
○施設見学のマナーについて学習する。	1	○施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。	◎調べたことを新聞や、図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○長崎歴史文化博物館見学	4	○おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」	
○博物館について分かったことをまとめる。	5	○新聞にまとめる。		
評価 規 準	<p>〈課題設定・解決の能力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけ、施設を見学することで、興味をもったことを調べ、新聞にまとめることができたか。 <p>〈情報活用能力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を解決するのに必要な資料をパンフレットやインターネットを使い探すことができたか。 <p>〈自己の生き方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学にあたり、公共施設を利用するマナーを知り、適切に行動し、進んで利用しようとするのができたか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）




10月 5日 3年 2組 名前

川舟台新聞

長さは何のくらいのかだいについて
 ・長さ…6.5m・はば…2.1m・高さ3.8m
 ・この町でしているのかだいについて
 ・こつじ屋町・えのきづ町・あぶらや町・やさか町・東吉川町

感そう
 めきし文がはく物館に行き、おくんちの事を今までより、ふかしくすることができました。ほかに、オランダまんざりやじやおどりのかだいの事も、とはめしなれたとおもいます。

調べた事
 何人でしているのかだいについて
 ・いらい…4人
 川舟を動かす人…16人
 車はどのくらいなのかだいについて…2台



10月 5日 3年 2組 名前

くじらのしおぶき新聞

くじらのしおぶきを調べようと思ったわけ
 わたしはまだ小さい時に1回だけくじらのしおぶきを見た事があって、その時にすこいなぁと思ったから、今、調べようと思いました。



調べたこと
 ・どうやって、水をだしているの?
 ・中に人が入って、ポンプのようなもので水をだしている。

おもさはどのくらいなの?
 ☆ 2トン!!

どうやってつくっているの?
 ☆ 竹で舟をつくり、ぬのはっている。

何人でもっているの?
 ☆ 17人!

かんそう
 長崎れきし文化はく物館に行って、いろいろな事を聞きました。わたしたちのきもんにしてるかだいの中にははく物館の人にも知らないくらいむずかしいこともありました。だから、はく物館の人よりおくんちの事を知るときたいです。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 今年はおくんちの企画展が大きかったので、子どもたちも大変興味深く見学を行うことができました。
- 2クラスの見学でしたが、1クラスが企画展を案内のガイドさんに説明をしていただき、その間に1クラスは体験コーナーを体験できよかったです。（1クラスの人数が多かったので、体験コーナーでは騒がしくなってしまう申し訳なかったです。）
- 子どもたちへの説明は大変分かりやすかったのでよかったです。（展示されているものに読み仮名などをふって頂けると、子どもたちももっと興味を持って見る事ができたのではと思いました。）
- 長崎歴史文化博物館にてマナーの学習や調べ学習の仕方をすこしずつ理解し、次の学習にいかそうとしていました。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：西崎ひろみ・梅枝理香		
目標	<p>○長崎市の公共施設について興味を持ち、年間行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。</p> <p>○公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーをみにつけるとともに、公共の施設を使うことよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	3	○「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	社会科 「昔の暮らし、今の暮らし」 長崎の年中行事	
○おくんちについて調べる。	5	○本年度のおくんちの踊り町や出し物について、新聞やホームページ等から情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	2	○おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる	社会科 「さぐってみよう、人々の仕事」 ◎調べたことを新聞や図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○施設見学のマナーについて学習する。	1	○施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」	
○「長崎歴史文化博物館」の見学	4	○おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区の事について調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○博物館について分かったことをまとめる。	5	○新聞にまとめ、お互いに読み合う。		
評価規準	<p>(1) それぞれの施設を知るとを通して、自分の課題を見つけることができたか。 (課題設定・解決の能力)</p> <p>(2) 自分の課題を解決するのに必要な資料を見学やパンフレット、インターネットを使い探すことができたか。(情報活用能力)</p> <p>(3) 施設を見学することで、興味を持ったことを調べ、新聞等にまとめようとしているか。 (学習の主體的、創造的態度)</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

上小タイム

「大さき長崎 / うさぎたんけん隊」歴史文化博物館
3年 組 名前 ()

めあて おかしのおくんちの様子について知ろう

<くんち展>

○おかしのおくんちの様子がかかれた絵があります。どんな出し物をしていきますか？

おどりがさばおみし

○かさねのだし（かざり）がてんじされています。どんな物がありますか？^{町の名前}

馬町のだしは弓矢めぼうしがついて、真ん中にカメの形の絵が貼りました。
おかしはだしは、おかしの上にかざりをつけています。

○おかしに使っていたおくんちのいしがあります。いしを見て思ったことを書きましょう。

おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。

<町展・くんちコーナー>

○今年のおくんちに出る馬町の本物のかざりがあります。どんなだし（かざり）がついていますか？また、本物を見て思ったことを書きましょう。

馬町のかざりは、せんぶ馬にかんじり 30x10(5)

○おくんちの時に使っていたお料理があります。どんな物がありますか？

とじょうじる とさげさじり とせはん
とにしめ 目あまざけ とまんぜんたき
とせはん とせはん おかしとくもの。
せんぶきせつにかんじり。

○おくんちまでの一年間をうつつたビデオが流れています。じっくり見て、かんどうを書きましょう。

いきがたりできれいなきもの。おどりとかさねのひろ。

3

おくんち 新聞

今年のお出し物 手紙調 上長崎 小学館

馬町は、おかしをのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。

かまぼこ あまごけ かき とり

おくんち 新聞

今年のお出し物 手紙調 上長崎 小学館

おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。
おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。	おかしは、いしにのせて、いしの上から取りました。

かまぼこ あまごけ かき とり

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- おくんち展だけでなく常設展示の寛文長崎図屏風等からも当時のおくんちの様子等を知ることができた。
- 自由見学だけでなく、展示物に合わせたワークシートを活用することにより、子供たちが焦点を絞って見学することができた。
- 2 クラスを 3 グループに分けて見学し、それぞれに担当の方が詳しい説明をしていただいたので、見学するだけでは、読み取れない歴史背景まで知ることができた。
- 見学後、質問に答えていただくことでさらに学習が深まった。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：隈本佳代子・安田一義		
目標	<p>○ 長崎市の公共施設について興味を持ち、年間行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。</p> <p>○ 公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身に付けるとともに、公共の施設を使うことのよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○ 「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	3	○ 「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」 社会科 ◎調べたことを新聞や図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○ おくんちについて調べる。	5	○ 本年度のおくんちの踊り町や出し物について、新聞やホームページ等で情報を集める。		
○ 施設見学の計画を立てる。	2	○ おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。		
○ 施設見学のマナーについて学習する。	1	○ 施設見学のマナーを考えさせ、ワークシートに決めたことを書かせる。		
○ 「長崎歴史文化博物館」を見学する。	3	○ おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○ 博物館について分かったことをまとめる。	4	○ 新聞にまとめ、お互いに読み合う。		
○ 「おくんち検定」発表会をする。	2	○ 調べたことをまとめた新聞を掲示したり、保護者を招いて「おくんちクイズ」を出したりする。		
評価 規 準	<p>(1) それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけることができたか。 【課題設定・解決の能力】</p> <p>(2) 自分の課題を解決するのに必要な資料を見学やパンフレット、インターネットを使い探すことができたか。 【情報活用能力】</p> <p>(3) 施設を見学することで、興味を持ったことを調べ、新聞等にまとめようとしているか。 【学習の主体性・創造的態度】</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



博物館の方によるわかりやすい説明



質問コーナーでも丁寧に対応していただきました



授業参観「おくんち検定」



クイズ形式で学習したことを発表しました



クイズの後には説明もしました



おくんち関係の展示もしました

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 本校の総合的な学習の時間のカリキュラムに「3年生のおくんち調べ」を位置づけている。歴史文化博物館への見学も定着しており、年度当初から計画的に学習を進めることができた。
- 今回の学習では、事前に長崎くんちについて調べ、その中で分からなかったことを施設の方に質問するという流れで進めてきたが、事前の調べ学習が不十分であり、見学当日の「質問タイム」に1時間近くを要してしまった。全ての質問に丁寧に対応してくださる施設の方に感謝するとともに、もう少し質問事項を絞ってから見学すべきであったと反省している。
- 見学後は、調べた内容を新聞にまとめるとともに、「おくんち検定」を題したクイズも作らせた。発表会を授業参観日に設定したこともあり、当日は大いに盛り上がり、子どもたちも学習の達成感を味わうことができた。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「だいすき！長崎！ だいすき！西山台小学校」	9月～11月	30時間
実践校：長崎市立西山台小学校		授業担当者：中山美加		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長崎のことを知り、いろいろな文化・歴史・自然など様々な特徴をもっと知りたいという意欲を持つ。 ○ 自分の関心に沿ったテーマについて調べる手順や方法を知り、計画に沿って学習を進める力を育む。 ○ 長崎のことについて調べたことを発表し、長崎に対する郷土愛を持てるようにする。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎のことについて知っていることを確認する	1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知っていることをいろいろな観点から発表しやすい雰囲気作りにつとめる。 ○知っていることよりも、知らないことの方が多くことに気づき、調べ学習への意欲を高める。 	社会「わたしたちのまちどんなまち」「さぐってみよう人々の仕事」	
2 見学のための事前学習を行う。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の施設や乗り物などを利用する際のマナーについて理解する。 ○見学日の日程を理解し、よりスムーズな見学につなげる。 		
3 長崎歴史文化博物館を見学する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館の方への挨拶を行う「到着式」「出発式」を設けることで見学におけるマナーや学習意欲の向上を図る。 		
4 博物館で学んだことを本にテーマを決め、調べ学習を進める。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれのテーマに沿った調べ学習を進めるために情報収集の仕方を提示し、学習をサポートする。 ○インターネットなどの利用の際のエチケット、気をつけることなどを理解した上で情報収集を行う。 ○自分の発表のゴールをイメージさせ、資料作成、発表練習を行う。 		
5 調べた長崎のことについて発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいまつりで、保護者に向けて発表する。 		
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長崎の文化や歴史、自然について関心を持ち、自分なりのテーマを持つことができたか。(関心・意欲・態度) ○ 調べ学習の進め方について理解できたか。(問題解決力) ○ 自分のテーマについて様々な資料を基に調べ学習を進めることができたか。(問題解決力) ○ 長崎のすばらしさに気づき、愛着をもてることができたか。(自己を見つめる力) 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

- 公共施設の見学の際のマナーについて理解する機会ととらえ、「入館式」「退館式」の方に挨拶をさせていただく機会を設けた。子供たちにとっては緊張感を持って見学に望むことができた。
- 見学は自由見学とし、ボランティアガイドのお願いはしなかったが、当日町屋の前にいらっしゃったガイドさんが「長崎の昔の様子」をフロアに映し出してくださった。児童にとっては大変興味深い展示だったようで、自由時間に再び訪れみる子もいた。臨機応変に対応してくださって感謝している。
- 子供たちは「くんち展」で改めてくんちのすばらしさを感じたようで、学校に帰ってからのテーマに生かすことができた。

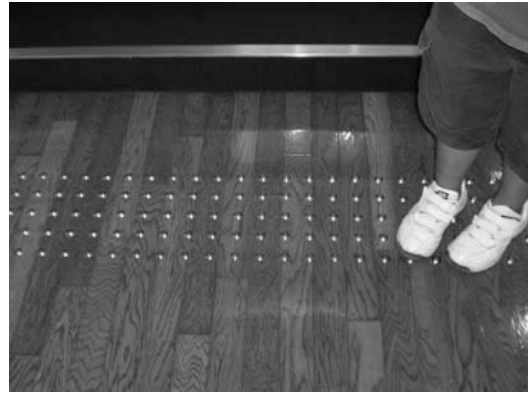
授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 今回は3年生を引率したことで、「公共のマナー」に重点を置いた学習となったが、見学がきっかけとなって家族で博物館見学に行ったり、博物館の催し物に参加したりする機会が増えたりした児童が複数いた。
家庭での見学につながることは 大変喜ばしいことだと思う。
- 子供たちの見学の様子を見てみると、中学年という時期でも博物館の楽しみ方はたくさんあるように思う。
ボランティアガイドの活用も視野に入れて、また利用したい。

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：高浜歴史文化博物館	9月～10月	12時間
実践校：長崎市立高浜小学校（実践案）		授業担当者：岩隈佳子		
目標	<p>○ 高浜の町にある歴史的価値のある物に興味をもち、自分たちの住む町を誇りに思う気持ちを育てる。</p> <p>○ 長崎歴史文化博物館の存在を知り、長崎の街や長崎の歴史にも興味関心を持つことが出来る。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 博物館がどんなところかを知り、身近な高浜の町にある歴史的な物に興味をもつ。	1	<p>○ 博物館がどんなところで、そこではどんな仕事をしている人がどんな気持ちで働いているのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎歴史文化博物館の紹介 ・ 博物館で働く人たち ・ 学芸員の仕事 	(3)	
2 高浜の町の歴史的なものを探す。	2	<p>○ 高浜の町の歴史的な物について話し合い、写真を取りに出かける。</p> <p>例) 夫婦岩 軍艦島 小学校 八幡神社祭り 等</p>	(1)	
3 高浜の町の大切な物について調べる。	4	<p>○ 資料を用いて調べる</p> <p>○ 公民館で働く人や自治会長さんなどに聞いて調べる。</p>	(1) (2)	
4 情報カードを作り、調べて分かったことを掲示する。	2	<p>○ 調べて分かったことを情報カードにまとめていく。</p> <p>○ 校内にまとめたことを掲示し、他学年の児童に高浜の歴史を紹介する。</p>	(2) 国語「四年三組から発信します」	
5 長崎歴史文化博物館の見学に行く。	2	<p>○ 見学内容については、事前にスタッフと打ち合わせをしておく。4年生なのであまり難しい内容には触れず、見て楽しんだり、体験して楽しんだりする活動を重視する。</p>	(3)	
6 見学をふり返り、学習のまとめをする。	1	<p>○ 高浜や長崎の町の歴史を知り、驚いたことやもっと知りたいと思ったことを出し合い、郷土を大切に思う気持ちを高める事が出来るようにする。</p>	(2) (3)	
評価基準	<p>(1) 高浜の町にある歴史的価値のある物に興味をもち、意欲的に調べることができたか。</p> <p>(2) 高浜の町の歴史を知り、自分たちの住む町を誇りに思う気持ちを育てることができたか。</p> <p>(3) 長崎歴史文化博物館の存在を知り、長崎の街や長崎の歴史にも興味関心を持つことが出来たか。</p>			

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「みんなで生きる」	9月～11月	26時間
実践校：長崎市立西山台小学校		授業担当者：中山美加		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な暮らしにある「福祉」についてもっと知りたいという意欲を持つ。 ○ 自分の関心に沿ったテーマについて調べ、身近な福祉について理解を高める。 ○ 福祉について調べたこと、感じたことを発表し、自分にできることについて実践力の向上を図る。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 「バリアフリー」の意味を学ぶ。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「バリアフリー」とは何か、簡単な説明ののち、身近な場面にないか思い起こさせる。 <p>実際の建物を見学し、バリアフリーの考え方についてより深く理解する。(長崎歴史文化博物館見学)</p>	ふれあいまつり	
2 福祉についてさらに学び、関心を高め、テーマを決める。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉をテーマにした「ブックトーク」を行い、テーマの幅を広げるとともに、学習への意欲を高める。 <p>〈ブックトークのテーマ：「みんなで生きる」〉 本のリスト</p>		
3 テーマに沿って計画を立て、学習を進める。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のテーマを決定し、何を伝えたいかを明確にした上で調べ学習を進め、資料作成、発表練習を行う。 		
4 これまで学習したことについて発表する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあいまつりで、全校、保護者に向けて発表する。 		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉について関心を持ち、自分なりにテーマを持つことができたか。(関心・意欲・態度) ○ 調べ学習の進め方について理解できたか。(問題解決力) ○ 自分のテーマについて様々な資料を基に調べ学習を進めることができたか。(問題解決力) ○ 福祉について感じたこと、周りの人に伝えたいことを明確にし、表現することができたか。(自己を見つめる力) 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



- 歴文には様々なバリアフリー施設があり、実際に見たり触れたりする事ができた。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 今回の歴史文化博物館見学は、社会科見学（警察署、消防署見学）とあわせて行い、昼食会場として芝生広場を解放していただいた。このことは大変ありがたいことである。
カリキュラムに余裕がなくなっている中で、歴史文化博物館見学のみで行うことはなかなか難しいが、他の教科の見学と同じ日に行い、「バリアフリーについて学ぶ」という目的で歴文見学を実施できたことはよかったと思う。
- 施設でみられるバリアフリーだけではなく、「手話」「点字」といったテーマを学ぶ児童も多かった。どのテーマにおいても、歴史文化博物館で実際にバリアフリーに触れたことで「どんなことに困っているか」「困っていることを取り除くためのどんな工夫が必要か」という学習の原点をしっかりと意識することができた。
- 歴史や文化を学ぶだけでなく、「バリアフリー」という視点からもたくさんのことが学べるということを実践できてよかったと思う。

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：ふるさと長崎体験学習	9月～11月	16時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：南部弥生		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと長崎の歴史や文化，伝統にふれ，ふるさと長崎に関心をもつ。 ○ 見学地でお世話になる方々への感謝の気持ちの表し方を考える。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	1	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで，長崎の歴史や文化の一端に触れ，興味をもたせる（6月11日）	(1)	
2 ふるさと長崎の見学に行くことを知る	1	○ 長崎市中心部の坂本龍馬関連の史跡と歴史文化博物館に，見学に行くことを知り，見学活動の意義について簡単に話をする。	(1)	
3 坂本龍馬に関する出前授業を通じて，坂本龍馬について知る。	1	○ 歴文の研究員の出前授業を通して，坂本龍馬についての基本的な知識をもたせ，見学に向けての意欲をもたせる	(1)	
4 見学活動の計画を立てる	3	○ 見学活動の計画を立てる。	(1)	
5 見学活動に出かける	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ さるくガイドと共に，風頭公園から長崎歴史文化博物館まで移動する中で，坂本龍馬の関連施設を見学する。 ○ 歴史文化博物館で，研究員の方にガイドしていただき，長崎の歴史についての知識を深める。 ○ さるくガイドや歴史文化博物館の職員など地域の方との交流を通して，見学活動を充実したものとする。 	(2)	
6 新聞作りを行う。	3	○ 見学して分かったことを新聞にまとめる。	(3)	
7 活動をふり返る	1	○ できあがった新聞をもとに，感想を話し合う。	(4)	
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち，自分の追求したい課題を見つけ，その課題に沿って追求することができたか。（課題を設定する力） (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし，見通しをもって追求し，課題を解決するために必要な情報を交換し，ともに協力しながら活動することができたか。（問題を解決する力） (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び，効果的にまとめ伝えることができたか。（表現する力） (4) 学んだことを基に，他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。（活かす力） 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



移動博物館（6月11日）



移動博物館（6月11日）



出前授業（9月22日）



出前授業（9月22日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



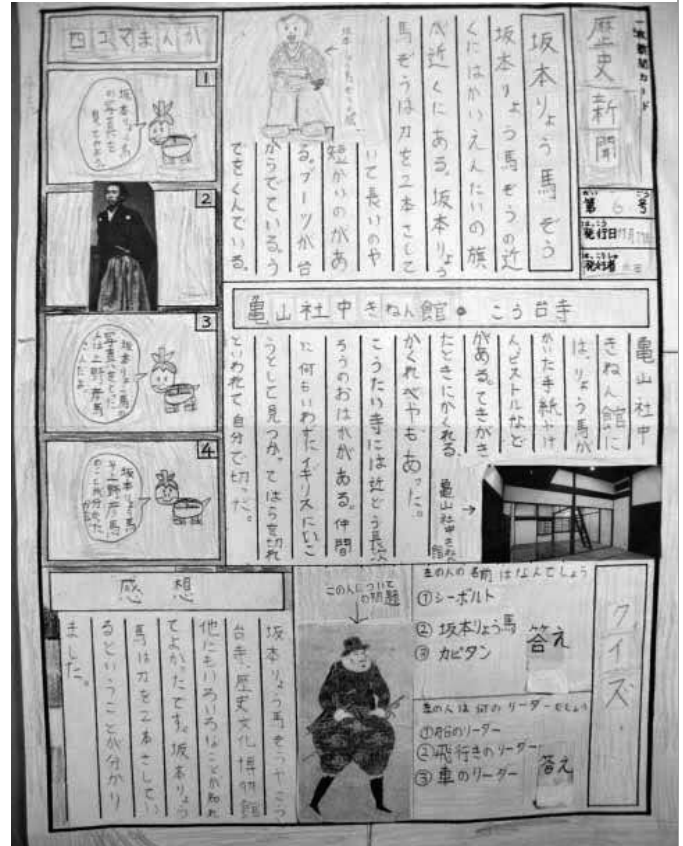
ふるさと長崎体験学習（11月15日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



体験学習新聞



体験学習新聞

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 1学期の段階で、移動博物館を見ていたことが、今回の学習の導入となり、子どもたちがすんなりと長崎の歴史について学ぶことを受け入れることができた。
- 歴文とNHKのタイアップ企画、公開出前授業「坂本龍馬と幕末長崎」で、クイズ形式の楽しい授業で、子どもたちが龍馬のことを知りたいという気持ちがさらに強くなり、学習への意欲が高まった。
※この出前授業に関しては、6年生は社会科の歴史学習の一環として合同で授業を受けた。
- 歴文では1時間あまりの見学であったが、事前に十分な打合せをしていたため、効率よく見学することができた。
- 歴文では研究員の方々にクラスごとに張り付けていただき、楽しくていねいな説明を聞くことができた。

〈ふるさと長崎体験学習当日の日程〉

学校発→風頭山到着	8:50~9:50
さるくガイドとの見学 ・龍馬像→亀山社中記念館→亀山社中資料館→皓台寺	10:00~12:00
長崎公園（昼食）	12:30~13:30
長崎歴史文化博物館 ・奉行所外観→南蛮屏風→長崎貿易・中国→惣町絵図・工芸→自由見学	13:40~14:50
長崎歴史文化博物館発→学校着	14:50~15:40

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：ふるさと長崎体験学習	9月～10月	12時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：田中英明 アドバイザー：南部弥生（昨年度担当）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと長崎の歴史や文化，伝統にふれ，ふるさと長崎に関心をもつ。 ○ 見学地でお世話になる方々への感謝の気持ちの表し方を考える。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ。	1	○ オリエンテーションを行い，担任から長崎の歴史や文化についての話を聞き，ふるさと長崎について興味をもたせる。	(1)	
2 ふるさと長崎の見学に行くことを知り，コースを選択する。	1	○ 体験学習の意義について話をしたあと，3つのコースの概要を説明する。 ○ 自分の興味あるコースを選択させる。	(1)	
3 見学活動に出かける	5	○ それぞれのコースを長崎歴史文化博物館まで移動する中で，長崎の歴史や文化の関連史跡を確認する。 ○ 歴史文化博物館で，ボランティアの方に見学してきたコースごとのガイドしていただき，長崎の歴史についての知識を深める。 ○ 歴史文化博物館のボランティアガイドの方との交流を通して，見学活動を充実したものとする。	(2)	
4 新聞作りを行う。	3	○ 見学して分かったことを新聞にまとめる。	(3)	
5 お礼の手紙を書く。	1	○ 学習したことをもとに歴史文化博物館のボランティアガイドの方へお礼の手紙を書く。	(3)	
6 活動を振り返る。	1	○ できあがった新聞をもとに，感想を話し合う。	(4)	
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち，自分の追求したい課題を見つけ，その課題に沿って追求することができたか（課題を設定する力） (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし，見通しをもって追求し，課題を解決するために必要な情報を交換し，ともに協力しながら活動することができたか。（問題を解決する力） (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び，効果的にまとめ伝えることができたか。（表現する力） (4) 学んだことを基に，他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。（活かす力） 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

学習活動の実際

オリエンテーション・事前の活動

- オリエンテーションの中で、長崎の歴史について4年生ということもあり簡単に触れた。
 コースを3コースに分けることを知らせ、それぞれのコースの見所を紹介し希望をとったところ、調整することなく全員が希望通りのコースに入ることができた。

体験学習当日

- 3つのコースの主な経路とグループの人数は以下の通り

①坂本龍馬コース（児童21名+引率+保護者6名）

- ・上野彦馬宅跡→亀山社中資料展示館→龍馬のぶーつ→亀山社中記念館→眼鏡橋→長崎公園



②中国コース（児童23名+引率+保護者5名）

- ・孔子廟→(みさき道) →新地中華街→唐人屋敷跡→丸山公園→崇福寺前→眼鏡橋→長崎公園



③中島川コース（児童21名+引率+保護者2名）

- ・出島→県庁→土佐商会跡→眼鏡橋（中島川石橋群）→上野彦馬宅跡→諏訪神社→長崎公園



- 前記のそれぞれの経路に沿って、主な史跡の場所など子どもたちと一緒に確認していった。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

コースごとに時間をかけて見学できる施設を一つ以上入れた。

（龍馬コースでは亀山社中資料展示場と記念館，中国コースでは孔子廟，中島川コースでは出島）
ほかの史跡などは，場所の確認と簡単な説明のみに留める。（時間の都合と引率教員の知識の限界もある）

- 長崎公園で合流して昼食。
- 午後は歴史文化博物館にて，研究員の方（加藤さん）のガイダンスの後，それぞれのコースにボランティアのガイドさんが付き，常設展示室を見学，説明していただく。



事後の活動

- 個人で簡単な新聞を作成。他のコースの児童と交流することで，知識を共有していった。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 長崎市のふるさと長崎体験事業の一環として、昨年度に引き続き旧琴海町の村松小学校は、旧長崎市内へ出かけ見学や地域の方々との交流活動を通して、学習をしていく機会をいただいた。
- 午前の活動は、長崎市の歴史、史跡に疎い教職員たちが児童を引率したが、午後からはボランティアガイドの方がきちんと控えていてくれるということで、安心して案内できた。
- 午後の活動は、ボランティアガイドの方がそれぞれのコースに個別につき、午前中に見てきた史跡などについて、展示室の資料を前に具体的に説明して下さった。何となく見てきたものが、いかにすごいものなのかを知り、児童に長崎のすばらしさを伝えることができたのではないかと感じることもできたのも長崎の歴史に詳しいボランティアガイドの方々のおかげであることは間違いない。
ボランティアガイドの方は、歴史についてよく知らない4年生の児童のため、とても優しい言葉で説明したり、児童がメモを取りやすいように繰り返し話したりしてくれた。また、たくさんのお話を話しても全て覚えるのは無理だろうから、たくさんはなしをする中でたった一つだけでいいから何か覚えて帰ってくれたらいいよと話していただいたことで、児童は少し気を楽しんで話を聞くことができた。
それだけでなく、朝からかなり歩いていることから、子どもたちの疲れた様子も感じて、子どもたちの状態にあったペースを作ってくれた。ボランティアガイドさんの細やかな配慮のお陰で、児童は歴史での学習がとても楽しくできたようだ。
今回、引率で10数人の保護者に来ていただいたが、初めて歴史に来た方も多く、歴史のよさが伝わったようだ。児童への解説が終わった後、数人の保護者がボランティアガイドの方に食いつき、質問している姿を見た。保護者がボランティアの方の知識の豊かさに感動していた。
- 児童が書いたボランティアの方へのお礼の手紙に対して返事をいただいた。児童は活動を思い出し、あらためて長崎の歴史について調べようという意欲が出てきた。
- 今回の活動がきっかけとなり、長崎のことについてかなり興味をもった児童が出てきた。
まず、自主学習で長崎の史跡について調べる児童がたくさん出てきた。また、家族で勉強して長崎検定（親子検定）を受けた児童や、中国コースを歩いた児童がランタンフェスティバル期間中唐人屋敷を両親に案内した児童もいた。
いつも、一人でもいいから長崎マニアになりそうな児童が出てくることを願っているのが嬉しかった。
- 来年度も実施できるなら、見学の実施後、琴海地区の歴史や史跡について注目させ、自分たちの住んでいる地域について調べられるようにつなげていけたらと考えている。



〈自主学習での取り組み〉



5年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：私たちの街 長崎	4月～3月	70時間
実践校：長崎市立桜町小学校		授業担当者：山田裕介		
目標	私たちの街長崎の歴史や文化について、見学したり話を聞いたりするなどの体験活動を通して、そのよさに気付く。また、調べる中で、長崎が果たした歴史的役割や、復興に向けた人々の願いや努力、工夫が長崎の今を築いていることを理解する。また、調べたことをまとめ発表することを通して、郷土を愛し、自分もそのよさを守り続けていこうとする心情を育てる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
「平和の街長崎」 1 原爆資料館見学・平和ウォークをしよう	10	○ 学習の導入として、長崎の平和の史跡・遺構を巡る「平和ウォーク」を行う。長崎に数多く残された平和の史跡・遺構を巡る中で、人々の平和への強い思いにふれさせる。	(1) (2)	
2 伝えよう！平和の街長崎	15	○ その後、原爆資料館見学に出掛け、原爆の悲惨さについてふれ、平和への思いを強くもたせ、その思いを伝えていきたいという心情を芽生えさせる。	(2) (3)	
「長崎の伝統文化を体験しよう」 1 長崎くんちについて知ろう	5	○ 長崎歴史文化博物館で毎年開催されている「くんち展」を見学することを通して、長崎くんちに込められた人々の思いを強く感じさせる。	(1) (2)	
2 桜っこくんちを成功させよう	25	○ 五嶋町の方に「龍踊り」を教えていただきながら練習を重ね、桜っこくんちで堂々と演技ができるようにする。	(2) (3) 桜っこくんち	
「長崎の歴史・文化・ゆかりの人物にふれよう」 1 長崎の歴史・文化・ゆかりの人物について知ろう	6	○ 長崎歴史文化博物館の常設展、龍馬伝館、唐人屋敷跡、グラバー園の見学を通して、中国やオランダとの交流から生まれた異国文化にふれ、そこにかかわった人物たちの活躍を知り、長崎の歴史に思いを馳せるようにする。	(1) (2)	
2 伝えよう！長崎のすばらしい歴史・文化	9	○ 長崎の誇るべき歴史・文化を多くの人に伝えるなかで、わたしたちの街長崎のすばらしさを再確認し、今後も守り続けていこうとする心情を育む。	(2) (3)	
評価 規 準	(1) わたしたちの街長崎の歴史や文化について、見学したり話を聞いたりするなどの体験活動をするなかで、そのよさに気付くことができたか。 (2) 長崎が果たした歴史的役割や、復興に向けた人々の願いや努力、工夫が長崎の今を築いていることをつかむことができたか。 (3) 長崎のよさをまとめたり、発表したりする中で、郷土を愛し、そのよさを守り続けていこうとする心情をもつことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

「長崎の伝統文化を体験しよう」



屏風を解説してもらいながら、長崎の人のくんちにかける思いを感じます。



「魚尽くし」の傘ぼこのたれを見ながら、「すごい！」を連発していた子どもたち。

「長崎の歴史・文化・ゆかりの人物にふれよう」



「龍馬伝館」では、龍馬がかかわった人物と長崎とのかかわりについて学びました。



「龍馬伝館」最後の映像が分かりやすかったです。



唐人屋敷について説明を受けています。その後、唐人屋敷跡に見学に行きました。



龍馬とグラバーとの関係を知ってびっくり！

唐人船の模型と説明を熱心にメモしています（うれしい！）。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

桜町小学校の子どもたちは本当に幸せだと思う。近くに長崎歴史文化博物館をはじめ、諏訪神社や県立図書館、市立図書館や長崎市消防局、長崎警察署、市民会館に公会堂、大型商業施設や商店街、そしてサントドミンゴ教会跡資料館などがあり、とても恵まれた環境にいると思う。しかしながら「隣の花は赤い」というか「隣の芝生は青い」というか、自分たちの街のすばらしさに気付いていない子どもが多い。恥ずかしながら自分も福岡の大学に行き、初めて長崎のよさに気付いた一人である。小学校という多感な時期に、長崎のよさにふれ、郷土愛を育むことは、とても大切なことだと思う。故郷のすばらしさを知り、故郷を愛する人間になってほしいと願っている。

それぞれの学習の導入時にゆかりのある施設を見学し、実際に見て触れる体験活動を行ったため、子どもたちの意識はとても高く、単元を通してやる気が見られた。特に歴史文化博物館での見学は、学芸員の方が親切に解説をしてくださったこともあり、子どもたちは長崎のよさを新・再発見していた。さらに今年は大河ドラマで長崎・龍馬が取り上げられていることで、子どもたちの意識も高かったように思える。来年6年生になって歴史を学ぶ時、5年生の時に学んだことを思い浮かべながら、遙かなる歴史に思いを馳せてほしいと願っている。

平成22年度 歴文博教育研究プログラム活用授業(5年) 略案

実践校：長崎市立深堀小学校（実践案） 授業担当者：加藤尊城

◎実施日：平成22年12月?日(?)・?日(?)・?日(日)

◎「オランダを知ろう！オランダ冬至を体験しよう！」(3単位時間×2クラス)

◎単元の構成

- i) オランダと日本のつながりを知ろう！① … 1 単位時間（出前授業）
 - ii) オランダ冬至を体験しよう！ … 1 単位時間（出前授業）
 - iii) オランダと日本のつながりを知ろう！② … 1 単位時間（デリバリーミュージアム）
- ※ i) と ii) は、教室で実施。iii) は体育館で実施。

◎単元全体の留意事項

- ・ 本格的な歴史学習は6年生で行うので、ここでは歴史的な流れや背景に深入りしすぎないことが肝要である。
- ・ 日蘭の交流に関するごく初歩的な理解を目標とし、簡単な言葉や遊び、基本的な習慣の比較程度を通じて文化の違いとそのおもしろさに気づかせたい。

◎第1時間目

(1) ねらい

- ① 「長崎事始め」や、現代の長崎や日本に根付いている「言葉や衣食住」とオランダとの関係について知り、異文化への興味、関心を高める。
- ② オランダ語で挨拶を交わしたり、簡単な自己紹介をしたりする活動を通して、外国の言語に対する興味関心を高める。
- ③ オランダ語を使った「名前ビンゴ」に取り組むことを通じて、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深める。

(2) 本時の流れ

過程	主な学習活動	備考・その他
導入5	<p>○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の紹介は極めて簡潔に。 「どこからいらっしゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「歴史文化博物館がどこにあって、元々どのような場所で、どのような役割を持っていたか。 また、現在、博物館がどのような働きを担って 	<p>板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」</p>

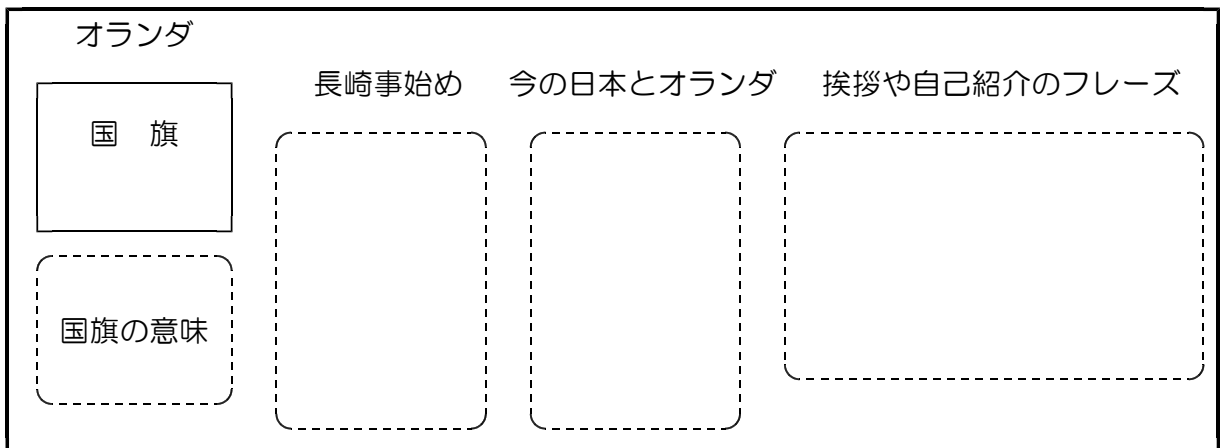
分 ／	<p>いるか。」 といった内容。時間にして5分程度。</p>	
展	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。(19分)</p> <p>○オランダ国旗とその意味 「長崎事始め」に見るオランダとのつながり 「現代の言葉や衣食住」に見るオランダとのつながり → あまり深入りせず、児童らに 「へえ〜…!」「そうだったんだ〜!」 という程度の驚きを与えるぐらいでよい。</p>	<p>板書掲示 「オランダの国旗」 「事始めカード」 「言葉カード」 「衣食住カード」</p>
開	<p>○オランダ語での基本的な挨拶と自己紹介。 英語で言う所の 「How are you?」「I'm fine. Thank you. And you?」「I'm fine too. Thank you.」 程度の挨拶と 「How are you? My name is ~.」 程度の自己紹介。 練習段階での指名等は担任が進める。</p>	<p>板書掲示 「挨拶のフレーズ」 「自己紹介のフレーズ」 【評価②】</p>
31分 ／	<p>※ ここからは、担任教師が主導する。</p> <p>○オランダ語の挨拶や自己紹介を使って「名前ビンゴ」を行う。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「名前ビンゴ」については、児童も経験があるのでルールや方法についてはさっと確かめる程度。 講師にも加わってもらい、児童との親睦を深めていただく。 	<p>掲示資料 「ビンゴのルール」 配布教材 「ビンゴカード」 「ビンゴ用読み上げ名札」 【評価③】</p>
ま と め	<p>○今日のふりかえりを行う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任は机間巡視で児童らのふりかえりをチェックし、この後の発表指名に活かす。 <p>○ふりかえりを発表する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任は机間巡視で得た情報を元に、挙手指名、教師指名を行う。 数名の発表の後、ふりかえりカードを全て回収する。 	<p>「ふりかえりカード」 友達への気づき 学習感想 【評価①】</p>
9分	<p>○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)</p>	<p>連続実施ならカット。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。 	その分の時間を「展開」に加える。
--	--	------------------

(4) 評価

- ① 「長崎事始め」や、現代の長崎や日本に根付いている「言葉や衣食住」とオランダとの関係について知り、異文化への興味、関心を高めることができたか。
- ② オランダ語で挨拶を交わしたり、簡単な自己紹介をしたりする活動を通して、外国の言語に対する興味関心を高めることができたか。
- ③ オランダ語を使った「名前ビンゴ」に取り組むことを通じて、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深めることができたか。

(5) 板書計画



※ ビンゴルールについては、必要な時点でのみ板書中央辺りに重ねて掲示する。必要なくなったら外す。

(6) その他

◎第2時間目

(1) ねらい

- ① かつて出島で行われていた「オランダ冬至」の一部（ゲーム等）を疑似体験する事を通じて、異文化への興味、関心を高める。
- ② 前回学習したオランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直すことで、オランダ語により親しむ。
- ③ オランダの言葉を交わしたり、「オランダ冬至」での遊びを実際に行う中で、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深める。

(2) 本時の流れ

過程	主な学習活動	備考・その他
導	○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。 ・ 同じ講師にご来校いただけた場合、ないしは第1時と本時を連続的に行った場合は、この段階をもつ	

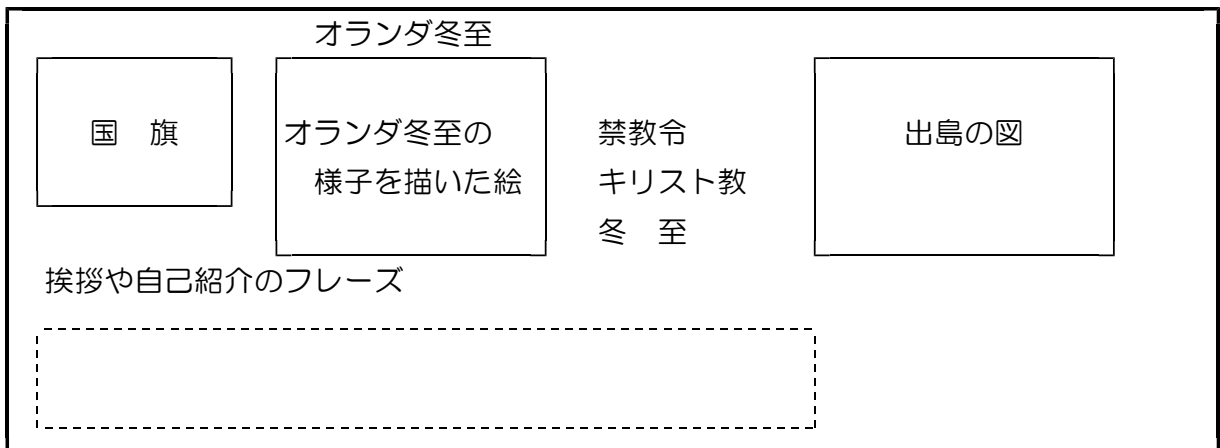
<p>入 3 分 ／</p>	<p>と簡素に流す。 「どこからいらっちゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「オランダという国への興味、歴史を学ぶおもしろさ」 といった内容。時間にして5分程度。</p>	<p>板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」 板書掲示 「オランダの国旗」</p>
<p>展</p>	<p>○前時のおさらい ・ オランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直す。 ・ 挨拶のフレーズを掲示し、一斉復唱を数回繰り返す。 ・ 一斉復唱の後、列指名、挙手指名などに切り替える。</p>	<p>板書掲示 「挨拶のフレーズ」 「自己紹介のフレーズ」 【評価②】</p>
<p>開</p>	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。(分) ○「オランダ冬至」についての説明 「出島」や「禁教」に関する簡単な説明 「オランダ冬至」の意味と命名の経緯 → やはり、あまり深入りせず、児童らに 「へえ〜…!」「そうだったんだ〜!」 という程度の驚きを与えるぐらいでよい。 → 児童らは「冬至」そのものを知らない可能性がある。簡単に補足する必要があるかも。</p>	<p>板書ステッカー 「オランダ冬至」 「禁教令」 「キリスト教」 「冬至」 板書掲示 「出島の図」</p>
<p>31 分</p>	<p>○「オランダ冬至」での遊びを体験 ・ 簡単な双六やカードゲーム系がのぞましい。 ・ 数の数え方や上がる時の言葉（「リーチ!」「ピン!」といった性質の物）があれば、それも使わせたい。</p>	<p>板書掲示 「ゲームの名前」 「ゲームのルール」</p>
<p>／</p>	<p>※ ここからは、進行の段階によって部分的に担任教師が主導する。</p>	<p>【評価③】</p>
<p>／</p>	<p>○今日のふりかえりを行う。(5分) ・ 担任は机間巡視で児童らのふりかえりをチェックし、この後の発表指名に活かす。</p>	<p>「ふりかえりカード」 友達への気づき 学習感想</p>

ま と め 11 分	<p>○ふりかえりを発表する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は机間巡視で得た情報を元に、拳手指名、教師指名を行う。 ・ 数名の発表の後、ふりかえりカードを全て回収する。 <p>○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。 	【 評価① 】
----------------------------	---	---------

(4) 評 価

- ① かつて出島で行われていた「 オランダ冬至 」の一部(ゲーム等)を疑似体験する事を通じて、異文化への興味、関心を高めることができたか。
- ② 前回学習したオランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直すことで、オランダ語により親しむことができたか。
- ③ オランダの言葉を交わしたり、「 オランダ冬至 」での遊びを実際に行う中で、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深めることができたか。

(5) 板書計画



※ ゲームの方法やルールについては、必要な時点でのみ板書中央辺りに重ねて掲示する。必要なくなったら外す。

(6) その他

◎第3時間目

(1) ねらい

- ① オランダを通じて日本に紹介された文物に関して、歴史的意味を持つ実物やレプリカに触れたり、見たり、解説員の方のお話を聞いたりする活動を通じて、異文化への興味、関心を高める。
- ② 今まで学習したオランダ語の挨拶や自己紹介をふりかえることで、オランダ語により親近感を感じる。

6年生	教科：社会	単元名：戦国の世は、どう統一されたの	6月～9月	7時間
実践校：長崎市立桜町小学校		授業担当者：米村郁子・岡田要・林田和徳		
目 標	<p>○ヨーロッパ人の来航によるキリスト教などの伝来、信長・秀吉・家康の天下統一について調べて、戦国の世が統一されたことを理解させる。(理解)</p> <p>○戦国の世の中を統一していった信長・秀吉・家康等の人物の動きに関心を持ち、意欲的に調べる活動を通して、歴史や伝統を大切にする心情と世界の中の日本人としての自覚をもとうとする態度を育てる。(態度)</p> <p>○我が国の歴史や伝統の意味について考え、適切に判断できるようにする。また、国のあゆみの調べ方を考えさせる。</p> <p>○年表・歴史地図・伝承・人物の逸話・人物や文化遺産に関する写真・その他の歴史的資料を効果的に活用して、社会事象を時間的・歴史的にとらえ、具体的に表現する能力の基礎を養う。(能力)</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○戦国の世の中の様子について話し合い、どのようにして天下が統一されていたのか問題意識をもつ。 ○課題に対して予想し、調べる計画を立てる。	1	○長篠合戦図屏風や姫路城の写真資料、外国船来港の資料から、当時の戦の様子や戦国時代の様子についてとらえさせ、どのように天下を統一していったのか意欲的に調べる意欲をもたせる。 ○課題に対して自分たちの予想や調べる計画を話し合わせる。	評価基準(2)	
○織田信長について調べる	1	○信長が室町幕府を滅ぼし、他の大名にさきがけて天下統一の基礎を築いたことをとらえさせる。 ○信長の気性や行動などの説話から、信長の人物像に迫るとともに、商工業の保護やキリスト教に対する考え方など信長のとった政策について調べさせる。	評価基準(1)(2)(3)	
○豊臣秀吉について調べる	1	○秀吉は、低い身分の武士の子であったが、信長に仕え、次第に有力な武将になっていったことをとらえさせる。 ○検地・刀狩については、その内容を理解させるとともに、令文から一揆をおさえ、年貢を確実にとり、兵農を分離するというねらいがあったことに気付かせる。	評価基準(1)(2)(3)	
○徳川家康について調べる	1	○2度にわたる朝鮮への侵略により、朝鮮の人々が苦しみ、国土が荒らされたことをとらえさせる。 ○朝鮮侵略と日本の陶磁器(有田焼)の関係についてもふれる。 ○家康は、三河(愛知県)の小さな大名の家に生まれ、少年時代を織田氏、今川氏の人質として過ごしたが、信長と同盟を結び、次第に勢力を広げていったことをとらえさせる。 ○秀吉の死後、関ヶ原の戦いで勝利した後、江戸に幕府を開いた。また、江戸城を中心に江戸の町の開発に力を入れたことをとらえさせる。	評価基準(1)(2)(3)	

<p>○信長・秀吉・家康による天下統一の過程についてまとめる。</p> <p>○当時の長崎の様子について調べる。</p>	2	<p>○家康は、朝鮮との国交を回復させ、使節を受け入れたが、キリスト教は禁止したことをとらえさせる。</p> <p>○信長・秀吉・家康について調べてきたことをもとに3人の武将による天下統一の過程についてまとめさせる。</p> <p>○歴史文化博物館に見学に行き、南蛮図屏風や寛文長崎図屏風、長崎惣町絵図などの資料から長崎の様子を知る。</p>	評価基準(3)
評価基準	<p>○戦国の世は、信長・秀吉・家康によって天下統一の仕事が進められていったことを理解することができる。(理解)</p> <p>○戦国の世の中を統一していった信長・秀吉・家康等の人物が行った諸政策について関心をもち、意欲的に調べていくことができる。(態度)</p> <p>○天下統一におけるヨーロッパ文化の役割、検地・刀狩と農民支配の関係とその影響などについて考えることができる。(能力)</p> <p>○戦国時代の大名配置図や安土城の様子、大阪城の様子や刀狩、検地についての資料、関ヶ原の戦いの様子などの資料を効果的に活用し、その成果を具体的に表現することができる。(能力)</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



%学習のめあて
 (例)ポルトガル人や中国人が来航した
 ころの長崎の様子を調べよう。

%わかったこと
 (例)南蛮びょうぶ

- ・ポルトガルはスペイン
- ・徳川家康の時代
- ・サントトミンゴ教会と同じころ
- ・スボンがうつくしく入っている
 →ヨーロッパのはやり
- ・日本人より南蛮人が多い。
- ・胸にじゅうじかのロザリオ
 (日本人)

＜発見＞長崎団びょうぶ

- ・出島がえがかれている。
- ・日本人がたくさん。
- ・行列がつづいていいる。
- ・すわ神社がえがかれている。
- ・おくんちをえがいている。
- ・中国人が作った、とうでう
- ・手ん中に中島川。
- ・中国人、柳シム

%学習のめあて
 (例)ポルトガル人や中国人が来航した
 ころの長崎の様子を調べよう。

%わかったこと
 (例)南蛮びょうぶ

- ・ポルトガルはスペイン
- ・徳川家康の時代
- ・サントトミンゴ教会と同じころ
- ・スボンがうつくしく入っている
 →ヨーロッパのはやり
- ・日本人より南蛮人が多い。
- ・胸にじゅうじかのロザリオ
 (日本人)

＜発見＞長崎団びょうぶ

- ・出島がえがかれている。
- ・日本人がたくさん。
- ・行列がつづいていいる。
- ・すわ神社がえがかれている。
- ・おくんちをえがいている。
- ・中国人が作った、とうでう
- ・手ん中に中島川。
- ・中国人、柳シム

(大航海時代)
 南蛮貿易…長崎港の開港(1571)

||
 ポルトガル人
 スペイン人

輸入…砂糖、生糸、布
 輸出…銀、鉄、びょうぶ、刀

長崎のまち
 南蛮人…カピタン=モール(職名)
 黒人…従者
 スボン…カルサン } ロザリオ
 えり…ひたえり }
 マント、くつ、くつ下 }
 はたし } 袴
 検を持たない }
 宣教師…キリスト教を広める
 教会=南蛮寺
 長崎の人…キリスト信者が多い。
 長崎のまちはローマのようだ。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

〈活動の目的〉

1学期に信長・秀吉・家康によって天下統一がされていった過程を学習し、2学期の初めに見学を行った。見学の目的は、南蛮貿易で栄えた頃や、信長・秀吉・家康の頃の長崎の様子を知ることと、2学期の歴史学習への意欲を高めることであった。

〈活動の実際と成果〉

1. 南蛮人来朝之図

- ・この資料は南蛮貿易の場面であることから描かれている外国人がポルトガル人やスペイン人であることがわかり、貿易で栄えていることがわかった。
- ・絵の中に教会があり、首にロザリオをかけている武士がいることやロザリオを売っている店があることからキリスト教が自由に信仰できていた時代であることが理解できた。

2. 寛文長崎図屏風

- ・この資料は1673年頃の長崎が描かれており、くんちの行列やオランダ商館員などが描かれている。この頃には、出島ができあがっており、外国人は自由に歩くことができなかつたことや、描かれている外国人がオランダ人であることを確かめることができた。

3. 長崎惣町絵図

長崎の町のでき方を学習することができた。



この3つの資料を通して南蛮貿易が盛んな頃はキリスト教を自由に信仰することができていたが、次第にキリスト教に対する弾圧が始まり、長崎の町に寺や神社が多いのはキリスト教が広まることを防ぐためであることを理解することができた。

〈終わりに〉

今回の見学時間は1時間を予定しており、そのほとんどを資料の説明に費やした。数多くある資料の中から学習の目的に合ったものを選ぶことは難しいことであり、この3つを重点的に扱ったことは学習の焦点化ができよかつた。事前に博物館に出向いてこちらの学習の目的を伝えることで、目的に沿った資料を子ども達に分かりやすく説明していただくことができ当初の目的を達成することができた。

6年生	教科：社会	単元名：江戸時代の長崎	1月	4時間
実践校：長崎市立晴海台小学校		授業担当者：梅林一城		
目標	為政者のキリスト教弾圧の様子、踏み絵の様子を理解する。 長崎版画を体験する。			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	1 歴史学習をふり返り、見学のめあてを立てる。	1	○ 学習場所を長崎歴史文化博物館に移動し、本物に触れる機会を設定する。	
	2 博物館見学を通して、本物に触れ当時の様子を体験する。	2	○ スタッフから説明を聞く活動を通して、禁教令の原因が幕府の方針であったことを捉えさせる。 ○ 踏み絵レプリカに触れる活動を通して、残酷な弾圧の様子を理解できるよう見学コースを設定する。	
	3 見学をふり返り、学習のまとめをする。	1	○ 見学だけではなく、長崎版画を体験する場を設定して博物館のよさを実感させる。 ○ 歴史巻きものに感想を書き、歴史学習のまとめをさせる。	
評価 規 準	(1) 徳川家光が行った大名の統制・身分制度・鎖国政策など、武士の政治を確立したことや町人には文化が栄え、学問が発達したことを理解する。(知識・理解) (2) 家光が行った諸政策、その当時の町人文化や新しい学問に興味をもち、意欲的に調べることができる。(関心・意欲) (3) 町人文化や新しい学問に関する絵や写真などの資料を効果的に活用し、その成果を表現することができる。(資料活用・表現)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

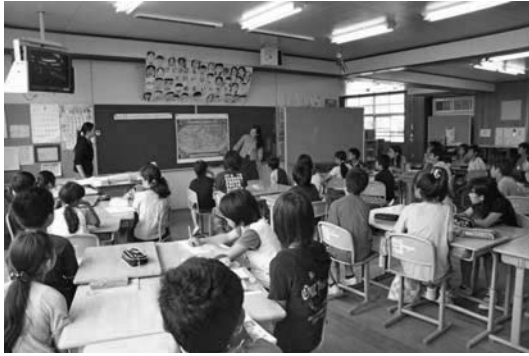


授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 事前に、博物館の担当者と打ち合わせをすることができた。子どもに何を見せたいのか、何をつかませたいのか等、お互いが博物館を利用する効果を具体的にイメージすることができた。
- 教科書を持ち込み、説明するスタッフに持っていただいて説明をしていただいた。子どもたちは自分が使っている教科書をスタッフが持っていることで、スタッフと子どもの距離が近づいた。
- 短時間の中でのピンポイント説明に効果があった。子どもたちは、日常と異なる場所での学習に大変興味を示し、活動も活発であった。
- 子どもたちは、長崎版画の体験も、どんな作品ができるのかドキドキしながら作業を進めていた。実際に本物に触れる体験とスタッフの説明による具体的な見学は、子どもの理解を深めるために大変有効であった。

6年生	教科：社会	単元名：「南蛮貿易とくらし」	5月	4時間
実践校：長崎市立畝刈小学校		授業担当者：梅林一城		
目 標	南蛮貿易による暮らしの変化について知り、これまでの学習と比較しながら、歴史学習に対する認識を広げる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	資料	
1 本時の学習のめあてを確認する。	5分	○これまでの学習を確認するとともに、新たな疑問は質問することを知らせる。 めあて 南蛮貿易で、人々のくらしはどのように変わったのだろう。		
2 研究員の話聞く。	5分	○大航海時代の地図上における日本の位置や形を確認できるようにする。 ① 当時の世界における日本の様子 ② ポルトガルからの航路	当時の世界地図	
3. ポルトガルと日本とのかわりについて知る。	15分	○ポルトガル人が日本を訪れたときの様子を資料から読み取る。 ○持っている人物カードから、気づきを発表する。 ○南蛮文化の内容を理解する。	南蛮人来朝之図 キリスト教の影響 カピタンの様子 貿易品 ポルトガル人の服装	
4. どのような文化やものの交流があったのかを知る。	20分	○貿易品に触れ、色・手ざわり・におい等、五感を通して外国との交流を実感する。	鮫皮 象牙 白コショウ	
日本は、この時代に初めてヨーロッパと交流するようになった。キリスト教をはじめとする様々なものがもたらされ、現在の生活に溶け込んでいるものもたくさんある。				
評 価 規 準	① 南蛮貿易に関心をもち、新しい発見をまとめ自分の考えを発信しようとする（関心・意欲・態度） ② 研究員の説明から、感じたことや体験したことを地図と結びつけながら、南蛮文化のイメージをとらえる。（資料活用・技能表現）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



6年生	教科：社会	単元名：地域の歴史を伝えるもの	4月	4時間
実践校：西海市立瀬戸小学校（実践案）		授業担当者：福田浩久		
目 標	身近な地域に残っている文化財や史料などに触れたり調べたりして、地域の歴史的背景に関心を持つことができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○教科書の■■■ページを見ながら話し合う。	1	○長崎と関連のある資料（写真）が掲載されているページを見ながら気づきを話し合わせる。 ○日本の歴史と長崎との関連が深いことに気づかせたい。		
○長崎歴史文化博物館を見学する。	2	○歴史を見学し、自分たちが教室で見た史料があることに気づかせる。 ○史料について歴史の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。		
○ふりかえりをする。	1	○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。		
評 価 規 準	身近な地域に残っている文化財や史料などに触れたり調べたりして、地域の歴史的背景に関心を持つことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

構想はありますが、まだ実践していません。

（ごめんなさい…）

似たような実践は、前任校である桜町小学校で行いました。そのときは残念ながら歴史が建設中だったため、桜町小学校の敷地内にある「サントドミンゴ教会跡資料館」を利用しました。

実際に展示物を見たあとに、市文化財課の方に来ていただいてお話を聞きました。

子どもたちは自分たちの身近なところに歴史を伝える場所（もの）があることに驚きを持ち、また歴史の学習に興味を持つことができていました。（もちろん全員ではありませんが）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科は、1学期の最初から2学期の後半（11月）まで歴史学習が続きます。

「歴史ってなんだかよくわからない」「めんどくさい勉強じゃないの？」「どうせ人の名前とか覚えなきゃいけないでしょ」なんていう子どもたちの考えを払拭し、「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」という気持ちを学習の初めに持たせたいというのが私の狙うところです。

自分の目の前にあるものが、昔の人や昔のくらしとつながっているって何だか不思議だし、楽しいと思いませんか？

6年生	教科：社会	単元名：「徳川の世」は、どんな世の中だったの	9月～10月	11時間
実践校：西海市立瀬戸小学校		授業担当者：福田浩久・深堀昭三		
目標	大名行列や徳川の世のしくみに関心をもち、幕府による身分制度の確立、貿易の取りしまり、町人の文化、新しい学問のおこりについて調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したこと、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことが分かり、国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 学習の問題をつかむ	1	○将軍に挨拶する大名の写真や大名の配置図などの資料から、徳川氏と各地の大名との関係について話し合わせる。 徳川氏によって、どんな世の中の中のしくみがつくられたのだろう	I-①	
2. 予想をし、調べる計画を立てる	1	○学習問題に対してそれぞれ予想を立てさせ、それを明らかにするための調べる計画を立てさせる。		
3. 調べる	4	○調べる内容(項目)は次のように大別される。 ・大名の支配 ・身分による支配と人々の生活 ・キリスト教と貿易統制 ・江戸の繁栄と町人文化 ・国学と蘭学 ○調べてわかったこととそこから考えたことを区別しながら各自まとめさせるようにする。	II-① III-① III-②	
4. まとめる	1	○調べたことをもとに、徳川氏の政治について話し合い、まとめをする。	I-② II-② IV-①②	
5. 見学を行い、学習内容を深める(発展)	4	○学習した内容をより深めるために、長崎歴史文化博物館と出島を見学する。		
評価 規 準	<p>I ①大名行列や江戸時代の世の中の中のしくみに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。②調べたことをもとに、とくに身分制度が確立し武士による政治が安定したことなどにいっそう関心を深めている。(社会的事象への関心・意欲・態度)</p> <p>II ①徳川氏によってどんな世の中の中のしくみが作られたのか、学習の問題をもち、見通しをもって追究している。②身分制度が確立し武士による政治が安定し、町人文化が栄えたことについて、国や社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。(社会的な思考・判断)</p> <p>III ①年表その他の資料を活用して調べている。②調べた過程や結果を、目的に応じた方法で分かりやすく表現している。(観察・資料活用の技能・表現)</p> <p>IV ①江戸幕府は、大名統制に力を注ぐとともに、身分制度を確立し、貿易を統制して武士による政治が安定したことが分かっている。②町人文化が栄え、歌舞伎や浮世絵が人気を集めたこと、また、国学や蘭学などの新しい学問がおこったことが分かっている。(社会事象についての知識理解)</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 6年社会科、江戸時代の学習の発展として学習したことをより深めさせたいと考え、長崎歴史文化博物館の見学活動を取り入れた。その際、目的をはっきりとさせて見学をさせるようにした。(今回の社会科見学は、江戸時代の学習を深めるため、特に出島を中心とした)
- また、展示されている資料をただ見て回るだけの活動ではなく、私と掛け合いをしながら歴文の加藤さんに話をさせていただいた。こうすることで、より親近感を持って子どもたちは話を聞くことができたと思う。
- 提示する資料の大切さを改めて感じた。今回加藤さんには「長崎港之図」という資料を基に話を進めてもらったが、とても効果的な資料だったと思う。実物の解体新書を見せてもらったときの子どもたちの驚きもよかった。
- 学校から地理的に遠いこともあり(バスで片道約1時間)、それを考慮して歴文での活動をメインに考えた。そのため、午後に出島資料館での学習は時間的にはやや物足りないものとなった。しかし、午前中に歴文で学習していたこともあり、施設をただ見て回るだけの活動にはならなかった。
- 学校行事の都合などあり、まとめの学習と見学との間が少し空いてしまったのが残念だった。

6年生	教科：社会	単元名：歴史って なあに？	4月～	2時間
実践校：西海市立瀬戸小学校（実践案）		授業担当者：福田浩久		
目標	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づく。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
<p>○博物館の方と出会う。</p> <p>○資料を見たり、話を聞いたりする。</p> <p>○ふりかえりをする。</p>	2	<p>※博物館から本校に来ていただき、出張授業の形で進めていければと思います。</p> <p>○長崎歴史文化博物館の概要やそこでどんな仕事をしているのかなど話してもらおう。</p> <p>○できれば、歴史にあまり興味がない子どもたちでも知っているような資料を用意してもらいたい。</p> <p>○資料の見方について話していただき、資料からわかることについて話し合わせる。</p> <p>○資料について歴文の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。</p> <p>○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。</p>		
評価基準	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づくことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科では、1学期の最初から2学期まで、長い期間をかけて歴史学習が続きます。

「歴史って難しそうだな」「こんな勉強苦手だな」という子どもたちの考えを、「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」という気持ちに変えたいというのがねらいです。

本当は歴史を訪れて実践したいところですが、本校は地理的に歴史から遠いため、出張授業で行うことができればいいと思います。

6年生	教科：社会	単元名：歴史を調べる手がかり	4月	3時間
実践校：西海市立瀬戸小学校		授業担当者：福田浩久		
目 標	資料を見たり、ふれたりすること、また博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づく。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○歴史についてのイメージを話し合う。	1	○「歴史」を中心にした、イメージマップを作成させ、自分もつ歴史についてのイメージを確認させる。		
○博物館の方と出会う。 (出張授業)	2	○まず、長崎歴史文化博物館の概要やそこでどんな仕事をしているのかななどを簡単に話してもらう。		
○資料を見て、気づきを出し合う。		○資料「南蛮屏風」を見て気づきを出し合い、考えを交流させる。 (資料を見る視点) ・人物…いろいろな人がいる。服装や格好が様々 ・動物…様々な種類の動物がいる ・建物や乗り物…教会や船など これらの気づきから、1つの資料からもいろいろなことがわかることに気付かせたい。		
○資料にふれ、気づきをもとに話し合う。		○資料「江戸時代の貿易品」を見たり、実際に触ったりして、多様な気づきを出させたい。 ○今の生活とのつながりにも気付くことができるようにする。 ○資料について歴文の方に話を聞くことで、歴史を学ぶ期待感を持たせたい。		
○ふりかえりをする。		○ノートに学習の振り返りを書かせ、お互いに話し合わせることで、さらに歴史の学習に興味や関心を持たせたい。また、最初に書いたイメージマップに付け加えをさせ、学習後のイメージの広がりにも気付かせるようにする。		
評 価 規 準	資料を見たり、博物館の方の話を聞いたりすることを通して、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちの暮らしが歴史の上に成り立っていることに気づくことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



歴文の紹介(PCを利用して)



いろんなものがかかかれているね



手元のカードの人はどこにいるかな？



象牙は思ったより重いなあ



加藤さんはすごい！何でも知ってる



この刀、切れ味良さそう…

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

6年の社会科では、1学期の最初から2学期終わりまで、長い期間をかけて歴史の学習をします。

子どもたちは「歴史って難しそうだな」「こんな勉強苦手だな」と考えがちですが、その気持ちを「歴史ってなんだか楽しそう」「もっといろいろ勉強してみたいな」と変えたいというのが一番のねらいです。

本当は歴文を訪れて実践したいところですが、本校は地理的に歴文から遠いため、今回は出張授業で行っていただきました。

事前の打ち合わせの際、お願いしたことは、

- (1) この時間は歴史の導入として大切な時間になるので、資料を効果的に使っていただき、できるだけ歴史に興味や関心をもたせるようにさせたい。
- (2) 歴史は「今よりずっと昔の古いこと」ではなく、「今の自分たちの生活とつながっている」という気持ちをもたせたい。

の2つでした。

実際の学習場面では、まず資料「南蛮屏風」を見て、初めて見たにもかかわらずいろいろな気づきをもつことができました。資料からいろいろなことが読み取れることを身をもって感じる事ができたと思います。

また、資料「江戸時代の貿易品」では、見るだけ(説明を聞くだけ)でなく、実際に触ったり、においをかいだりさせてもらい、より実感を伴って学習を進めることができました。

この学習を通して、「歴史っておもしろそうだな」という気持ちをもつ子が増えたと感じています。

改善点(反省点)としては、今年は秋の行事が多く、メインに考えていた「江戸時代の学習を歴文で」ということができなかったことです。

歴文の加藤さん、下田さんにはいつもお世話になり感謝しています。今回の実践でも、打ち合わせは大切だということを痛感しました。

平成22年度 歴文博教育研究プログラム活用授業(6年) 略案【改】

実践校：長崎市立深堀小学校 授業担当者：加藤尊城

◎実施日：平成22年10月6日（水）

◎「徳川の世はどんな世の中だったの」（1単位時間×3クラス）

◎本時について

(1) 留意事項

- ・ 本小単元の学習は9月に終わっているため、本時は発展・補足的な学習という位置づけになる。

(2) ねらい

- ・ 「出島パズル」に取り組むことで、かつての出島に関する具体的な気づき、疑問を捉えさせ、知識や認識を深めさせる。
- ・ 出島に対する知識や認識、理解を深めさせることで、江戸幕府の統治政策とその基本方針への理解を深めさせる。

(3) 本時の流れ

過程	主な学習活動	備考・その他
導入 5分 ／	<p>○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の紹介は極めて簡潔に。 「どこからいらっしゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「歴史文化博物館がどこにあって、元々どのような場所で、そこがどのような役割を持っていたものか。 また、現在、博物館がどのような働きを担っているか。」 といった内容。時間にして5分程度。 	板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」
展開	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。</p> <p>○「出島パズル」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、「出島」という言葉について、子ども達がどの程度の認識を持っているか確かめる。 「『出島』って、どのような所だったのでしょうか 	

展	<p>か？」</p> <p>と発問し、当時の様子や働き、役割に関する児童の認識を拾い上げる。児童の発言は、担任教師が板書し、整理していく。(5分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班毎(5乃至6班)に「出島パズル」を配布し、取り組ませる。 <p>あらかじめ作業予定時間を示してから、作業を開始させる。(7分程度?)</p>	
開	<p>※ ここからは、担任教師が主導する。</p> <p>○完成した「出島パズル」を囲んで、気づきや疑問を出し合う。(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を出し合う時は、「人」、「身につけている物」、「道具」、「建物」などカテゴリーを示して整理していく。 <p>最初の気づき、疑問をカテゴリー付けして、以降の進行を臨機に方向付けするのは担任教師の役割。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任教師や講師は、児童らの気づきや疑問に対して肯定的、賞賛的なりアクションを大きく示して児童のやる気を高める。 <p>○児童らの気づきや疑問を受けて、講師が解説を加える。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の知識の深さを存分に活かしていただく。 ・ 徳川幕府の国内統治に関する考え方に結びつけた解説をお願いしたい。 	<p>出島の掛け図(パズル完成状態の物)</p> <p>【評価①】</p>
／	<p>○今日のふりかえりを行う。(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この時間の学習で「出島」や「徳川幕府の統治」について、新たに分かったことをノート(ワークシート)に1つ書く。 ・ 講師の方を迎えて取り組んだこの時間の授業に関するショート感想を書く。 ・ 担任教師は机間巡視を行い、この後の発表に備える。 <p>○ふりかえりを発表する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は机間巡視で得た情報を元に、拳手指名、教師指名に生かす。 ・ 「学習上の気づき → 授業の感想」 	<p>【評価②】</p>

という流れで発表させる。

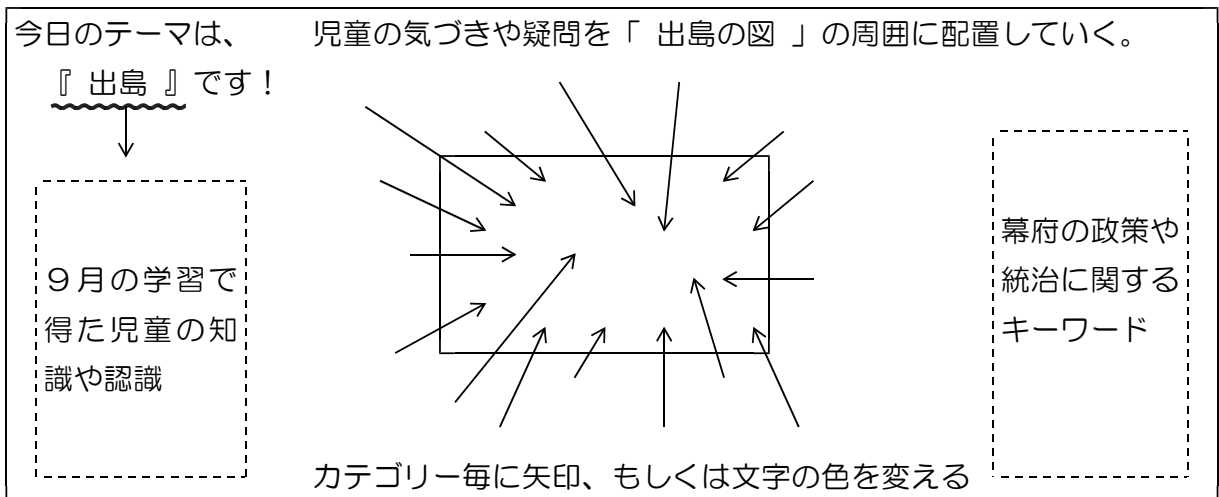
○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)

- ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。

(4) 評価

- ① 「出島パズル」に取り組むことで、かつての出島に関する具体的な気づき、疑問を捉え、知識や認識を深めることができたか。
- ② 出島に対する知識や認識、理解を深めることで、江戸幕府の統治政策とその基本方針への理解を深めることができたか。

(5) 板書計画



6年生	教科：社会	単元名：戦国の世は、どう統一されたのか ～新しい国づくりは、どう進められた	9月～11月	13時間
実践校：長崎市立女の都小学校		授業担当者：深堀昭三		
目 標	1 教科書主体に学ぶ日本の歴史の中で、長崎との関係から学習することで歴史的事象の身近さを感じさせる。 2 郷土の歴史に興味を持たせ、歴史に対する学習意欲を持たせる。 3 具体的な資料や場所を体験させることで、知識や判断技能の修得促進を図る。 4 ガイドさんとの交流で、人を通して学ぶ歴史体験をさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○長崎開港からキリスト教伝来までの経緯を学ぶ	1	どうして長崎が注目されるようになったかを、国内事情、ヨーロッパの様子、キリスト教の都合や大航海時代との関連から時代背景を考慮して予想させる。	総合的な学習	
○出島と新地。中国文化とオランダ文化をおくんち行事をもとに学ぶ	1	おくんちに関わって出し物が中国風であったり、ヨーロッパ風であったりするのには何か理由があるのかを児童に考えさせる。そこから歴史を探らせる方法をとった。		
○江戸時代における蘭学について学ぶ	1	「江戸の敵は長崎で」の言葉が生まれたようにこの時代の長崎は特別視されていたことについて考え、長崎が蘭学の中心であったことを理解させる。		
○幕末における長崎の役割について学ぶ	1	時代を変えた人物たちの多くが長崎と関わりがあることを理解させる（坂本龍馬、高杉晋作、西郷隆盛などの人物）武器商人の活躍（グラバーなど）		
○博物館見学と長崎さるく	6	これまでに学んだ事柄を長崎歴史文化博物館の見学やさるくでたしかめるとともに、ガイドさんを通して学ぶことの新鮮さを体験させる。		
○学習をまとめる新聞作り	3	1人1枚の新聞を作り、体験学習のまとめとさせる。特別に印象に残ったことを中心にまとめさせる。	総合的な学習	
評 価 規 準	1 歴史の身近さを体験することができ、興味を持つことができたか。 2 歴史学習に対して、これまでより意欲が高まったか。 3 知識や判断、思考能力が高まったか。 4 世の中には様々な人がいて、歴史に詳しい、優しい人たちがいるということが分かった。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

● 学校での授業で

長崎の歴史を授業で取り扱う，資料や内容についてまとめられた準教科書的なものがない。3，4年生が使用しているような傾向のものがあれば郷土学習は進展していくと考える。

● 苦労点及び改善点

コンビニ的な気軽さで資料のやりとりができる環境が欲しい。現時点では手続きや申請など煩雑で，日常の業務においてはおっくうになる。

長崎市にある見学希望施設の減免申請の窓口が一つ一つ違うので大変煩わしい。行政改革が望まれる。ネット申請や簡略化ができないものか。

定期バスを利用し，悪天候でも活動ができることから，体験的活動が少ないのは教職員の意識の低さと思われる。（市社会科のカリキュラムに位置づける方法もあるが，課題も多い）

● 見学活動を学校で毎年実施される遠足的な行事として設定すると案外容易かもしれない。

● 地域の子どもは地域で育てるとよく言われるが，長崎の子どもは長崎で育てるという視点が見えない。郷土学習支援にも行政や企業が連携して活動すると児童のまなびや市民生活の活性化につながると思う。

● 博物館に体験ゾーンをよりおおく設定し（キリスト教伝来時の音楽や活版印刷など）遊びを取り入れた活動の充実

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎に感動！」(総合)	9月～11月	総合：20時間
実践校：長崎市立西山台小学校		授業担当者：中山美加・川口邦春		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの郷土長崎の歴史や文化に触れる活動を通して、長崎の持つすばらしさを発見したり、見直したりすることができるようにする。 ・学んだことを生かして「西山台ふれあいまつり」運営への意欲を高め、愛校心や郷土愛をもてるようにする。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 郷土長崎の歴史や文化について学び、ふれあいまつりに活かす計画を立てる。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいまつりのオリエンテーションにおいておくんちの魅力に触れ、関心を持たせる。 ○長崎歴史文化博物館見学や踊り町見学について計画・準備を行う。 	(1)	(2)
2 長崎歴史文化博物館見学、おくんち踊り町見学への参加をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「くんち374年展」の見学と踊り町の庭見せを見学し、歴史や文化のほか、まつりの運営面などにも目を向けさせる。 ○同時に国語のユニバーサルデザインの取材ができるように視点を持って見学するよう準備しておく。 	国語「みんなで生きる町」(ユニバーサルデザイン)	
3 博物館見学や踊り町見学についてまとめ、ふれあいまつりの構想を持つ。	1	○見学してきたことを振り返り、ふれあいまつりにいかせるようまとめる。	(2)	(3)
4 踊り町の人と交流し、ふれあいまつりの計画を立てる。	2	○G/Tを招き、演技を指導してもらおう機会を設ける。ふれあいまつりの川船について構想し、計画を立てさせる。	(3)	
5 ふれあいまつりの準備を行う。	8	○演技について、その魅力が伝わるような工夫を考えさせながら練習する。	(3)	図工「12歳のわたし」(版画)
6 ふれあいまつりで川船の演技を発表する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいまつりで川船の演技を行い、長崎くんちの魅力を表現させる。 ○活動の振り返りを行い、郷土や自分たちの学校についての思いを持たせる。 	(4)	ふれあいまつり (4)
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎に関心を持ち、郷土の歴史や文化のすばらしさを発見し、その魅力を自ら経験しようという態度を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (2) 見学で実際に調べたり、説明を受けたりしたことをもとにふれあいまつりの構想を持つことができたか。(課題設定能力) (3) おくんちの魅力や携わる人の思いに触れ、自分たちのふれあい祭り結びつけながら、川船の演技を工夫することができたか。(交流・発信力) (4) 長崎の魅力に気づくことができ、愛着を持つことができたか。(自己の生活を見つめる力) 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

○児童の感想

・『くunchi 374年展』では知らなかった町のことや江戸時代のおくunchiのことを初めて知りました。」

・「おくunchiは毎年楽しみにしていたけど、こんなに歴史があるとは知らなかった。」

・「博物館に飾ってあったくunchi料理が新大工町にも飾ってあったので『ほんとに今も続いているんだ』と思いました。」

・「長崎に新体解書の本があるとはびっくりしました。長崎が江戸時代に日本の中心であることがわかった。」

・「おくunchiの歴史がすごいとわかった。わたしたちのふれあいまつりも歴史を作っていくと思う」

・「ふれあいまつりの準備は大変だと思っていたけどおくunchiのことを考えたら準備が大切だとわかった。」

・「歴史博物館はきたことがあったけど、ガイドさんの説明を聞くとわかりやすかった。」



・くunchi料理の説明



・傘鉾の説明

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○いろいろな公共施設を利用する際には事前の打合わせは欠かせないが、初対面の方と話をするというのは緊張感も高く難儀なものである。今回は指導教師としてパートナープログラムに参加しているということが、事前の連絡や打合わせを行う際に大変心強く思えた。また、教師が博物館の方と心開いて話ができる、という状況が子供たちに与えた影響も大きく、ほかの施設に行ったときよりも自ら質問をしたり、積極的に説明を聞いたりする姿が多く見られた。大変有意義であった。

○ボランティアガイドの方との交流の仕方について改善の余地があると感じた。ひとときの交流であるが、引率者として自己紹介をいただいたり、児童からのあいさつの場を設定することができたのではないかと反省している。説明を聞くことも大変勉強になるが、ボランティアガイドの方のお人柄やその専門性の高さに触れることで児童にとっては貴重な出会いとなると考えられる。

○「対馬展」を同時に見ることで、長崎県全体への関心がかなり高まった。今後も長崎歴史文化博物館を児童に身近に感じてもらえるような学習や学校での紹介など、やっていきたいと思う。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎再発見」	5月～11月	35時間
実践校：長崎市立西城山小学校		授業担当者：川端健一		
目標	自分たちの郷土長崎のよさを見つける活動や修学旅行先の歴史や文化にふれる活動を通して、自分たちの郷土のよさを発見したり、郷土のすばらしさを発信したりすることができるようにする。さらにはこの学習を通して、長崎に対する郷土愛を持てるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 郷土長崎の文化や歴史について調べる計画を立てる。	3	○修学旅行のオリエンテーションの場で、「じげもんクイズ」を出し、修学旅行先を調べる前に、郷土長崎について知らないことが多いことに気づかせる。 ＜修学旅行プレゼンテーション＞ ○長崎歴史文化博物館見学や長崎さるくへの参加をする計画や準備をする。 ※長崎さるくのコースを複数設定し、それに合わせた博物館内での見学ができるように事前打ち合わせが必要	(1)	
2 長崎歴史文化博物館見学と長崎さるくへの参加をする。	6	○コース別に博物館内での見学が午後、現地で確認できるように見学の計画を立てておく。 ○各コースにデジカメを貸し出し、見学したポイントを撮影させ、後のガイドマップ作りに生かせるようにする。同時に、図工の風景画に生かせる風景も撮らせておく。	(2)	図工 「私の町」 (風景画)
3 「博物館・さるく」で自分が見学したコースをガイドマップにまとめ、それぞれのコースごとにその魅力を紹介し合う。	6	○異なるコースの児童が入るようにグループを作り、各コースの魅力の紹介を行う。	(3)	国語「ガイドブックを作ろう」
4 修学旅行の自主研修の計画を立てる。	5	○ガイドマップや施設案内等を調べさせ、コース取りをさせる。	(2)	修学旅行
5 修学旅行で自主研修を行う。	8	○各コースごとにデジカメを貸し出し、見学したポイントを撮影させ、後のガイドマップ作りに生かせるようにする。	(3)	図工「版画」
6 見学したコースをガイドマップにまとめ、それぞれのコースごとにその魅力を紹介しあう。	5	○郷土長崎との違いや共通点等も常に意識をさせながらガイドマップに表現できるようにする。	(4)	
7 理想的な長崎の修学旅行コースを提案し、にししろフェスタで発表する。	2	○にししろフェスタで発表をする準備を行う。郷土長崎への魅力や思いをまとめ、理想的な長崎の修学旅行コースを提案する。		にししろフェスタ
評価規準	(1) 郷土長崎に関心を持ち、郷土のよさを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。 (関心・意欲・態度)			
	(2) 見学で実際に見聞きしたり、自分自身が感じたりした内容をコース図等と結びつけながら長崎や修学旅行先の歴史文化のイメージをとらえることができたか。 (問題解決力)			
	(3) 自分自身が感じた各コースの魅力が相手に伝わるようにガイドマップに盛り込み、読み手を引きつけるような工夫をすることができたか。 (コミュニケーション力)			
	(4) 郷土長崎の魅力に気付いたり、愛着を持ったりすることができたか。 (自分の生活を見つめる力)			

学習活動の軌跡(感想文, 作品, 現場の写真, ノート, ワークシートなど)

歴史文化博物館見学 / 長崎さるく見学 / 長崎さるくガイドマップづくり



ボランティアの人に教えてもらったためがね橋のつくり方や中国から伝わったことなどにびっくりしました。さらに分からないことなどがあつたら、さるくのガイドさんにも聞いてみようと思いました。



博物館の見学で、長崎の貿易も中国や他の外国ともしてておたがいに協力し合ってることがわかりました。・・・さるくでガイドの杉山さんで行った場所は外国と幕府の関係をよく示す場所でした。長崎は日本全体の出発点だとわかりました。少し「じげもん」レベルが上がりました。



博物館では2/3程が気になることばかりでした。その内の1/5程はさるくで解明できるので、さるくもがんばりたいです。・・・こんなにいろんなことが知れたので「橋さるく」でよかったです。次はほかのコースにも行ってみたいです。

学習後のアンケートから・・・Q:博物館では、長崎さるくのコース内容に合ったポイントでガイドしてもらいましたが、午後からの長崎さるくの見学に役に立ったと思いますか？

・・・「役に立った」(91%) ・そのまま行っていたら、わけが分からなかったかもしれない。 ・おおよそのことが分かって実物を見に行くとよく分かった。 ・博物館のガイドさんがさるくもガイドをしてくれた。

懐かしの街並み ～中通り界限～

① 青空市場
ちゃんと屋根がついており、雨でも買い物ができます。現在、10軒ほどのお店が営業していますが、最盛期には300軒もあったそうです。
☺ 広かったです、お店もたくさんありました。

② 岩永梅寿軒
天保元年(1830)創業の和菓子店。季節を盛り込んだ引き菓子が美しい。こちらの看板は大正時代に作られたもの。
☺ カステラがおいしかったです!!

③ くらせ弘風堂
昔ながらのずばん漬が売られています。長崎のずばん売りの歌が聞こえるかも! ☺
ずばん漬のようかんがおいしい。

④ きっちゃんせいじ
電車の車体を前面に使ったレストラン。昔のつり革や珍しい看板、古い写真がかけられています。

⑤ 眼鏡橋
我が国最古のアーチ型石橋。水面にアーチが映り、2つの円ができることから眼鏡橋と呼ばれた。長崎大水害で半壊し、かき付いた階段部分が露出し、以降は階段付き。
☺ 暗れている時に見ると2つの円がみられるかも!!

☆ 感想
懐かしの町並みは、昔のままの道やお店がたくさんありました。子どもでも大人でも楽しめるさるくだと思います。いろんな物を食べたり、もったり、お店の人達がやさしくしてくれてすごく楽しかったです。

児童が作成したガイドマップ 実際に歩いた実感やおすすめポイントを盛り込んでいる。

熊本さるく見学／修学旅行／熊本さるくガイドマップづくり／長崎と熊本のよさ比べ



街が見渡せる城があるなんてすごい。熊本は長崎と違って、平野だね。

城壁や上級武士の屋敷はさすがに城下町らしい。

長崎も山があるけど、阿蘇山などは規模が違う。

熊本と長崎の共通点と違いを究

天守閣

天守閣は昔西南戦争の前に原因不明の火事焼失しました。そして今の天守閣は復元されたもの。大天守閣は地上6階地下1階石垣の上から高さ約30m。小天守は地上4階地下1階高さ約19m。

長崎市の違い

熊本城あり → 長崎市城なし

天守閣の屋上からは熊本市の景色が見られとても印象に残った。

細川刑部邸には昔ながらの台所や化粧などの数々のものが置いてある。沢山の部屋があった。その中でも僕は(御二)間の部屋が印象的で、机やなぐさなどのものが置いてあった。

熊本 ← 長崎

熊本	長崎
日本人が建てた建物が有名	外国の建て物が有名

本丸御殿

本丸御殿は往時には部屋53室、畳1570畳を数えたと伝わっており、天守閣にもつながっている。

見どころ

史実に基づく復元設計や昔ながらの伝統的な工夫

感想

天守閣、旧細川刑部邸、本丸御殿は昔ながらのものが置いてありとても印象に残った。また、行くきかいかがあったら行きたいです。

児童の作成したガイドマップ
長崎ガイドマップでの改善点をふり返
った後、作成させた。

学習後のアンケートから・・・Q：熊本さるくでは、長崎さるくの学習がいかせたと思いますか？

「いかせた」(94%)

- ・長崎と熊本の違いを探しながら見学することができた。
- ・地図をもとに歩く力が付いた。
- ・長崎のガイドマップづくりで友達のよさを発見していたので、熊本ガイドマップに新しくアイデアを生かすことができた。

「どちらとも言えない」(6%)

- ・長崎よりも熊本の方がくわしく調べられなかったから。

自然の規模が違う。

長崎はたくさん人が集まってきた歴史の街だ。

熊本は城下町。そして、平野が広がっている。街の感じが全然違う。

長崎は海のすぐそばに山がある。坂や山とくらしている感じがする。

でも、両方とも路面電車が走っているところは同じだ。

長崎の修学旅行プランを立てよう

移動時間・移動方法・料金なども計画に入れましょう。

1日目		2日目	
13:00 長崎駅 3系統、市道行 13:10 13:15 13:25 13:35	13:30 長崎駅 出発 13:05 13:05~14:30 出島見学 14:00 14:30 14:35	9:00 長崎駅 3系統、市道行 17分 3分入館式 見学(50分見学) 10:00 10:00 10:05 10:09 11:00 11:00 11:05 12:00 12:00 12:30	9:00 長崎駅 出発 長崎駅前電停へ市道行 (50分) 9:10~11:00 長崎原爆資料館見学 11:00 11:05 11:05~12:45 平和公園見学 12:00 12:00 12:30 出島(電停) 見学(40分見学) メモの整理 12:30 12:30 12:30
9分 納豆(徒歩9分)	14:00 浦上天王堂(徒歩9分) 見学スリッパ メモ取り	5.3分 メモ整理時間	11:00 美術館見学 14:40~15:00 水辺の森公園(休1日) 16:00 16:00 16:30 水辺の森公園見学 16:00~16:30 出島(電停)へ長崎駅 長崎駅 徒歩(50分)
15:00 15:00 15:05 15:10 15:15 15:20 15:25 15:30 15:35 15:40 15:45 15:50 15:55 16:00 16:05 16:10 16:15 16:20 16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20 17:25 17:30 17:35 17:40 17:45 17:50 17:55 18:00 18:05 18:10 18:15 18:20 18:25 18:30 18:35 18:40 18:45 18:50 18:55 19:00 19:05 19:10 19:15 19:20 19:25 19:30 19:35 19:40 19:45 19:50 19:55 20:00 20:05 20:10 20:15 20:20 20:25 20:30 20:35 20:40 20:45 20:50 20:55 21:00 21:05 21:10 21:15 21:20 21:25 21:30 21:35 21:40 21:45 21:50 21:55 22:00 22:05 22:10 22:15 22:20 22:25 22:30 22:35 22:40 22:45 22:50 22:55 23:00 23:05 23:10 23:15 23:20 23:25 23:30 23:35 23:40 23:45 23:50 23:55 24:00	14:00 浦上天王堂(徒歩9分) 見学スリッパ メモ取り	5.3分 メモ整理時間	11:00 美術館見学 14:40~15:00 水辺の森公園(休1日) 16:00 16:00 16:30 水辺の森公園見学 16:00~16:30 出島(電停)へ長崎駅 長崎駅 徒歩(50分)
16:00 16:05 16:10 16:15 16:20 16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20 17:25 17:30 17:35 17:40 17:45 17:50 17:55 18:00 18:05 18:10 18:15 18:20 18:25 18:30 18:35 18:40 18:45 18:50 18:55 19:00 19:05 19:10 19:15 19:20 19:25 19:30 19:35 19:40 19:45 19:50 19:55 20:00 20:05 20:10 20:15 20:20 20:25 20:30 20:35 20:40 20:45 20:50 20:55 21:00 21:05 21:10 21:15 21:20 21:25 21:30 21:35 21:40 21:45 21:50 21:55 22:00 22:05 22:10 22:15 22:20 22:25 22:30 22:35 22:40 22:45 22:50 22:55 23:00 23:05 23:10 23:15 23:20 23:25 23:30 23:35 23:40 23:45 23:50 23:55 24:00	16:00 16:05 16:10 16:15 16:20 16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20 17:25 17:30 17:35 17:40 17:45 17:50 17:55 18:00 18:05 18:10 18:15 18:20 18:25 18:30 18:35 18:40 18:45 18:50 18:55 19:00 19:05 19:10 19:15 19:20 19:25 19:30 19:35 19:40 19:45 19:50 19:55 20:00 20:05 20:10 20:15 20:20 20:25 20:30 20:35 20:40 20:45 20:50 20:55 21:00 21:05 21:10 21:15 21:20 21:25 21:30 21:35 21:40 21:45 21:50 21:55 22:00 22:05 22:10 22:15 22:20 22:25 22:30 22:35 22:40 22:45 22:50 22:55 23:00 23:05 23:10 23:15 23:20 23:25 23:30 23:35 23:40 23:45 23:50 23:55 24:00	16:00 16:05 16:10 16:15 16:20 16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20 17:25 17:30 17:35 17:40 17:45 17:50 17:55 18:00 18:05 18:10 18:15 18:20 18:25 18:30 18:35 18:40 18:45 18:50 18:55 19:00 19:05 19:10 19:15 19:20 19:25 19:30 19:35 19:40 19:45 19:50 19:55 20:00 20:05 20:10 20:15 20:20 20:25 20:30 20:35 20:40 20:45 20:50 20:55 21:00 21:05 21:10 21:15 21:20 21:25 21:30 21:35 21:40 21:45 21:50 21:55 22:00 22:05 22:10 22:15 22:20 22:25 22:30 22:35 22:40 22:45 22:50 22:55 23:00 23:05 23:10 23:15 23:20 23:25 23:30 23:35 23:40 23:45 23:50 23:55 24:00	16:00 16:05 16:10 16:15 16:20 16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20 17:25 17:30 17:35 17:40 17:45 17:50 17:55 18:00 18:05 18:10 18:15 18:20 18:25 18:30 18:35 18:40 18:45 18:50 18:55 19:00 19:05 19:10 19:15 19:20 19:25 19:30 19:35 19:40 19:45 19:50 19:55 20:00 20:05 20:10 20:15 20:20 20:25 20:30 20:35 20:40 20:45 20:50 20:55 21:00 21:05 21:10 21:15 21:20 21:25 21:30 21:35 21:40 21:45 21:50 21:55 22:00 22:05 22:10 22:15 22:20 22:25 22:30 22:35 22:40 22:45 22:50 22:55 23:00 23:05 23:10 23:15 23:20 23:25 23:30 23:35 23:40 23:45 23:50 23:55 24:00

移動時間・移動方法・料金なども計画に入れましょう。

1日目		2日目	
13:00 長崎駅 出発 13:05 13:05~14:30 出島見学 14:00 14:30 14:35	9:00 長崎駅 出発 長崎駅前電停へ市道行 (50分) 9:10~11:00 長崎原爆資料館見学 11:00 11:05 11:05~12:45 平和公園見学 12:00 12:00 12:30 出島(電停) 見学(40分見学) メモの整理 12:30 12:30 12:30	11:00 美術館見学 14:40~15:00 水辺の森公園(休1日) 16:00 16:00 16:30 水辺の森公園見学 16:00~16:30 出島(電停)へ長崎駅 長崎駅 徒歩(50分)	11:00 美術館見学 14:40~15:00 水辺の森公園(休1日) 16:00 16:00 16:30 水辺の森公園見学 16:00~16:30 出島(電停)へ長崎駅 長崎駅 徒歩(50分)

児童が作成した修学旅行プラン
博物館や長崎さるくの見学を生かした長崎の修学旅行プラン。移動方法や見学時間を詳細に計画している。食事も長崎名物を入れるなどの工夫をしている。

学習後のアンケートから・・・Q: 修学旅行プランづくりでは、博物館やさるくの学習がいかせたと思いますか？

「いかせた」 (91%)

- ・実際に歩いて確かめたので、自信をもってプランづくりにいかせた。
- ・ガイドさんや修学旅行の添乗員さんの立場になってプランを立てることができた。

「どちらとも言えない」 (9%)

- ・長崎のよさをもっとアピールするものをまだまだよく分かっていないから。

授業担当者による自由記述 (活動の特徴, 苦労した点, 改善点, 学びの発展等)

◇「長崎さるく」へいかす博物館見学

従前より本校は、長崎歴史文化博物館の見学や長崎さるくの利用をしてきた。しかし、博物館見学を長崎の歴史文化全体のイメージを捉えるために入門編として、「さるく」はポイントを絞った学習という取扱をしており、双方の関連を考えた展開を考えていなかった。今回は博物館の加藤さんとの事前打ち合わせの中で、午後のさるくの見学内容に焦点を合わせた博物館内の見学ができるようになった。前項に挙げた児童の反応が今回の展開をまさに評価していると思う。

「ガラスケースの向こうにあるものは元々、我々の祖先の生活の場にあったものである」ということを感じとれたら「じげもん」づくりの成功であると思う。単元終了後の児童の感想に「石橋という、眼鏡橋しか知らなかったけど、他にもたくさんあるのだと分かって、すごいと思いました。」「長崎という街の見方が変わったような気がします。」「他の県からきた友達に長崎を自慢しました。」など書かれてあった。

◇修学旅行プランをさらに生かすために

「プランができたなら実際にその通りにできるか試しに行きたい。」児童の反応にはっと気付かされる。実際は、プランを展示発表したのみである。「調べる」>「まとめる」>「発表する」という展開の前に「いかすために調べる」と、最後に「いかす」という部分が欠落していた。「長崎さるくのボランティアになろう」と「実際に自分で歩いて調べる」>「改善をしてみる」>「実際にガイドしてみる」という展開があることに、単元後の児童の感想を読みながら気付かされた。

「長崎の街並みをきれいにしたい。」「長崎原爆のことを県外の人に知ってもらうには県外に資料館を作ってもっと平和について考えてもらえるようにしたい。」郷土に対する関心を高めることは、将来郷土を支える力となるだろう。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「長崎再発見」Ver. 2	5月～12月	35時間
実践校：長崎市立西城山小学校(実践案)		授業担当者：川端健一		
目標	自分たちの郷土長崎のよさを見つける活動や修学旅行先の歴史や文化にふれる活動を通して、郷土のよさを再認識し、それらを修学旅行プランとして表現することができる。修学旅行先の小学校との交流を通して、それぞれの郷土のよさを意欲的に調べ表現することができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
1, 修学旅行のプランを立てる。	4	○ 修学旅行についてのプランを立てる中で、現地の小学生に「おすすめプラン」紹介してもらう。同時に相手校へ長崎旅行時の「おすすめプラン」を紹介することを約束する。 (相手校との事前打ち合わせが肝要)		(1)
2, 長崎歴史文化博物館見学を行う。	4	○ この見学は長崎の歴史文化についての概略をつかむことをねらいとする。帰校後、それぞれ関心を持ったテーマをもてるようにする。		
3, 各自、長崎の歴史・文化・平和などの中からテーマを決め調査を行う。	8	○ 校内での資料やHP等で調べる。調べていく中で更に詳しく知りたい、現地でしか得られない情報(写真やビデオ等も含む)を得たいという意識になると考えられる。		
4, 現地調査を行う	6	○ それぞれのテーマや調査内容により以下の現地調査が想定できる。 ・歴史文化博物館見学 (展示室でのピンポイント調査、資料閲覧、体験工房等) ・長崎さるく参加 ・平和ゾーン取材(原爆資料館周辺、城山小学校周辺等)		(2) (3)
5, 長崎ガイドマップおよび修学旅行プランを作成する。	8	○ 「私たちの長崎さるくプラン」として修学旅行内の自主研修プランを作成する。		
6, 相手校へプランを届けるなど交流を行う。	5	○ 修学旅行先で直接届けたり、相手校が来崎した際に直接交流したり、案内したりするなどが、可能であれば実施する。実際に作成したプランをどう使ったのかをお互い情報交換しそれぞれの研究の成果を確かめ合いたい。		(4)
評価 規 準	(1) 郷土長崎に関心を持ち、郷土のよさを発見し、その魅力を発信しようという意欲を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (2) 自分が関心を持ったテーマを調べ、プランに作り上げる中で、実際に見学する相手、時間や経路等のことを考えることができたか。(問題解決力) (3) 自分自身が感じた各コースの魅力が相手に伝わるようにプランに盛り込み、読み手を引きつけるような工夫をすることができたか。(コミュニケーション力) (4) 郷土長崎の魅力に気づいたり、愛着を持つことができたか。(自分の生活を見つめる力)			

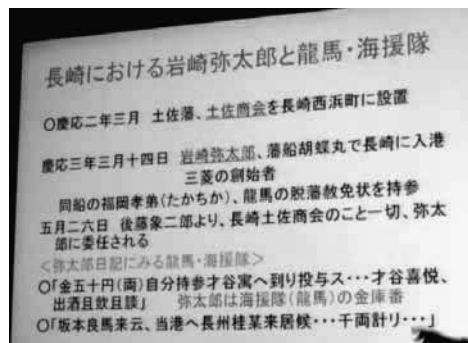
6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：龍馬の足跡	12月～2月	20時間
実践校：長崎市立伊良林小学校		授業担当者：宇土剛・森山哲・赤瀬妙子		
目 標	長崎との関係も深い坂本龍馬について調べる活動を通して、社会科の歴史の学習を深めたり、郷土である長崎や伊良林の歴史を知ったり、よさを発見したりすることができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習のめあてをつかむ。	1	○社会科の歴史で学習した坂本龍馬のことを振り返らせる。また、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の収録が地元であることを知らせる。 ※収録見学めあての観光客に対して自分の町を説明できる必要性を感じさせる。	【意欲関心態度】 社会科「黒船の来航は世の中をどう変えたの」	
2 坂本龍馬について知っていることを整理する。	2	○自主学習で調べさせる。 ○インターネットを利用して興味があることについて調べさせる。	【意欲関心態度】	
3 長崎歴史文化博物館で坂本龍馬の話聞く。	2	○インターネットでの調べ学習は幅が広すぎて、情報の正確さの判断も難しい。 そこで、「長崎とのつながり」というテーマで専門の先生にお話をしていただく。	【意欲関心態度】	
4 聞いたお話をまとめ、感想を書く。	2	○歴史文化博物館でいただいた資料と見学メモをもとに分かったことをまとめ、今後自分が調べたいことも含めて感想を書かせる。	【課題設定力】	
5 調べる課題を設定する。	1	○児童の感想から5つの課題に整理して自分が興味をもつ課題を1つ決めさせる。課題は以下の通り ①龍馬とのつながり（人物関係） ②龍馬と長崎のつながり ③龍馬のエピソード ④龍馬の生涯・生き方 ⑤龍馬の業績・夢	【課題設定力】	
6 自分の課題に沿って調べる。	5	○同じ課題3人～5人のグルーピングをし、手分け協力して調べさせる。 (調べる方法) 図書室・インターネット 図書館で借りた資料など	【問題解決力】	
7 発表の準備をする。	3	○グループで協力して調べたことをまとめさせる。 (発表のポイント) ①見やすい ②聞き取りやすい ③全員が活躍する ③15分以内	【問題解決力】	

8発表をする。	2	○発表を聞くとときは、自分の調べた内容と比べて新しく知ったことをメモする。メモをもとに質問する。	【表現力】
9まとめる。	2	○調べたことと発表をもとに自分の課題にあった答えをまとめる。	【問題解決力】
評 価 規 準	<p>○坂本龍馬と郷土長崎・伊良林のつながりに興味をもち、進んで話を聞いたり調べたり、発信したりすることができたか。【意欲関心態度】</p> <p>○長崎歴史文化博物館で聞いた話と自分の興味を結びつけて課題を設定することができたか。 【課題設定力】</p> <p>○自分の課題に合った資料を選び、グループで協力して学習を進めることができたか。 【問題解決力】</p> <p>○調べたことを分かりやすくまとめ、見やすく聞き取りやすく発表することができたか。 【表現力】</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

社会科の歴史の学習の中で幕末の日本について学習をしてきたこともあって、子供たちは『坂本龍馬自身のこと』や『龍馬とつながりのある人物』について、興味をいただいていた。事前の調べ学習では、やや内容が浅かったこともあり、今回の歴史文化博物館での、この学習では、自分たちが知らなかったことをたくさん説明していただき、新しい発見があり、たくさんのお話を学ぶことができた。

<歴史文化博物館での様子>



スライドを使った説明は、大変わかりやすく、子供たちは、たくさんのお話をメモすることができた。



<歴史文化博物館での学習後>

学校にもどり、学習でわかったことや感想をプリントにまとめた。



龍馬の有名な写真は、長崎で撮影されていたこと、それを撮影したのが「上野彦馬」で、当時の撮影は大変時間がかかったことに驚いた。今回の博物館の学習では、伊良林バージョンで、スライドを使って話をいただき、大変わかりやすく、興味深いことが多かった。「龍馬と長崎でのゆかりのある場所」や、「長崎でどんなことをしたのか」、また、自分が興味をもったことは、「龍馬と関わりの深かった人物」についてで、これから自分の課題として、調べていきたい。



その後、自分が1番興味をもったことをもとに、一人一人課題を設定した。

大きく5つの課題に分かれた。

- ①龍馬とのつながり（人物関係）
- ②龍馬と長崎のつながり（亀山社中も）
- ③龍馬のエピソード（事件・船のことも）
- ④龍馬の一生・生き方・妻のことなど
- ⑤龍馬の業績・夢・成し遂げたこと



それぞれが課題を決め、まずは自分で、本やパソコンを使って、課題の解決（調べ学習）を進めるようにした。



現在、調べ学習は継続中で、今後は、同じ課題の人と小グループを作り、調べたことをもとに、わかったことをまとめ、発表会を開き、学習したこと（わかったこと）の内容を共有できるようにしていきたいと考えている。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

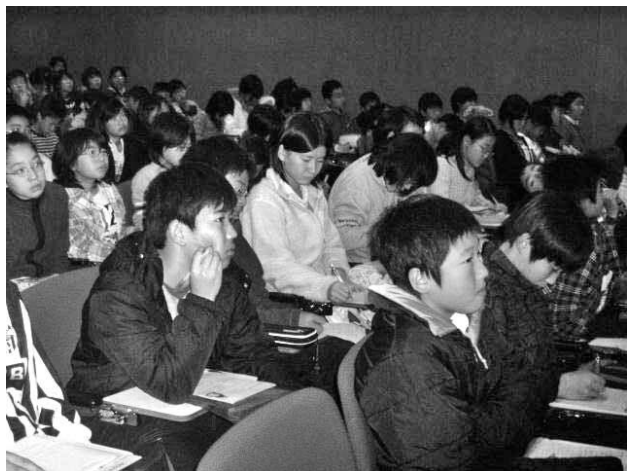
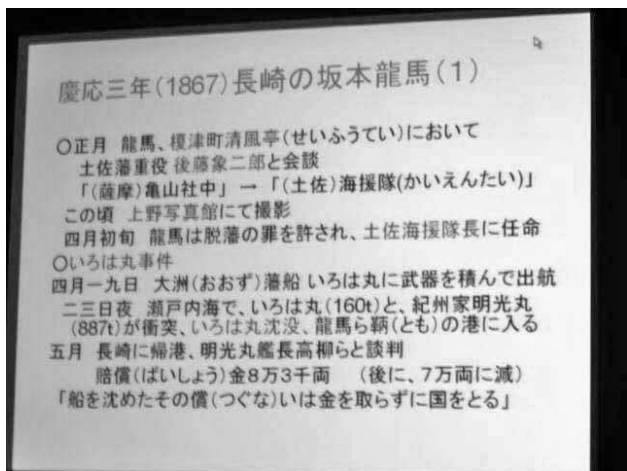
歴史文化博物館での学習の前に、事前に子供たちに「坂本龍馬について知っていること」を宿題として出した。また、パソコンを使って、「坂本龍馬」について興味深いことを調べる学習を行っていた。

子供たちの中には、自主学習で「坂本龍馬」について調べてくる人もいて、龍馬の学習については、興味をもっている子供たちが多かった。

ただ、パソコンの情報では、幅が広すぎて、ポイントをしばった学習にはなっておらず、また、調べるための、本や資料が学校に少なかったことも事実で、今ひとつ学習活動が停滞いたように思う。今回、この歴史文化博物館の学習では、学習内容の深まりはもちろん、子供たちの課題（調べたいこと）が焦点化されたことが何より良かったと思う。

スライドを使った説明は、大変わかりやすく、子供たちがメモ用紙に、たくさん記録を残していた。子供たちが真剣に話を聞いていたことがよくわかった。

また、子供たちだけでなく、教師自身も学習を深める場となった。



伊良林小学校は『亀山社中』にも近く、「坂本龍馬」について『知りたい』『学びたい』と思っている子供たちが多くいる。

今回のこの学習で、『坂本龍馬』について、どんなことでもいいので、他の人に『龍馬』について、話したり、説明したりできれば、この学習は大成功だと考えている。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：龍馬の足跡	10月～2月	30時間
実践校：長崎市立伊良林小学校		授業担当者：森山哲・赤瀬妙子・宇土剛		
目標	長崎との関係も深い坂本龍馬について調べる活動を通して、社会科の歴史の学習を深めたり、郷土である長崎や伊良林の歴史を知ったり、よさを発見したりすることができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習のめあてをつかむ。	1	○社会科の歴史で学習した坂本龍馬のことを振り返らせる。また、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の収録が地元であることを知らせる。 ※収録見学めあての観光客に対して自分の町を説明できる必要性を感じさせる。	【意欲関心態度】 社会科「黒船の来航は世の中をどう変えたの」	
2 坂本龍馬について知っていることを整理する。	2	○自主学習で調べさせる。 ○インターネットを利用して興味があることについて調べさせる。 ○ウェビングで知識を整理する。	【意欲関心態度】	
3 調べる課題を設定する。	2	○児童の感想から5つの課題に整理して自分が興味をもつ課題を1つ決めさせる。課題は以下の通り ①龍馬とのつながり（人物関係） ②龍馬と長崎のつながり ③龍馬のエピソード ④龍馬の生涯・生き方 ⑤龍馬の業績・夢	【課題設定力】	
4 自分の課題に沿って調べる。	1 2	○同じ課題3人～5人のグルーピングをし、手分け協力して調べさせる。 (調べる方法) 図書室・インターネット 図書館で借りた資料など	【問題解決力】	
5 歴史文化博物館に行って「龍馬と長崎」というテーマで話を聞き理解を深める。	2	○自分の調べたことと話を聞きながら、新たな疑問についてはその場で質問する。	【問題解決力】	
6 亀山社中があった伊良林地区を歩く。		○長崎市の「さるくマップ」を参考に、風頭山から寺町までの「龍馬コース」を歩き、母校のすぐ近くに龍馬が活動した場所があることを実感させる。 このときは特に調べ活動は行わない。	【意欲関心態度】	
7 発表の準備をする。		○グループで協力して調べたことをまとめさせる。 (発表のポイント) ①見やすい ②聞き取りやすい ③全員が活躍する	【問題解決力】	

<p>8 発表をする。</p> <p>9 まとめる。</p>		<p>③15分以内</p> <p>○発表を聞くときは、自分の調べた内容と比べて新しく知ったことをメモする。メモをもとに質問する</p> <p>○調べたことと発表をもとに自分の課題にあった答えをまとめる。</p>	<p>【表現力】</p> <p>【問題解決力】</p>
<p>評 価 規 準</p>	<p>○坂本龍馬と郷土長崎・伊良林のつながりに興味をもち、進んで話を聞いたり調べたり、発信したりすることができたか。 【意欲関心態度】</p> <p>○長崎歴史文化博物館で聞いた話と自分の興味を結びつけて課題を設定することができたか。 【課題設定力】</p> <p>○自分の課題に合った資料を選び、グループで協力して学習を進めることができたか。 【問題解決力】</p> <p>○調べたことを分かりやすくまとめ、見やすく聞き取りやすく発表することができたか 【表現力】</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

社会科の歴史の学習では、幕末についての学習は、わずかな時間しかないけれども興味をもっている児童は非常に多く、自主学習などで、進んで学習をしていく児童がたくさんいた。

！ 坂本龍馬についてもっと知りたい！

このように思っている児童が多くいた。

単元の最初には、社会科で使った人物の写真を使いながら、龍馬の時代に活躍した人物について、再度確認をしていった。

- ・坂本龍馬
- ・木戸孝允
- ・西郷隆盛
- ・勝海舟
- ・大久保利通



1853年 黒船（ペリー）の来港で、日本が大きく動き出す。倒幕運動に関わった人物を中心に、このころの日本で何が起こっていたのかを再度確認していった。

学習に対する意欲を高めるため、テレビの番組の龍馬の特集やアニメ「お〜い龍馬」や、龍馬についての本を使いながら、学習意欲を高めていった。



子供達が坂本龍馬について、どんなことに興味をもっているか。また、どんなことを知りたいかを話し合った。

- 龍馬の子供時代について（仲間について）
- 土佐藩での龍馬の業績
- 龍馬はなぜ有名なのか？ 何をした人なのか。
- 勝海舟との関係
- 龍馬の生活
- 龍馬が好きだった食べ物
- 龍馬の家族
- 脱藩したあとの龍馬について
- 龍馬の名前の由来について
- 龍馬のブーツについて
- 龍馬が使っていた道具
- 龍馬の死について（なぜ暗殺されたのか）
- 龍馬の一生
- 亀山社中について
- 龍馬の長州藩と薩摩藩との関わり
- 幕末の人物関係



自分が興味のあることを課題として設定し、探求活動に入った。

解決の方法として、インターネットだけでなく、資料や本、また、教師の助言などをもとに、取り組み、龍馬の新聞を作成した。

* 子供達の学習の前に、教師の事前活動として、担任同士で、龍馬について学習を深め、知識を広げ、子供達の質問に、随時答えられるようにしていた。



<龍馬の新聞>・・・ (2学期末完成)

自分の課題を解決し、新聞にまとめる。



3学期の活動

伊良林近辺の龍馬にゆかりのある場所を散策

伊良林地区は、坂本龍馬との関係が深く、「亀山社中跡」や、「展示資料館」、「龍馬の銅像」・「龍馬のブーツ」などがある。歩いてまわると、当時の龍馬の思いを感じとることができる。子供達と散策する予定である。



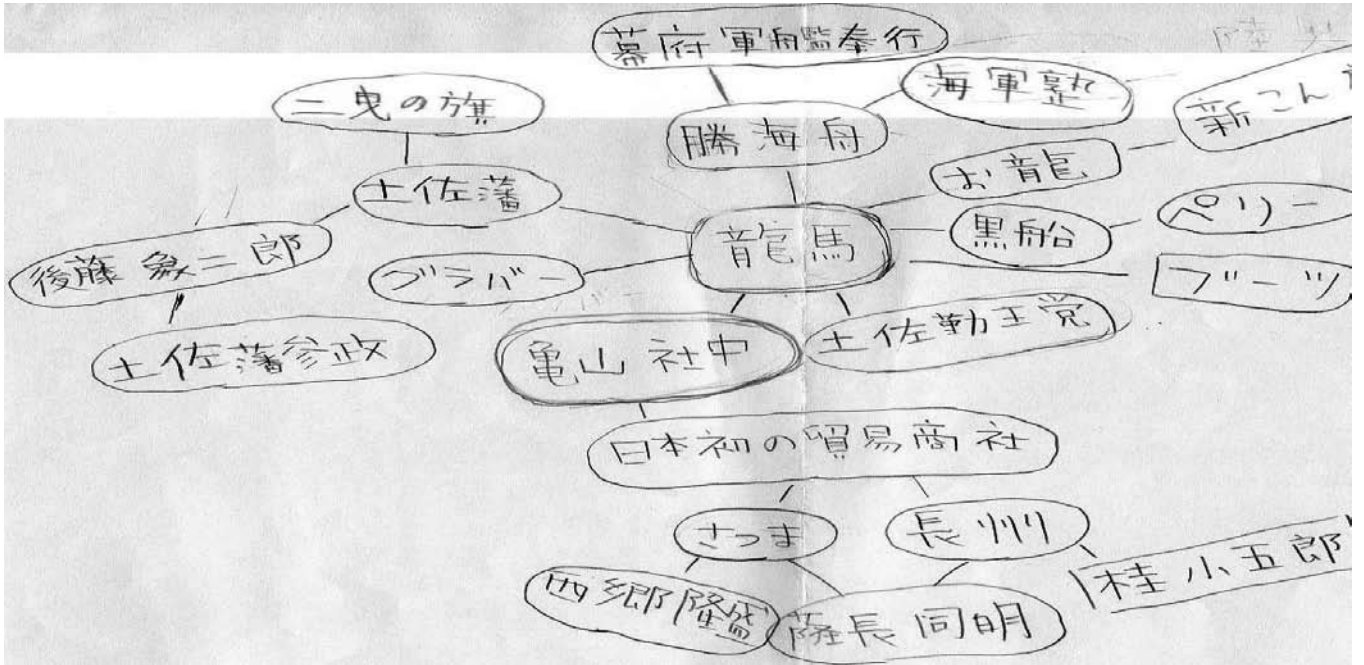
歴史文化博物館での学習

2学期の学習で、坂本龍馬のことについて、少し知識を身に付けている。龍馬と長崎とのつながりについて、さらに深めていきたいと思っている。

〈その他に取り入れた活動〉

坂本龍馬について知識をウェビングによって確認する

まず坂本龍馬や関連する人物・出来事に関する知識をウェビングによって確認させた。下のように多くの児童が坂本龍馬に関する人物や出来事を断片的に捉えているようすであった。



調べたことをもとに年表にまとめる

調べたことを年表にまとめ、さらに興味があることについて詳しく調べることで、長崎との関わりの深さに注目する児童が増えてきた。

「龍馬の足跡」

名前

龍馬年表をつくり、詳しく調べたことを解説しよう。

龍馬年表	
1835年	11月16日に長崎に生まれる。
1862年	3月 土佐藩を脱藩 12月 勝海舟の門下生になる。
1863年	10月 勝海舟の海軍塾頭となる。
1866年	1月21日「薩長同盟」成立と成り遂げる。 1月23日 寺田屋のお龍によって 責任をのかれる。 お龍との結婚し、西郷隆盛のい かいで鹿児島へ旅行して帰る。

亀山社中について

- 西郷隆盛の保護のもと「亀山社中」が
れる。
- 脱藩青年らも率いて、勝海舟にたのまれた航海
- 後藤象二郎によって「亀山社中」が「土佐海軍

寺田屋事件について

- 武士 VS 龍馬
(カ) (龍)
- お龍は、はたがで龍馬のいる部屋へま、

6年生	教科：総合的な学習 の時間	単元名：長崎再発見！ 熊本新発見！	4月～3月	65時間
実践校：長崎市立小ヶ倉小学校		授業担当者：長門・木下・(加藤)		
目標	※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照			
学習内容	時間	指導上の留意事項・参考事例	評価・他教科関連	
			※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照	
評価 規 準	※ 別添「総合的な学習 学習計画 (6)年」参照			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

(1)はじめに

本校では、昨年度、総合的な学習（以下「総学」と呼称）のカリキュラムを体系的に整える作業を校内研究のテーマとして掲げ、低学年の生活科も合わせて学年間の縦の系統と各学年の年間計画の見直し、確認、整理を行いました。

その理由は、主に2つありました。

1つは、本校の総学カリキュラムが未だ明確な形を得ていなかったからです。

もう1つは、新学習指導要領改訂によって、総学の年間配當時数が縮減されることになったからです。

新学習指導要領下に於ける配當時数の中で、本校の総学を学年の発達段階と学年間の系統性（どの学年がどのような主題でどのような活動範囲を設定するか等）、「教材の人間化」の一環である地域交流の学年配分（どの学年がどの地域団体と交流を深めるか）を形あるものに組み立てる取り組みを進めました。

今年度は、作り上げた計画を実際に実践に移しながら、評価の規準、あるいは基準をより明確にしつつ、年間計画中に位置付けようと試みました。

(2)第6学年の特殊事情

そういった流れの中、実は第6学年だけは特異な道筋を歩むこととなりました。

と申しますのも、一昨年度申請した「ふるさと体験プロジェクト」（文科省、総務省、農林水産省提携事業）が受理されたからです。

つまり、昨年度は、「その年限り」という取り組みのために総学の時間を割り当てなければならなくなったのです。

従いまして、第6学年の総学カリキュラムに関しては、今年度1年で昨年度の研究過程も含めた

2年分の作業量をこなさなければならない、という状況になったのです。

折から「行事の精選」が言われる中、本校に於いても、修学旅行と総学の連結がもくろまれ、今回のカリキュラムとなっております。今後の修学旅行先変更にも対応できるよう、6年担任の先生方は随分と腐心しながらカリキュラム案を作り上げてきました。

(3)「長崎再発見！ 熊本新発見！」について

第6学年の活動題は「長崎再発見！ 熊本新発見！」と題され、概要以下のような過程を踏むこととなりました。

①まず、自分たちのふるさとである「長崎」について、認識を深める。

②次に、修学旅行先である「熊本」について、理解を深める。

③双方の歴史や文化に対する理解を深める中で、双方の持ち味や良さを理解し、

「人には誰でも『ふるさと』があり、その土地その土地の歴史や文化には千差万別があるものの、誰にとっても『ふるさと』はかけがえのない魅力に満ちたものなのだ。」という互惠の念を深める。

なお、カリキュラムの総時数が65単位時間であり、改訂後の「75単位時間」との間に10単位時間の差があることにお気づきの方もおられると思います。この10単位時間は、本校の6年生がここ数年取り組んできた国際交流に充てられています。県の国際交流協会を通じて、日本在住の外国人留学生の方などと交流を深めています。

この国際交流も、先ほどの③に帰結する流れの1つなのです。

(4)本日の発表について

年間の活動すべてをトレースしていくことは、時間の制約もさることながら、今回の研修の本旨からやや外れる向きもあります。

また、私自身が年間を通じて全学習過程に関与できたわけでもありません。間接的な見聞では、研修の資料として供するには内容が弱くなってしまいます。

ですから、私自身が学習の場の設定に関わり、かつ直接指導に同行した場面を取り上げて発表させていただきます。即ち、昨年6月24日(水)、校外学習で歴史文化博物館にお邪魔した場面を中心にお話しさせていただきます。

この後の「授業担当者による自由記述」欄も同様です。

(5)見学申し込み

4月、課題設定と選択、グルーピングが済むと、さっそく「長崎調べ」が始まりました。5月の連休明けから本腰が入ってきたわけですが、5月中に現地調査を1回行って「長崎」に対する認識を深めさせておきたいという6年担任の考えでした。

そこで、私の方から当館の加藤さんに連絡を取らせていただき、見学日を決定させていただきました。また、この時点で事前打ち合わせのお願いをさせていただきました。

(6)事前打ち合わせ

見学学習に先だって欠かせないものが、「事前打ち合わせ」です。

加藤さんと改めて連絡を取らせていただき、6月20日(土)13時30分にお邪魔させていただくこととなりました。この日の事前打ち合わせはおよそ14時15分まででした。

この際のおおよその内容については、別添「歴史文化博物館 見学事前打ち合わせ骨子覚え書き」をご覧ください。

なお、この時点で

「実際に子ども達にお話をさせていただくボランティアガイドさんと直接打ち合わせができないだろうか。」

といったご相談もさせていただきましたが、いかんせん見学依頼がやや時間的に迫った時期だったために、ガイドさんのスケジュール調整とが無理だということで断念しました。

1年間で2年分のカリキュラム作業 … という余裕のなさが影響していました。

(7)6月24日の校外活動

①グルーピング

今回の活動では、4月の活動時 … 導入から課題設定まで … に学年を3グループに分けました。具体的には、以下の通りです。

- ・グラバー邸グループ
- ・出島グループ
- ・中華街グループ

②この日の活動計画

	グラバー邸グループ	出島グループ	中華街グループ
9:00	小ヶ倉団地バス停	小ヶ倉バス停 (支所前)	小ヶ倉バス停 (ヨシイ前)
10:00	松ヶ枝 各自散策 ・グラバー園内 昼食：水辺の森公園	新地ターミナル 各自散策 ・出島資料館 昼食：中央公園	新地ターミナル 各自散策 ・館内町・中華街・丸山町 昼食：中央公園
13:00	各自散策 ・東山手	各自散策 ・ 歴史文化博物館	各自散策 ・ 歴史文化博物館
15:00	松ヶ枝バス停 ・自宅近くのバス停 で下車	市役所バス停 ・自宅近くのバス停 で下車	市役所バス停 ・自宅近くのバス停 で下車

※ 3グループの内、歴史文化博物館で学習させていただいたのは「出島グループ」と「中華街グループ」の2グループでした。

③見学の様子



まず、エントランスで挨拶をさせていただきました。

その後、加藤さんから見学上の諸注意をしていただき、ボランティアガイドさんを子ども達に引き合わせていただきました。

子ども達は、さすがに緊張した表情でした。



パネルや展示物など、要所所を押さえてボランティアガイドさんの案内が続ききました。

随行していて気づいたことですが、この間、子ども達は4つの学習活動を同時に行う状態になっていました。

つまり、

- i) ガイドさんの説明を聞き取り、その言葉を理解する。(耳からの情報を処理)
- ii) 聴き取った情報をメモする。(要約筆記による処理)
- iii) パネルや展示物を見る。あるいは解説を読む。メモする。(眼からの情報を処理)
- iv) 以上の学習活動を、集団の移動速度に遅れないようこなす。(小刻みな時間制限)

といった活動です。

i は、小学生の見学学習でしばしばネックになる所です。語彙力の差がつかずきの原因になりやすいのです。説明の語句や用語が既習範囲を超えている場合、特に発生しやすくなります。

「子どもの思考は鈍って(停まって)いるが、情報は留まることなく出続ける。」
という状況になります。

ii は、非常に高度な処理であり、ほとんどの子どもはガイドさんのおっしゃった言葉をそのまま書き写そうとします。理解できないまま耳で受け取った「音」を記録しようとしています。意味の理解は追いついていないことが多いようです。これが、往々にして集中力の途絶につながります。(もちろん、このような学習活動に耐え得る指導を…という視点も必要です。)

iii もなかなか困難ですが、当館の場合、見学路の構造上、説明を聴きながら展示物やパネルを見ることができるのは最前列の10名前後に限られがちでした。

後方の子ども達がパネルや展示物に近づく機会を得るのは、そこでの説明が終わって移動が始まった時です。

iv は、実際にはかなり困難なことでした。遅れないようにしようとする目こぼし、耳こぼしの状態についていくことになります(特に集団の後方にいる子ども達)。

パネルや展示物をじっくり見よう、読もうとするとガイドさんの貴重な説明が聴けません。
「あっちを立てれば、こっちが立たず。二兎を追う者は一兎をも得ず。」
といった場面につながりがちです。

以下の2枚の写真からも、ここまでに述べた状況が見て取れます。



何かしら否定的な所感が列記されているような印象を与えてしまいそうですが、これらはすべて指導者としての自分に対する反省だにご理解いただきたいのです。

今回の見学学習を振り返って全体的に通じる反省があるのです。それは、

「子ども達のレディネス（子ども達はどこまで知っているか?）、見学時点での学習過程の位置づけ・ねらい（子ども達にどこまで教え、どこを伏せておくのか?）、見学施設の特性と学習形態・時間配分（子ども達にどのような活動を保証するのか?）の3点に関する事前共通理解の構築には大いに労力を割くべきである。」

ということです。

今回の見学学習では、指導者の側がその点の労を尽くさなかったことにつまづきやしくじりの原因があるのです。前ページで述べた「4つの学習活動の並行」も、事前に…それももっと早い時点から見学地をよく調査し、事前打ち合わせを重ね、学習の仕方を工夫しておけば相当程度解消できたと思います。

ボランティアガイドさんの熱い思いを空回りさせてしまった点も、申し訳なく思います。

そういった反省は反省として謙虚に受け止めるとして、しかし、もちろん成果もあったのです。座学に留まらず、現地に赴くことで、あるいは実物（実物相当の物）に対面することで得られる貴重な印象、気づき、納得も少なくありませんでした。



敢えて欲を申し上げれば、もっと近づいて、可能ならば実際に手に取って見たり、感じたりできる物が増えると、教育効果が飛躍的に向上するのではないかと思います。

④子ども達の感想

今回の見学学習を通して、子ども達もそれぞれに学び取り、感じ取ったものがありました。見学後に子ども達が記した感想を、数点、紹介させていただきます。

（前略）

先日は、歴史文化博物館で出島のことをたくさん、くわしく教えてくださってありがとうございました。

おかげで、出島のことがよく分かりました。私の調べたいテーマも見つけられたし、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

歴史文化博物館では、たくさんの資料があって、テーマに沿った物がよく見分かりました。これから先、個人で歴史文化博物館に行くこともあると思いますが、その時はよろしく願いします。

（後略）

（前略）

この間はお世話になりました。

Aさん（ボランティアガイドさんのお名前です。）のおかげで、中国のことがものすごく分かりました。私は、最初、この学習をする前は「唐人やしき」という名前すら知りませんでした。

でも、Aさんにいろいろ教えてもらったおかげで、唐人やしきのことがすごくよく分かりました。ありがとうございます。

私は、Aさんに教えてもらったことを生かして、もっと中国のことについて調べたいと思います。

(後 略)

(前 略)

この間は、私たちのために外国との貿易、医学などいろいろなことを教えてくださってありがとうございました。Hさん(ボランティアガイドさんのお名前です。)のおかげで、出島で教わったこと以上に医学、遊びなどどんなことをしていたのかよく分かりました。

私は、Hさんの話を聞いて、外国の人はものすごく技術が進んでいたり、羽ペンで文字を書いたり、砂糖を輸出してきたりしてすごいなあ、もっと出島のことが知りたいなあ、と思いました。

(後 略)

(前 略)

この前は、歴史がよく分かる説明をしてくださってありがとうございました。歴史がおもしろくなってきました。日本に入ってきた物や遊び、昔起こった出来事、ぼくが調べていた出島についてもよく分かりました。

なので、これからは調べたことを生かして勉強に役立てたいです。

(後 略)

授業担当者による自由記述 (活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展)

☆キーワードは「 Communication 」

今回の見学学習を通じて、様々な面で「 Communication 」がもう一つだったなあと反省しています。

まず、何と言っても「活動題」とのCommunication。

その活動を通じて、子どもにどのような感性と達成感と知識を持たせたいのか…教材研究の徹底が必要だと感じました。

そういったことの一環として、「見学の順番」なども考え直す必要があると思いました。これは、研修会の中でご紹介いただいた実践報告でしたけれども、

「まず歴史文化博物館で学習してから現地に赴いた。」

というお話を伺ったからです。なるほど、その方が事前に下地ができるし、そのことによって現地を見学する時の「眼」が違って来るなど納得しました。

見学回数についても、可能な限り考え直す必要があるでしょう。

「見学は1回きり。」

ということになりますと、どうしても詰め込み式の無理が来るようです。

「もう1回行って調べてみたいね。確かめてみたいね。」

という場面は当然の如く出てくるはずです。

しかしながら、実際には時間的な制約や移動にかかる旅費（一般公共交通機関を使うにしても配慮が必要にある場合があります。）、引率人員のスケジュール調整など、反復見学を実現する上で困難な条件も少なくありません。

そうとなれば、「出張ミュージアム」や「出前授業」など、当館の魅力あふれる教育システムを活用させていただくことも考えていかなければなあ、と思いました。

次に、「子ども達」とのC o m m u n i c a t i o n。

今更何をと思われそうですが、当たり前すぎて形骸化しているスキがどこかにあるかも知れません。活動のねらいを共通理解し、めざす高みを共有しながら意義ある成果を目指すためには、子どもの心や力をより適切に捉える自問と努力が重要だと思いました。

それは、総学の場面だけでなく、また教科指導の場面だけでなく、もっと広いトータルな意味での省察と工夫、努力が求められることだろうと思います。

そして、「見学地」とのC o m m u n i c a t i o n。

受け入れ窓口を勤めてくださる方はもちろんのこと、実際に子ども達の前に立ってくださる方、語ってくださる方との直接的な意思疎通も大切だな、そのための早い見通しと活発な動きが必要だなと思いました。

やはり、選定した見学地には可能な限り足を運び、現地に立って子ども達の見学活動を構想したり、周辺を詳細にチェックしたり、現地の方々（極端な話、いつもその辺りで見かける人まで含めて）と情報交換したりして指導者自身の視認範囲を広げておくことが重要だと思いました。

最後に、「指導者」間のC o m m u n i c a t i o n。

突っ込んだ、こだわった授業を実現するための発想、構想、手分け等々、チーム力を最大限に発揮して子ども達への還元率をより高めた授業を創造していきたいなあと思います。追い求めればきりがありませんが、どこをもってよしとするかで子どもに還元されるものの多寡も決まるということも忘れない自分でありたいなあと思います。

…それにつけても、早く担任に戻って思い切りやってみたいと切に思う今日この頃です。

最後に、加藤さん、下田さんはじめ長崎歴史文化博物館の皆様にはたいへんお世話になりました。お陰様で、子ども達も生きた勉強をさせていただくことができました。ありがとうございました。今後も何かとお世話になることがあろうかと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活動題	「長崎再発見！熊本新発見！！」 全(22)時間						
目標	○他地域(修学旅行先)の歴史や自然, 特色について興味を持ったことを明確にすることができる。 ○興味・関心を持ったことを, 自分なりの方法(インターネット, 資料, インタビュー)で調べることができる。 ○身近な地域との様々な違いに気づき, 他地域について自分が調べたい課題を設定することができる。						
関連	○総「パソコン学習」 ○理「私たちをとりまくかんきょう」 ○国「相手や目的に合わせて書こう」						
課程	月	活動内容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ	
意識付け / 追究方法 / 課題設定 / 追究方法 / 課題追究 / まとめ / 発信・交流 / 追究計画 / まとめ	4	○修学旅行への意識を高める。 ・修学旅行先の資料を提示することにより修学旅行について調べたいことや興味があることなどを具体的に考える。	1	○修学旅行について調べたいことを意欲的に考えることができる。		○子どもが興味を持つような旅行先の資料を準備することにより, 意欲を高めさせる。	
	中	○興味を持ったことに対して調べる方法を考え, 実行する。 ・インターネットや書籍, 手紙や電話など様々な方法をとる。	4	○様々な方法を用いて調べようとする。	○パソコンを有効活用し, 必要情報を取り出すことができる。 ○自分の課題をしつかりつけることができる。	○方法を限定せず, 自由に考えさせる。また, 自分も考えた方法も考える。 ○どのようなテーマがあるかを例示し, 具体的なイメージを持たせる。	
	下	○調べた結果を発表し合い, 自分の課題を設定する。 ・身近な地域と比較し, 疑問に思ったことや興味を持ったことを課題とする。	2				
	5	○課題別のグループに分かれ, よりよい課題追究の方法を考える。 ・インターネットや書籍, 手紙や電話など様々な方法をとる。	1		○より効果的な調査方法を考えている。	○様々な調査方法に对应できるように準備する。	
	中	○計画をもとに調べる。 ・人(地元の人, 身近な人)との関わり。 ・観光用パンフレットなどの資料活用。	1	○自分にあっつむ的に調べることができる。	○様々な方法を用いて, 早く詳しく調べることができる。		
	6	○調べたことをまとめる。 ・模造紙やプレゼン等, 自分にあっつむ的なやり方でまとめる。	6		○調べたことを要約し, 目的を達成することができる。 ○メモを正しくとる。	○それぞれのグループに随時アドバイスをする。	
	中	○調べて分かったことを発表する。 ・グループ別に発表する。 ・さらに知りたいことを考えながら聞く。	2		○話を聞くことができる。	○発表はメモにとりながら聞くことや, はなはなから質問などを心がけさせる。	
	下	・発表後に出た質問や, さらに知りたいことについては, 調べ直したり, 現地に行った時に調べる課題にしたりする。					
	7	○修学旅行の計画を立てる。 ・活動班や生活班を決める。 ・活動内容を知り, めあてを決める。 ・現地で調べることの確認をする。	1	○話し合いがスムーズにいっしょにやることができる。		○班別に調べるテーマの確認をし, 修学旅行が有意義なものになるよう促す。	
	中	○旅行先で調べることをまとめる。 ・現地で調べたことや撮影したものが, すぐに使えるようなまとめを, 模造紙等に作成する。	4		○見通しをしっかりと立てることができる。	○写真を貼るスペースや感想を書く欄などを考えてまとめる。	
	評価	○他地域について興味を持ったことを明確にし, 課題を設定することができたか。 ○自分なりの方法(インターネット, 資料, インタビュー等)で必要な情報を的確に調べることができたか。 ○調べた情報を要約し, 工夫したわかりやすいまとめができたか。					

備考

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活動題	「長崎再発見！熊本新発見！！」 全（26）時間					
目標	○他地域（修学旅行先）の歴史や自然，特色について意欲的に調べることができる。 ○他地域（修学旅行先）に行って調べてきたことを写真やメモをもとに自分なりにまとめ，仕上げるができる。 ○他地域（修学旅行先）の自然や特色，人についての理解を深め，自分の生活に生かそうとすることができる。					
関連	○国「みんなで生きる町」 ○算「計算の見積もり」 ○図「色を選んで（木版で表すと）」 ○家「金銭や物の使い方を考えよう」					
課程	月	活 動 内 容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ
情報 の 収集	9	○他地域（修学旅行先）に調べに行く。 ・調べるテーマ別のグループで目的意識をしっかり持って活動する。 ・発表に使えるような材料は写真に収める。 ・できる範囲でインタビューを行う。		○目的を持って意欲的に調べたり，インタビューをしたりできる。	○目的や用途に合わせた写真を撮ること ○礼儀正しくインタビューできる。	○予想や見通しを立てさせて，有意義な調べ学習になるようにさせる。また，事後の発表に向けて，必要な画像を撮影しておくよう心がけさせる。インタビューの際の礼儀や心構えについても指導しておく。
／ 整理 ・ 分析	10	○調べてきたことをまとめる。 ・事前にまとめていたものに付け加える。 ・写真を効果的に使う。 ・現地でのインタビュー結果も活用する。 ・発表を意識した，わかりやすいまとめを心がける。	16	○何度も修正し，よりよいものにしようとするができる。	○調べてきた内容を画像等を活用し，わかりやすくまとめることができる。	○現地で撮影した様々な画像をフォルダ毎にまとめ，より円滑な活動になるよう支援する。
／ まとめ ・ 表現	11	○中間発表を行う。 ・グループ別に発表する。 ・こがくらっ子発表会を利用する。 ・保護者の方に感想やアドバイスをもらう。 ・よりよいまとめになるよう，アドバイスをもとに修正を加える。	6	○聞き取りやすい発表になるよう何度も練習することができる。	○話し方や身振り等を工夫し，よりよい発表になるようにする。	○子ども対象の発表内容や方法を考えさせる。
	12	○発表をまとめたものをお世話になった方々に送る。 ・手紙を書く。 ・発表会の様子をビデオで送る。 ・感想やアドバイスをもらう。	4	○ていねいに仕上げようとするができる。	○相手が嬉しくなるような工夫を盛り込んだ手紙を書くことができる。	○お礼の手紙や，年賀状を兼ねて送るようアドバイスする。
評価	○他地域（修学旅行先）の自然や特色について現地で意欲的に調べることができたか。 ○調べたことを素材を生かしてまとめ，わかりやすい発表をすることができたか。 ○他地域（修学旅行先）の自然や特色についての理解を深め，自分の生活に生かそうとすることができたか。					

備考

総合的な学習 学習計画 (6) 年

活 動 題	「 活動のまとめをしよう 」 全 (17) 時間					
目 標	<p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを意欲的にまとめることができる。</p> <p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを絵や写真・資料を効果的に使い、まとめることができる。</p> <p>○これまでの学習をもとに、自分の生活や考え方を振り返り、よりよい方向に生かそうとすることができる。</p>					
関 連	<p>国「今、わたしは、ぼくは」</p> <p>家「よりよい生活をめざそう」</p>					
課程	月	活 動 内 容	時数	学習の意欲	学び方の習得	教師の働きかけ
整理・分析 ／ まとめ・表現	1	○感想やアドバイスをもとに再検討する。 ・調査不足の項目や調査要望に基づいた調べ学習を行う。 ・インターネットや、インタビューにより分からないことを調べる。	6	○意欲的に調べ学習やインタビューを行うことができる。	○受けたアドバイスをもとに、よりよいものを作るための工夫ができる。	○子どもだけで調べにくい項目や内容があれば、インターネットのサイト紹介等の支援をする。
	2	○調べ直したものを追加し、まとめる。	7		○さらに詳しい発表になるよう文章をまとめることができる。	○付け加えた点を強調してまとめさせる。また、現地の方とのやりとりも紹介させる。
	3	○最終発表する。 ・グループ別に発表する。 ○長崎・修学旅行・国際交流で学習したことを通して自分を見つめ直す。 ・1年間でどのような力がついたか。 ・どんなことを考えたか。 ・これからどんなことに生かせるか。	2 2	○聞き取りやすい発表になるよう意欲的に練習し、本番に臨むことができる。 ○自分の考えを積極的に周りに伝えることができる。	○言葉遣いや表現方法を的確に使うことができる。 ○1年を通しての自分の変容を見つめ直し、これからの生き方に気づくことができる。	○緊張感と目的を持たせた有意義な発表にする。また、お世話になった外部の方も招待し、交流を深める。 ○自分の成長や変化を、これまでの活動の振り返りを通して感じさせる。
評 価	<p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを意欲的にまとめようとしたか。</p> <p>○他地域（修学旅行先）について調べてきたことを、絵や写真を効果的に使って仕上げることができたか。</p> <p>○これまでの学習をもとに、自分の生活や考え方を振り返り、よりよい方向に生かそうとすることができたか。</p>					

備考

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎よかところ こんなところ	7月～2月	全 35時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	長崎の歴史を知る活動を通して、郷土への関心を高め、長崎の良さを発見し、発信するとともに、郷土を大切にしたい気持ちを持つようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1, 長崎の文化や歴史について調べる計画を立てる	4	<p>☆親子で行った長崎じげもん度調査の結果を見て、大人に比べ、自分たちの長崎に対する知識の少なさに気づかせる。</p> <p>☆「長崎県総おもてなし運動」を紹介し、なぜ観光客を大切にしようとするのかを考え、長崎が観光都市であることに気づかせる。</p> <p>☆総合のテーマを発表し、今後の学習の流れをつかませる。</p> <p>☆長崎の文化や歴史について調べる計画を準備させる。</p>	①	
2, 長崎歴史文化博物館の見学をする	8	<p>☆ワークシートに目を通しながら、見学のポイントやマナーを理解させる。</p> <p>☆見学の振り返りと情報交換をさせ、ワークシートを埋めさせる。</p>	①② 社会「徳川の世はどんな世の中だったの？」	
3, 出張授業を受ける。	4	<p>☆3コーナーをローテーション 出島コーナー 貿易品、解体新書コーナー 上野彦馬コーナー</p> <p>☆授業のまとめと情報交換の時間をとる。</p>	①② 社会「徳川の世はどんな世の中だったの？」	
4, 長崎の良さを発信する計画（長崎PR計画）を立てる。	2	<p>☆誰に対して、長崎の何を、どうやってPRするかを計画を立てさせる。その際、PRの方法が、PRの内容や対象に適しているかを確認する。</p> <p>☆各PR方法のチーム分けをする。</p>	②	
5, PRの準備をする。	15	☆各チームで、PRの準備をする。	③	
6, PR活動をする。まとめる。	2	<p>☆各チームのPR方法に合わせて、PR活動可能な場所や時間を確保し、活動する。</p> <p>☆学年発表会を開き、これまでの活動をまとめ、発表する。</p>	④	
評価基準	<p>①郷土に関心をもち、郷土の良さを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。（関心・意欲・態度）</p> <p>②学習したことや調べたことの中から、発信したい長崎の魅力を見つけ、発信する対象にふさわしい方法を考えることができたか。（問題解決）</p> <p>③PRの場所や時間を確保するために必要な依頼文を書いたり、電話での交渉をしたり、お礼を伝えたりすることができたか。（コミュニケーション力）</p> <p>④郷土の魅力に気づき、郷土を大切にしたい気持ちを持つことができたか。（自分の生活を見つめる力）</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

- ①知る・・・長崎歴史文化博物館の見学および出張授業を中心に、長崎の魅力を知る段階。
ここでは、小グループに一人のガイドをつけていただくことで、充実した見学ができた。
見学前のガイダンスが大変効果的であった。ワークシートは数回にわたり、打合せや検討の時間を作っていただいた。
- ②深める・・・さらに長崎の魅力を探す、調べる段階。
身近なところにも、長崎の魅力があること、食べ物や観光地だけではなく、歴史や人物も魅力の一つであることに気づき、大人へのアンケートや様々な情報誌から広い視点で長崎を見つめることができた。
- ③考える・・・長崎をもっと知ってもらうために、自分にできることを考える段階。
児童には、自分の得意なことを使って、活動を考えるように伝えた。6つの活動、計13チームが立ち上がった。
- ④実践する
CMチーム（カステラ、グラバー園、皿うどん）
キャンペーン隊（歌と踊りのパフォーマンスで、県内の観光地を紹介）
ガイドブック（リピーターを増やすことを目的に、市内の土産店や博物館に置く）
歌（作詞、作曲にチャレンジ）
キャラクター開発（上野彦馬、出島、くんち）
HP（食文化、観光地を紹介）

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展など）

歴史見学および出張授業について

- 見学やワークシートの作成に関しては、数回にわたり、検討会を開いていただいたことで、当日の見学も充実していた。ワークシートは、欲張りなくらいの量を作成したが、見学だけで埋めることができなくても、休みの日にさらに調べてみようとする児童もおり、結果的には児童の興味を喚起することができたものとなった。
- 出張授業は、自分たちのホームで、ゆっくり本物に触れることができる。五感を使った体験は、その後も忘れることはできないものとなり、その後の活動への動機付けにつながった。

実践の成果

- 児童の個性を活かす活動にこだわった結果、思わぬところからの評価をいただき、大満足の実践となった。特に、キャラクター開発では、「ヒコラ」作成者の2名は、将来美術大学に進み、イラストレーターかデザイナーになるのが夢だったらしく、とてもよろこんでいた。
- 今年度は、見学の際にも出張授業の際にも、博物館で目にする写真や展示物、ガイドや講師の方の名前などの情報を事前に紹介しておいたことで、子どもたちの初対面に対する緊張感が少しほぐれたと同時に、情報量の多さによる飽和状態におちいることが防げていたように思う。
- 思い切って交渉した土産店のオーナーからは、子どもたちに「将来の長崎を背負ってたつものだから、何でも協力するよ」という温かい言葉を毎回かけてもらい、肌で郷土を大切にする方々との出逢いがあった。

実践の課題

- 活動の班が13チームと、担任3人では手に負えない状態になった。
- CMやキャンペーンに関しては、当初の計画では、「かもめ広場のテレビで出してもらおう!」、という目標もあったが、クオリティの問題以外に、時間と手続きなどに、担任が関わってあげることができず、せっかくの活動を外に出せないまま終わらせてしまった。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：田中英明		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	2	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をたせる	(1)	
2 長崎の歴史の概要について知る	3	○ 長崎の歴史について、話を聞いたりワークシート等を使って調べたりして、学ばせる	(2)	
3 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる	(1)	
4 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる	(2)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 午前中は自分たちの考えたコース、午後は歴史文化博物館にて、見学活動等を通して、自分の疑問や課題を解決、検証させる (歴史文化博物館の職員に質問に答えていただくコーナーも設置する)	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価 規 準	(1)長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか(課題を設定する力) (2)設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3)調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4)学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

- 1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』
- 2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』
- 3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

※歴史文化博物館との連携等

- ・移動博物館
- ・歴史散歩時の博物館展示室見学
- ・歴史散歩時の質問コーナー

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：桑原重久		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の歴史の概要について知り、長崎の文化や歴史に興味をもつ	4	○ 長崎の文化や歴史について、簡単に話を聞き、資料やワークシート等を使って調べさせる。	(1)・(2)	
2 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる	(1)	
3 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる	(2)	
4 移動博物館の展示を見学し、さらに長崎の文化と歴史に興味をもつ	1	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をもたせる	(1)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 各グループごとに自分たちで考えたコースを基に散策する。	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価 規 準	(1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか。(課題を設定する力) (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

村松小学校第6学年・年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』

2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』

3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



3人の講師の先生方の紹介です。
子どもたちは、たくさんの展示物を目の前にして興奮気味でした。

クイズで子どもたちの緊張を解きほぐしてくれました。
自分たちが知っている長崎に、さまざまな歴史が刻まれていることをしり、素直に驚く子どもたちでした。



講師の先生方の詳しく、優しい語り子どもたちの目は釘付けです。

展示物に触ることもできました！



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○ 長崎市とはいえ、地理的な条件のため知っている長崎の有名な場所は「ショッピング」で訪れる商業施設というのが現状でした。

歴史散歩を控え、見学地を選択する段階だった子どもたちでしたが、長崎の歴史も含めて展示物についても知識が少なく、今回の授業はとていい刺激になりました。歴史博物館を見学地に予定していたグループは、特に興味深く参加していました。訪ねた際に詳しく知りたいことを熱心にメモをしていました。

長崎の旧跡に秘められた歴史の奥深さを知る今回の学習でしたが、普段何気なく歩いたり、通り過ぎていた場所にも、深い歴史が刻まれていることを知り、自分たちの街に愛着を持つことができました。

見学前の今回の特別授業でしたが、子どもたちの興味・関心を高め、学習のめあてを持たせるという点で、貴重なきっかけでした。ありがとうございました。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」	4月～7月	25時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：桑原重久・山田俊介 朝長浩二（アドバイザー）		
目標	自分たちが暮らす長崎の歴史や文化について学ぶ活動を通して、郷土への愛着を深めるとともに、自分で考えて行動する力と活動したことをまとめ発信する力を身につけさせる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	2	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで、長崎の歴史や文化の一端に触れ、興味をたせる。	(1)	
2 長崎の歴史の概要について知る	3	○ 長崎の歴史について、話を聞いたりワークシート等を使って調べたりして、学ばせる。	(2)	
3 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる	1	○ 学習したことをもとに、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる。	(1)	
4 テーマに沿った調べ活動を行う	4	○ 自分のテーマを深く掘り下げさせる。	(2)	
5 長崎歴史散歩の計画を立てる	2	○ さるくコースや資料をもとに、さらに知りたいこと、疑問を解決するための見学コースをグループごとに考えさせる。	(1)	
6 長崎歴史散歩に出かける	6	○ 午前中は自分たちの考えたコース、午後は歴史文化博物館にて、見学活動等を通して、自分の疑問や課題を解決、検証させる。 (歴史文化博物館の職員に質問に答えていただくコーナーも設置する)	(2)	
7 学習のまとめとして、ガイドブック作りを行う	6	○ 自分のテーマに沿った長崎の歴史・文化についてのガイドブック作りを行わせる。	(3) 国語「ガイドブックを作ろう」	
8 活動をふり返る	1	○ できあがったガイドブックを発表し合い、活動をふり返り、2学期の修学旅行に向けて、今回の活動を活かしていくことを伝える。	(4)	
評価 規 準	(1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか。(課題を設定する力) (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力) (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力) (4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)			

年間テーマ『地域へ、未来へ、飛び出そう』

1学期『長崎へ飛び出そう「長崎歴史散歩」』

2学期『県外へ飛び出そう「修学旅行へ行こう」』

3学期『未来へとびだそう「卒業活動」』

※歴史文化博物館との連携等

・移動博物館

・歴史散歩時の博物館展示室見学

・歴史散歩時の質問コーナー

学習活動の軌跡（感想文、作品、ノート、ワークシートなど）



折からの龍馬ブームで、龍馬をテーマに見学計画を立てるグループも多くありました。

職員の方も積極的に声をかけてくださったおかげで、企画展の方にも足を運んでいました。

龍馬の銅像は、大迫力でこの時点で大興奮の様子でした。奉行所ゾーンが龍馬の企画展会場だったことでお白洲の様子を見学した子どもたち（はじめて足を運んだそうです）は、時代劇と同じだったことにとっても驚いていました。

そして、本当にこの地に奉行所があったことを知り、感激していました。

常設展ではボランティアガイドさんに優しく、詳しく説明していただきました。

「涼しくて楽しく、そして優しく歴史を学ぶことができます」と話していました。

（本当にありがとうございました。）



その他の

見学地の記事と合わせて完成したガイドブックには、歴史文化博物館の記事も綴じられています。

記事には、「中のものは、全部おすすめです。ボランティアの方々がいっぱいいろいろなことを教えてくださるので、とても勉強になります。」と紹介のコメントが書かれています。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○長崎市とはいえ、地理的な条件のため知っている長崎の有名な場所は「ショッピング」で訪れる商業施設という現状は今年も変わらない状態でした。

歴史散歩を控え、昨年度の様子を話すうちに、出前授業の様子を思い起こす児童も多くあり、歴史文化博物館のホームページへと繋げることができました。収蔵物を見ていくうちに、長崎の歴史的な位置づけや西洋との関わりに興味を持ち、実物を見てみたいという意欲が高まりました。

今回は事前の授業はなかったのですが、やはり昨年度と比べると見学グループも多少少なくなり、滞在時間も短めになりました。計画段階からねらいを絞り、歴史文化博物館で探求するテーマを設定し、その導入として出前授業や何らかの関わりを持たせることで、この活動も充実していくと考えます。やはり、本物の持つ魅力を最大限活用したいと思います。

グループごとに見学する時間が異なり、見学のテーマも違うため対応が難しかったと思うのですが、ボランティアの先生方を初め職員の皆様には本当に丁寧に対応していただき感謝しています。この授業ではじめて訪れる児童も多く、「また来たいです。家族と一緒に来ようと思います。」と好評でした。

長崎の旧跡に秘められた歴史の奥深さを知る今回の学習でしたが、普段何気なく歩いたり、通り過ぎていた場所にも、深い歴史が刻まれていることを知り、自分たちの街に愛着を持つことができました。

6年生	教科:総合的な学習の時間 :社会	単元名:レッツ・トライ! 将来の夢 :江戸時代の長崎・出島	9月	2時間(総合的な学習の時間)
				2時間(社会科)
実践校:長崎市立晴海台小学校		授業担当者:西村慎一郎		
目標	総合・長崎歴史文化博物館の仕事内容を理解するとともに、博物館が組織的に多くの人の努力で運営されていることに気づく。 社会・長崎の出島の成り立ちや当時の暮らしぶりについて理解し、歴史への興味を深める。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
総合的な学習の時間 1. 歴文の組織を理解する 2. 歴文の仕事内容を理解する。 3. 自分の宝物を調べ、調査表にまとめる。 4. 発表する。	1 1	○歴文スタッフ作成のDVDビデオが利用できるよう機材を準備しておく。 ○担任は、歴文スタッフの説明などについての補足説明をする。 ○資料が多くある歴文のよさに触れさせる。 ○子ども達の疑問にスタッフが答える。 ○スタッフと博物館員としての喜びや楽しみなどに触れるようをお願いしておく。 ○子どもに、自分の宝物を持ってくるように事前に指導しておく。「大切な物カード作り」をする。 ○大切な物カードの発表の時には、子どもの活動の様子を歴文スタッフに知らせ、スタッフが活動しやすいように配慮する。		本校6年総合的な学習の時間「レッツ・トライ! 将来の夢」
社会科 1. 踏み絵のレプリカから当時の長崎の町の様子や禁教の様子を学ぶ。 2. 禁教の中、出島が果たした役割や成り立ち、様子について理解する。 3. 質問コーナーを設け、理解を深める。	1 1	○踏み絵のレプリカを手にすることによって、博物館の良さを感じさせるとともに、当時に長崎の様子や歴史に触れる喜びを味わわせる。 ○当時の出島の様子を描いた屏風絵のカラーコピー(分割してある)を4グループに配布し、屏風絵を完成するようにさせる。また、できた絵から気づきや疑問が出るように話し合わせる。 ○担任は、子どもが気づきや疑問を出しやすいように板書をしたり、意見を整理したりする。 ○歴文スタッフが子どもの気づきや疑問に答えながら、出島への理解を深める。		
評価 規 準	総合的な学習の時間 (1) 歴史文化博物館は、組織であり、多くの人が色々な仕事をすることによって運営されていることがわかる。 社会科 (1) 出島に興味を持ち、絵カードの中から気づきや疑問を挙げることができる。(関心・意欲) (2) 当時の長崎の様子や出島の成り立ち、役割について理解することができる。(知識・理解)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

びっくりしたのはK君が砂浜で拾ったお皿のかけらが江戸時代の物だったということです。身近な所にも昔の物ってあるんですね。勉強になりました。本当にありがとうございました。

歴文の人たちは、歴史のことにくわしいなと思いました。私は、色々なことを知れてよかったです。ありがとうございました。

私は、出島には男の人だけが住んでいると知り、びっくりしました。いつもの社会の勉強より、歴文の先生がくわしく教えてくれていい学習になりました。ありがとうございました。

2日間、2時間ずつお話をさせていただいてありがとうございました。1日目はかとうさんが話をしてくれ、モニターを使った授業だったのでわかりやすく、「こんなのがあったんだ！」と初めて学ぶこともたくさんありました。2日目の授業は、しもださんが話をしてくれて、私たちの疑問に答えてくれました。出島についてなど、初めて知りました。お二人の授業はわかりやすくてたくさんを学びました。わざわざ私たちの学校に来て、授業をしていただきありがとうございました。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展など）

○打ち合わせの大切さ

依頼する側の、希望を具体的に伝える必要がある。（何を、どの程度まで行うか、また、子どもの実態や、活動をどの程度理解しているのかを明確に伝える）

○歴文スタッフは「歴史のプロ」

出島の成り立ちや役割、当時の長崎の様子は、教科書ではわずかししか載っていない。しかし、スタッフは子ども達がぱくっと食らいつく知識をもつプロである。

○歴文の活用は社会科の学習だけではない。

総合的な学習の時間でも利用できる。今回は本校の単元「レッツ・トライ・将来の夢」の一部として活用した。

○担任の役割は、歴文スタッフ作成と子どもをつなげる接着剤とワープロ機能…板書。

事前の打ち合わせと、回数。（今年度は、総合的な学習の時間と社会科の学習で2回来校していただいた。スタッフへの親しみが強くなった）

子どもが分かる言葉に置き換え板書する。

○発展学習

歴文スタッフの授業後に、次のような出来事（発展学習）があった。

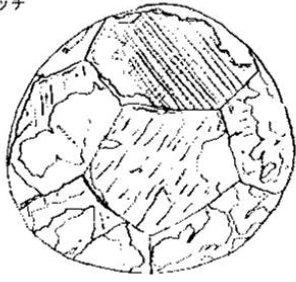
1回目の歴文スタッフの来校後（総合的な学習の時間の学習）数日後に、子ども達は理科の時間に海岸に岩石の採集に行った。その際、子ども達の1人が偶然落ちていた茶碗のかけらを拾ってきた。茶碗のかけらが目に入るということは、1回目の「大切な物カード作り」の活動が生きているのだと感じた。子ども達はもう、その時には2回目のスタッフの来校を知っていたので、相談するつもりだったに違いない。

かけらを拾った子どもは、社会科の学習後に直接、歴文のスタッフに相談をした。担任だったら「わからないなあ。」の一言だったかもしれない。しかし、スタッフの答えは「江戸時代かなー。」。担任や子どもからすると驚きである。子どもも第一発見者として色めきだった。スタッフはかけらを持ち帰り、他の歴文スタッフに調べてもらい、結果を連絡して下さった。

かけらは江戸時代のものであった。驚きである。

この子どもたちにとって、忘れられない発展学習になったに違いないと思う。

大切なモノカード

モノの名前 <u>サッカーボール</u>		モノのスケッチ
数 <u>一回</u>	寸法 たて： <u>30cm</u> 横： <u>30cm</u>	
材質	金属 木 紙 プラスチック ガラス 石 <input checked="" type="radio"/> 布 <input type="radio"/> その他	
付属物（ふくろ、はこ等） <u>ボール入れ</u>		
作者（製造メーカー） <u>?</u>		
収集年月日 <u>2002年</u>	調査年月日 <u>2009年9月15日</u>	
収集先（誰から、どこから） <u>スポーツ店</u>		使い方 <u>ボールをけ、て遊ぶ。</u>
収集方法 <input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> 寄贈 <input type="radio"/> 交換 <input type="radio"/> 寄託 <input type="radio"/> その他		
収集者氏名 _____		
現蔵者氏名 _____		
旧蔵者氏名 <u>なし</u>		
価格（評価額） <u>2000円くらい</u>		
		大切な理由 <u>お父さんといしょに小さいころからこのボールでサッカーをしていて思い出に残っているから。</u>

男子が作った「大切なものカード」

作成：長崎歴史文化博物館 2009.09

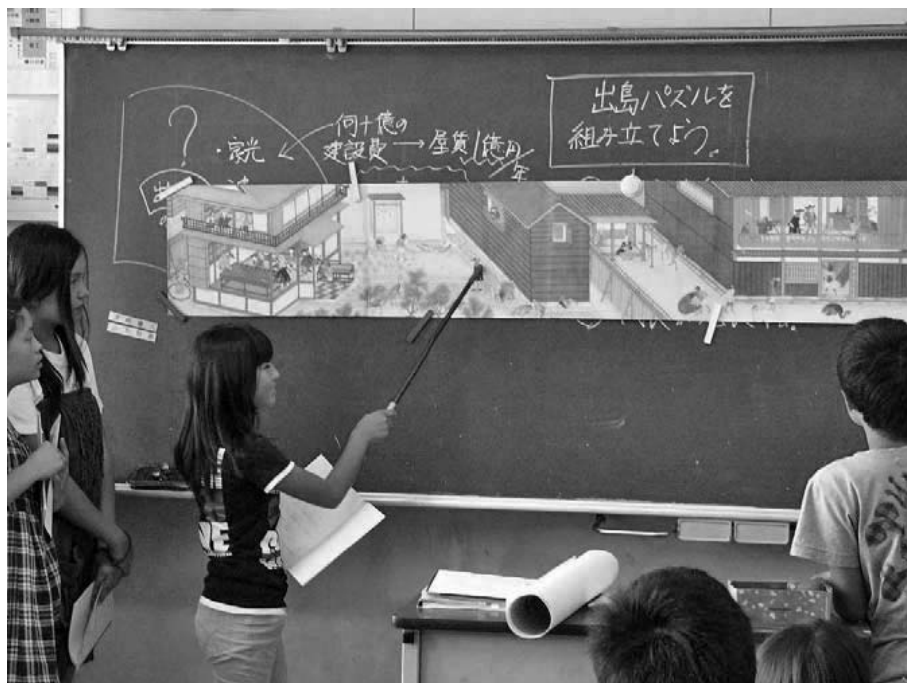
名前 _____



*男子が書いた「大切なものカード」と思い出の「サッカーボール」紹介している場面。



*グループで、出島の「屏風絵パズル」を作っている様子。



*グループで、「屏風絵パズル」の気づきを発表している様子。

6年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：長崎よかところ来てみんな	5月～11月	40時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	<p>○自分たちの住む町、日見や長崎のすばらしさを見つける活動や観光地長崎をさらに発展させるために、自分たちができることを考え、発信する活動を通し、郷土愛を育む。</p> <p>○博物館の先生やボランティアガイドさん、伝統を守る地域の方々との出会いから、夢や目標について考える契機とする。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 学習の計画をたてる。	3	○日見・長崎アンケートを保護者と児童で実施。結果から自分たちが住む町にも知らないことがたくさんあることに気づかせる。 ○観光地長崎への修学旅行生数の推移をグラフで紹介し、長崎の現状や課題を考えさせ、学習の見通しを持たせる。	(1)	
2 長崎街道を歩き、日見の史跡や歴史の名残を調べる。	3	○日本初の有料道路をみたり、長崎への遊学者の気持ちを想像したりする。	(4)	
3 長崎歴史文化博物館、亀山社中の見学をする。	10	○自由見学と解説付き必須見学での学習の仕方やマナーについて指導。(修学旅行に生かす) ○ボランティアガイドさんとの出会いから、郷土を大切に思う人たちがたくさんいることに気づかせる。	(2)(4)	
3 見学を振り返る。	2	○明確になったこと、新しく発見したこと、新たな疑問や課題について記録しておく。		
4 修学旅行で自主研修や各種体験をする。	6	○熊本の歴史、自然との共存を学習したり、郷土を大切にしている人たちと出会ったりする中で、長崎との違いや共通点を考えさせ、自分がアピールしたい「よかところ」を明確にする。	(3)	
5 修学旅行のまとめをする	2			
6 長崎よかところの発信の仕方を考える。	8	○児童がそれぞれに見つけた「よかところ」についてさらに詳しく調べ、劇や紙上発表、クイズやプレゼンテーション、提案文など多様な発信の形ができるよう促す。	(4)	
7 日見っ子発表会および授業参観にて発信する。	4	○発表練習を見せ合い、「よかところ」度合いが感じられるか互いに評価させる。		
8 友だちの発表から学習のまとめをする。	2	○全体の発表から出てきた「よかところ」を確認させ、これまでの学習を振り返る。		
評価 規 準	<p>(1) 郷土の歴史や文化などに関心を持ち、郷土の良さを発見し、その魅力を発信しようという態度を持つことができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>(2) 見学や体験から、郷土の魅力について考え、自分の学習課題を持つことができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>(3) 郷土の魅力が伝わるような発信方法を、伝えたい相手に応じて考え、発信することができたか。(コミュニケーション力)</p> <p>(4) 様々な人との出会いから、夢や目標を持って自分の生き方について考えることができたか。(自分の生き方を考える)</p>			

6年生	教科：社会	単元名：徳川の世はどんな世の中だったの	10月	10時間
実践校：長崎市立日見小学校		授業担当者：小林輝子		
目標	○歴史的資料を見たり触れたりする中で、先人の思いを想像したり歴史の流れを感じたりしながら、長崎や日本の歴史に興味関心をもつことができるようにする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 大名を支配するしくみについて調べる	1	○大名が幕府に反抗できないようにするための政策を押さえる。		
2 幕府の身分の支配と人々の生活について調べる	1	○幕府に対する不満をそらすための政策を押さえる。		
3 幕府のキリスト教や外国に対する態度について調べる。	3	○禁教令と意図とその影響を押さえる。		
4 鎖国時代の長崎・日見の様子を知る。	3	○出島の生活を描いた絵図をパズルにしたものを完成させる活動を通して、詳しく見ていけるようにする。 ○解体新書（コピー）を模写させたり、踏み絵レブリカに触れさせたりして、昔の人々の苦労や思いを想像させる。 ○貿易品の値段当てクイズを行い、出島に当時の貴重な品々があったことから、江戸時代の長崎が重要な土地であったことに気づかせる。 ○江戸時代の日見の町や人々の生活の様子を絵図などの資料から読み取る。 ○日見の正月行事として行われていた「踏み絵」について押さえる。		
5 町人の文化のひろがりについて調べる	1	○江戸時代の文化が今に受け継がれていることを押さえる。 ○日見芒塚獅子舞について触れる。		
6 新しい学問のおこりについて調べる	1	○長崎遊学者の学習を想起する。(歴文見学の記録をもとに)		
評価 規 準	(1) 幕府が封建的な支配体制を固め、武士の政治を確率したことや町人による文化が栄え、学問が発達したことを理解できる。(理解) (2) 見学や体験から、郷土の魅力について考え、自分の学習課題を持つことができたか。(関心・意欲・態度) (3) 幕府の政策のなかに込められたねらいについて考えることができる。(能力) (4) 歴史的資料を見たり触れたりする中で、先人の思いを想像したり歴史の流れを感じたりしながら、長崎や日本の歴史に興味関心をもつことができたか。(関心・意欲・態度)			

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

【活動の特徴】

☆ 初めての見学も怖いものなし！

博物館見学に際して、ボランティアガイドの方から詳しい解説をしていただく中で、資料や展示物の見方、読み方などを教えていただくことができ、小学生でも一つの資料をじっくりと見ることができました。同時に、長崎のことに詳しく、郷土を大切にする人々との出逢いは、子どもたちにとってすばらしい出逢いでした。展示物や資料の解釈の難しさも、人の声や表情または会話の中から身近なものとして捉えることができました。

☆体験に勝るものはなし！

街道を歩くだけでも、「昔の人はすごい！」。解体新書の模写をしては、「ごつか！」、出島での貿易品をさわっては、「まじっ？」と教科書での学習だけでは味わえない感動を得ることができました。とくに出張授業では、出島での生活をパズルにすることで、資料をより深く見る、読む、想像することができ、教材の提供の仕方を自分自身が学ぶことができました。

【学びの発展】

☆家族旅行が歴史勉強に！

夏休みや冬休みの家族旅行が、今年はテーマパークから金閣寺や東大寺に、お土産のポケモンが徳川15代将軍一覧表に変化した、という保護者からの話を聞くことができました。長崎の歴史だけではなく、日本の歴史に関心を持つことができたのも学びの発展なのかもしれません。

☆保護者の方からのお便り

博物館での見学、出張授業、修学旅行とたくさんの体験を通して、楽しく学習ができたようです。家に帰ると、「歴史クイズ！」がスタートします。

歴史見学の学習ボランティアに参加しました。子どもそっちのけで自分が勉強させていただきました。家に帰って子どもと一緒にボランティアさんの話をおさらいしました。楽しかったです。

【改善点】

☆ボランティアガイドさんとの打合せは、ていねいに！

見学前に、下見を兼ねてボランティアさんとの簡単な打合せを行い、児童の実態を知っていただいた上で、見学ポイントを確認しました。見学ポイントは4から5カ所と絞ったものの、やはり時間がおしてしまい最後の方は駆け足になってしまいました。見学までにもう一度ワークシートを用いた最終打合せをすることで、短い時間でもポイントを絞って解説していただくことができたのではないかと反省しています。

6年生	教科：総合・社会	単元名：ながさきさるくを楽しもう	11月～12月	17時間
実践校：長崎市立女の都小学校6年		授業担当者：酒井朋子・津田康彦・深堀昭三		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史を学ぶ中で、長崎の果たした役割などに興味を持たせる。 郷土の歴史に興味を持たせ、郷土を愛するきっかけとさせる。 ガイドさんと交流しながら人を通して学ぶ体験させる。 仲間と体験活動することで、コミュニケーション能力を高める。 計画を立て、見通しを持って体験活動を行い、学んだことを発表させる一連の学習法を体験させる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
社会科 江戸初期の鎖国の完成や出島について学ぶ。	2	教科書や資料集で学ぶ中、長崎の街の始まりについて学ばせる。(図書資料・インターネット利用など)	郷土の歴史に興味を持たせる手立て。 身近な資料の活用。	
社会科 蘭学など西洋の学問が日本に入り、盛んになっていく江戸時代について学ぶ。	2	解体新書など教科書に出てくる資料が長崎歴史文化博物館にあることや著名な人物等を知らせ、長崎の歴史的な位置を理解させる。(市発行の「さるくキッズ」歴史発行のガイドブック参考)		
総合 歴史見学とさるく活動班編成。	1	5コースが設定できたので、児童の興味関心を中心に班を編成。	各コースについてオリエンテーション実施。	
総合 歴史見学とさるく活動。 11月26日(金曜日)	6	乗り合いバスにて歴史へ。 到着、班ごとに担当ガイドさんに挨拶し、活動開始。 9:30ころより11:00くらいまで館内見学。 見学後、それぞれのさるくコースへ出発。 途中昼食を挟み、コース別に活動。 11:00ころより14:30くらいまで活動終了後、最寄りの女の都方面行きバス停付近にて解散。児童と引率教員は学校へ。ガイドさんは歴史へ。 15:30から16:00ころにかけ全員帰校し、下校。 ※さるく途中、名物などがあれば体験的に試食などを可とした。	コースごとに児童の性質や班としての活動レベルを考慮。 各班に教員が付き安全管理などにあたる。	
総合 見学したことやさるくで学んだことを発表できるように整理し、まとめる。	4	班別に学習したことを模造紙などにまとめ、発表の準備をさせる。疑問点は調べるように指示。	発表会に向けて意欲を持たせ、班活動・まとめ整理の方法について体験させる。	
総合 保護者・ガイドさん・歴史の方々に向けて学習発表会を開催12月10日(金曜日)	2	まとめたことを授業参観日にあわせて発表。 班ごとに分担して発表した。 さるく当日、ガイドをして下さった方々に参観していただいた。保護者の多くは感心し、共に学んでいたようであった。後日、家族でさるくコースに出かけたところもあった。発表会の終わりにはガイドさんからも言葉を頂いた。		

評 価 規 準	長崎の歴史に興味や関心が持てたか。 ・ガイドさんから学ぶことで、その人の想いや人柄を感じることができたか。 ・仲間と共に活動し、学ぶことができたか。 ・学んだことを整理し、まとめ、自分の役割を持ち、発表することができたか。
------------------	--

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

今回の学習の大きなねらいは、人を通して歴史を学ばせることです。そこに暮らしている人たち、長崎の街に想いを持っている先輩方と接することで、6年生の子どもたちに人としてのあり方を学ばせたいと考えたのです。特に、女の都地区は市街地から離れており、容易に長崎の歴史にふれられる環境にはない現状があります。

コースの選択数は今回は5つ（一班12人）でしたが、それはガイドさんの人数に合わせたからです。本来は10くらいのコースが希望でした。一つの班の人数が5～6人で、もっと密接に関わりが持てたらと思いました。教員の配置数にも限りがありますのでここが難しいところです。

子どもたちは、非常に楽しみにして当日を迎えました。歴史を見学後、弁当を持って、長崎の街を歩きながら、初めて出会うガイドさんとともに心弾ませながらさきました。歴史について興味を持てたかどうかは、はっきり分かりません。しかし、子どもの頃に友だちとガイドさんと「さるく」を歩いたことは、一生残る思い出となるでしょう。

- これからの課題としては、
- 1 早めに計画し、ガイドさんの人数を確保すること。
 - 2 事前学習として、さるく場所について少し学ばせること。
 - 3 年に2回のさるくを計画し、総合的な学習の時間の柱として位置付けること。

などを考えています。

ほんとうに教員も子どもたちも楽しく充実した学びの時間でした。そして、家庭での大きな話題となったようでした。

6年生	教科:総合的な学習の時間 及び社会科	単元名: 総合:わたしたちのふるさと長崎再発見 社会科:「徳川の世」は、どんな世の中だったの?	9月～11月	全39時間
実践校:長崎市立虹が丘小学校		授業担当者:富澤博貴		
目標	社会科:○江戸幕府の支配体制,外国との関係や貿易の取り締まり,人々の暮らし,キリスト教の禁止と鎖国などについて調べ,江戸幕府が外国にどのような態度で臨んだのか,気づくことができる。 ○江戸時代における長崎の役割と,当時の人々の暮らしを知ることができる。 総合:○修学旅行で行った熊本と,自分たちの住む長崎を様々な観点から比較することによって,ふるさと長崎の良さや素晴らしさを発見し,その良さを多くの人々に発信し,今後の自分の生き方について考えていくことができる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
【課題設定】 ○「熊本自主研修」と比較しながら,「長崎自主研修」に取り組むことを知る。 ○長崎の江戸時代における役割について知る。 ○長崎歴史文化博物館の学芸員さんを招き,出島・踏絵について学習する。 ・出島の様子やキリスト教の禁止と鎖国について,資料を見たり,学芸員の方から詳しく聞いたりする。 ○全員で,社会科見学として長崎歴史文化博物館に行き,展示物を見たり解説を聞いたりして,郷土長崎の歴史上の役割について学ぶ。 ○長崎自主研修での課題を設定する。	7 (1) (1) (4) (1)	○長崎自主研修を行うにあたって,熊本自主研修(修学旅行)を想起し,自分の課題について再確認する。 ○鎖国政策・出島の様子・踏み絵・キリスト教の禁止・当時の人々の暮らし,などについて,資料を見ながら,学芸員さんの解説を聞く。 ・幕府は,長崎の出島でオランダからの情報をもとに外国のことを知り,品物や文化を取り入れた。 ・幕府の外国との窓口は,長崎だけに制限した。 ・キリスト教を禁止して,外国との繋がりを制限するほど幕府の力は強かった。 ○児童が直接,絵図資料や実物資料を見たり,学芸員さんの解説を聞いたりしながら,理解できるようにする。	総合的な学習の時間 社会科 (長崎歴史文化博物館の学芸員さんによる出前授業) :第1回 (9月13日) 社会科: 長崎歴史文化博物館見学(学芸員さんによる解説) :第2回 (9月16日) 総合 総合	
【課題追究】 ○長崎自主研修の調査目的地を決定し,見学の計画を立てる。 (計画表の作成)	15 (1) (1) (1)	○長崎自主研修に行くことを告げ,自分の課題を追求できそうな見学場所について,インターネットや図書等を使い,情報を収集させる。 ○見学地について,事前学習を行わせ,見学地で調べることや学習してくることを明確にさせる。 ○見学先で自分の課題に応じた目的に合った学習をしてくるために,長崎自主研修の最終確認をする。		

○長崎自主研修を行う。	(6)	<p>〈見学場所〉</p> <p>① 歴史（人物）班 長崎歴史文化博物館・風頭公園・亀山中社・亀山中社資料展示場・シーボルト記念館・上野彦馬写真館跡・大浦慶旧居・高島秋帆旧宅跡</p> <p>②歴史（建物）班 長崎歴史文化博物館・風頭公園・亀山中社・崇福寺</p> <p>③食文化班 文明堂・福砂屋・蘇州林・新地中華街・アーケード・桃太呂</p> <p>④伝統工芸班 長崎歴史文化博物館（長崎版画体験）・江崎べっ甲店・べっ甲工芸館など</p> <p>④観光地班 グラバー園・大浦天主堂・孔子廟・出島・アーケード (全21カ所)</p>	総合：体験及び見学 歴史文化博物館(学芸員さんたちによる解説と体験活動の支援)：第3回 (10月15日)
○長崎自主研修で見学させていただいた施設に手紙を書く。	(1)	○礼状の書き方の指導をする。見学後、お礼状を作成し、発送する。子供達のお礼状も添える。	国語・書写
○アンケート結果について集計する。	(1)	○インタビューや聞き取り調査・街頭での市民へのアンケート調査の結果をまとめ、資料作成をさせる。	総合
○長崎自主研修で見つけた長崎の良さについて付箋紙に書く。(個人のまとめ)	(1)		総合
○長崎自主研修で見つけた長崎の良さについて意見を交換しまとめる(班でのまとめ)	(2)		総合
○長崎の良さとこれからの長崎について考える。	(1)	○「これからの長崎」について考えさせ、児童の郷土に対する創意工夫のある考えを活かせるようにする。	総合
【表現】	12		総合
○レインボーフェスティバルで、自分が発信したいことを選択し、発信に向けて、グループの友達と発信する内容や方法を決定する。	(1)	○これまで調べたことや、見学で学んだことから、レインボーフェスティバルで発信したい内容を出し合わせ、発信内容の概要を確認させるとともに、発信の方法についてその長所を捉えて選択・決定できるようにする。	
○まとめる活動を行う。	(8)	○受け手が分かりやすい表現に工夫させる。	
○中間発表をし、意見交換を行う。	(1)	○児童相互に各班の発表を聞き合わせ、様々な観点からの比較結果を知ることができるようにする。	
○再検討する。	(1)		

<p>○レインボーフェスティバルで発表する。</p> <p>【自己の生き方】</p> <p>○自分のテーマをまとめ、自分にできることを考える。</p> <p>○意見交換をする。</p> <p>○できることを実行する</p>	<p>(1)</p> <p>5</p> <p>(3)</p> <p>(1)</p> <p>(1)</p>	<p>○発信(発表)のしかたについて、よりよい伝達方法の吟味を行わせる。</p> <p>○全校児童・教職員・保護者・地域住民を相手に発表させ、ふるさと長崎の良さを伝える喜びを実感させる。</p>	<p>総合</p> <p>(常時活動)</p>
--	--	---	-------------------------

<p>評価規準</p>	<p>《 社会科 》</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の政治の様子について意欲的に調べ追究しようとする。 調べたことをもとに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を持つようとする。 <p>【社会的な思考、判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府による政治の様子について問題意識を持ち、学習の見通しを持って追究・解決する。 江戸幕府が支配体制を強めていったことを、大名統制や身分制度の確立、鎖国などから考える。 <p>【観察・資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の大名統制、身分と人々の暮らし、キリスト教の禁止と鎖国などについて、絵や写真・実物資料・地図・年表・文章資料などを活用して調べる。 調べたことをもとに、江戸幕府の支配体制の様子を分かりやすくまとめたり発表したりする。 <p>【社会的事象についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参勤交代が制度化され、大名統制の仕組みが整い、キリスト教の禁止や海外との貿易統制が行われ、江戸幕府による政治体制が安定したことなどから、身分制度が確立し、政治が安定したことが分かる。 <p>《 総合的な学習の時間 》 地域・郷土・歴史などの横断的・総合的な課題</p> <p>【自分自身に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの課題を明確に持ち、学習に主体的に取り組むことができる。 長崎の良さを発見し、自己との関係を考え実践しようとする。 <p>【学習方法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎の良さを発見するために、自分の課題を設定することができる。 自分の課題に合った情報を収集・調査・整理・分析することができる。 長崎の良さについて、自分が調べたことを、効果的に表現し発信することができる <p>【他者や社会とのかかわりに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時と場合、相手に応じた言葉遣いであいさつや感謝の言葉を述べるができる。 友達と協力して課題を解決したり、見学などで、社会の人々と交流しながら活動したりするなど他者と共同して課題を解決しようとする。
-------------	---

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 長崎歴史文化博物館の学芸員さんに、今回3回もお世話になった。
- ・1回目は学校での出前授業。貴重な資料等をお持ちいただき、資料を読み解く方法を取りながら、児童にわかりやすいお話で理解を深めて頂いた。
 - ・2回目は、全員で社会科見学で来館した折に、展示物について目的にあった解説を児童に分かりやすくして頂いた。児童はとても興味深く話を聞くことができた。
 - ・3回目は、総合の「長崎自主研修」として、児童が班別に課題（歴史人物・歴史建物・伝統工芸）に応じて来館した折に、児童の課題に合わせた資料の説明・解説をしていただき、充実した学習ができた。また、伝統工芸の体験についても、解説・指導・援助をしていただき、体験活動も充実した。児童も、学芸員さん方との出会いが3回目になるので、親しみを持って、質問なども積極的にすることができた。長崎歴史文化博物館の御協力で、大変充実した学習ができた。
- 学習の発展として・・・歴史文の見学の折に、「シュガーロード」のお話を興味深くして頂いたことがきっかけとなり、興味を持って、「シュガーロード長崎スイーツコンテスト・小学生デザインの部」に学級全員が進んで取り組み、全農賞や学校賞を頂くことができた。

6年生	教科：社会 総合	単元名：江戸の文化と新しい学問 長崎歴史文化博物館プレゼンツデリバリーミュージアムで本物をみよう	9月	全10時間
実践校：長与町立長与南小学校		授業担当者：小林輝子		
目 標	① 江戸時代の学問や文化に関心を持ち、進んで調べる。(関心・意欲・態度) ② 博物館見学のマナーやポイントを学び、修学旅行の見学のめあてをもつことができる。(関心・意欲・態度) ③ 新しい学問や文化について、考えたことを表現できる。(思考・判断・表現) ④ 教科書に掲載されている資料の見方やその価値について理解する。(観察・資料活用の技能) ⑤ 町人の文化や新しい学問が、時代の動きに影響を充てたことを理解する。(知識・理解)			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 江戸のまちの様々な場面から当時の社会の様子について話あう。	1	☆教科書に掲載されている資料をデジタル教科書を用い、大型テレビで映して話しあう。 ☆昔の様子を知るためにも、残っている資料や文献が役にたっていることに気付かせる。	4	
2 歌舞伎が人々の間にどのようなように広がったのかを調べる。	1	☆デジタル教科書を活用する。 ☆それぞれの資料が人の手で作られ、大切に残されていることに触れる。	1	4
3 浮世絵が人々の間にどのようなように広がったのかを調べる。	1	☆浮世絵の作成手順を紹介し、技の巧みさに気付かせる。	1	3
4 蘭学が社会にどのような影響を与えたのかを調べる。	1	☆移動博物館で「本物」を見ることができることを伝える。	3	4
5 蘭学はどのような学問かを調べる。	1	☆長崎に西洋の学問を学びにくる人々を紹介し、当時の長崎に最先端の学問や文化が入ってきたことに気付かせる。	5	
6 移動博物館の見学の仕方を知る。	2	☆「本物」「レプリカ」を見ることができることを伝え、長崎に貴重な資料や文献があることを知らせる。	2	4
7 移動博物館の見学と九州国立博物館の見学のポイントを知る。	2	☆教科書「九州国立博物館にある歴史を丸ごと体験しよう」から、博物館での見学のポイントをつかむ。 ☆ワークシートに目を通して、見学のポイントやマナーを理解させる。 ☆移動博物館の見学と博物館見学でのマナーやポイントの学習の2部制で行う。	2	
8 振り返る	1			
評 価 規 準	① 江戸時代の学問や文化に関心を持ち、進んで調べることができた。(関心・意欲・態度) ② 博物館見学のマナーやポイントを学び、修学旅行の見学のめあてを持つことができた。(関心・意欲・態度) ③ 新しい学問や文化について、考えたことを表現できた。(思考・判断・表現) ④ 教科書に掲載されている資料の見方やその価値を理解している。(観察・資料活用の技能) ⑤ 町人の文化や新しい学問が、時代の動きに影響を充てたことを理解した。(知識・理解)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

【児童の感想】

- ☆教科書に載っているものが実際にあったので、感動しました。その中でも「解体新書」がとても印象にのこりました。体のいろんな部分まで細かく書かれてあってすごいなと思いました。
- ☆教科書に載っている写真よりも展示しているものは大きくて分かりやすかったです。実際にさわることでもできて良い経験になりました。
- ☆資料には解説もあって、分かりやすかった。踏み絵を実際にさわることができて、その時のことを想像した。
- ☆実際に本物を見たりさわったりすると、大きさや重さが分かった。当時の人々の様子がより分かって、もっと知りたいなを思いました。
- ☆教科書の資料は一部を切つてあることが分かりました。全部を見るのができて良かったです。修学旅行が楽しみになりました。
- ☆教科書の資料は「別世界のもの」と思っていたけど、本当にあることにびっくりしました。昔の人は、解体新書を見て一生懸命頑張って勉強して、人の役に立ちたいと思っていたのかと思いました。
- ☆加藤さんが言っていたように、本物は特別だし、じっくり見ることが大切だと思いました。
- ☆錦絵がとてもきれいでした。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

【デリバリーミュージアムについて（実践の成果）】

- 子どもの感想を読んで、「本物」の資料が、子どもの想像力をかき立てる大きな役割を持っていることに気付くことができた。
- 教科書掲載の資料が一部分であるのに対し、移動博で全体を見ることができたという「お得感」も子どもたちの満足度を上げることができた。
- 修学旅行への動機付けに十分な学習であった。特に事前学習として見学のポイントを教えていただくことで、子どもたちは目的を持って見学することができた。特に資料の解説文に書かれている「資料の価値」や「発見場所」などに目を向けることができた児童もいた。
- 旅行会社からは、「九州国立博物館は修学旅行には人気がない」という話を聞いていたが、「40分という時間があつという間だった」「もっと見たかった」という児童もおり、今回の学習が効果的であったと感じた。

【その他】

○デジタル教科書の活用

教科書の資料を大型テレビで映し出し、毎時間資料をじっくり読む経験をつんでおくこと、資料をよく見れば昔の様子が分かるという経験が、移動博見学にもつながった。

今後の課題

- 学校の規模が大きいこと、博物館との連携が初めてであったことによるハードルが、予想以上に高く、理解してもらうのに時間を要した。特に規模が大きいことで、会場の体育館が押さえることが難しくなるという面が一番の課題である。
- 総合的な学習の時間に関しても、町独自のカリキュラムから高学年で地域学習ができないため、博物館との連携が社会科の中でしか今のところできない現状がある。カリキュラムの中で博物館との連携ができる部分を見つけていくことが必要である。

小学校の学習と博物館との連携に関する一考察

長崎市立深堀小学校
教諭 加藤 尊城

1 平成21年度の取組「長崎再発見！熊本新発見！」から

【カリキュラムにおける教師・学校側のねらい】

① 時数の処理の改善

社会科の歴史学習と、総学のカリキュラム並びに修学旅行の内容をリンクさせて時数を有効に使った学年相応の効果を狙った点は評価できた。

即ち、修学旅行の時数を丸々「行事」で取らず、「社会」や「総学」で取ることで年間**総時数の少なさをカバー**できる。

こういった工夫をしないで安易に「行事」という形で時数処理を積み上げると、最終的に教科等の指導時数が不足し、指導上の諸問題を発生させてしまう。

② 「内外2つの視点」をねらった一石二鳥

具体的には、「長崎再発見！熊本新発見！」というテーマで学習活動本体を「総学」に位置づけ、修学旅行先となる熊本を調査・比較させることでふるさと・長崎に対する認識を深めさせることで**郷土への愛着**を増進させる。（**内**に向かった眼）

また、熊本の歴史、文化、風土、風俗等に触れることで、「日本各地、世界各地にそれぞれの『ふるさと』があり、それはそこに生まれ、暮らす人たちにとってかけがえのないものなのだ。」といった**他者理解**、国際理解へと広げるねらいもあった。（**外**に向かった眼）

「郷土への理解と愛情（**内**）→他の地域に対する理解と相互尊重の精神（**外**）」という流れは子どもの認識経路的に考えても無理がなく、妥当な構成だと思われる。

③ おさえるべき注意事項

ここで注意が必要である。「修学旅行の全時数を『総学』で上げることはできない。『調査・検証』の**時間のみ、『総学』として計上可能**である。」という縛りがあることだ。

従って、「修学旅行」1泊2日、時数計上12単位時間の内、「総学」として計上できるのは「調査・検証」に充てられている時間だけになる。学習問題、学習課題の調査、検証に入らない時間については、あるいは「社会科」（歴史学習の一環として）、あるいは「道徳」（公德心、公共のマナーに関する実践的理解と定着）、あるいは「理科」（科学的知見を広げたり深めたりする見学、実習プログラムが用意されている場合）、あるいは「家庭科」（行程中の食事や入浴の時間全てをとりまとめて家庭生活における基礎技能の実地演習。2単位時間程度）など該当領域を検討して時数計上しなければならない。

【カリキュラムにおける教師・学校側の課題、問題】

① 学習活動の主たるカテゴリー

総時数の少なさをカバーできる点は評価できるが、そもそも「**社会科**」の**総時数**が新学習指導要領では**縮減**されている。従って、不用意に「社会科」で計上することには注意が必要である。

こういった事情により、**学習活動本体を「総学」に置くことは必然**と言えれば必然であった。

② 学習プログラム(カリキュラム)と学校行事等との兼ね合い

修学旅行とリンクさせるアイデアは妥当だったが、2学期の諸行事(小体会、学校行事としての学習発表会など大小様々な取組が目白押し)との関連から、**修学旅行が9月**にならざるを得ない。そうすると、6月半ばまでに「長崎学」的な部分を一段落させ、6月後半には「熊本学」に取りかからないと間に合わなくなる。

この「**駆け足操業的進行速度**」は、子ども達と学習対象が向き合う時間としては少なすぎるのである。この点こそ、この学習プログラムの大きな課題だと言える。

③ 学習対象(教材)との向き合い

長崎にせよ熊本にせよ、調べるポイント、視点を共通化するわけだが、「言葉」、「食べ物」、「歴史上の有名な出来事」、「歴史に名を残している偉人、有名人」を拾い出していくことはそれほど難しいことではない。教師側が資料をちゃんと準備しておけば、おおよそ事はすむのである。

しかし、双方の違い、差異の「背景」にこそ意味がある。ここに目を向けさせ、向かい合わせ、腑に落とすにはそれなりの時間が必要になってくる。「**長崎学**」が浅ければ浅いだけ「**熊本学**」も浅くなり、受け取りがややふやになる分比較も曖昧になり、結果として子ども自身の感動や感銘、達成感に大きな影響が生じる。

④ 学習過程と活動限界のジレンマ

発表は、**11月の学校規模の発表行事**である。

総学の基本的な流れで言えば、この発表は「**第一次発表**」、「**中間発表**」と位置づけられる。この中間発表を受けて形成的評価(方向等の修正補足のための中間評価)を行い、その評価に従って調査検証を補足したりするなどして「**本発表**」へと仕上げていく。

ところが、実際には11月の発表**以降手詰まり**となった。修正補足を行おうにも、熊本に赴く機会は既に無かったからである。この学習プログラムは、**修学旅行が調査検証の大山場**になってしまっているため、**中間発表後の調査検証が極めて困難**になってしまうのであった。

子どものモチベーションの低下は避けられず、内容のブラッシュアップも困難になった。せいぜいインターネットによる情報収集程度が限度となり、**活動のメリハリや情報の旨みが極端に低下した**からである。

⑤ 学習の柱の保障

また、今まで述べてきたとおり時間に追われた取組になったため、総学(生活科でも言われることだが)で重要な柱となる「**人・もの・こと**」との**結びつき**が十分に仕組みなかった。ことに「人」とのつながりは大変重要であり、「人・もの・こと」の中でも最大限の配慮と準備がなされるべきであるとさえ言われる。

生活科では、「**極論すれば、『人』こそが眼目。あとの2つは捨てても良い。**」とまで言われている。

社会科では、「**教材の人間化**」という言葉で言われ、GT(ゲストティーチャー)等外部人材と学習者である子ども達の連結を仕組むことはしばしば採られる有効な有益な手法である。

⑥ 「プログラムの再構成」と「本来のねらい」との整合性

プログラムそのものの構成を見直してみよう、という考え方も当然出て来る。

例えば、1学期の導入から修学旅行まではほとんど「**熊本学**」で行く、という考え方はどうであろうか? 熊本に対する理解を深めさせて中間発表、その後はほとんど「**長崎学**」に切り替えるという方法である。

しかし、中間発表が11月半ばに位置することから、**両者の取り上げバランス**に偏りが生じやすい。また、子どもの認識としては、**先に入ったものが「先入主」となりやすい**。認識上のインプリンティング（刷り込み）が起きる可能性が高い。「熊本を下敷きにして長崎を見るのか、長崎を下敷きにして熊本を見るのか？」という、**ねらいそのものを揺るがす**ような問題をもはらむことになる。そう考えると、やはり長崎から入って熊本へ、という流れが自然なように見える。

しかし…前述した②や③のような課題が改善されない限り、この流れも学習者にとってベストとは言い難い。

【カリキュラムに対する反省点】

○二兎を追う者は一兎をも得ず、なのか？

時数削減 → 「行事」から「教科等」への変換 → 総学の「横断化」による相補的学習構成
(指導時間の名目分散化)

といった意欲的な展望をもった試みであったことは評価すべきだ、と今でも思う。

しかし、その試行過程に関わってみた限りでは、「二兎を追う者は一兎をも得ず」という教訓を想起せざるを得ない結果になってしまった。

「教材の人間化」と「形成的評価を踏まえた補完完成」、「学習の深まりと高まり、広がり、膨らみ」を考え詰めていった時、やはり「観察、追究対象を『長崎』の**一点に絞り込んだ方がベターだったのでは？**」という結論に至る。自分のふるさと・長崎について知識を深め、認識を改め、子ども達のそれぞれが「再発見」の達成感を獲得できるよう取りはからうためにどうするか、だと思ふ。

ただし、これは飽くまで自らが実践に関わった事例での判断であり、学習集団の学習経験とトレーニングの錬度によっては**二点比較型の学習プログラムも決して不可能ではない**ことを付言しておきたい。

○「教材の人間化」という観点から

子どもは、探求課題が「人」と結びついた時、課題との距離感をグッと縮める。探求の思考も「〇〇さんは…」となって、非常に鮮明な認識になる。

そのような「教材の人間化」をより効果的に実現するためには、いくつかのポイントがあると思う。第一に「**関係の安定**」、第二に「**関係の反復**」が挙げられるのではないだろうか。「関係の安定」とは「同じ人と相対すること」であり、「関係の反復」とは「繰り返し相対すること」である。それによって、子ども達は向き合う相手に対して**ラポール(信頼感)を抱く**ようになる。

つまり、もっと有り体に言えば、「同じ人に何度も会って、**教わったり、質問したり、評価してもらったり**することで、相手との関係性が深まり、学習課題により深く馴染む」ということである。

そうとするならば、「観察、追究対象を一点化」することによって、G T（ゲストティーチャー＝外部講師）もしくはV S（ボランティアスタッフ）との**望ましい関係を構築**することができるようになる、という考え方も出て来るのであろうか。

○「形成的評価を踏まえた補完完成」という観点から

「観察、追究対象を一点化」することによって、子どもは学習対象とじっくりと向き合うことができる。学校の機器（図書、ICT）を活用した調べ学習も深まり、**複数回に渡って現場、現地に足を運んで調査や検証作業を積み上げる**ことも可能になってくる。（その中で、可能な限りG T、V Sとの出会いを用意することができれば「教材の人間化」も一層促進される。）秋の発表を第一次発表とし、その結果（形成的評価）を踏まえて学習を補完し完成させていくこともできる、ということになる。

少なくとも今回の取組を振り返る限りでは、こういった結論に向き合わざるを得ない。

○「学習の深まりと高まり、広がり、膨らみ」という観点から

このように「観察、追究対象を一点化」することで、「学習の人間化」をより効果的、効率的に促進できる可能性が高まる。調査、検証をきめ細かくし体験度を高めることは、学習を深めさせ、高めさせ、広がらせ、膨らませることになる。ここに至って、初めて子どもは「自分が学んでいる」と**自覚**し、「明らかでなかったこと」と「明らかになったこと」を**区別**できるようになり、学びの中での「達成感」を**獲得**するに至るものと思われる。

【博物館活用に関して】

以上のように、この取組を顧み総括する中で、博物館の活用についてどのような気づき、発見を得たのかまとめておきたい。一見、ネガティブな印象を受けるかもしれないが、以下の記述は飽くまで**「伸びんがために縮む」**という気持ちで書かれたものであり、**関係者の努力や労を否定するものではない**ことを予め申し上げておく。

(1)学校側について考える

①「活用の動機」の共有

前項までで述べてきたとおりだが、様々なねらいをもった試みではあったものの「走行中の車上において部品を交換し、不具合を修理するような進み方」であったことは否めない。

しかし、多くの現場において、教育プログラム、教育手法に手直しを加えようとするれば、現状、そうならざるを得ない要素が多い。

言い訳ではなくはっきりとっておきたいことは、この取組に関して言えば「火中の栗を拾う」という表現も決して大袈裟ではないレベルの試行錯誤を担当が敢えて選択したことを正当に評価すべきだという点だ。それほどの取組ではあったが、一種アクロバティックな進展であったがために、本カリキュラムを通じて子ども達にどこまで投げかけ、何をつかませ、どのような実を結ばせるかという先々のイメージについて**十分な共通認識を得ていたとは言い難かった**というのが正直な状況であった。

博物館活用においても、この弊は少なからず影響した。

② 学習活動のデザイン

前項の点を受けて、もう少し踏み込んだ観察をしてみたい。

「活用の動機」の共有がうまくいかなかったことは、本カリキュラム全体のデザインが未だ流動的だったこと、それ故に「走りながら修理する」離れ業的＝対症療法的＝見通し不足を避け得ない対応（そもそも「先」が茫洋としか見えていない。）がしばしばであった。

その影響は多岐に渡るが、多くの細々としたことを省けば、**「博物館利用の位置づけと以後の展開に関する読みの不鮮明さ」と**言い括ることができそうだ。

イメージの共有ができていない場合に起きる典型的な状況だ、とえばそれまでである。

③ 博物館活用に関することとして

話を「博物館活用」という1点に集約してみたい。

授業者は、学習者に対するねらいや期待する効果、以後の展開に対してある程度のイメージをもった上で博物館利用の意図と位置づけをはっきりとさせておく必要があると考える。

学習段階のどこで、どのような効果を狙い、以後にどのような展開を想定して学習者と博物館を結びつけるの

か、一例を考えてみた。

項目 \ 段階	つかみとして	調査検証	探求の深化
目的	「長崎県ってどんな歴史があるんだろう？」といった県の 歴史的特色 をつかむ。 館の 展示内容のおおよそ をつかむ。	「長崎の〇〇について、詳しく調べたい」といった 具体的な問題、課題 を携えて来館。 (衣食住?) 調査の視点が、絞り込まれている。	「まとめていく中で結果、新しい疑問やもっと知りたいことが出てきた。質問したいことがある」といった 一層踏み込んだ疑問 を抱えて来館。 調査の視点が深まっている(高まっている)。
グルーピング	クラス別に男女混合の活動班	調査対象別にクラス・男女混合活動班	調査対象別にクラス・男女混合活動班
VSとの関係 (VS…ボランティアスタッフ)	オリエンテーション的な指導のみ。 各ブースごと程度にVSに付いていただき、展示内容に関する 簡単な説明 をしていただく。 学習者からは、即応的な質問が出る程度。 この時点では、あまり 踏み込んだ解説、説明等は避けて いただく。	調査対象エリアとエリアに向かうグループ数に応じてVSに適切な人数で着いていただく。 比較的一方的にお話を聴く。 ここまでの学習で抱いた疑問に基づく質問、その場での即応的質問が出る。 この段階では、VSから学習者に向かって「長崎県の歴史」を概括する 訓話等は控えて いただく。	調査事項に関連した展示資料の選定と選定された資料の数やエリアのまとまりを考慮した形でVSに着いていただく。 学習者の質問に答えていただく形を主体とした進め方。 学習者の探求事項に対する 説明は、できるだけ簡潔に 抑える。 心に響く 生き方 に関わったエピソードがあれば、 簡潔に 付け加える。 場合によっては、事象の 関係者等の生き方、考え方 に対する学習者の 受け止めを問う投げかけ も入れてもらう。

成果物	教師が準備したしおりの課題に対する答え。 館内のどこに、どの時代の、どの地区の、どのような情報が展示されているかを確認するワークシートなど。	インターネットや関連書籍、パンフレット等で調べたことを踏まえた疑問、質問に対する答え。	今までの調査で自ら気づいた疑問、中間発表等で参観者や仲間などから投げかけられた疑問、感想などを元にした新たな疑問、質問を明らかにしたもの。 VSから教わった関連事項を書き留めたもの。
以後の対応	以後の調査、検証で再訪、再々訪を重ねる中で、学習を深めると共に博物館スタッフとの ラポール を深める手立てが必要。	秋の中間発表に向けて分かったことをまとめさせていく。その過程、もしくは発表時に浮上した 「更なる疑問」 を拾い出し、最終まとめのための調査に備えておく。	再調査、再検証によってまとめを深め、最終発表に結びつける。 可能ならば、調査検証段階でお世話になった 博物館スタッフを招き、最終評価を受ける 。その際の評価は 肯定的評価 を中心としながらも、更に深めていくための方向性を示唆するなど 発展的な形 で結んでもらう方が良い。

(2)博物館側について考える

この時の学習活動を通じて、外部講師の協力を得て組み立てる授業のポイントを再考することとなった。

初めにはっきりと言っておきたいことは、外部講師活用の**正否はいつに学習指導者側に鍵がある**という点である。そのような前提に立って、以下を記していきたい。

①「伝えたいこと」と「伝えるべきこと」の区別

これはどんな時でも言えることだが、「**講師には、熱い思いがある。**」ということである。自分の思いのたけを学習者である子どもにしっかりと投げかけ、受け止めてもらおう、という気持ちがあるものすごく強い。

しかし、この思いがしばしば**「情報の過多」**を引き起こし、学習者が未消化状態に陥る原因になってしまうことは実に哀しい。また、本来ならば学習が進む中で子ども自身に自得させたい概念や感想まで、GTやVSが子ども達に投げかけてしまう**「勇み足」**が起きてしまう点も残念至極である。

こういった学習者と受け入れ側の**「不本意なすれ違い」**を避けるには、講師と指導者が直接会って細かな打ち合わせを行う以外にないと思われる。「今回の学習の目的」、「学習者の実態」、「指導者が期待する変容や効果」、「直接伝えてほしいことと伝えない、触れないでほしいこと」等々**指導の意図を十分に理解していただく**段階は欠かせない。事前に十分な打ち合わせを行うことにより、学習者である子どもにも**提供される「情報の質と量」を調整する**わけである。

「質」を精選することにより、情報の過剰を防ぐと共に今後の学習の中でつかませたい部分を確保することができる。また、「量」を吟味することによって、次項で触れる壁を除去することも可能になってくる。綿密な打ち合わせ、それは外部を活用する上で不可欠な要諦である。

② 「言葉の壁」の回避、除去

学習者である子どもが未消化を引き起こすもう一つの原因が、「GTやVSとの言葉の壁」、もう少し精密に表現すると「**語彙の差**」である場合が多い。

GTやVSには「常識」である概念や用語も、小学生にとってはまだまだ「未知」の領域であることが多い。GTやVSが当たり前のようにして使った言葉1つで、子どもの学習意識は停滞する。「???'と**つまずいた途端、思考が停止する**。丁寧で敏感なGTやVSは子どもの表情や様子からそれを感じ取り、つまずきを取り除こうと説明を加えるが、子どもの頭の中はむしろ混乱する。

これを避けるためには、前項でも述べたとおり、打ち合わせの中で「伝えるべき部分」、「つかませるべき内容」を絞り込んでおく必要がある。量的に絞り込んだ内容を「**どの程度(量と難度)の言葉、語彙で伝えるか?**」と吟味し、「言葉の壁」を除去し回避する準備を入念に重ねることが有効だと考える。

③ 「場の容量 (キャパシティ)」とグルーピングや巡回方法、活動時間

博物館は学校のような建物と比較するとスペースが広く、開放度も高い。しかし、実際の子どもの動きを想定し、展示スペースに重ねていった時、「**意外に狭い**」という認識に辿り着くこともある。

広々としたフロアの中に解説用の機器、疑似体験的な学習をさせてくれる機器があるとすると、ところが実際に子どもが使おうとすると、使用できる人員が1人とか極少数に限定されていたりするのである。珍しい実物展示がされていても、その展示をケースなどの前で**間近に見ることができるのはせいぜい3名程度**だったりするわけである。

そこで重要になってくるのが、学習者である子どもがどの資料との出会いや接触を必要としているか、という**見通し**である。どの資料、展示にどの程度の人数の子どもが関わろうとしているのか事前につかみ、**グルーピングや巡回方法を整理**しておけば、人垣の外に置かれて資料展示を見ることができない子やGTやVSの声が聴き取りにくい場所で戸惑いながらメモを取らなければならない子を作らずにすむのではないだろうか。課題を共有する少人数グループで活動させ、展示Aが立て込んでいれば資料Bに向かうなど**無為な待ち時間を作らせないような工夫**が必要である。

また、それぞれの資料や展示に関して、子どもの学習を援助、支援する手立てとして「**解りやすい説明書き**」や「**情報の量や質を必要最小限度に吟味し絞り込んだGTやVS**」が用意されていることが学習効果を非常に高めることは言う間でもない。さらに、蛇足ではあるが、これら一連の学習活動を支えるものとして、「**十分な調査検証時間**」の確保も不可欠である。

2 平成 22 年度の取組「徳川の世はどんな世の中だったの」から

【本時における教師・学校側のねらい】

① 生きた地域教材の活用

6年生の社会科学習は「日本史」を中心とするものであるが、中世以降の日本史における「長崎」の役割はことのほか大きい。その長崎で授業を行う指導者としては、**地元ならではの「生きた教材」**を大いに活用したい、と考えるのが自然である。

博物館は非常に魅力ある「宝物庫」であり、これを利用しない手はない。

② 完成された効果的プログラムの活用

この單元における「出島パズル」を利用した授業は、歴史文化博物館学習グループの実践の中で磨かれ、確立されてきた**完成度の高いプログラム**である。その効果を生かして、子どもの学習を深めさせようというねらいがあった。

③ 「専門家」との出会い

生活科、総学、外国語活動などでは「地域の人材」が活用されることも少なくない。しかし、博物館スタッフはこういった「地域の人材」とはいささか違った趣を備えていると思われる。即ち、「地域の名人」とは「名人、上手」であるが、**博物館スタッフは「専門家」**である。それも、「**知の専門家**」である。子どもが日常的に触れ合う機会を得やすい人的環境の中には、比較的希有な人材である。

そういった「**日常において希有な人達**」と触れ合うことで、**自分の生活や将来**に対する「今までにはなかった視点や認識」を得るきっかけになればとの思いもあった。それは、単純に学芸員を志すということではなく、「自分も某かの道で『一流』になりたい。『本物』になりたい。」という**自己の人生に対する素朴な目覚め**を与えたいという意味である。

【教師・学校側の課題、問題】

① ワンポイントリリース的授業

今回の取組は、言うなれば「ワンポイントリリース的授業」であり、幕藩体制の基礎を固めた徳川家光の治世を学習した後の**補足的な内容**となっていた。

しかし、単元の学習が終了してからいささかの間が空いていたこともあり、子どもたちの中にこの授業に向かう**必然性が希薄**であった点が影響していたと思われる。子どもたちが**必要とするタイミング**で投入してこそ、このような授業は効果を最大限に発揮するものなのだと痛感させられた。そして何よりも、事前の伏線や事後のより深い押さえ直しが準備されていないため、「一過性の学習」となってしまう。卑俗な言い方をすれば、「**一発企画**」で前後の学習との関連がなく、単元学習、教科学習の全体における位置づけがない授業になってしまった。

全体を踏まえた位置づけがないということは、その授業が**デラシネ(根無し草)**になってしまっているということであり、子どもの学習意識に効果的な影響を与えることは極めて困難だということである。

② 再び思う、「活用の動機」の共有

前項の状況について考えた時、やはり出て来るのは「直接、子どもの指導に当たっている担任が、この授業にどの程度の必要性和必然性を認めていたか？」という反省である。

外部機関や人材を効果的、効率的に活用するためには、**授業者自身のねらいや期待する効果、以後の展開等に対する具体的イメージが必要**になる。それが、授業の重みを決定するのであろうと思う。この取組では、博物館側のG Tが授業という場での子どもとのやり取りにある程度慣れており、そういった**経験を踏まえた配慮や見通し**を持っていた。この点は授業者にとってたいへん**強い追い風**であり、プラス要因であった。

それを生かせなかったのは、活用を試みた教師側の様々な不足であった。前年度の取組もだが、授業のコーディネートに当たった**私自身の非力**が一番大きかった。

3 平成 22・23 年度の取組から考えたこと

① 博物館活用は、有効である！

博物館には、「**本物**」が集積されている。「人・物・こと」のいずれに関しても、「本物」が集積されてい

る。それら「本物」を駆使することで、子どもに良質な授業を提供できる。自己研修も深まる。「**使わない手はない!**」という思いは、今や不動である。

② **外部活用は、「点」ではなく「線」で！理想を言えば、「面」で！**

博物館だけでなく外部の機関や人材を活用するならば、「点」では効果が薄いと実感した。

一発ワンポイントリリース的な使い方ではなく、年間を見通した**複数回の活用**が望ましい。しかも、同じ内容やレベルを反復するのではなく、学習の質や規模を拡大深化していくような形を構想することが重要である。外部の機関や人材とのつながりを安定的に反復することで、子どもの関係性が向上する。

この**関係性の向上**によって、狭い意味での学習…単元学習の知識獲得…に留まらず、学校教育の今日的課題（教材や学習の人間化、キャリア教育、体験的道德指導等々）に迫る重要な効果を実現できる。

③ **活用の主体は、あくまでも指導者！**

今さら言うことでもないが、外部活用授業、見学学習、宿泊学習、修学旅行等といったものは、**指導者の目的意識と構想**で生死が分かたれる。責任重大である。「もうやめましょうよ。」と相手が音を上げるくらいの執拗な…もとい**丹念な打ち合わせ**も必要であろう。

本試案の特徴

長崎市立深堀小学校

教諭 加藤尊城

① 総学の基本学習過程を押さえる。

「課題発見→解決の見通し→調査・検証→まとめ→中間発表（形成的評価）→追加調査・検証→まとめ→まとめ発表（総括評価）」という基本の過程を押さえています。

② 学校行事の取り込み

第6学年は6学年中最も余剰時数が少なく、台風や積雪などの天災に3回以上見舞われると、それだけで時数パンクを起こします。

また、本校の特徴として、第6学年の児童に振り向けられた校内行事や取組における役割が多いです。

（これはこれで今後の改善課題だと思います。）

従って、可能な限り、第6学年に関わる校内行事の取り込みを実施し、負担を軽減すると同時に学習活動の内実を高めていく必要があります。本案はそこを念頭に置いて考えてみました。

③ 校外施設・人材の活用

担任等の校内人材に留まらず、外部の施設や人材の活用は今日的教育課題の1つです。しかしながら、新学習指導要領実施への対応が遅れた学校ほど時数問題に翻弄され、郊外に目を向けた学習活動の展開や充実を「不可能だ。」とする認識に陥りがちです。

教材の人間化を推し進め、子どもたちにとって付加価値の高い授業を実現していく試みを途絶えさせてはならないという考えも盛り込まれています。

④ 今日的教育課題への対応

今日的教育課題は外部活用だけではありません。近年とみに取り上げられる「キャリア教育」や「体験的道德指導」も忘れてはなりません。

それへの対応も視野にとらえられないか考えてみました。

⑤ 教育内容における「個性」の実現

教育内容における学校の独自性、個性の発揮と実現は、前回の指導要領改定以来特に強調されている点です。本校がある深堀地区、並びに比較的近距离にある長崎市中心部は魅力ある歴史的遺物、遺構に満ち溢れた地区です。この特性を活かしたカリキュラムを構築できないか考えてみました。

⑥ 持続可能なプラン

教育における学校の独自性、個性の発揮と実現は、前回の指導要領改定以来特に強調されています。その観点に立ってプランを練って見ましたが、加えて持続性も考慮しました。一見すると手間がかかりそうに見えますが、2年間もループすれば進める手順や方法、ノウハウが定着してきます。立案者の移動後も持続可能なものになっています。

全学年	教科：総合学習 学級活動	移動博物館	6月11日	1時間
実践校：長崎市立村松小学校		主担当：田中英明・山田俊介		
目 標	<p>○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見たりワークショップを体験することで、長崎の歴史と文化について興味・関心を深め、総合的な学習の時間「長崎歴史散歩」の学習への意欲をもつ。 (6年生)</p> <p>○ 校外学習の一助とするため、公共の施設の利用の仕方、展示品などの鑑賞の方法やポイントを知る。また、来年度の長崎歴史散歩に向けて長崎の歴史や文化に興味、関心をもつ。 (5年生)</p> <p>○ 長崎歴史文化博物館の展示品を鑑賞し、触れることで長崎の歴史や文化に親しみをもつ。 (1～4年生)</p> <p>○ 遠隔地その他の理由で来館することが困難な人に、長崎歴史文化博物館の活動に触れていただく機会を提供する。 (保護者・地域)</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 公共施設の利用の仕方について知る。	※	○ 各教室で担任から話を聞く。 ・見学するときのマナー ・展示品の鑑賞の仕方 ・手に触れられる展示品の使い方	(1)	
2 長崎の歴史についての概要を知る。	※	○ 学年の実態に応じて、学級にて話をする。	(1)	
3 移動博物館を見学する。	1	○ 会場の案内と諸注意 ・展示スペースと展示品の紹介 ・会場での見学マナーの確認 ○ 1～5年生は自由見学 ○ 6年生は、以下の順。 ①歴史の研究者によるオリエンテーション ②クラス別のワークショップ (展示ブースをローテーションしていく形で) ③自由見学	(1)	
4 見学のまとめ	※	○ 見学して分かったこと、楽しかったことについて感想を書く。 ・学年の実態に応じて、内容を考えさせる。	(3)	
評 価 規 準	<p>(1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え主体的に追求することができたか。(課題を設定する力)</p> <p>(2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力)</p> <p>(3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力)</p> <p>(4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



会場は、村松小学校体育館



フロアいっぱいに展示品が並びます



直接資料に触れながら、博物館の研究員の方にお話を聞くことができました。



眼鏡橋の模型の積み木は、低学年でも楽しく活動できました。



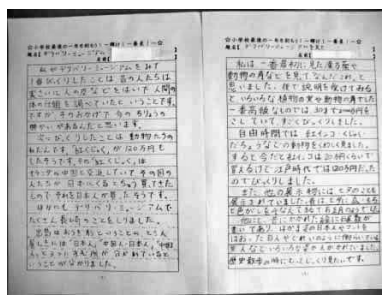
龍馬の刀のレプリカは、一番人気。



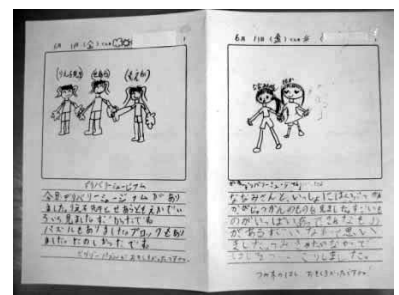
大きな絵から人物を探すことで、細かい部分まで注目できました。



子どもたちにとって、貴重な体験となったことは間違いありません。



6年生の感想は、直接資料に触れた感動と、長崎の歴史と文化がとても広く、深いものであると感じ、総合学習の長崎歴史散歩でさらに調べてみたい、じっくり見てみたいという意欲がさらにできました。



2年生の感想には「すごいものを見せてもらった。」「パズルやブロックがおもしろかった。」などとても楽しい活動となったようです。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 今回の移動博物館は、6年生の総合学習、長崎歴史散歩への興味・関心を高めたいということで、歴史文化博物館に快く引き受けていただいで実現した。
- 移動博物館開催の経過
 - ・昨年度の実践報告会で、今年度の長崎歴史散歩の導入で移動博物館を開催したいと提案。
 - ・4月に入り、正式に移動博物館の申し込み。
 - ・5月に電話での打合せ。
 - ・開催日時の決定。
 - ・6月第1週に歴文担当者が来校し、会場下見及び打合せ。使用する学校備品についての調査。
 - ・6月11日 移動博物館開催
- 移動博物館は、4、5、6校時に行った。
 - 4校時 1、2、3年生の自由見学
 - 5校時 6年生のワークショップ。
 - 6校時 4、5、6年生の自由見学。
- 今回、めったにない機会ということで、学校便りや学校ホームページを使用し、保護者や地域の方々にも移動博物館を見学していただくよう呼びかけた。
- 学校の職員の感想より
 - ・普段見ることのできない展示物や資料を学校で気軽に見ることでとてもよかった。
 - ・実際に触ったり、香りを感じることで興味が深まった。
 - ・楽しく活動していて「れきぶんにいきたい」という児童が多かった。
 - ・子どもたちに分かりやすく展示されていてよかった。また、遊びや体験コーナーもあり親しみをもって取り組むことができた。
 - ・詳しい説明を聞くことができ、長崎の歴史に対する興味が一気に高まった。
 - ・歴史になじみのない4年生でも、本物を見たり、触れたりすることで、長崎の歴史を感じ取っていた。
(この後4年生は総合学習・ふるさと体験事業で、2学期に龍馬関連の史跡巡りに出かけることが決まった)
- 後日、この日流れていた博物館のDVDをお借りし、6年生の総合学習の時間などに利用させていただいた。
- 見学のマナー面についてもっと指導しておくべきであった。
 - 6年生の時間だけはしっかりと確保し、その他の学年については、学級や学年の授業の状況で好きな時間に会場に入ってよいということにしていた。
 - 各教室では指導をしていたものの、会場に着いてから、もう一度きちんと守るべきことや触ってよい展示品と触ってはいけない展示品などについてしっかり確かめてから自由行動を取らせるべきであった。
 - 歴史文化博物館の연구원の方々には、ご迷惑をおかけした。
 - 小学生は予想外の行動を取ることがあるため、十分に指導しておく必要があることをあらためて感じた。

〈使用した学校備品〉

- ・展示用パネル・7枚程度
- ・生活科用机（台形机）・10脚
- ・50型テレビ・2台
- ・長机・11脚
- ・ドラム式延長コード・2台

歴史チャレンジ 3年モデルプラン

実践校：長崎市立畝刈小学校（実践案） 授業担当者：梅林一城

学期	国語	社会	音楽	図工	道徳	特別活動	総合的な学習	博物館資料等
1	【人と交わる】 「学級討論会をしよう」 「学級討論会をしよう」 「学級討論会をしよう」 施設について博物館を見学し、自分の考えをまとめ発表する。	【人の思いにふれる】 「長崎市を探検しよう」 歴史文化博物館研究員の話聞き、約100年前からの長崎の変化に興味をもつ。 ☆郷土の発展に尽力した人物の思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしやぎり」 くんちのしやぎりについて調べ、生き方について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【先人に学ぶ】 「奉行所をスケッチしよう」 奉行所の瓦に関する話聞き、興味をもつ。 ☆先人の思いにふれる。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及にふれる。	【人と交わる】 「くんちを知ろう」 自分の住む地域のすばらしさを理解し、発信する。	博物館資料等 南蛮屏風 貿易品 長崎の古写真
2	【食べ物はかせになろう】 形を変え大豆について調べ、まとめ。 長崎の食文化について、歴史文化博物館で調べる。	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、約100年前の長崎に興味をもつ。 ☆郷土の発展に尽力した人物の思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしやぎり」 くんちのしやぎりについて調べ、生き方について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及にふれる。	【人と交わる】 「くんちを知ろう」 自分の住む地域のすばらしさを理解し、発信する。	南蛮人來朝図 くんち資料
3	【食べ物はかせになろう】 形を変え大豆について調べ、まとめ。 長崎の食文化について、歴史文化博物館で調べる。	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、約100年前の長崎に興味をもつ。 ☆郷土の発展に尽力した人物の思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしやぎり」 くんちのしやぎりについて調べ、生き方について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及にふれる。	【人と交わる】 「くんちを知ろう」 自分の住む地域のすばらしさを理解し、発信する。	犯科帳記録 世界航海図

歴史チャレンジ 4年モデルプラン

実践校：長崎市立畝刈小学校（実践案） 授業担当者：梅林一城

学期	国語	社会	音楽	図工	道徳	特別活動	総合的な学習	博物館資料等	
1	【人と交わる】 「学級討論会をしよう」 「学級討論会をしよう」 「学級討論会をしよう」 施設について博物館を見学し、自分の考えをまとめ発表する。	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史員に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしゃざり」 くんちを味わい、伝統芸能について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【先人に学ぶ】 「奉行所をスケッチしよう」 奉行所の瓦に関する講話を聞き、興味をもつ。 ☆先人の思いにふれる。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。		【人と交わる】 「さるくガイドブックを作ろう」 修学旅行に向けて、自分の住む地域のすばらしさを理解し、他県からの観光客に長崎の観光スポットを紹介する。	博物館資料等 南蛮屏風 貿易品
2		【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史員に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしゃざり」 くんちを味わい、伝統芸能について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。		【人と交わる】 「行ってみたい外国」 博物館研究員との関わりから、諸外国に對して興味やあこがれをもつ。	南蛮人來朝図 くんち資料	
3		【人の思いにふれる】 「市の発展に尽くした人々」 現在と昔の長崎港の変化に對する興味をもつ。 ☆地域の発展に努力する人々の思いにふれる。		【あこがれや志を表す】 「夢を集めて」 友達と話し合い、思い出や記念になる作品を共同で作る。	【先人に学ぶ】 1- (2) 勤勉・努力 自分がかかっていることをきかかえよう。		【あこがれや志を表す】 「将来の夢」 国際交流員との関わりから、自分の夢を、簡単な英語で発表する。	犯科帳記録 世界航海図 港湾図	

歴史チャレンジ 5年モデルプラン

実践校：長崎市立畝刈小学校（実践案） 授業担当者：梅林一城

学期	国語	社会	音楽	図工	道徳	特別活動	総合的な学習	博物館資料等
1	【人と交わる】 「学級討論会をしよう」 「バリアフリー施設について博物館を見学し、自分の考えをまとめ発表する。」	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に対する思いにふれる。		【先人に学ぶ】 「奉行所をスケッチしよう」 奉行所の瓦に関する講話を聞き、興味をもつ。 ☆先人の思いにふれる。	道徳		【人と交わる】 「バリアフリー施設を見学しよう」 自分の住む地域のユニバーサルデザインを調べ、紹介する。	南蛮屏風 スロープ・手すり 貿易品
2		【人の思いにふれる】 「かわらばんと現在の新聞」 歴史文化博物館研究員の話聞き、新聞について興味をもつ。	【先人に学ぶ】 「くんちのしやぎり」 くんちを味わい、伝統芸能について調べ、生き方について考える。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に対する思いにふれる。		【人と交わる】 「行ってみたい国」 博物館研究員との関わりから、オランダ・中国などに対して興味やあこがれをもつ。	南蛮人來朝図 くんち資料
3		【人の思いにふれる】 「日本の位置」 現在の中国や韓国との距離や位置について興味をもつ。 ☆裁判に対する思いにふれる。		【あこがれや志を表す】 「夢を集めて」 友達と話し合い、思い出や記念になる作品を共同で作る。	【先人に学ぶ】 1-(2) 勤勉・努力 古文書修復作業の苦労を知り、自分の夢に向かって今何をすべきか考える。		【あこがれや志を表す】 「最高学年に向けて」 これまで学んだことをまとめ、友達と高め合い、自らの将来について考える。	犯科帳記録 世界航海図 古文書

歴史チャレンジ 6年モデルプラン

実践校：長崎市立畝刈小学校（未実践） 授業担当者：梅林一城

学期	国語	社会	音楽	図工	道徳	特別活動	総合的な学習	博物館資料等
1	【人と交わる】 「ガイドブックを作ろう」 観光名所を見学し、相手意識と目的意識をもつて、自分の考えをまとめ発表する。	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、長崎の歴史に興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。		【先人に学ぶ】 「奉行所をスケッチしよう」 奉行所の瓦に関する講話を聞き、興味をもつ。 ☆先人の思いにふれる。		【人の思いにふれる】 「伝統的な食事体験しよう」 食事に興味をもつ。 ☆食育に對する思いにふれる。	【人と交わる】 「さるくガイドブックを作ろう」 修学旅行に向けて、自分の住む地域のすばらしさを理解し、他県からの観光客に長崎の観光スポットを紹介する。	南蛮屏風 貿易品
2	【人と交わる】 「学級討論会をしよう」 バリアフリー施設について博物館を見学し、自分の考えをまとめ発表する。	【人の思いにふれる】 「歴史のとびら」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。	【先人に学ぶ】 「くんちのしやぎり」 くんちを味わいたい、伝統芸能について調べてみる。	【先人に学ぶ】 「教科書美術館」 南蛮屏風のすばらしさを味わい、技法や画材等について調べ、工夫について考える。	【人の思いにふれる】 「ようこそ先輩」 歴史文化博物館研究員の話聞き、歴史に関する興味をもつ。 ☆博物館教育の普及に對する思いにふれる。	【人と交わる】 「行ってみたい国」 博物館研究員との関わりから、諸外国に對して興味やあこがれをもつ。	南蛮人来朝図 くんち資料	
3		【人の思いにふれる】 「暮らしと政治」 現在の裁判制度と奉行所での裁判制度に對して興味をもつ。 ☆裁判に對する思いにふれる。		【あこがれや志を表す】 「夢を集めて」 友達と話し合い、思い出や記念になる作品を共同で作る。	【先人に学ぶ】 1- (2) 勤勉・努力 自分がかつて今何に向かっているかを考える。		【あこがれや志を表す】 「世界の国と日本」 日本と関わりが深い国について調べたことをまとめる、これからの交流の仕方について考える。	犯科帳記録 世界航海図

貸出教材の活用について（平成18年度 長崎市立桜町小学校での実践）

西海市立瀬戸小学校 福田浩久

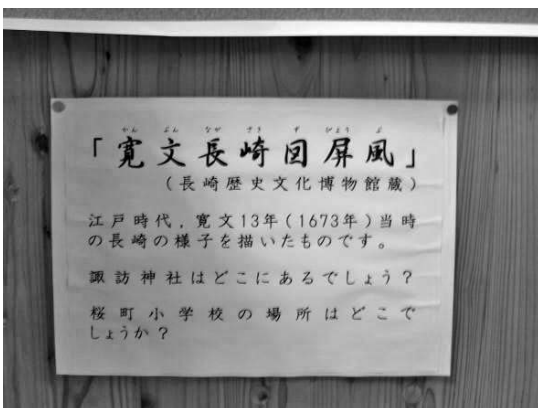
子どもたちに歴史への興味を持たせることを大きなねらいとし、校内3階の廊下に設置している掲示板「歴史コーナー」に、貸出教材を掲示しました。

（寛文長崎図屏風）



歴史コーナーには、次の物を掲示しています。

- ・歴史年表（等尺年表）
- ・6年生が社会科の歴史学習の時間に、単元のまとめとして制作している年表（写真の左下）
- ・貸出教材



貸出教材には、右の説明をつけました。

自分たちが住んでいる町や諏訪神社が絵の中に描かれていることに驚きを持ち、歴史について興味を持つ子どもがいました。

もっと早い時期（歴史学習を始める年度初め）から掲示をしておけばよかったと思います。

(長崎港図)



12月は「長崎港図」をお借りして掲示しました。

6年生は学習したことや知識をつなげて、「出島があるね」「これが唐人屋敷かな？」などと話していました。

新地は、現在と比べて様子がずいぶん違うせいか、よくわからなかったようです。

また、港に浮かぶ船の様子を話している子どももいました。

くんちの出し物「唐人船」「阿蘭陀船」などによく似ていると話していました。

よく見るといろいろな発見があるようです。

歴文の方は皆さん親切で、こちらの無理なお願いにもできるだけ対応してくださいませ。(それについつい甘えてしまうのですが…)

この貸し出し教材も「こんなのが使いたいなあ」というお願いに合わせて作っていただきました。

これを発展させ、「〇〇小ミニ博物館」なんていう取り組みもやってみるとおもしろいと思います。

中学校の実践報告について

中学校との連携では、社会や総合的な時間での活用が顕著である。

2008年度の協力校である長崎市立片淵中学校は、全学年が総合的な学習の時間に、何らかの形で博物館を活用した授業を行った。1年生は「地域を知る」をテーマに班ごとにコースとテーマを決めて現地見学や調べ学習をおこない3学期に劇形式で発表するというものである。2年生は「地域を学ぶ」をテーマに、地域の事業所や施設の職場体験をおこない、博物館もその中に含まれていた。3年生は「地域に参加する」をテーマに地域の方との交流の前に片淵の歴史を学ぶ取り組みで博物館を訪れた。全学年が博物館を利用することで、中学校教育の中で学校と当館がどういった連携できるのかを提示した実践例である。

また精道三川台中学・高等学校の小林正一先生は2008年度「吉村作治の新発見エジプト展」、2009年度「阿蘭陀とNIPPON展」、2010年度「実録・坂本龍馬展」、2011年度「孫文と梅屋庄吉展」という当館の企画展を活用した授業を展開した。

小林先生は学校での事前学習に活かすため、開幕前に展覧会の情報を把握したいという希望があり、当館からは資料画像や展覧会図面などをお渡している。企画展の開幕後には、生徒の見学当日に案内を担当する研究員が、同じお話しをしながら小林先生と一緒に事前に会場を回った。

生徒の見学を共に担当する教員と研究員が、生徒に見せたい資料や解説内容について事前に打ち合わせすることで、見学を通して生徒に何を学ばせたいのか共通のイメージを持つことができた。このような入念な事前準備は事前学習に反映されており、当日、生徒は目的意識を持って企画展の見学に臨む事ができていたように思う。

純心中学校の袖山道典先生は校外学習の時間を使い、全学年で博物館の見学をおこなった。1・2年生は「長崎の歴史」、3年生は「博物館や学芸員の仕事についても学ぶ機会」といったテーマに、当館と近隣のサント・ドミンゴ教会跡資料館をあわせて見学した。全学年で180名を超えていたため、見学前にガイダンスをおこない、見学はワークシートを用いての自由見学とした。そのため、ガイダンス内容の擦り合わせや、ワークシート、見学時間の調整などで事前に複数回打ち合わせをおこなっている。

中学校との連携においては、学習指導要領の改訂にともない、博物館を見学する授業時間の確保が難しくなっている。

「協力校、パートナーズプログラム」の実践では、カリキュラムの中で博物館を活用できる方法を考慮し、各学校の特徴に方針にそった工夫に満ちた実践をおこなっている。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

中学校 実践一覧

学年	教科	テーマ	学校名	年度
1年生	総合的な学習 の時間	地域を知る（長崎の伝統学習）	長崎市立片淵中学校	2008
2年生	社会、歴史分 野	幕府が鎖国をおこなう、新しい学問がおこ る（国学・蘭学）	精道三川台中学・高等 学校	2009
		開国 ペリー来航～幕府が倒される	精道三川台中学・高等 学校	2010
		歴史文化博物館を知ろう	精道三川台中学校	2011
	総合的な学習 の時間	地域を学ぶ（職場体験学習）	長崎市立片淵中学校	2008/2009
3年生	総合的な学習 の時間	地域に参加する（交流学習）	長崎市立片淵中学校	2008
		「地域学習」（実践案）	長崎市立桜馬場中学校	2008
全学年	社会・総合	「長崎の歴史を知る」	純心中学校	2010

1年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：地域を知る（長崎の伝統学習）	9月～2月	45時間
実践校：長崎市立片淵中学校		授業担当者：1年生職員		
目標	長崎の史跡や人物、伝統芸能を調査することを通して、郷土の伝統を理解する。 地域の伝統を知ること、社会の一員であることを知り自己の役割と責任を自覚させる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 「地域を知る学習」の意義を知り、コースを決定する。	2	○ 「地域を知る学習」のオリエンテーションを行い、学習の意義や目的について理解させるとともに、史跡・人物・伝統芸能のコースを選ばせる。	1	
2 班編成とテーマを決める。	2	○ コース別に分かれ、班を編制後、班ごとに研究テーマを決定させる。 ○ テーマが決まらない班は、下調べを行いながら少しずつ決定する。	1・2	
3 長崎歴史文化博物館の見学をおこなう。	2	○ 「オランダ人の見た幕末の長崎展」や「対馬展」、「くんち（常設展）」を学級ごとにローテーションで見学を行う。	1・2	
4 テーマに従い班ごとに調査活動を行う。	20	○ インターネットやその他の資料等を使い調べる、資料が不足した場合は、県立図書館等も利用する。 ○ 伝統芸能については、実演を目指し練習を行う。（ビデオ等の活用）	1・2	
5 発表会で調査結果を発表する。	18	○ 発表会を目指し準備、リハーサルを行う。 ○ 劇形式で、司会者が演技しながら進行する。	1・2・3	
6 活動の評価をおこなう	1	○ ワークシートにて反省、感想を書く	1・2・3	
評価規準	<p>1 地域に関する内容に、興味関心を持ち進んで学習を行うことができたか。 （関心・意欲・態度）</p> <p>2 さまざまな情報から分析し、学習内容や、経験したことの内容を理解できたか。 （知識理解）</p> <p>3 地域の伝統を知ることによって社会の一員であることを知り、自己の役割と責任が自覚できたか。 （自己理解）</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 10月の長崎歴史文化博物館の見学は、生徒にとってテーマを絞り込んでいく上で大変有意義なものとなった。
- 「オランダ人の見た幕末の長崎展」「対馬展」「くんち」をローテーションで見学し、さらに「長崎奉行所」を最後に見学させていただいたが、発表会の中での劇や芸能等にその成果が表れていた。
- 見学中、博物館のスタッフの方々に展示物の説明をして頂き、生徒の理解も深まったようである。

2年生	教科：社会	単元名：幕府が鎖国をおこなう、 新しい学問がおこる（国学・蘭学）	10月～11月	5時間
実践校：精道三川台中学・高等学校		授業担当者：小林正一		
目標	「阿蘭陀とNIPPON」展を通して、教科書を通して学習した内容を基本としながら、互いの交流と そのことから生まれる生活や文化の変化を感じ取る。 この見学から今まで何気なく見ていたものにも「なぜ・どうして」を考え、調べたり、考察したりする 力を育てる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
幕府が鎖国をおこなう	1	以前に学習している貿易（ここでは、勘合貿易と朱 印船貿易）の内容や特色を確認しながら、生活や文 化から変化を感じ取ろうとしているか。	言葉として捉える傾 向が強いので、導入 段階で資料を有効活 用しておくべきだっ た。	
町人文化が花開く	1	町人中心に広がる文化の中から、今まで交流のあつ た国の影響を受けた部分を探そうとしているか。	元禄・化政文化を紹 介することと入試へ の出題頻度の高いも のへの解説に大部分 をとられた。	
新しい学問がおこる	1	蘭学を通して洋学へ広がっていく中で、オランダに ついて興味・関心を持たせたか。	事前に資料を集め、 見せておけばよかつ た。	
見学事前指導として 展示物一覧を配布し 自分が見てみたい展 示物を決める。 そのあと、場所ごと の資料を見せ、自分 が具体的にみたい物 を3点ほど考えさせる。	1	興味・関心を高めさせるための説明をしながら 資料を見せることができたか。	説明できる部分が少 なかったため、生徒 が選んだ物に偏りが 出てしまった。	
見学当日	1	自分が選んだチェックポイントに関する具体的な説 明からアピールポイントを見つけ出しているか。	時間に余裕を持たせ て、質問や振り返り ができるように計画 するべきだった。	
評価 規 準	<p>◎見学から新しいこと、気づいていないことを探し出そうとしているか。</p> <p>◎自分から「なぜ、どうして」を探し、それを解決するために解説を読んだり、 説明を聞き取ったりして、記録しているか。</p> <p>◎自分が見たことを人に伝えられるようにまとめようとしているか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

今回で2回目となる長崎歴史文化博物館の見学は、授業で学習した内容に関連する展示物を見ることで知識や考える力の幅を広げるのにとっても有効である。

1時間ぐらいの見学時間内に、より具体的に特定の資料を深く考察できるようにするために、学芸員や職員の方に特定の展示物（またはエリア）にスポットを当てて説明していただいている。

事前に資料を見せて指導をした上で、相談しておいた説明を生徒たちに聞かせる。そのあと、自分がより深く考察したい展示物を自由に見学させるスタイルを取っている。

今回は人数が20名ほどだったが、40名ほどの場合は2グループに分け、具体的で専門的な説明と自由見学を交互に実施した。

専門の知識で裏打ちされた具体的な説明を頂くことで、「わかる喜び」「気づく喜び」をより強く体感させることができた。これからはいろんな展示会の機会を有効に活用させていただきたいと思う。

事後指導でレポートを提出するように指導した。

事前指導で自分が関心を持った展示物を「チェックポイント」の欄に記入し、それを見学当日の説明で確認する。説明をしていただきわかったことをメモして振り返りながら、まだ見ていない人や具体的な説明を聞いていない人に自分が伝えたいことを「アピールポイント」の欄に記入させた。

このレポートの内容に偏りが見られ参考にしていただけない結果となった。これは、ゴールを意識した指導が十分にできていなかったためであると考え。レポートの書き方を指導する必要があったかもしれない。

大変お世話になり、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

2年生	教科：社会	単元名：開国 ペリー来航～幕府が倒される	9月～10月	5時間
実践校：精道三川台中学・高等学校		授業担当者：小林正一		
目 標	教科書で学習した内容を基本に、開国から尊王攘夷運動が高まり、大政奉還へ至る流れを確認する。 「実録・坂本龍馬」展の見学から、関わる人々の考えや思いを感じ取る。 展示物の中から「なぜ・どうして」を見つけ、自分の考えを持つ。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
黒船来航～不平等条約成立	1	黒船来航の目的と不平等条約成立までの流れの定着を図る。	展示品から多くを探ろうとしているか。	
幕府への批判が高まる	1	大老井伊直弼の政策（安政の大獄）とそれに対する反応（桜田門外の変）の中で、尊王攘夷論が広がっていくことを理解させる。		
幕府が倒される	1	長州、薩摩を中心に展開する倒幕運動の流れを理解させる。		
見学事前指導	1	次ページ掲載のワークシートを使って、見学の準備を指導する。		
見学当日	1	学芸員から会議室で事前説明をいただき、貴重な資料の中から探してほしいポイントを伝えて見学開始		
評 価 規 準	<p>会場でいただく実録坂本龍馬展のこどもガイド会場マップに記載されている10点の資料を全員共通の見学内容とした。</p> <p>それに加えて学芸員と相談の上で決めた3つのテーマ</p> <p>数多い龍馬の手紙の中で龍馬の印鑑が押されたものとその手紙に込められた龍馬の思い</p> <p>カステラレシピの書かれた資料とその目的</p> <p>船中八策中の龍馬コード（○○○の部分）に誰の名を書き入れるか</p> <p>を組み合わせた。</p> <p>その中で</p> <p>◎見学から新しいこと、気づいていないことを探し出そうとしているか。</p> <p>◎自分から「なぜ、どうして」を探し、それを解決するために解説を読んだり、説明を聞き取ったりして、記録しているか。</p> <p>◎自分が見たことを人に伝えられるようにワークシートにまとめているか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

長崎歴史文化博物館 特別展「実録・坂本龍馬展」 見学ワークシート

精道三川台中学校 2年 番号（ ） 氏名（ ）

予習編：調べてみよう

龍馬の生年月日	
龍馬の出身地と身分	
龍馬と親しかった人たち	
龍馬の特技	
龍馬と関わりの深い組織	
龍馬が活躍した場所	
龍馬を支えた人たち	
龍馬語録	

予習編：確認しておこう 空白を埋めて完成させよう

	いつ	誰が	どこで、どこに	何をした(された)
	1853年	ペリーが		
①	1854年		神奈川で	
②	1858年	ハリスが		
③		井伊直弼が		尊皇攘夷を主張する武士たちを処分した
④		井伊直弼が	江戸城 桜田門外で	
⑤	1863年	薩摩藩が		イギリスと戦争をした
⑥	1864年	長州藩が	()	の艦隊と戦争をした
⑦		竜馬が	京都で	同盟の仲立ちをした
⑧	1867年	徳川慶喜が		政権を朝廷に返上した

見学編：探してみよう

ポイント	チェック	感想や気づいたこと
ポイント1		
ポイント2		
ポイント3		
ポイント4		
ポイント5		
ポイント6		
ポイント7		
ポイント8		
ポイント9		
ポイント10		

見学編：深めてみよう

テーマ	番号	自分の考え
龍馬の印鑑が押されている手紙の番号とその手紙に込められた思いについて		
カステラレシビの書かれた展示品番号とその目的		
船中八策中の龍馬コードに君なら誰を書き入れるか		

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回3回目となる長崎歴史文化博物館の見学は、授業で学習した内容を深めることのできる展示物を見ることができた。それによって歴史の事実を確認して、より深く洞察するためのとても有効な機会となった。約1時間の見学時間内に、より具体的に特定の資料を深く考察できるようにするために、学芸員や職員の方と事前の相談に対応していただいた。特定の展示物（またはエリア）にスポットを当てて洞察できるように、助言をいただいた。

今回も、事前に資料を見せて指導をした上で、相談しておいた説明を学芸員にしていただいた。そのあと、自分がより深く考察したい展示物を自由に見学させるスタイルを取った。

今回は20名だったが、専門の知識で裏打ちされた具体的な説明を頂くことで、「わかる喜び」「気づく喜び」をより強く体感させることができた。これからもいろんな展示会の機会を有効に活用させていただきたいと思う。

事後指導でワークシートを提出するように指導した。

事前指導で伝えた10個の展示物を「チェックポイント」の欄に記入し、それを見学当日に確認する。説明をしていただきわかったことをメモして、まだ見ていない人や具体的な説明を聞いていない人に自分で伝えられるように観察するように指導した。

このレポートの結果を一部報告したい。

テーマ1は自分の危険な立場を考え、お龍の安全や保護を心から願う龍馬の強い愛情が感じられるという内容のコメントが多かった。

テーマ2は「船を買うため」6名、「珍しいからその味を伝えたい、残したい」5名が多かった。

テーマ3は「勝海舟」8名、「桂小五郎（木戸孝允）」4名、「西郷隆盛」3名、「本人」1名などであった。

大変お世話になり、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

2年生	教科：歴史分野	単元名：歴史文化博物館を知ろう	9月末～10月中	6時間
実践校：精道三川台中学校		授業担当者：小林正一		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「孫文と梅屋庄吉展」を通して、二人の生涯に触れ、その状況を理解する。 ・常設展を見学し、長崎の歴史や文化、生活を見つめ直す。 ・バックヤード（収蔵庫や古文書の修復作業）を見学・体験し、資料保存、復元の重要性を確認する。 ・じぶんが見つけた「知らなかったこと」を分かりやすく伝える。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
企画展コース 常設展コース バックヤードコース の説明と班分け	1	ポイントを押さえた説明ができているか。		
ワークシート配布 各見学の内容から担当決定 (図録やパンフレットから テーマや場所を相談しながら 決める) 生徒からの質問に答えながら、 注意事項も伝える。	1	「伝えること」を考えて、 テーマを探しているか。		
見学当日 引率担当は下記のとおり 企画展コース(一瀬、教員) 常設展コース(下田、教員) バックヤードコース (加藤、小林)	1	指導してくださる方の説明を 聞く態度はよかったか。 決めたテーマに関する資料を 丁寧に調べたか。		
班ごとにワークシートを 元に発表用壁新聞作成	2	各自の原稿が分かりやすく 伝わるようにまとめられて いるか。レイアウトや枠取りを 相談して、決めているか。		
発表会	1	聞きやすく、分かりやすく 伝えることができたか。		
評価 規 準	<p>コースごとに知らないこと、重要なことを探そうとしているか。 分かりやすく伝えるための努力や工夫を実行しているか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回の企画展見学では、教科書で学習していない内容であったため、生徒の意欲・関心を高めにくかった。そこで、歴史的観点からの考察ではなく、孫文と梅屋庄吉という人間を見つめ、行動や業績などをできるだけ多面的に考察するように指導した。

教科書、事典、資料集や図録を活用して積極的に調べる生徒が多く、上手に分担して発表会も分かりやすく伝えるという目標は達成できたと思う。

上の写真のように、バックヤードコースで古文書に関わる仕事の一部を体験させていただけたことを大いに感謝している。

これからの課題として、年に1度の企画とせず継続観察をして、自分自身の成長を実感できるような見学にしていきたい。

コースごとに指導、説明をお願いしました歴史文化博物館の職員の皆様、ありがとうございました。

知ることの喜びを、一人でも多くの生徒に実感させることができるよう工夫していきますので、よろしくお願いします。

2年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：地域を学ぶ（職場体験学習）	9月～2月	57時間
実践校：長崎市立片淵中学校		授業担当者：2年生職員		
目標	実際に働く体験を通して、望ましい職業観・労働観および職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	1 職場体験学習の意義を知り、体験場所を考える。	4	○ 職場体験学習のオリエンテーションを行い、体験学習の意義や目的について理解させるとともに、自分にあった事業所について考えさせる。	1
	2 電話で、生徒自身が事業所へ体験学習の依頼を行う。	4	○ マニュアルに従い、班員が協力して電話のかけ方を工夫し、趣旨を事業所にわかりやすく説明し、必要事項を聞き逃さないように電話依頼を行う。	1・2
	3 職業に関わる講話を聴き働くことの意義を考える。	4	○ 海上保安庁の保安官の方より、業務内容や進路・適性について講話を聴く。 ○ ハローワークの職員の方より、働くことの意義や注意点・態度について講話を聴く。	1・2
	4 体験する職業や事業所について調べ学習を行う。	8	○ 体験する事業所や職業について、インターネットやその他の資料等を使い調べる、調査結果を画用紙にまとめる。	1・2
	5 体験学習を行う。	26	○ 事前に事業所に行き、電話で打ち合わせを行わせる。また、生徒に対しては、事前指導をしっかり行い、態度や注意事項を理解させる。 ※歴史文化博物館では、講義や古文書の修復体験などの体験を行う	1
	6 発表会で体験の様子を発表する。	11	○ プレゼンテーションソフトを使用し、グループごとに発表を行う。 ○ 発表の中で、感想や感謝の持ち、自分が成長したところを述べさせる。	1・2・3
評価基準	<p>1 グループの仲間と協力し、意欲的に体験学習や事業所への依頼、調べ学習を行うことができたか。（関心・意欲・態度）</p> <p>2 体験する事業所の特色や職業につくまでの進路や適性について、計画的に調査を行い、体験の様子を的確に発表することができたか。（課題解決）</p> <p>3 体験を通して、働くことの意義や自分の個性を理解し、進路の目標について考えることができたか。（自己理解）</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 約100名の生徒が様々な事業所で体験活動を行った。うち、4名が歴史文化博物館で体験学習をさせていただいた。3日間の体験であったが、1日は休館日と重り2日間の学習となってしまった。日程等を考えたい。
- 講義や古文書の修復体験、パンフレットや招待状の仕分けなどの体験をさせていただいた。
- 体験後は、学年で発表会を行い、博物館の方からいただいた写真データをもとに体験を発表した。
- 生徒は、体験活動を終え充実感を持つことができた。長崎歴史文化博物館のスタッフの方々には、大変感謝している。

2年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：地域を学ぶ（職場体験学習）	5月～1月	29時間
実践校：長崎市立片淵中学校		授業担当者：2年生職員		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習を通して、働く人々と接して、自分の生き方を考えさせる。 ・労働の中から、社会人としてのマナーやルールを学ばせる。 ・自分を支えてくれている地域や家族に感謝の気持ちを育む。 ・周りの人に頼らず、自分で考え、行動する力を身につけさせる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 職場体験学習の意義を知り、興味のある職種や将来希望する職種を考える。	2	○職種を大まかに分類させ、自分が現在最も必要とする職種を考えさせる。職種ごとのプレアンケートを実施する。	1	
2 実際に自分が体験を行いたい職種を決定する。	2	○昨年度の職場体験学習の資料をもとに、自分が実際に体験してみたい職業を第3希望まで挙げさせ、アンケートを行う。（昨年度と同じ職場でなくてもかまわない。） ○生徒のアンケートをもとに、7～8月中に担当教師によって、職場体験学習の許可を得るために事業所へのアポイントを取る。（なるべくアンケートの第1希望がかなうように、努める。）	1	
3 体験学習を許可された職場から、自分の体験したい職場を決定する。	1	○受け入れ人数に限りがあるため、必ずしも生徒本人の意向に添うようにはならないが、できる限り本人の納得がいくような職場決定に努める。	1	
4 職場への打ち合わせに行くためのアポイントをとる。	2	○電話での事業所への対応の仕方や、言葉遣いをしなければならぬ理由を十分に理解させ、練習を繰り返した後に、日時等を間違わぬように注意を促した。	1	
5 職場への打ち合わせ	2	○実際に生徒自身が打ち合わせに行くため、事前に服装や言葉遣いなどの礼儀作法を十分に指導した。	1	
6 職場体験学習事前指導	1	○職場体験学習前日を迎え、しおりなどの忘れ物がないように徹底指導を行う。	1	
7 職場体験を行う。	18	○実際に職場体験学習を行う。担当教師は各事業所や公的機関等、お世話になる職場に挨拶に行くと共に、十分に生徒の様子を観察し、デジタルカメラを用いて、写真を記録しておく。	2. 3	
8 職場体験学習事後指導	1	○各職場へ御礼状を書くことによって、己の体験学習を振り返る。	3	
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 仲間と共に協力し、主体性を持って職種や職場を選択し、積極的に事務所等へのアポイントメント等の学習ができたか。（関心・意欲・態度） 2 毎日の職場での、体験学習を通して、社会人としてのマナーやルールを少しでも自分の身につけることができたか。（課題解決） 3 体験学習を終えて、働くことの意義や自分の個性を理解し、進路の目標について考えることができたか（自己理解） 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

- ・感想文は先日、「お礼の手紙」としてお送りしたとおりです。お世話になりました。
- ・作品は長崎歴史文化博物館の方で作成したようすなので、こちらにはありません。
- ・デジタルカメラの故障のため、現場の記録写真があいにく撮れておりませんでした。せっかく体験学習を快く引き受けていただいたのに、申し訳ございません。
- ・ノート、ワークシートは職場体験のしおりの中に含まれておりますので、別冊として送付させていただきます。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

○97名の生徒が様々な事業所で体験学を行いました。うち、2名が長崎歴史文化博物館にて職場体験学習をさせていただきました。3日間の体験学習の中で、多くのことを学び、両名の生徒にとっても充実した3日間となりました。ご迷惑をおかけいたしました。たいへんよい学習の場となりました。心より感謝しております。今後もこのような機会に恵まれましたならばよろしく願いいたします。

○パンフレットの仕分けや道教の美術に関する下絵作成などを体験させていただきました。

○本年度より、総合的な学習の時間が大幅に短縮されたため、昨年は57時間の職場体験学習に関する時間がとれましたが、本年度は29時間となったため、生徒自身による、職場体験学習の許可をいただくための電話をかける時間や、体験学習後の発表会の時間などがとれませんでした。ただ学級活動の時間において、各職場ごとの簡単な壁新聞をつくることができましたので、写真を掲載いたします。

長崎歴史文化博物館

(体験内容)

1日	2日	3日
9:15 朝会(自己紹介)	9:30 チラシを決められた女子が分科資料箱に入れる(昨日の集まり)	9:30 展示品のめり紙を製作
9:30 館内の見学	館長へのあいさつ	12:00 昼食
11:00 朝食	龍馬伝館のフグメントなどの企画	1:00 展示品の設置
1:00 チラシを決められた女子が分科資料箱に入れる	12:00 龍馬伝館のフグメントなどの企画	いろいろな資料の展示のパンフレットを各部署の扉に貼る
3:30 展示品の入れ替え	1:00 古文書の修復体験	道庁県ごとに貼る
4:00 終了	4:00 和紙の日記製作	4:00 終了

午前中は、龍馬伝館や龍馬伝館の展示品や古文書などを見学させていただきました。古文書は龍馬伝館とは、約2枚の資料を保管している状態のようです。

和紙を使った古文書の修復作業を行いました。和紙は虫に食われてしまうため、修復が簡単に行えるよう工夫されています。

今年開催される道教の展示品のめり紙製作を行いました。展示品のめり紙を貼る作業です。めり紙は展示品のめり紙を貼る作業です。めり紙は展示品のめり紙を貼る作業です。

このようにしています。

組織図

```

    名誉館長
    館長
    総務部長
    経営管理グループ(15名)
    広報管理グループ(3名)
    教育研究グループ(12名)
    職員65名
    ボランティア160名
    
```

活動内容

- フロアスタッフ(15名)
- 設備(4名)
- 警備(1名)
- ショップスタッフ(9名)
- 清掃(5名)
- ボランティア(約160名)

感想

ただいま龍馬伝館 人気アツク!!

服装。特に決まっていなくても、フロアスタッフの方達は、447服を着ています。

仕事内容 1~3日間

9:30 ~ 9:45 朝礼 ~ 12:00 ~ 1:00 業務

2:00 ~ 4:00 業務 ~ 4:20 ~ 4:30 朝礼

職員65名
ボランティア160名

感想

ただいま龍馬伝館 人気アツク!!

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：地域に参加する（交流学習）	9月～2月	67時間
実践校：長崎市立片淵中学校		授業担当者：3年生職員		
目 標	地域の方との交流を通して、社会の一員であることを自覚させ、社会に役立つという成就感を味あわせる。			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	1 「地域との交流学習」の意義を知り、コースを決定する。	2	○ 「地域との交流学習」のオリエンテーションを行い、学習の意義や目的について理解させるとともに、高齢者・地域・外国人のコースを選ばせる。	1
	2 交流会に向けて準備を行う。	20	○ コース別に分かれ、交流会（高齢者・地域・外国人を学校に招待する）の内容を検討し、準備を行わせる。	1・2
	※ 長崎歴史文化博物館の見学をおこなう。 （地域コース40名）	2 2	※ 常設展の見学を行い、学芸員の方から長崎の古い地図を使い地域の歴史について説明していただく。 ※ 片淵中に隣接する城跡の現地見学を行う。	1・2
	4 交流会をおこなう。	3	○ 老人ホームに出向き交流をおこなう。 ○ 外国人を学校に招き交流会を行う。	1・2・3
	5 発表会に向けて準備を行う。	37	○ プレゼンテーションソフトを使用し、まとめる。 ○ 発表会を目指し準備、リハーサルを行う。	1・2・3
	6 発表会で調査結果を発表する。	1	○ ワークシートにて反省、感想を書く	1・2・3
評 価 規 準	<p>1 自らの力で追求できる適切な課題を設定し、計画的に活動をすすめたか。</p> <p>2 学習した内容から新たなことを洞察することができたか。</p> <p>3 地域との交流を通して、社会の一員であることを自覚し、社会に役立つ成就感を味わうことができたか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 学校周辺の地域に、多くの城跡や石垣が点在しており、博物館の担当の方の講義は非常に参考になり、興味をひくものであった。担当の方には感謝したい。
- 後日、現地でのフィールドワークを行い、現地を確認し、生徒の多くが感動を覚えることができた。
- 来年度は、今回の学習を元に、どのように調査を深め、発展させるかを考えていきたい。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「地域学習」	10月	8時間
実践校：長崎市立桜馬場中学校（実践案）		授業担当者：学年担当職員		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の郷土史を学び、郷土への愛情を育てる。 ・グループ学習（班活動）や集団行動を通して、学び合う姿勢を養う。 ・地域・郷土において学んだ内容を整理し、発信させる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1, 活動概要の説明 班編制, 学習テーマの設定と発表形態	1	○活動内容の説明を行い、活動班を作り、班でテーマを設定する。（「さるくガイドマップ」に載せることを意識した話し合いをさせる） 発表形態については、パワーポイント、模造紙、OHP、寸劇等工夫させる。	社会科	
2, 事前指導と全体注意 博物館見学とレポート作成	6	○人数が多いので、グループAは博物館へ、グループBは立山防空壕へむかい、2時間で交代させる。館内やさるくガイドの方々に迷惑をかけないようにし、質問なども活発に行わせる。 ○午後からは、レポート作成なので、資料などを活用し、発表形態にそくしたものをつくらせる。さるくガイドマップ用も同時につくらせる。		
3, レポート作成提出。	1	○最終まとめをさせる。		
評価 規 準	<p>○文章や絵図（資料）を使い調和のとれた「さるくガイドマップ」の作成を通して、郷土長崎について主体的・体験的に学ぶことができたか。（学び方・考え方）</p> <p>○テーマをもとに、地域文化を理解し、発信しようとする工夫ができたか。（問題解決能力）</p>			

全学年	教科：社会・総合	単元名：「長崎の歴史を知る」	7月～11月	6～8時間
実践校：純心中学校		授業担当者：袖山道典		
目 標	①現在住んでいる長崎の地理，歴史を学び，見聞を深める。 ②歴史的遺構の価値を知る。 ③公共のマナーをわきまえ，団体行動を意識する。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 課題研究 (夏休み中) 中2，中3は，夏休みの課題として，課題研究「長崎を知る」に取り組む。	2-4	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提示については，各自が自主的，主体的に調べられるよう，全員別の項目（くじで選んだ内容）とし，それぞれが調べ，課題を見つけ，それをまとめる形にする。 使用した資料は，本の場合は書籍名等，インターネットの場合はアドレスを記入し，出典を明示するよう，指示を出した。 	社会科の評価に加える。	
2. 事前学習	1	<ul style="list-style-type: none"> 別紙のワークシートを用い，見学上の注意をおこなう。 前日学級担任よりも諸注意をする。 	学校側でワークシートを作成。	
3. 当日 入館式 ①学芸員講話 ②常設展見学 ③サント・ドミンゴ 教会跡資料館見学 退館式 ①～③は学年毎に行う。	3	<ul style="list-style-type: none"> 2010（平成22）年11月5日（土）に見学。 入館式，退館式は全員で参加。 各学年ごとに①学芸員講話，②長崎歴史文化博物館常設展見学，③サント・ドミンゴ教会跡資料館見学を実施。 1，2年は長崎の歴史を中心に，3年は加えて博物館や学芸員の仕事についても学ぶ内容とする。 公共の施設を見学することを念頭に置き，マナーなどについても各自心がけるようにする。 	常設展見学については，各自ワークシートを記入しながら，見学を行う形とする。	
4. 事後学習		<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを完成し，感想まで記入し，学級担任に提出。 		
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 長崎の地理や歴史を主体的に学ぼうとしたか。 自ら調べた内容と見学して理解した内容をまとめることができたか。 ワークシートをていねいに記入し，提出することができたか。 歴史的遺構の価値を学ぶことができたか。 公共のマナーをわきまえ，中学生として自覚を持った行動ができたか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- ・本校としてはめずらしく校外での学習となったため、要領がつかめず、打ち合わせ等に苦労した。しかし周りの教員の協力を得ることができ、実り多い見学にすることができたのではないかと思います。
- ・教師側からも生徒側からも感想は良好であった。日程が先に決まってしまう、常設展の見学のみになってしまったのが、心残りであった。カトリックの信者の生徒はサント・ドミンゴ教会跡資料館の内容に感動していた。生徒たちは歴史文化博物館にまた行ってみたいと感想を述べた。また今後も校外で楽しみながら学習する機会があることを期待しているようである。
- ・ワークシートについては見学を決めたときから作成しようと考えていた。中学生にふさわしい内容のワークシートづくりは、数か月考え苦心した。結局中学校の歴史教科書に加えて、高校日本史Bの内容で取り上げるものを中心に、著名な内容とした。ワークシートがあったことは、教員、生徒とも好評であった。ただ実際の見学を通してみると、ワークシートの内容が豊富であり、生徒は記入することで手いっぱい、見学に集中できなかったのではないかとの声も聞いた。またワークシートの記入に展示ケースを利用してしまい、係の方にご迷惑をおかけしてしまったのが申し訳なかった。
- ・生徒たちの行動として、集合～解散まで各自けじめをつけ、自覚を持って行動できたように思う。

高等学校の実践事例について

高等学校教員のパートナーズプログラムへの参加は2010年度からである。

高等学校の授業では、校外学習の機会は少なく、県内の高等学校来館数は伸び悩んでいる。しかし、博物館での見学を活きた歴史学習の場としてとらえ、博物館との連携によって長崎の歴史を知ること、歴史をより身近に感じて欲しいと考える参加者も多い。

長崎県立明誠高等学校の橋本正信先生は、総合学科制の設定科目として開設している「郷土研究」講座で、学校に講師を招聘しての特別講義や博物館での研修など、連携した授業を実施している。

長崎県立鳴滝高等学校の藤村誠先生は日本史選択者を対象に博物館の展示室とバックヤードの見学をおこなった。通常の授業で町歩きを取り入れているため、館内の展示とリンクする場面も多く、バックヤード見学は職業選択の1つの参考としても有意義であると述べられている。

長崎県立希望が丘高等特別支援学校の陶山美紀先生は、郷土への思いを深めることを目的に移動博物館と出張授業を学校でおこなった。移動博物館での体験を通じた学習や出張授業での資料の読み解きを通して、長崎の歴史についての学習を深める機会となったようである。

また高校卒業後に長崎を離れる生徒も多いため、進路決定者を対象にした授業をおこなう参加者もあり、純心女子高等学校の袖山道典先生は博物館見学を、活水高等学校の岩永崇史先生は出張授業を実施している。

高等学校の実践数は限られているが、それぞれの学校の特徴に応じた実践がされている。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

高等学校 実践一覧

学年	教科	テーマ	学校名	年度
1年生	世界史A	近代の世界史（実践案）	長崎県立長崎西高等学校	2010
2年生	生活単元学習	出島～世界と日本の交流の窓口	長崎県立希望が丘高等特別支援学校	2010
3年生	世界史	辛亥革命	活水高等学校	2011
	地歴・公民	「長崎の歴史と平和を考える」	純心中学校・純心高等学校	2011
	日本史B		長崎県立鳴滝高等学校定時制昼間部	2011
	日本史	江戸時代の文化	活水高等学校	2011
2・3年	日本史	幕末の日本	活水高等学校	2010
	総合	「郷土研究」講座	長崎県立長崎明誠高等学校	2010/2011

1年生	教科：世界史A	単元名：近代の世界史	10月～2月	4時間
実践校：長崎県立長崎西高等学校（実践案）		授業担当者：安達典久		
目 標	「長崎から見える世界史」ヨーロッパ・アジアの近代史における長崎とのかかわりを調べ、歴史を身近なものとする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
ロシア最後の皇帝ニコライ2世と長崎	2	世界史の中のロシア帝国は、クリミア戦争に破れた後に近代化を進めるが、国内に矛盾を抱え、周辺国を侵略することで国民の不満をそらそうとしていた。 地中海進出をねらった南下政策は、ことごとく失敗し、冬でも凍らない港「不凍港」を目指して、アジアに進出してくる。第二次アヘン戦争といわれるアロー戦争の条約を仲介したため、国境条約の北京条約を清と結び、ウラジヴォストーク港を手に入れる。さらに南下を目指すロシアに対して不信をいだく日本。このような世界情勢の中、皇太子であったニコライの日本・長崎訪問が実現している。その後起こる皇太子殺傷事件「大津湖南事件」とともにその時代を探訪していく。	世界史Aは、高校生の必修科目であるが、週二時間の単位では、とても、世界史全般を網羅できない。そのため現代を知るに必要な近代史に力を入れている。	
孫文と長崎	2	19世紀末から20世紀にかけての中国の民族独立運動を、孫文の活躍を通して見ていく。孫文の三民主義や中国国民党の創立にふれながら、長崎を何度も訪れ、華僑や日本の友人の援助によって活動できた軌跡をおう。梅屋庄吉との友情の話も加える。	しかし、世界の歴史は範囲が広く、様々な国が時空を超えて交差するので把握が難しい。 まずは郷土の世界史との関わりから、生徒の興味を引きだし、実のある歴史の授業を目指している。 「孫文と梅屋庄吉」のビデオや本を紹介していく。	
評 価 規 準	(1) 身近な長崎の歴史から、世界の歴史が垣間見られたか。 (2) 教科書や図説に出てくる人物が、長崎を訪れた経緯を調べ、その内容と影響が把握できたか。 (3) 世界と日本を繋ぐ国際都市であった長崎を、君たちのアイデアと努力でどう発展させていけるのかを考え得たか。 (4) 高校生らしい新しい発想で、長崎の歴史をアピールできただろうか。			

2年生	教科：生活単元学習	単元名：出島～世界と日本の交流の窓口	7月6～14日	20時間
実践校：長崎県立希望が丘高等特別支援学校		授業担当者：2学年担当職員		
目標	○鎖国時代の長崎の様子を知り、郷土への思いを深める。 ○テーマに合わせた公共施設の利用法、マナーを確認する。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 江戸時代の長崎の様子を知る①	0.5 ×4	○江戸時代の歴史背景について理解する。 ○日替わりで4つのテーマ「江戸時代」「シーボルト・天草四郎・坂本龍馬・グラバー」「ペリー」「出島・鎖国・南蛮屏風・カステラなど」にあわせて本をクラスに配布し、気に入った情報を見つけたら、付箋に名前と、感想を記入して貼っておく。 (本は県立図書館へテーマを伝えて借用)	国語：読書の時間	
2. 7月の生活単元学習について	1	○7月の生活単元学習について日程、内容説明。 ○デリバリーミュージアムでのマナー確認。 ○たらみ図書館、多良見体育センターでのマナー確認		
3. 江戸時代の長崎の様子を知る②	0.5 ×2	○江戸時代について教科書で確認。 ○問題集を解いて、内容を確認。		
4. 昨年の出島見学の復習	1	○昨年の出島見学で学んだことを思い出す。プリントで確認。		
5. 江戸時代の長崎の生活を知る(デリバリーミュージアム)	1	○中国との交流を知る。 ○貿易品の値段当てクイズ等、展示品を通して長崎の生活を知る。 ○当時の日本が長崎の出島を通して世界と交流しており、様々な文化や珍しい物が入って来ていたことを理解する。		
6. 出島についての研究テーマ決め	1	○出島について、もっと詳しく知りたいことをクラスでテーマを決める。 ○県立図書館より借用した図書を利用してテーマを絞る。	国語：文章読解	
7. 歴史文化博物館による出張授業	1	○出島での生活について詳しく知る。 ○出島の生活絵図のパズルを完成させることを通して、生活の様子を細かく見る。		
8. テーマについて調べる①	1	○県立図書館から借用した図書を利用してテーマについて調べる。	国語：文章読解	
9. お礼状書き	1	○自分達の学習が多くの人の協力で成り立っていることを理解する。	国語：手紙	
10. テーマについて調べる②	3	○たらみ図書館でクラスごとに調べる。	国語：文章読解、壁新聞作り	
11. 出島から入ったスポーツを体験	3	○多良見体育センターでバドミントンを体験する。	体育：バドミントン	
12. 発表会	3	○テーマに沿って模造紙にまとめる。 ○学年での発表会を行う。		
評価 規準	◎生徒が目標を持ち、見通しを持って、単元の活動に積極的に取り組めたか。 ◎一人一人の生徒が力を発揮し、主体的に取り組むと共に、集団全体で単元の活動に共同して取り組めたか。 ◎豊かな内容を含む活動で組織され、生徒が多種多様な経験ができるよう計画されたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

（生徒の感想文より）

○私は歴史や人物のことがわかりました。知らないことがたくさんなので勉強になりました。

○印象に残ったのは、眼鏡橋の模型と絵巻物が印象に残りました。私は、あまり歴史文化博物館に行ったことがないので、今度行ってみたいと思いました。

○江戸時代の長崎にはオランダと中国の人達が貿易していた事を実際に自分の目で見たように知ることができました。

○一番すごかったのは、象の牙がすごかったです。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

本校は、来年度で創立20周年を迎える県下で唯一の高等特別支援学校であり、在籍している生徒は軽度知的障害を抱えているが、就労を目指し日々努力している。小学校在学時より、学校での学習に遅れがみられ、生徒の半数は中学時に特別支援学校や学級に在籍していた生徒が多い。本校では、授業での開講科目を絞り、「社会」や「歴史」などの教科を開講していないため、ほとんどの生徒が「出島」「踏み絵」「鎖国」「江戸時代」等といった単語を聞いたり、知ってはいるが、自分達の住んでいる長崎という土地と関連して考える機会がない。特別支援学校では、生徒の生活力の向上のために、校外学習や生活単元学習といった単元を設定することができ、今年の2年生は1年次で出島和蘭商館の見学と、長崎市内の見学を行い、2年生の5月には、島原市内に出かけ災害記念館や島原城、島原の乱等について学習を行った。

今回は学習を深める機会として歴史文化博物館によるデリバリーミュージアム・出張授業をお願いし、生徒の知的好奇心を引き出すことができた。知的障害のある生徒の特徴として、集中力に欠けることがあげられるが、今回デリバリーミュージアムでは、テーマごとに展示物を絞ってあったこと、実際に臭いを嗅いだり、触ったりできること、少人数で説明を受けられたことで集中力が持続していた。また、出張授業でも、少人数でパズルを組み立てながら、気付きを発見していく方法で一人一人が主体的に参加することができ、充実した時間を過ごすことができた。たまたま、今回は、1年生が翌日に歴史文化博物館へ校外学習に出かける予定があり、1年生もデリバリーミュージアムに参加させて頂いた。担当者によると、デリバリーミュージアムで興味・関心を持ったことを翌日もっと詳しく観たいと、生徒のモチベーションも上がり、当日も熱心に見学できたとのことだった。

3年生	教科：世界史	単元名：辛亥革命	10月	2時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：貝野尚子		
目標	1. 辛亥革命について、その歴史的意義を理解する 2. 長崎歴史文化博物館での見学を通して、具体的にモノや写真(映像)から歴史を見て学ぶ 3. 辛亥革命前後の長崎と中国のつながりを理解する			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
辛亥革命について	1	清朝末期、列強の進出の中で起きた辛亥革命の原因、経過、結果からその歴史的意義を学ぶ。また、革命の中心であった孫文の人物像を長崎との関わりを交えながら紹介。 博物館見学の予告と注意点を指導。		
博物館での見学	1	博物館の展示から孫文や梅屋庄吉の人間像、長崎という土地と中国との関係を学び、教科書の出来事ではなく、身近な歴史として感じる		
評価 規 準	○博物館での見学態度 ○レポート（特別展を通して学んだことをまとめる）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

生徒たちの感想

○とても楽しい一日でした。やっぱり実際に博物館に行くと本物に触れると、歴史がぐんと近くなる気がします。今まで「歴史上の1人」でしかなかった孫文が尊敬の対象としての認識にかわりました。「教科書の中の人」と考えるとどこか現実味がないような気がしていますが、むしろ教科書にのるくらいの壮絶な人間ドラマを持った人なのだという、当たり前のことを再確認させられた1日でした。

今回の見学で一番強く感じたことは「友情は国境を越える」ということです。梅屋庄吉さんと孫文さんは、当時の日中関係からみても、相当な危険をとまなう付き合いだったと思います。それでも支援をし続けた梅屋さんと、革命を訴えた孫文さんは、本当に強い絆で結ばれていて、お互いの信頼も厚かったのだと思います。そんな2人の友情がとても素敵だなと思いました。

○今まで梅屋庄吉のことが知られていなかったのに、このような特別展を通して映像を見たり、資料を見たりすることで様々なことを知れた私達は、同じ長崎の人として、日中関係がよりよくなるための架け橋にならなければいけないと思います。そのためには、知ることが1番大切だと思います。長崎は昔から中国との関わりが深く、知る機会はたくさんあると思うので、今回のような特別展に積極的に参加したいと思います。

また、中国に限らず、他国と日本の歴史を知ることによって、異文化・国際社会理解につなげていきたいです。私は今回の特別展を通して、今の日中関係があるのは梅屋庄吉のような人がいたからだと思うので、教科書に載っていない、偉人について興味が湧き、もっと知りたいと思いました。

○今まで梅屋庄吉という人物を全く知らなかったが、孫文を支援し、犬養毅や蒋介石など教科書に必ず載っている多くの人物たちと親交がある梅屋は、教科書に載ってもおかしくないくらい、すごい人物だと分かった。また、日本最古の映画製作会社（日活）をつくったのも彼だと知り驚いた。また、孫文だけではなく、親を亡くした子どもたちのために里親探しに積極的に活動した彼は、心が広く、優しい人だと思った。このような彼の性格だから、彼にはたくさんの人が集まり、大きな人間関係ネットワークが、日中関係が悪化してゆく中でも広がっていたのだと思う。長崎は本当に中国と近く、つながりが深い地域だと改めて感じた。

※レポートは①特別展で学んだこと ②感想の2点をまとめて提出させました。また、見学後図書館で、印象深かった展示や館内でおもしろかったものなどを振り返って話し合いました。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

長崎は中国との関わりが深い土地である。歴史の中で長崎は大きな役割を果たした。今回辛亥革命を学ぶにあたり、ちょうど100周年の特別展が博物館で展示があったので、孫文と長崎の関わりを深く追求できたらいいなと考え、博物館見学を授業の一つとして取り組むことを考えた。

活水はキリスト教建学の精神に基づき日曜は午前中礼拝のため、午後からの見学となった。初めて歴史文化博物館に来た生徒もいた。学芸員による説明を聞きながら特別展は回りたいと思い、少し時間があつたので先に大河ドラマ館を見学した。よく大河ドラマを見る生徒がいたので、興味津々に説明を読んでいた。時代劇(?)も催されていて、特別展に行く前にとっても楽しんだ様子だった。メインの特別展では、学芸員の方が一つ一つ丁寧に説明して下さったので、生徒もなるほどといった様子で話を聞いていた。一通り説明が終わった後、最初の展示室に戻って気になる展示物をじっくり見たり、聞き逃してよく分からなかった所の確認を行った。同じものを一緒に見ることで、それぞれが感じたことを共有できたのがよかった。

改善点としては、受験生ということもあつたのでその後の振り返りが十分にできず、レポートの提出のみに終わったこと。ただ、レポートを見る限りでは、博物館見学を通して歴史を身近に感じたこと、長崎という場所が歴史の発信地だったこと、人と人との交流は国を超えるということなど、多くのことを学べた。

今後は博物館で見るだけでなく何かの体験を通し、歴史は教科書や資料集の中だけのことではなく、生活の中に息づいているものと理解させるような学びを行いたい。

3年生	教科：地歴・公民	単元名：「長崎の歴史と平和を考える」	2月	3～6時間
実践校：純心中学校・純心女子高等学校		授業担当者：袖山道典		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在住んでいる長崎の地理，歴史を学び，見聞を深める。 ・歴史的遺構の価値を知る。 ・公共のマナーをわきまえ，団体行動を意識する。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 事前注意	1	・博物館利用上の注意を学年で実施。		
2. 当日の見学 点呼，バス乗車 ・学芸員講話 ・企画展見学 ・長崎奉行所見学 ・立山防空壕見学 お礼の挨拶	3	・2012（平成24）年2月7日（火）実施。 ・高3参加者121名。最初に全員で学芸員講話。 その後4グループに分かれ，企画展「孫文と梅屋庄吉展」見学，長崎奉行所見学，立山防空壕見学を実施。「孫文と梅屋庄吉展」は，博物館作成のプリントを活用。送迎バスを利用。ボランティアガイドさんの協力を得た。		
3. 事後学習	2	・クラス別に2グループで実施。1グループは翌日以降の原爆資料館見学に備え，平和学習。もう1グループで事後学習として，DVDを観覧。		
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の歴史を主体的に学ぼうとしたか。 ・歴史的遺構の価値を学ぶことができたか。 ・公共のマナーをわきまえ，自覚を持った行動ができたか。 			
授業担当者による自由記述（活動の特徴，苦勞した点，改善点，学びの発展等）				
<ul style="list-style-type: none"> ・翌週に卒業を控えた高校3年生の進路決定者を対象とした，家庭学習期間の研修の一環として実施。長崎を離れる者も多く，自分の住む「長崎」を感じさせるものができればと思った。来館したことの無い生徒が3分の1程度。 ・担当者自身がぎりぎりまで大学受験指導を行っていたこと，受験や卒業を控えた高校3年所属の教師の多忙さから，連絡・打ち合わせ・準備のための時間はほとんどなかった。博物館のプログラムにそのまま乗った形となった。学校側としては送迎バスや打ち合わせなども必要最小限で，とてもありがたかった。 ・「孫文と梅屋庄吉展」の内容の時代背景は，高1の世界史A，日本史Aで学習している。（辛亥革命など）内容としては若干難しかったようであった。クラスや選択科目により，興味・関心の度合いが異なった。その後のDVDなどの事後学習で，孫文や梅屋庄吉の位置づけが理解できたようであった。 ・長崎奉行所，立山防空壕については，意欲的に見学をしていたように思う。ボランティアガイドさんの協力が何よりうれしかった。説明も丁寧であった。 ・生徒は，自覚を持って行動できたように思う。高校生であることもあり，あえてワークシートはこちらからは準備せず，博物館側から提供されたプリントを活用した。特にレポートや感想文なども求めなかった。 ・高校生の授業では，校外で学習する機会のはめったにはない。座学ではなく，活きた歴史の学びの場であったと思う。 ・常設展がリニューアル中であったのが何よりも残念であった。 				

3年生	教科：日本史B	単元名：	月～月	時間
実践校：長崎県立鳴滝高校定時制昼間部		授業担当者：藤村誠		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・資史料に基づいて歴史が記述されていることを理解する。 ・通史学習に郷土史を加味することにより、生徒の興味・関心を高めるとともに、郷土に対する誇りを醸成する。 ・身近な文化財に触れることで、文化財保護への関心を高め、地域の文化遺産を尊重する態度を養う。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1年次 歴史文化博物館 「龍馬伝館」見学	2			
2年次 シーボルト記念館見学	1	・年度当初に日本史Bの授業を6校時に設定するよう教務に依頼。実施に際しては、6校時及び掃除や帰りのSHRを免除してもらうことで時間を確保。		
3年次 1. 長崎の町を歩こう① 長崎街道～古橋・一ノ瀬 橋界限	1	・日本史Bの授業の単元に応じて、学校から徒歩で移動できる場所を選択して実施。		
2. 長崎の町を歩こう② 諏訪神社、サントドミン ゴ教会跡	1	・見学の際、「長崎大学電子化コレクション」 http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/search/ecolle/ の古写真を利用して、幕末・明治期と現在の風景の相違点を意識させる。		
3. 夏期下記休業課題 「長崎の歴史に目を向けよう」		・夏季課題については、生徒たちが居住していたり通学に利用する道など身近な地域の歴史を調査させる。		
4. 長崎の町を歩こう③ 長崎歴史文化博物館 常設展見学	2	・博物館見学は教師が説明するのではなく、博物館の担当者による解説をお願いする。その方が生徒たちの取組への意識は向上する。		
5. 長崎の町を歩こう④ 上野写真局跡、若宮稲 荷	1	・博物館見学の基本的マナーについても理解させる。		
評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資史料に基づいて歴史が記述されていることが理解できたか。 2. 歴史学習への興味・関心が高まったか。 3. 文化財保護への関心が高まったか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

●歴史文化博物館見学全体的な感想

- ・長崎の町が江戸時代からあまり変わらずに残っているものがたくさんあると聞いて驚いた。江戸時代から長い間、長崎のたくさんの人たちが長崎の町を大切にしてきた結果なのだと思うと、私もこの町に誇りをもって、長崎の町そのものや文化を大事にしなければならないと思いました。
- ・今まで博物館はわざわざ行くほどじゃないと思っていた。でも実際に行ってみると思ったよりも楽しかったし、いろいろ学べてよかったです。昔来たときに気がつかなかったことに気がついた。
- ・解説付きで見学すると新鮮。前々から何となく入りがたい、どこか堅苦しいという先入観をもっていましたが、見事に払拭することができた。
- ・長崎の歴史も奥が深いことを改めて感じた。最後に行った博物館の裏側はワクワクした。
- ・博物館には何度か行ったことがありますが、詳しく見ていなかったの、今回きちんと見ることができて良かったです。見落とすような所も案内の人に教えていただいてよくわかりました。博物館のバックヤードを見ることはもうないと思うので、貴重な体験ができました。
- ・博物館の裏側では、本物の古い本や資料などが大切に保管されていたり、虫くいにあったものを修復する人がいたり面白かった。博物館の裏側で働いてみるのも楽しそうだと思います。
- ・勉強したことがちょいちょい出てきて、改めて「すごい」と思えることがあった。唯一残っているカメラや、船底の砂糖の話など、知らないことがある中、ふと知っていることが少しでもあると、嬉しい気がした。いつもなら見ることができない、博物館の裏側も見学できて、貴重なことを体験できた。虫食穴の修理とかも見たかったです。
- ・見学中に幕末の資料もあって、読むのが難しかったし、授業で習ったことを見つけて何となく感激した。
- ・今回は見たことがない物を沢山見ることができてとてもいい見学になりました。模型とかリアルですごかったです。唐人屋敷一度行ってみたいです。博物館の中はもちろん興味深いものばかりでしたが、裏の資料室を見せて貰えたことは一番いい体験になったと思います。普段は決して見られない様々な部屋が見れて、博物館はただ見て回るだけの所ではないことを改めて感じました。一度手にとって資料を見てみたいと思いました。貴重な体験でした。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

私の場合、歴史文化博物館の見学については、「歴博をつかって是非こういう教育効果を！」という意気込みを持って臨んでいる訳ではありません。高校で日本史を選択している生徒であっても、博物館は自ら積極的に足を運ぶ場所ではありません。ですから「博物館ってこんな雰囲気なんだ」とか「博物館ってなかなかおもしろそう」（できればまた来てみたい）という気持ちを持ってもらえればというのが正直なところ。生徒たちが見学後に提出したワークシートを見ると、私の目的を少しは達成できていると思います。

今回の見学に関しては、博物館見学の時間が短すぎました。担当者からの説明の時間に加え、生徒たちの自由見学の時間をもっと増やすべきだったと思います。

現在勤務している鳴滝高校は長崎市内の低地部にあり、周辺に多くの歴史的遺産が残っています。こうした遺産をどうやって授業に取り込み、歴史を身近に感じ、そして郷土に誇りをもってもらうかというのが最近の私の課題です。そういう視点で、博物館の見学や町歩きを行っています。当然のことながら教科書で日本の通史学習は行わなければならないのですが、比較的時間が潤沢にあり、郊外での学習が徒歩にて可能、しかも好意的な職場環境なので、こうした学習ができていると思います。

3年生	教科：日本史	単元名：江戸時代の文化	1月	3時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：岩永崇史		
目標	① 日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解する。 ② 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 ③ 体験学習を通して、歴史の楽しさ、奥深さを学び、自ら学び、自ら行動できる力を養いつつ、生涯教育のきっかけの一つとなる授業を生徒と共に分かち合うこと。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
江戸時代の文化を学び、「浮世絵」「錦絵」の位置づけを学習する。	1	寛永文化、元禄文化、化政文化を比較しながら、江戸時代の人々の生活にどのように根付き、浸透していったかを分かち合う。		
「長崎版画」の来歴を学習し、合羽摺の体験学習を行う。	1	「長崎版画」の来歴を押さえ、生徒の興味関心を高めながら、実施に合羽摺を体験し、一人一人仕上げる達成感を味わうことができているか。		
体験学習を通して学んだことを分かち合う。	1	江戸時代の文化が教科書や資料集の中だけで完結するのではなく、自分たちの生活の中に息づいているものであることを理解させたい。また実際の合羽摺自分自身で制作することにより、江戸時代文化を追体験させたい。		
評価基準	① 長崎版画はどのようにして誕生したのか、理解できたか。 ② 長崎版画はどのような技法で制作されたのか、素材などを理解できたか。 ③ 長崎版画は現代生活にどのような形で繋がっているのか、考えることができたか。 ④ 「浮世絵」と「錦絵」、「長崎版画」の相違点や共通点を理解できたか。 ⑤ 時間内に「長崎版画」合羽摺を仕上げる事ができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



2012年1月25日

長崎歴史文化博物館

加藤謙一先生、下田幹子先生へ

長崎歴史文化博物館出張授業

「長崎版画体験授業」を体験して

心に残った一言

1. 長崎版画はどのようにして誕生したのか？
2. 長崎版画はどのような技法で制作されたのか？
(素材など)
3. 長崎版画は現代生活にどのようなメッセージを伝えているとあなたは考えますか？

「質問」

- 江戸時代では合羽摺を最高何枚重ねたのですか？
- 多色摺は長崎版画だけですか？
- なぜ、絵の具があんなにかたかったのですか？
- 当時、「長崎版画」は何円くらいで売られていましたか？

「感想」

- 色をつけることがとっても楽しかったです。小学校の時の図工の授業を思い出しました。江戸時代の職人さんになれた気分でした。上手くぬれなかったところがありましたが、職人さん達は、服の模様など、細かい所もきれいにぬれていてすごいなと思いました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- 普段では経験できないようなことが出来て嬉しかった！出来上がったときの仕上がりが印刷したものと違って、とても味があっていい感じだった。もう少し、時間があつたら、もっと丁寧にして、がんばりたかった。とても楽しかった。
- みんな同じ型で作っているのに、それぞれ個性があつて楽しかったです。またしてみたいです。ありがとうございました。

「質問」

「感想」

Ⅲ年 組 番 ()

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

長崎歴史文化博物館より、研究員の加藤謙一先生、下田幹子先生をお招きして、「長崎版画の出自や変遷」についてスライドを通してお教えいただき、その後実際に長崎版画合羽摺^{かっぱずり}体験をさせていただきました。

加藤先生が「今回使用する型紙のにおいを嗅いでみてください・・・。どんな臭いがしますか？・・・『柿渋』という型紙です。渋みのある柿を絞り、その液体を発酵させて利用します。」とお話下さったときに、生徒達がさっとにおいを嗅いでいる・・・古き良き日本文化に直接触れさせることができた、私は感激。型紙を押さえ、色を一回一回下絵に乗せて少しずつ完成していく長崎版画の絵図、集中している姿を見ながら、生徒達一人一人の学校生活の歩みを垣間見たような気がしました。高校ではそれぞれの進路実現を目指しながら、「卒業」という名の共通の目標へ向かって一日一日授業や学校行事へ地道に取り組み、自分自身日々成長し続けるものです。

今回の体験授業では、一人一人が長崎版画合羽摺を完成することができました。それぞれの個性が滲み出る作品となりました。卒業へ向けて、日本史授業の中で、このような体験学習ができたことを心から感謝申し上げます。何より、お忙しい中、様々なご準備をなさってくださいました、長崎歴史文化博物館の加藤先生、下田先生に厚く御礼申し上げます。今後も、生徒達と共にこのような体験学習の機会を作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(2012年1月24日(火)活水高等学校5号館1階プレゼンルームにて実施)

2,3年生	教科：日本史	単元名：幕末の日本	10月28日	2時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：岩永崇史		
目 標	<p>1、日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解しながら、幕末の動乱時期について「坂本龍馬」を通して「生きた歴史の息吹」に触れさせる。</p> <p>2、実物資料や写真を触れたり、見たりしながら、歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。</p> <p>3、長崎歴史文化博物館の学芸員の先生による専門的なお話を通して、歴史の面白さや感動を生徒と共に分かち合う。</p>			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴代将軍の政策（穴埋め）ワークシート記入 ● 生徒の疑問応答 	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 坂本龍馬登場への大まかな江戸時代の流れを掴むために、徳川幕藩体制の特徴を把握する。 ● 江戸時代を前期中期後期の三段階に分け、徳川歴代将軍の政策を中心に説明する。 	歴代将軍の業績を理解できているか。
	<p>1. 幕末の長崎—異国船の到来—</p> <p>○なぜ、幕末になると外国船が日本近海に現れるようになったのか？</p> <p>○異国船の到来（ペリー来航）が江戸幕府に与えた影響とは？</p> <p>○開国によって長崎はどうかわっていったのか？</p> <p>2. 大浦居留地のはじまり</p> <p>○幕末期の長崎が果たした役割とは？</p> <p>3. 龍馬と長崎の関わり</p> <p>○長崎の地で龍馬を支えた人々（小曾根家、大浦慶、グラバー）</p> <p>4. 幕末の薩摩と長州の動き</p> <p>○なぜ、薩摩と長州は同盟を結んだのか？</p> <p>5. 亀山社中・海援隊の設立とその活躍</p> <p>○長崎で龍馬はどんな活動を行っていたのか？</p> <p>6. いろは丸事件とイカルス号事件</p> <p>○2つの事件を龍馬はどのように解決に導いたのか？</p> <p>7. 近江屋の悲劇</p> <p>○龍馬はなぜ、暗殺されたのか？</p> <p>○龍馬が果たした役割とは？</p> <p>トピック1：龍馬と刀</p> <p>○刀好きだった龍馬にまつわるエピソードを紹介。</p> <p>トピック2：龍馬からお龍へのプレゼント（帯留）</p> <p>○刀好きだった龍馬らしい愛するお龍へのプレゼントを紹介。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の反応はどのようなものか。 ● ワークシートに記入できているか。 	<p>異国船到来の流れを理解しているか。</p> <p>鎖国時代の長崎の役割が理解できているか。</p> <p>薩長同盟への大きな歴史の流れを掴めているか。</p> <p>坂本龍馬とお龍の想いを自分自身で考えることができたか。</p>
	● 授業を受けた後のフォローアップと振り返り	1	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの記入と、感想 ● 質問に対する検討 	
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートへの記入状況 ● 授業者との呼応 ● 感想文の内容 ● 実見した後の感想 ● 小テストの状況 ● 坂本龍馬の願いを掴めているか ● 坂本龍馬からお龍へのプレゼントの意味を理解できたか ● 幕末の動乱を龍馬がどのように見ていたか ● 幕末を動かした人々の願い 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



Ⅱ年A組英語科・普通科国公立進学コース合同授業(20名)の授業風景。見やすく分かりやすいパワーポイントと、坂本龍馬佩刀のレプリカ実見に感激する生徒。一瀬先生の的確な説明に頷きつつ、熱心にメモを取る生徒の様子が印象的でした。授業当初プロジェクターの接続トラブルでややもたついてしまいました。



Ⅲ年C組普通科普通コース文系日本史選択グループ(28名)の授業風景。週5時間(毎日)生徒と接しているので、一瀬先生の授業を私自身生徒の立場で受けることができ感激。同じ授業であっても、対象生徒の反応の違いで先生も臨機応変に対応してくださいました。授業参観をしてくださった同僚(ⅢC担任)も、新たな発見があり感激

別紙ワークシートより

- 生徒からの質問したいこと
- 生徒の感想より

- ・私自身は新撰組派なのですが、坂本龍馬達が頑張ったからこそ今の日本があるんだと改めて思いました。
- ・龍馬のお姉さんのおかげで龍馬をささえたとききましたが、どのように支えたのでしょうか。
- ・手紙の印でどんな意味があるか。
- ・龍馬は字が上手だったんですか？
- ・暗殺されそうになったとき、龍馬はピストルは使わなかったんですか？
- ・お龍さんは、龍馬のお嫁さんだから、お龍という名前なのですか？それとも本名ですか？
- ・龍馬はなぜ、長崎に来たのですか？
- ・龍馬暗殺の犯人は新撰組だという説もあるそうですが、本当ですか？
- ・お龍さんはどんな人だったのですか？
- ・どうして学芸員になったのですか？
- ・初めて刃を見たので、長くて重い刃ものだと知りませんでした。
- ・龍馬はどのくらい強かったですか？
- ・お元は龍馬に対して恋愛感情を持っていたのですか？
- ・歴史を研究して一番楽しかったことは何ですか？
- ・博物館でのお仕事は楽しいですか？
- ・龍馬以外の仲間の活躍は？龍馬死後はそれぞれどのような生活を送ったのか？
- ・龍馬を殺した犯人はとても刀の達人だったと聞いたのですが、本当ですか？

などなど

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

事前打ち合わせにご来校下さりありがとうございました。実際に実物資料や、詳細なパワーポイントを見せてくださり、当日の授業を迎えるにあたり、楽しみにしながら日々過ごしていました。当日へ向けて、生徒へ時代の流れと、教員間へ当日レジュメの配布などを行い、より多くの先生方に見ていただきながら、生徒の緊張感や集中力を高めようと準備しました。おかげさまで、当日の授業は大変充実して、多くの教職員から感動と御礼のお言葉を頂きました。生徒達に授業後の次の時間に復習や、ワークシートのまとめ、授業のフォローをさせていただきましたが、それぞれに歴史の楽しさを実感したと感想を述べてくれました。

何より、私自身が、社会科教員として日々生徒達と接することが出来ることへの感謝の気持ちが深まりました。そして、学芸員になりたかった学生時代を思い返していました。これからも学芸員の皆様と共に、生徒達、若い魂に歴史教育の大切さと楽しさや悲しさや、生きる実感を分かち合いながら、教育活動を充実させていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

一瀬先生、本当にありがとうございました！！

2. 3年生 (選択科目)	教科：総合	科目：「郷土研究」講座	通年実施	70時間(予定) ※週2時間実施
実践校：長崎県立長崎明誠高等学校		授業担当者：橋本正信	教科書：長崎県の歴史散歩 (山川出版社)	
目 標	<p>1. 郷土の地理・歴史を知識として理解し、さらに体験として実感することから、現代との連続性を考察し、長崎県人としての自覚を促し、郷土への関心・愛情を育てる。</p> <p>2. 長崎県を全国的な視点から捉えることで、長崎の現状を認識し、長崎県人としてこれからどう行動すべきか考える力を養う。</p> <p>3. 本県の歴史を、東アジア史、世界史的視点から見ることで、日本史の中で果たした長崎の役割を再認識する。またそれぞれの地域にはそこに根差した豊かな歴史があることを理解する。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
1. 長崎県の通史 (古代～近世)	16	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(※資料①)を用い、概略の説明にとどめ、細かいところには深入りしない。史実や史跡に関する説明・写真などは、教科書「長崎県の歴史散歩」を使用する。 「古代における中国・朝鮮半島との交流」「宇野御厨荘」「松浦党の成立」「出島とオランダ」「キリシタン史」「西海捕鯨」「岩崎弥太郎と三菱」「軍艦島(端島)」など、今後の見学や講演内容と関連があるもの、話題性のあるもの(世界遺産関連、坂本龍馬など)を指導の重点に置く。 長崎市中心の歴史にとどまらず、長崎県全体を見渡した指導を行う。特に古代・中世は五島・壱岐・対馬から日本の歴史が動いていったことを理解させる。 後に予定する長崎歴史文化博物館見学と関連する部分は、見学のポイントとして示す。 		<p>日本史A、世界史Aの内容と関連させる。</p> <p>定期考査、授業態度などを中心に評価をおこなう。</p>
2. 長崎県の地理	10	<ul style="list-style-type: none"> 地図上で長崎県の地理(郡市町村、河川・島・山)などを確認したうえで、地誌(交通・産業・人口・気候等)を押さえる。 		<p>地理Aとの関連</p> <p>評価は定期考査など</p>
3. 長崎歴史文化博物館研修	6	<ul style="list-style-type: none"> 単なる見学にとどまらせないために、以下の工夫をおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ①事前に目的・意義をよーく指導(資料②-a) ②ワークシート(※資料②-b)で見学のポイントを提示、事後提出させ評価する。 ③レポートおよび感想文(2時間) ④定期考査の試験範囲として出題(資料④) ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査 		<p>評価は提出物(ワークシート、感想文)、研修態度など</p>
4. 特別講義① 「出前授業“龍馬が生きた時代”へタイムスリップ！」 講師：長崎歴史文化博物館研究員 深瀬公一郎氏	1	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を定着させるために、講義中のメモおよび感想文を提出させる。また講義内容を考査の試験範囲の中に入れる。 講義後の授業で、講義内容を整理し、長崎の通史との擦り合わせをおこなう。 		<p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p>

<p>5. 特別講義② 「石造物が語る向地・内海・外海の歴史（1時間）」 「向地・内海・外海のキリシタン史（1時間）」</p> <p>講師：長崎県文化スポーツ振興部（長崎歴史文化博物館） 大石一久 氏</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に希望する講演内容や生徒の実態などを講師に伝え、なるべく生徒の興味・関心を惹く内容になるようよくお願いをする。特に生徒の多く住む長崎市北部（滑石・畝刈・三重など）・長与町・時津町・琴海地区・西海市などに関する話題・歴史にも触れてもらう。 ・講義の内容を定着させるために、パワーポイントのスライドを配布。講義中のメモおよび感想文を提出させる。感想文は評価の対象とし、講義内容は次回考査の試験範囲の中に入れ、出題する。 ・同時間に開講されている日本史B、世界史Bの受講生徒にも参加を呼びかける（→全員参加）。 ・総合学科独自の取りくみとして、保護者や職員にも案内を行い、参加を呼びかける（資料③）。 	<p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p> <p>日本史B 世界史Bとの関連</p>
6. 長崎さるく①	3	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの課題として、長崎市または自分の住む地区近隣の史跡2か所以上を各自調査し、レポートとして提出させる。その際自分が行った証拠として、写真をレポートに貼付させる。レポートは評価の対象とする。 	評価は提出物
7. 長崎さるく② 「よーと知らなかった長崎」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の強い希望により、3月に講座全員（2年生10人）で長崎市中心部付近の史跡などを見学・研修をおこなう。ガイドは橋本がおこなう。通常、観光ガイドなどに載っていないような場所を案内し、長崎の奥深さを再認識させる。この際はレポートなどの提出は求めず、気軽に長崎の街を歩き、「さるく」を楽しませる。 	評価は態度など
8. 「長崎検定」へ向けて	12	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎に関する知識が身についたかどうかの指標として、長崎歴史文化観光検定を利用、長崎検定3級合格をめざす。「長崎歴史文化観光検定公式テキストブック」を利用する。 	評価は定期考査、授業態度など
評価 規 準	意欲・関心・態度	長崎県の歴史の展開に対する関心と問題意識を高く持ち、自ら意欲的に調査・研究をおこなうことによって、本県の歴史的位置づけおよび地理的特徴を主体的に理解している。	
	思考・判断	本県の歴史の展開を中心に産業や文化などを、現代との連続性を多面的・多角的視点から考察し、地域社会の特色について認識を深めることができる。また現代の長崎県の置かれている状況について客観的に把握することができる。	
	技能・表現	長崎県の歴史・文化・産業などに関する諸資料やデータなどから、有用な情報を選択・活用することを通じて、歴史的な事象を追及する方法を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現する。	
	知識・理解	長崎県の歴史的展開・地理的特徴についての基本的な事柄を、日本および世界史的視野に立ち総合的に理解し、これらを今後の様々な場面において有効に活用できる知識にまで高めることができる。	

★観点ごとの到達度を図る方法として、①学習状況の観察 ②発表の態度・内容 ③小テスト ④提出物 ⑤定期テスト（※資料④）などを適宜組み合わせ総合的に評価し、最終的に点数化して評価をおこなうものとする。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

1. 長崎歴史文化博物館における研修

(1) 生徒のワークシートより

郷土研究 WS

於 長崎歴史文化博物館

2 年 2 組 〇〇 番 氏名 〇〇〇〇

1. 博物館とは（概要・機能・役割など）

<p>博物館の主役は…「モノ」= 資料 モノを… 集める（収集） 未来に残す（保存） 調べる（調査研究） 見せる（展示） 伝える（教育）の5つが基本である。</p>	<p>《長崎歴史文化博物館》 2005年11月3日 開館 主に常設展示では、 ◎1500年代半ば～1600年代初め キリスト教伝来 と大まか→ 蘭教 ◎1600年代半～1860年代 オランダ・中国 ◎1850年代～1900年 日本の近代化に大きく 貢献 の3つにわけて展示している。</p>
---	---

2. バックヤードツアーの感想

カビが生えない工夫がされている文書収蔵庫、収蔵庫はとても大きく、多くの歴史や長崎に関するものが保存されておりすごかった。
 修復室では日常でも役に立つような化学のりと自然のりの違いなども教えていただき勉強になった。また、昔の人は最も良い方法（和紙と炭）で文書を残していきかあった。
 博物館は展示スペースの場所だけでなく、収蔵庫からの運び入れが最短でできるつくりになっていてすごいと思った。3500kgまで運べるエレベーターは印象に残った。

(2) 活動の様子



図1 オリエンテーション



図2 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー



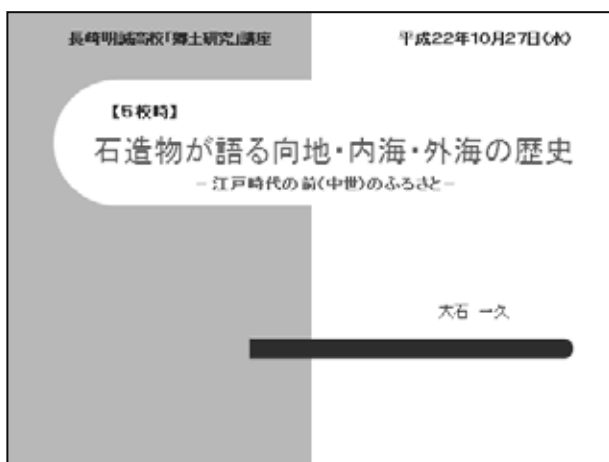
図4 常設展示室見学

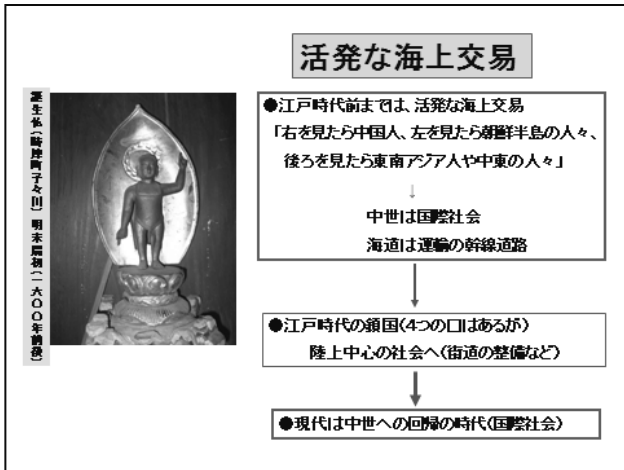
(3) 生徒の感想文より (抜粋)

- 岩崎弥太郎展では、写真も多く展示してあって、岩崎弥太郎がどんな顔をしていたのかわかって面白かったです。また、そういった写真を見て気づいたのが、どの写真にも多くの確率で外国人が写っているということです。当時、長崎は中国やオランダとの交流があったことは知っていましたが、日本人と外国人と一緒に働いているとは全く想像しませんでした。出島や唐人屋敷はありますが、たんに外国人を「異国から来た人」と思うのではなく、お互いにあらゆる面で支え合うことの大切さを、岩崎弥太郎は三菱などを通し当時からたくさんの人に伝えていたのかなあとと思うと、本当にすごいと思います。
- 今回の長崎歴史文化博物館の見学で博物館に対するイメージが大きく変わりました。そして歴史・長崎について今以上に興味を持つことができました。とても海外との貿易が盛んだった長崎。いろんな長崎を発見することができ、長崎をより好きになりました。見学により自分の視野を広げることができたと思います。
- まず最初に驚いたのは書庫の設備の厳重さです。厚手のドアや温度、湿度の調整、電子式の本棚など力が入った設備で、中の資料がどれだけ貴重なものだということが、ひしひしと伝わってきました。このような設備があるから未来にちゃんと残しておくことができるんだと思いました。この何百年前からの歴史の足跡を私たちで止めないように、自分たちも未来に残すということをちゃんと考えていかないといけないと思いました。
- 「学芸員」の方から教えてもらうことは何もかも新鮮でとても楽しかったです。長崎に城がない理由などあまり深く考えたことがありませんでした。幕府直轄の奉行所があったことを知り、なるほどと思いました。修復室は私が一番見てみたかった所なので、入れて嬉しかったです。すごくボロボロの書物をどうやって修復されるのか興味があったからです。泥水でペカペカのものや、虫に食われてボロボロなものたくさんありましたが、修復する人は慣れた手つきで修復していたので、やはりプロはすごいなと思いました。裏側から紙をはる作業もきっと私だったら、失敗してしまうんだろうなと思いました。見学できて良かったです。
- 生まれた地が長崎で18年間も過ごしてきたため、歴史には全くと言っていいほど興味がありませんでした。しかし、高校3年生で郷土研究の授業を受け、少しずつ長崎の歴史にも興味が出てきました。そこで講師の方が龍馬伝についての説明をしに来てくださって、真剣に楽しみながら聴きました。話を聞くだけしかなかったのが、今回の歴史博物館に実際にいくということは非常に嬉しかったです。中が広がったので疲れるだろうと思っていたにもかかわらず、学芸員の方の説明を聞きながら現物を見てまわっていると疲れを感じるどころか、時間も忘れて先生に迎えに来てもらっていました。
- 私が内定をいただいている三菱重工長崎造船所のことがとても詳しく書かれていた。私はこの見学を通して、三菱重工の歴史や岩崎弥太郎が大隈重信と関係が深かったということも、改めて学び、とても良い見学となりました。長崎の歴史はとても深く、これからも長崎に住んでいく私にとって学ばなければならなかったことですし、長崎の歴史を知ることによって本当に良かったです。これから卒業して、長崎のことを誰かから聞かれたときは、胸をはって答えられる自信ができました。

2. 特別講義② 講師：大石一久 氏

(1) 「石造物が語る向地・内海・外海の歴史」パワーポイント・スライド抜粋





長崎県下の中世・石造物

- 使用石材・塔形態・様式から3グループに分類
 - ・第1グループ・緑泥片岩製(滑石・蛇紋岩も含む)
西彼半島産
 - 第2グループ…佐賀型
安山岩を主体に凝灰岩・玄武岩等も含む
 - 第3グループ…中央形式塔
安山岩質凝灰岩製・花崗岩製

(2)「向地・内海・外海のキリシタン史」パワーポイント・スライド抜粋

長崎明誠高校 6校時目
平成22年10月27日(水)

内海・外海・向地のキリシタン史



聖骨箱(里崎)



岩伏キリシタンの遺跡

過去に「旅」するための大事な心構え


・今生きている現代という時代が、特別で最高の時代という考えを棄てること。
「モノをみつめる感性は、むしろ過去の人類が優れている」

かつての人々:「無標物でさえも有標物ととらえることができる豊かな感性」

【例】「生きている石」

- ・生月「保食(ウケモチ)神社」の御神体など
- ・「君が代」の「さざれ石のいよほまとなりて」

※現代人:単なる「踏傍の石」



現代人:ときに「有標物でさえも無標物と見えてしまう萎縮した感性」

【例】「動かなくなったカブトムシ」

●キリスト教のもつ一神教としての排他性 →日本の伝統的神仏信仰を破壊

政治的にも宗教的にも直接(もろ)に西欧とぶつかった時代(遠藤周作)

洞窟



岩戸山(南島原市加津佐町)





洞窟内

長与とキリシタン

【長与村】 179基 (破壊・発掘数 162基 築直し 17基)

墓所名	長	墓数	墓所名	長	墓数
中尾墓所	1	1基	さしき墓所	7	7基
古寺墓所	2	2基	さいたう墓所	8	8基
峯墓所	1	1基	長福寺墓所	3	7基
すわ墓所	1	3基	出口墓所	2	3基
市井平墓所	2	2基	辻墓所	8	8基
井ノ上墓所	1	1基	くこうや墓所	2	2基
そうその墓所	2	2基	のとり墓所	2	2基
はさこ墓所	4	4基	そのた墓所	2	2基
峯ノ上墓所	1	1基	えんのふ寺墓所	1	1基
よしむた墓所	4	4基	すみのその墓所	3	3基
す崎ノ墓所	1	1基	峯の尾墓所	1	1基
白ひげ墓所	1	5基	大こへ墓所	1	1基
戸別当墓所	1	1基	こは墓所	6	6基



(3) 生徒の感想文より (抜粋)

- 今住んでいる「西海」が1600年代の地図に出ていたことを聞いてとても驚きました。「西海」は旧琴海町西海郷で、「郷」という地名がつくと大村藩領であったことや、今の佐世保～針尾くらいまで平戸藩領で、江戸時代の六藩五領一天領だったことを知ることができました。
- キリシタン時代は1) 救いの宗教、2) 南蛮貿易や南蛮貿易の手先となって動く活動家という2つの側面がり、どちらかを見るかによって印象が変わるために、ちゃんと2つの側面を見るが必要だと先生はおっしゃっていました。この言葉は歴史を見るときだけではなく、日常生活においても言えることだと思いました。
- 大石さんが最後に話した「歴史学の本領は、行動の意義を評価すること以上に行動の意味を理解すること」というのは、とても感動しました。今回のキリシタンの話でも良いのか悪いのか考えていきたいと思います。
- 今回の話で一番印象に残っている話は「キリスト教の2つの顔」についてです。私は今までキリスト教は人々を救うために良いことをしてきたのだと思っていました。しかし、一方では仏像や寺を焼き払ったりするなど幕府が行った弾圧に近いことをしていたのだろ知り、驚きました。また、新しい歴史を知ることができ、自分の知っている歴史はほんの一部なのだ実感しました。大石先生のいうように「現代人が一番えらい」という先入観なしに客観的に歴史を見ることがとても大切なのだと実感しました。
- 今日の講座を聞いて私は歴史は深いなあと思いました。石造物だけでもさまざまな形や意味があり、その当時の背景を考えることができる大切な時代の足跡だと思いました。この足跡があるからこそ、今の自分たちの時代があるのだと、授業の最初に聞いたリンカーンの言葉「現在は過去の結果、未来は現在の結果」の意味がすごくよくわかりました。キリシタン時代について、授業で少し学んでいたのも、すごく興味がありました。以外にもわりと近いところや知っているところに、キリシタン関係の碑やお墓があり、びっくりしました。まさか長与にあんなにキリシタンのお墓があることにとてもびっくりしました。かつての人々の「無機物さえも有機物ととらえる豊かな感性」を今私たちは未来のために学ばなければならないな、と思いました。
- 私の地元である長与が先生が口にされるたびに、私は長与に16年も住んで育ってきたのに、こういったキリシタンのことについて全く知らなかったことを恥ずかしく思いました。このことについて講話を聞いて個人的に興味をもったことが何点かあるので、個人的に調べようと思います。

3. 「郷土研究」講座に対しての生徒の感想 (抜粋)

- 正直最初のほうは長崎のことについて調べるのはつまらないと感じていました。しかし、プリントや郷土学の教科書を見ていく中で、日本一や世界一が意外と多いなと感じたり、知らなかった歴史や建造物を知ること興味を持つようになりました。初めて行った長崎歴史文化博物館では自分が持っていた博物館のイメージを変えるなど楽しく学ぶことができよかったです。冬休みに行ったさくらでは、小学生・中学生で見学した時とは違う考えを持つことができるなど、実際に行ってみないと分からないと感じることができ勉強になりました。自分が学習した知識を家族や友達に教えていきたいです。自分の郷土をより好きになることができよかったです。
- 今まで長崎にずっと住んできたけど、長崎の知らないところがたくさんありました。受講していくうちに、初めて知ったり、興味を持てたりと、自分の知識が広まりました。長崎歴史文化博物館へ行ったことはとても勉強になりました。展示されている物を見ても勉強になったけど、博物館の学芸員さんの話や、裏側を見てとても心に残りました。
- 特に印象に残っているのが一度だけ校外に出た博物館へ行った事です。貴重な資料やそして弥太郎展も見ることができました。実際に裏でも細かな作業を行ってくれている人がいるから、綺麗な形のまま、展示も見れるんだなあと思いましたが、今はそれ以上に、自分が卒業し、もし県外に出た時、長崎の良いところを伝えていき、また他の場所から見た長崎のイメージというのを感じてみたいと思いました。将来へつながる講座で受講してよかったと思いました。
- 元々歴史が好きなので、博物館のバックヤードや岩崎弥太郎展は、すごく楽しく学ぶことができました。この郷土研究で長崎に興味を持った私は3年生の課題研究で「オリジナル長崎ガイドブック」を作ろうかと考えています。郷土研究をとったおかげで、自分に興味のあるものが増えて良かったなと思いました。
- 稲佐山が東京タワーと一緒に高さというところにとっても驚きました。

4. 生徒による「さるくレポート」

郷土研究レポート（長崎さるく）

1.



★平和公園

松山市のバス停でバスを降り、歩いて2~3分のところに平和公園があります。ここには、北村西望によってつくられた平和祈念像はもちろん、他にも平和を象徴するモニュメントが数多くあります。平和祈念像の、垂直に伸ばした右は原爆の恐ろしさ、水平にのびた左手は平和を表しています。横には足は原爆投下直後の長崎市の静けさで、立たした足は右と同じく原爆の恐ろしさ、とて無下目は原爆の犠牲者のための冥福を祈っています。像の高さは9.7メートルと、近くで見るととても迫力があります。被爆70周年にあたる、1955年8月8日に完成し、その制作費はあまご国内外からの募金により集まった、3000万円だそうです。

★平和公園のある松山市は爆心地であるためか、平和に関する施設や遺跡が多かったように思いました。少くあっても如己堂や水井隆記念館、浦上天主堂、山王神社、原爆資料館などがありません。

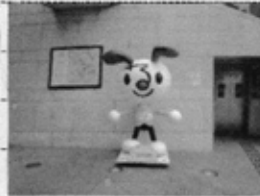


↑如己堂と浦上天主堂

平和公園を出て、原爆資料館に行く途中に寄りました。如己堂は子堂いながらの、とても狭かったです。



2.



原爆資料館

平和公園から歩いて、如己堂・浦上天主堂に行った後、裏側(?)の方から入りました。入口のところに、さるく(?)がいて、長崎さるくのスタート地点になっているようです。

★1945年8月9日

最初にあつたのが、被爆前の長崎のパン屋などの展示ブースでした。よく、原爆が落とされた後の焼け野原に落ちた長崎の写真を見ながら、それと比べると、とても悲しい気持ちになります。また、11時2分を止まっていた時計も展示されていました。



★原爆による被害の実相

このブースが一番じれに残りました。原爆が落とされたことによる、街や、人体や、道具などへの被害が分かりやすく説明されています。

★核兵器のない世界を目指して

最後に、核兵器についての展示ブースを見ました。右の写真は分りにくいですが、核保有国と、その個数を表しています。今、多くの国が核を所持していますが、どの国も核を所有せず、世界中が平和になればいいなと思えました。



※1月12日(水)の授業で提出すること(第4回考査の評価に入れます)。

2年 3組 番 氏名

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

1. 本年度の活動について

前任者の後を受けて郷土研究を担当することになったのだが、前任者と同じやり方で授業をすることはできないので、私でできる範囲のことを考えた。実際は自転車操業で「やりながら考える」ので、綿密に計画的な授業とは言い難いものであった。その中でも私が授業のねらいとしてずっと心においたのは「郷土長崎に自信と誇り」を持たせることであった。「長崎に生まれてよかった」「長崎は思ってたよりずっとすごいところなんだ」と思ってほしいという思いで、毎回の授業にのぞんだ。生徒の感想文を読むと、ある程度当初の目的には到達し、おおむねその思いは伝わったのではないと思う。この生徒たちが卒業後、県外に出たとき“長崎の宣伝マン”になってくれたら、理想的である。

2. 苦労した点

歴史や地理の授業でも同じであるが、生徒が見たことも聞いたこともない、遺跡や史跡の様子を具体的にどのように伝えるか…もっとも苦労した。特に自分が訪れたことのない史跡は、教科書を参照させたとしても、いまひとつピンとこない。そういう点ではもっと自分の研修を深めないといけない。また映像資料などを積極的に利用したいが、長崎の遺跡や史跡を系統的・地域的に編集した映像資料は今のところ見当たらない。そういう意味で長崎歴史文化博物館を訪れたことは、その点を十分に補って余りある体験になったと思う。また生徒に実際に長崎をさるかせたいと思っても、本校は地理的に長崎市内中心部まで1時間はかかる場所にあり、費用・時間の面で難しい。

3. 改善点

今年度の実践を反省し、年間カリキュラムをきちんと組み立て、計画的に授業をおこなうこと。特に生徒の外での活動をもっと増やしたい。さらに欲を言えば、長崎の文学や方言は国語科、長崎の生物や地質は理科、郷土料理は家庭科に受け持ってもらえるような教科をまたがる授業にしたいが、授業時間などの面で実現は難しい。今年度研修に参加したり、個人的に訪れた「軍艦島」「島原ジオパーク」「平戸（根獅子）」「壱岐（原の辻遺跡・一支国博物館）」「川平金山」などの情報を授業に積極的にいかし、生徒にしっかりと還元していきたい。またそれぞれの単元でワークシートおよび指導案を整理し、私以外の誰もがができるような授業にしておくことも後々のことを考えると大事なことだと思う。

★主な参考文献（授業やワークシート制作で参考にしたもの。ほとんどが簡単に入手できます。）★

- ・長崎県の歴史散歩（山川出版社 2005）…教科書（107条本）として使用
- ・長崎県の歴史（山川出版社 1998）
- ・長崎歴史文化観光検定 公式ガイドブック（長崎商工会議所 2009）
- ・旅する長崎学1～14（長崎文献社 2006～2010）
- ・長崎さるくマップブック 平成22年度版（長崎観光コンベンション協会 2010）
- ・図説長崎県の歴史：外山幹夫（河出書房新社 1996）
- ・長崎を知る77のキーワード：ナガサキバイデザインセンター（講談社 2010）
- ・長崎学への道案内（長崎文献社 2009）
- ・復元！江戸時代の長崎：布袋厚（長崎文献社 2009）
- ・長崎惣町復元図（長崎文献社 2009）
- ・享和二年肥州長崎図（長崎文献社 2004）
- ・長崎石物語：布袋厚（長崎文献社 2005）
- ・長崎の史跡（街道）（長崎歴史文化博物館 2007）
- ・長崎遊学4 軍艦島は生きている！（長崎文献社 2010）
- ・長崎「電車」が走る今昔：田栗優一（JTB 2005）
- ・街道をゆく13 壱岐・対馬の道：司馬遼太郎（朝日新聞出版 2008）
- ・復活の島 五島・久賀島キリスト教墓碑調査報告書（長崎文献社 2007）
- ・琴海町史（琴海町教育委員会 1991）
- ・玄界灘の島々 海と列島文化第3巻：宮田登ほか（小学館 1990）
- ・東シナ海と西海文化 海と列島文化第4巻：網野善彦ほか（小学館 1992）
- ・クアトロ・ラガッツィ 天正少年使節と世界帝国：若桑みどり（綜合社 2003）
- ・千々石ミゲルの墓石発見：大石一久（長崎文献社 2005）
- ・小値賀島周辺海域及び前方湾海底遺跡調査報告書（小値賀町教育委員会 2007）
- ・岩崎彌太郎～三菱の誕生と岩崎家ゆかりのコレクション～（長崎歴史文化博物館 2010）
- ・西海捕鯨業史の研究：鳥巢京一（九州大学出版会 1993）
- ・カクレキリシタンの信仰世界：宮崎賢太郎（東京大学出版会 1996）
- ・カクレキリシタン オラショ 一魂の通奏低音：宮崎賢太郎（長崎新聞社 2004）

2. 3 年生 (選択科目)	教科：総合	科目：「郷土研究」講座	通年実施	70時間(予定) ※週2時間実施
実践校：長崎県立長崎明誠高等学校		授業担当者：橋本正信	教科書：長崎県の歴史散歩 (山川出版社)	
目 標	<p>1. 郷土の地理・歴史を知識として理解し、さらに体験として実感することから、現代との連続性を考察し、長崎県人としての自覚を促し、郷土への関心・愛情を育てる。</p> <p>2. 長崎県を全国的な視点から捉えることで、長崎の現状を認識し、長崎県人としてこれからどう行動すべきか考える力を養う。</p> <p>3. 本県の歴史を、東アジア史、世界史的視点から見ることで、日本史の中で果たした長崎の役割を再認識する。またそれぞれの地域にはそこに根差した豊かな歴史があることを理解する。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
<p>1. 長崎県の通史 (古代～近世)</p> <p>2. 長崎県の地理</p> <p>3. 長崎歴史文化博物館研修 (平成23年11月9日)</p> <p>5. 特別講義 (平成23年10月26日) 「世界地図に文明国・日本を描かせた少年たち一天正遣欧使節とその意義—(1時間)」 「内海・外海・向地のキリシタン史(1時間)」</p>	<p>通年</p> <p>10</p> <p>6</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(資料1)を用い、概略の説明にとどめ、細かいところには深入りしない。史実や史跡に関する説明・写真などは、教科書「長崎県の歴史散歩」を使用する。 ・「古代における中国・朝鮮半島との交流」「宇野御厨荘」「松浦党の成立」「出島とオランダ」「キリシタン史」「西海捕鯨」「華僑と唐人屋敷」「軍艦島(端島)」など、今後の見学や講演内容と関連があるもの、話題性のあるもの(世界遺産関連、孫文と梅屋庄吉)を指導の重点に置く。 ・長崎市中心の歴史にとどまらず、長崎県全体を見渡した指導を行う。特に古代・中世は五島・壱岐・対馬から日本の歴史が動いていったことを理解させる。 ・後に予定する長崎歴史文化博物館見学と関連する部分は、見学のポイントとして示す。 ・地図上で長崎県の地理(郡市町村、河川・島・山)などを確認したうえで、地誌(交通・産業・人口・気候等)を押さえる。 ・単なる見学にとどまらせないために、以下の工夫をおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ①事前に目的・意義をよく指導 ②ワークシート(資料2)で見学のポイントを提示、事後提出させ評価する。 ③レポートおよび感想文(2時間) ④定期考査の試験範囲として出題(資料3) ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査 ・事前に希望する講演内容や生徒の実態などを講師に伝え、なるべく生徒の興味・関心を惹く内容になるよう依頼する。特に生徒の多く住む長崎市北部(滑石・畝刈・三重など)・長与町・時津町・琴海地区・西海市などに関する話題・歴史にも触れてもらう。 		<p>日本史A、世界史Aの内容と関連させる。</p> <p>定期考査、授業態度などを中心に評価をおこなう。</p> <p>地理Aとの関連 評価は定期考査など</p> <p>評価は提出物(ワークシート、感想文)、研修態度など</p> <p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p> <p>日本史B 世界史Bとの関連</p>

<p>講師：長崎歴史文化博物館 研究グループ リーダー 大石 一久氏</p> <p>6. 校外学習「長崎さるく①」 平成23年7月13日</p> <p>校外学習「長崎さるく②」 平成23年2月15日</p> <p>8. 「長崎歴史文化観光検定3級合格」へ向けて</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容を定着させるために、パワーポイントのスライドを配布。講義中のメモおよび感想文を提出させる。感想文は評価の対象とし、講義内容は次回考査の試験範囲の中に入れ、出題する。 ・同時間に開講されている日本史B、世界史Bの受講生徒にも参加を呼びかける。 ・総合学科独自の取りくみとして、保護者や職員にも案内を行い、参加を呼びかける。 <p>『東山手の異国散歩』 オランダ坂（切り通し）～活水学院～東山手甲十三番館～三角の溝・居留地境石など～東山手洋風住宅群～孔子廟</p> <p>『出島と唐人屋敷』（資料4） 旧長崎港線跡～大波止の鉄玉～県庁下の石垣～新地中華街～広馬場～館内唐人屋敷跡</p> <p>長崎市中心部付近の史跡などを見学・研修を2度おこなう。通常、観光ガイドなどに載っていないような場所を含めて案内し、長崎の奥深さを再認識させる。後にレポートの提出を求め評価をするが、気軽に長崎の街を歩き、「さるく」を楽しむことを優先する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎に関する知識が身についたかどうかの指標として、長崎商工会議所主催「長崎歴史文化観光検定」を利用、長崎検定3級合格をめざす（平成24年1月29日長崎大学にて受験）。「長崎歴史文化観光検定公式テキストブック」を毎回の授業で利用、問題を定期考査に含む（資料3） <p>長崎商工会議所の協力を仰ぎ、連携することで授業料など配慮していただいた。</p>	<p>評価は提出物（レポート）</p> <p>評価は定期考査、授業態度など</p>
<p>評価 規 準</p>	<p>意欲・関心・態度</p> <p>思考・判断</p> <p>技能・表現</p> <p>知識・理解</p>	<p>長崎県の歴史の展開に対する関心と問題意識を高く持ち、自ら意欲的に調査・研究をおこなうことによって、本県の歴史的位置づけおよび地理的特徴を主体的に理解している。</p> <p>本県の歴史の展開を中心に産業や文化などを、現代との連続性を多面的・多角的視点から考察し、地域社会の特色について認識を深めることができる。また現代の長崎県の置かれている状況について客観的に把握することができる。</p> <p>長崎県の歴史・文化・産業などに関する諸資料やデータなどから、有用な情報を選択・活用することを通じて、歴史的な事象を追及する方法を身につけ、考察した過程や結果を適切に表現する。</p> <p>長崎県の歴史的展開・地理的特徴についての基本的な事柄を、日本および世界史的視野に立ち総合的に理解し、これらを今後の様々な場面において有効に活用できる知識にまで高めることができる。</p>	

★観点ごとの到達度を図る方法として、①学習状況の観察 ②発表の態度・内容 ③小テスト ④提出物 ⑤定期テストなどを適宜組み合わせ総合的に評価し、最終的に点数化して評価をおこなうものとする。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

1. 長崎歴史文化博物館における研修

(1) 活動の様子



図1 オリエンテーション

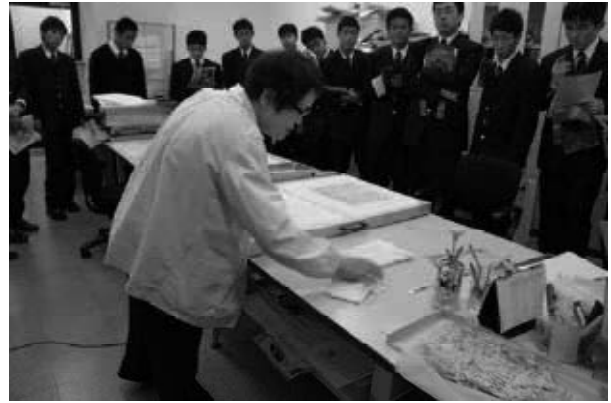


図2 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー（収蔵庫）



図4 バックヤードツアー（トラックヤード）



図5 バックヤードツアー（書庫）



図6 常設展示見学

(2) 生徒の感想（抜粋）

- 私が長崎歴史文化博物館を見学して思ったことは、博物館という建物は、ただ人に資料を見せるわけではないということです。ただ人に資料を見せるだけではないんだと思いました。ただ資料を見せるだけだったら、「すごい」と思っただけで、記憶には残りにくいと思います。ただ見せるだけでなく、職員がお客さんに伝えるという行動がとても大切なことだと思いました。またお客さんに満足してもらえるように見えないところまで工夫がされているんだと思いました。完璧な資料を見てもらうために決まった温度・湿度で保管をして、虫に食べられたところを復元したりいろいろな役割を一人ひとりが責任感を持って仕事をしているので、こんな立派な博物館が出来るんだと思いました。私も将来働くようになったら、自分の仕事に責任を持ち、お客さんに満足していただけるように一生懸命頑張ろうと思います。

- 長崎歴史文化博物館を見学して感じたことは、資料の一つひとつに対する思いです。虫くい、かびがある書物は修理し、展示する資料は破損から守るため、展示する前に、一定の温・湿度で慣らします。私たちがふだん博物館で見ていた資料も、このような過程を経ていたんだと考えたら、とてもびっくりしました。たくさんの資料を見せていただき、当時の長崎についてたくさん知ることができました。これがきっかけでもっと長崎について知りたいと思うようになりました。ふだん絶対体験することができないようなことができ、とても楽しかったです。今後も長崎の歴史や文化についての知識を高めていきたいです。
- 特に印象に残っているのは修復室で見た光景です。一人で傷んだ資料を修復していることに驚きました。今、こうやって私たちが楽しく見学ができるのは、この方の存在があるからこそ、と思いました。見ていて言葉ができませんでした。熟練の技だと思いました。博物館の主役である「モノ」や資料はとても活躍していたと思います。

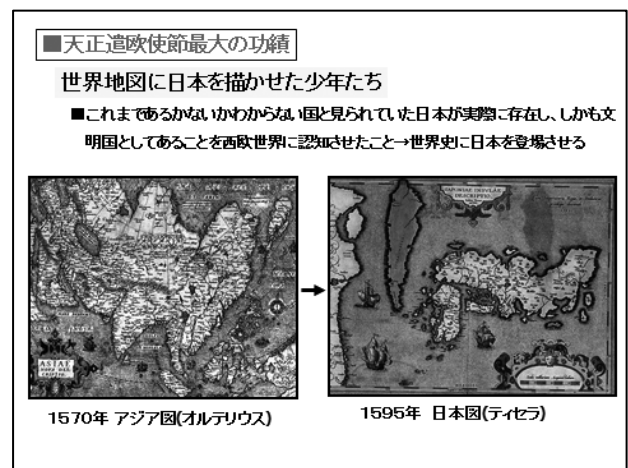
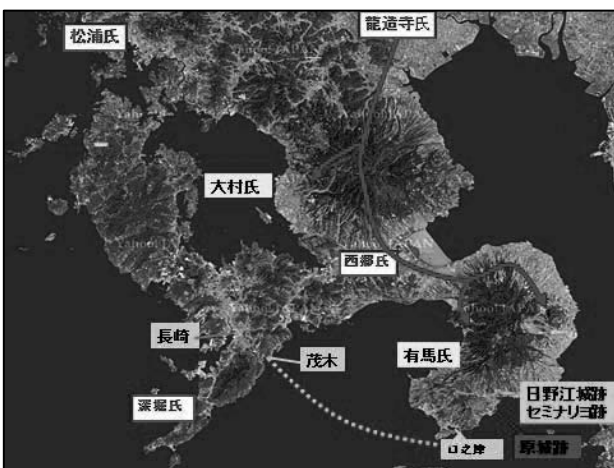
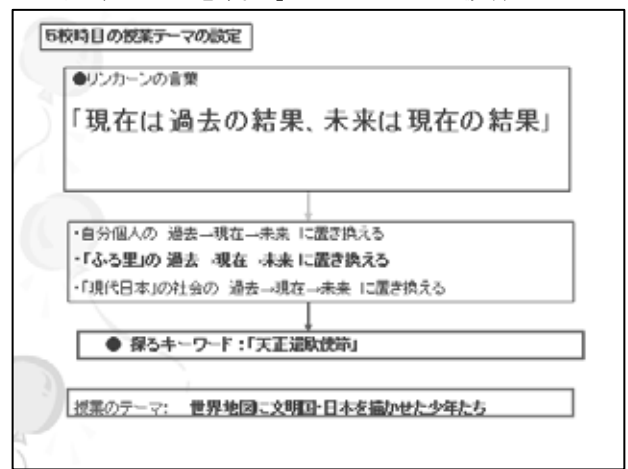
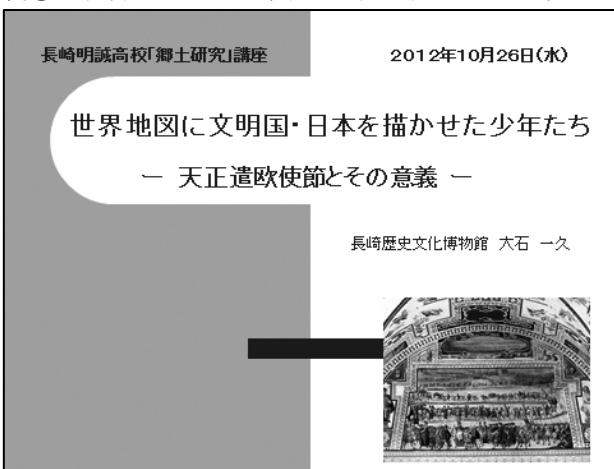
2. 長崎歴史文化博物館・大石一久氏による特別講義

(1) 本校視聴覚教室における講義のようす

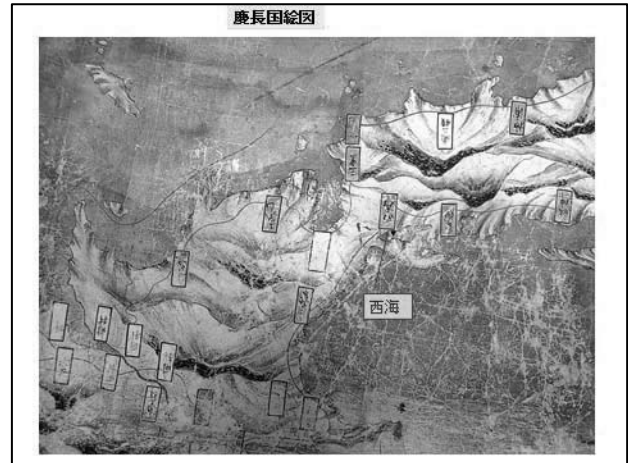


(2) 講義の内容

講義①「世界地図に文明国・日本を描かせた少年たち—天正遣欧使節とその意義—」よりスライド抜粋



講義②「内海・外海・向地のキリシタン史」よりスライド抜粋



外海・潜伏期の墓碑 (NO1)

これまで潜伏キリシタンやカクレ(古キリシタン)の墓碑が確定されなかった背景

- ・墓石に銘文・年号等き一切取はなため、形態からの編年が困難だった
- ・キリシタン特有の長墓であっても、発掘による地下遺構の検証が困難、編年が困難だった

↓

- 1) 深堀領文久2年(1862)絵図を読み解く
 - 「三重 櫻山村 平村図(文久2年 壬戌夏 仕立)」
 - 「彼杵郡三重 津村 黒崎村 永田村図(文久2年 壬戌夏 仕立)」
- 2) 文久絵図の正確さ検証・・・現代の地図との比較検証
- 3) 「ハカ」記録場所の実地調査
- 4) 「ハカ」記録集落が潜伏・カクレ(古キリシタン)の集落であることの検証
 - ・先学の研究成果(『田北朝臣の隠れ時代』の潜伏キリシタン)『古野清人の隠れキリシタン』など)や聞き取り調査等による



(3) 生徒の感想

- 今回の講話を通じて一番驚いたのは、今私が住んでいる長与町にはキリシタンの長墓が179基もあったということです。昔は長与町にも多くのキリシタンが住んでいたということは全く知らなかったのので、これから長与町のキリシタンについて調べていき、どのようなことが起こっていたのか、できるかぎり知りたいと思います。
- 「現在は過去の結果、未来は現在の結果」という言葉が最初の方に出てきたのですが、非常に共感できました。「歴史を勉強することにおいて、何も堅苦しいことはかんがえなくていい」との発言に非常に説得力を感じ、この言葉の意味を理解することができました。一度郷土研究の授業で習ったこととかぶるところもありましたが、授業よりも詳しい解説もあったりして、非常によくわかりました。
- 今私たちが、世界史について勉強するとき大事なのは、これが悪い・良いとかではなく、なぜこの人がこういう行動をとったのかということを考えるのが大事だと教えていただきました。私は暗記などが苦手で、日本史を勉強したときも、しっかり覚えることができませんでした。しかし、この長崎に生まれて、長崎で生きていく私たちには、長崎の深い歴史について知っておいた方がいいと思いました。
- TVや教科書も「長崎」をとりあげた時は必ず出島だから、その他の些細なことでも歴史を知ることができて、面白かったです。自分が住んでいる大瀬戸だと歴史ってホグットぐらいだから、長崎市内に行ったときに周りを注意しながら歩きたいと思います。もしかしたら気付かなかっただけで、歩いている道に、ちょっと何かあったりとか考えると意識の違いだけで、景色がちょっと違って見えるように感じるんじゃないかと思いました。
- ローマから帰ってきた4人(天正遣欧使節)はそれぞれの道に進んでいく。その中で千々石ミゲルはキリスト教を捨ててしまう。しかしその頃はキリスト教の最盛期で決して辞めるタイミングではなかったそうだ。そんな中、棄教した千々石ミゲルのことを大石先生はこう言っていた。「今まではイエズス会だけに任されていたキリスト教の布教が、ドミニコ会などの他の会派にもできるようになった。そこから会派間どうしの対立が起き、それらの対立を悲観するために千々石ミゲルはキリスト教を棄教した」と言っておられた。千々石ミゲルは自分が愛したキリスト教、イエズス会を元に戻すために棄教したのだと思う。もしも対立に目を背けていれば、千々石ミゲルはキリスト教の英雄のままだったろうなと思う。でもその名誉を捨ててまでキリスト教を元に戻そうとした千々石ミゲルは本当に凄いと思う。それだけ千々石ミゲルはキリスト教を愛していたんだなと思った。

3. 校外学習

第1回「東山手の異国散歩」



三角溝



どんど坂



活水学院



孔子廟

第2回「出島と唐人屋敷」



旧長崎港線（元船遊歩道）



出島



新地中華街で肉まん



唐人屋敷

4. 郷土研究講座の1年間を通じての感想（生徒）

- 郷土研究を1年間受講して、長崎にはとても多くの歴史や出来事があるのを知り、驚くばかりでした。私が一番印象に残ったのは校外学習です。1回目は、長崎さるくのルートを基に見学していきました。東山手の住宅や孔子廟などを見学していき、とても貴重な経験をすることができました。2回目は長崎歴史文化博物館に行きました。この時、私は訪れるのが初めてだったので、一体どんなところだろうと期待で胸がいっぱいでした。実際に入って、博物館のスタッフの方の話を聞いたり、多くの展示されている資料を見て、とてもすごいなと思いました。学校に来て長崎の歴史について話をしてくれた大石一久さんの話も、とても印象に残りました。今後も長崎の歴史について、注目していきたいです。
- 私はこの授業を受講するまで長崎のことを全く知りませんでした。しかし、長崎の歴史は知れば知るほど興味をひかれるような出来事ばかりでとても楽しかったです。また身近にも長崎の歴史が残っているとは知らなかったのも、知ったときはとても感動しました。しかし、また私は長崎の歴史をまだ知らないのも、これからは長崎の歴史に興味を持ち、個人的にも調べていきたいと思えます。
- この郷土研究という授業を通して、今まで長崎のことについて深い興味はなかったのですが、この授業のおかげで長崎のことについてたくさんを知れたし、興味を持つようになりました。また先生の話がとてもおもしろくてすごくわかりやすい授業でとても楽しかったです。長崎歴史文化博物館に行ったりもしてとてもいい経験になりました。この授業のおかげで将来長崎の良さを伝えられる人になりたいと思うようになりました。
- 最初は長崎県の地図を覚えるところからはじまりましたが、全然場所の名前がわからなくて明誠高校の場所も示すことができませんでした。今は車で佐世保のところを通ったときにこの場所はその辺だとわかるようになりました。また校外学習では普段絶対行かないような場所にも行きました。この授業を選択していなかったら、ずっと行くことがなかったと思うので良い機会になりました。これで最後の授業になりますが、この授業で長崎のことを勉強できて、やっぱり長崎がいいなと思いました。
- 郷土研究を1年間受講して、長崎のことを以前より知ることができて、とても良かったです。習うまでは知らなかったこととして、興味はあったけど覚える機会に恵まれなかったことに、長崎県の自治体の名称とその位置があげられます。校外学習に参加したことにより、普段の授業だけではどうしても身に付けられない知識を得ることができてよかったです。普段は行かないような場所に行けたり、日常では経験できないことを経験できたということについても良かったなと思います。また長崎歴史文化観光検定を受けたりもしましたが、受検を意外にも楽しいと思うことが出来たのが我ながら驚きでした。
- 郷土研究の授業はとても興味深く集中して受けることができました。郷土研究の講座はD1群にとりたい科目がなくなんとなくとった科目だったので、どうでもいいと思っていました。しかし実際に授業を受けてみると、長崎のことが好きになってしまうほど長崎のことについて知ることができました。先生の話も面白い話ばかりで、あまり眠ることなく授業に集中することができました。今思えば1年生のときにD1群に郷土研究を入れてよかったと思います。
- 私は歴史には興味がなかったけれど、時間割を作成するときに郷土研究の授業を受けてみようと思いました。理由は1年生のときの担任に校外学習があると聞いていたからです。2年生になって授業を受けてみると、難しい内容が多かったです。私はもともと歴史が苦手なので難しいと感じたのだと思います。テストの点数もなかなかとれなかったです。でも先生の授業は楽しかったです。すごく笑っていたような気がします。校外学習では一番初めにいった夏の校外学習が一番印象に残っています。次の回に行った長崎歴史文化博物館は感動しました。たくさんの資料が今でも残っていました。資料の量は本当にすごかったです。
- 私はこの郷土研究の授業でたくさんのことを学びました、そして感じたことは、私は長崎に住んでいるのに知らないことがたくさんあるんだということです。私は山里小学校を卒業しました。山里小は長崎の文化や平和に関する学習が多かったし、通学路には観光で有名な場所もたくさんあります。そのため私は長崎について知っているつもりでいました。この講座では、長崎の歴史はもちろん今の長崎についても学びました。はじめのころには難しくついていけない部分もありました。だけど今は昔に比べて知識も増え、楽しみながら学ぶことができています。授業だけでなく実際に校外に出て、直接自分の目で見ることによって、考え方も大きく変わりました。これで授業は終わりますが、もっと長崎について知りたいと思います。そして長崎を訪れる観光客の方にもたくさん長崎の良さを知ってもらいたいです。
- 私が一番印象に残っている校外学習は長崎歴史文化博物館の裏側に入れたことです。そこで目の当たりにした長崎の歴史はどれも凄いものばかりで、長崎の歴史をもっと深く学んでみたいと思うようになりました。この長崎の歴史はずっと受け継いでいかなければならないな、と強く思いました。もし将来私に子どもができた時に、まずは子どもに「長崎ではこんなことがあったんだよ」ということを、教えられたらいいなと思います。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

1. 平成23年度の活動について（昨年度の取り組みについては資料5参照）

昨年度に引き続き、郷土研究講座において長崎歴史文化博物館の協力を仰ぎ、博物館を訪れ研修をしたり、講師として大石先生をお招きし特別講義が実施できた。やはり長崎歴史文化博物館との連携抜きでは、お世辞ではなくこの講座は成立しなかったと言える。これは生徒の年間を通じての本講座に対する感想の中に、長崎歴史文化博物館を訪れたことが一番印象に残ったと書いた生徒が多かったことから、はっきり見てとれる。今後も博物館との連携はできる限り続けさせてもらえれば有り難いと思う。その上で、これからさらに「校外学習」「長崎県の通史」「長崎検定」などの授業コンテンツが長崎歴史文化博物館を核として有機的に結びつき、お互いを補完していくようになれば理想的と考える。そういう授業を構築することが今後の私の課題である。また来年度は立体地図を利用した授業を考えている。

私がこの授業のねらいとして心においたのは、知識を詰め込むのではなく「郷土長崎に自信と誇り」を持たせることであった。「長崎が大好き」「長崎に生まれてよかった」「長崎は思ってたよりずっとすごいところなんだ」と思ってもらいたいという思いで、毎回の授業にのぞんだ。生徒の感想文を読むと、ある程度当初の目的には到達し、おおむねその思いは伝わったのではないかと思う。この生徒たちが今後、県内外で“長崎の宣伝マン”になってくれたら、これほど嬉しいことはない。生徒の感想を読んで、ほっとすると同時にこの講座を担当して本当によかったと思う。

2. 苦勞した点

まずは堅苦しくなく楽しい授業の雰囲気をつくるのが大切であった。本講座は必ずしも積極的な理由で選択した生徒ばかりではないので、最初からとばしすぎると脱落者を出す危険もある。そこで分りやすく楽しい授業をこころがけたが、その中でネックになるのは、生徒が見たことも聞いたこともない、遺跡や史跡の様子を具体的にどのように伝えるか…ということである。特に自分が訪れたことのない場所・史跡は、教科書を参照させたとしても、生徒にもいまひとつピンとこない。そういう点ではもっともっと自分の知見を広げ、研修を深めないといけない。

★主な参考文献（授業やワークシート制作で参考にしたもの。ほとんどが簡単に入手できます。）★

- ・長崎県の歴史散歩（山川出版社 2005）…教科書として申請・使用
- ・長崎県の歴史（山川出版社 1998）
- ・長崎歴史文化観光検定 公式ガイドブック（長崎商工会議所 2009）
- ・旅する長崎学1～18（長崎文献社 2006～2011）
- ・長崎さるくマップブック 平成23年度版（長崎観光コンベンション協会 2011）
- ・図説長崎県の歴史：外山幹夫（河出書房新社 1996）
- ・長崎を知る77のキーワード：ナガサキバイデザインセンター（講談社 2010）
- ・長崎学への道案内（長崎文献社 2009）
- ・復元！江戸時代の長崎：布袋厚（長崎文献社 2009）
- ・長崎惣町復元図（長崎文献社 2009）
- ・享和二年肥州長崎図（長崎文献社 2004）
- ・長崎石物語：布袋厚（長崎文献社 2005）
- ・長崎の史跡（街道）（長崎歴史文化博物館 2007）
- ・長崎遊学4 軍艦島は生きている！（長崎文献社 2010）
- ・長崎「電車」が走る今昔：田栗優一（JTB 2005）
- ・街道をゆく13 壱岐・対馬の道：司馬遼太郎（朝日新聞出版 2008）
- ・復活の島 五島・久賀島キリスト教墓碑調査報告書（長崎文献社 2007）
- ・琴海町史（琴海町教育委員会 1991）
- ・玄界灘の島々 海と列島文化第3巻：宮田登ほか（小学館 1990）
- ・東シナ海と西海文化 海と列島文化第4巻：網野善彦ほか（小学館 1992）
- ・クアトロ・ラガツィ 天正少年使節と世界帝国：若桑みどり（綜合社 2003）
- ・千々石ミゲルの墓石発見：大石一久（長崎文献社 2005）
- ・小値賀島周辺海域及び前方湾海底遺跡調査報告書（小値賀町教育委員会 2007）
- ・岩崎彌太郎～三菱の誕生と岩崎家ゆかりのコレクション～（長崎歴史文化博物館 2010）
- ・西海捕鯨業史の研究：鳥巢京一（九州大学出版会 1993）
- ・カクレキリシタンの信仰世界：宮崎賢太郎（東京大学出版会 1996）
- ・カクレキリシタン オラショ―魂の通奏低音：宮崎賢太郎（長崎新聞社 2004）
- ・九州遺産 近現代遺産編101：砂田光紀（弦書房 2005）
- ・長崎旅本「旅する長崎学」公式テキスト：（長崎県文化振興課 2011）

長崎歴史文化博物館を利用した「郷土研究」講座の実践

長崎県立長崎明誠高等学校 橋本正信

1. 講座の概要

本校は、本年度で創立14年目をむかえる総合学科制の学校である。この総合学科における学校独自の設定科目として、本校では開校時より「郷土研究」という講座（2単位）を開設している。平成22年度は2年生と3年生の計22名がこの講座を選択し受講した。まずこの講座の特徴としてあげられるのは、すべての生徒がこの講座に興味があつて選択したわけではないということである。選択する群内に特に興味のわく科目があつたわけではなく、仕方なく本講座を選択した生徒も少なくはなかつた。そのような消極的な理由でこの講座を選択した生徒がいることを念頭に置かないと、この講座は着地点を見失う可能性をはらんでいた。そのうえカリキュラムは授業担当者の裁量による部分が大きいので、担当者にとってかなり頭を悩ませる授業であることは確かである。講座を担当するのは地理歴史科となっており、前任者の異動により平成22年度より、私が担当している。

私が授業を担当するにあたって、すでにシラバスに掲載されている前任者の敷いたレール、すなわち①長崎の歴史を教材の中心にする、②フィールドワーク（巡検）をおこなう ③教科書として「長崎の歴史散歩（山川出版社）」を使用する一を踏まえ、授業を再構築する必要が出てきた。

そこで私が本講座の中心に据えようと思ったのが、長崎歴史文化博物館との連携であつた。長崎歴史文化博物館は平成17年長崎市にオープンし、多くの観光客を集めているが、昨年度の郷土研究選択者来館したことがあると答えたのは、22人中わずか2名にすぎなかつた。その理由として考えられるのは、「博物館は文物の展示と難しい説明」という堅いイメージが、いまだに払拭できていないということにあるように思える。しかし近年、博物館は文物の展示をおこなうだけでなく、児童・生徒を対象とする教育プログラムにも力点を置いている。長崎歴史文化博物館もその例外ではなく、学校教育の場での博物館の活用を模索しており、県内の教師を対象とする「パートナーズ・プログラム」を設定し、学校教育における博物館利用の実践について現場の教員とともに共同研究している。私もそこに参加することによって、博物館の研究員による展示物の説明、専門分野の講義をはじめ、他の学校・異校種の教員との交流や情報交換など、他では得られない貴重な体験をさせてもらうことができた。

また長崎歴史文化博物館は、私自身が開設準備段階から関わってきたこともあつて、私にとってこの博物館は身近な存在でもあつた。こういった私自身と長崎歴史文化博物館との関わりのなかで、博物館は貴重な文物を保管・展示することはもちろん、各分野での深い学識・造詣を持った研究員（学芸員）などすぐれた人材の宝庫でもあることを知った。そこでこれらの貴重な文物や優秀な人材、展示などにおける独自のノウハウを学校にフィードバックし、生き生きとした郷土学習ができないかというのが本講座の核となつた。そしてこれらの実践を通じて、私が設定した最終目標＝着地点は「生徒が郷土である長崎に自信と誇りを持つこと」に決まつていった。

2. 講座の内容と展開

以上を踏まえて、1年間の授業の内容・構成を考えることとなつた。そこでは授業の柱を3つに絞つた。以下に3つの点についての実践内容を記す。

(1) 長崎県の通史

まず自作のワークシートを使用し、長崎県の歴史について授業をおこなう。これが1年間を通じてのこの講座の背骨である。史実の説明、図版や写真などは『長崎県の歴史散歩（山川出版社）』を使用、あとは自作のプリントで補った。また今後の特別講義や巡検とリンクさせるため、重点を置く内容を設定した。以下に紹介すると、「古代における大陸との交流」「中世における宇野御厨荘と松浦党」「出島とオランダ」「中国との交流」「キリシタン史」「西海捕鯨」「岩崎弥太郎と三菱」などであるが、実際には世界遺産関連（軍艦島や教会群）、話題性のあるもの（坂本龍馬関連）などにもかなりの時間を割くことになった。しかし前述したとおり、受講する生徒すべてが歴史好きというわけではないので、興味を喚起しつつ、細かすぎる歴史には深入りしないということに気を付けなければならなかった。

郷土の歴史を講義するにあたって特に留意したことは、歴史や史跡の説明にとどまらず、長崎から日本史および世界史を俯瞰した視点で指導をおこなうということである。これは、古代から中世を中心に五島・壱岐・対馬など、現在離島とよばれる島々が大陸との懸け橋となり、日本の歴史を動かしていったという事実があるにもかかわらず、ともすれば地方の歴史が見落とされがちな歴史教科書への私なりのささやかなカウンターのつもりである。

(2) 特別講義

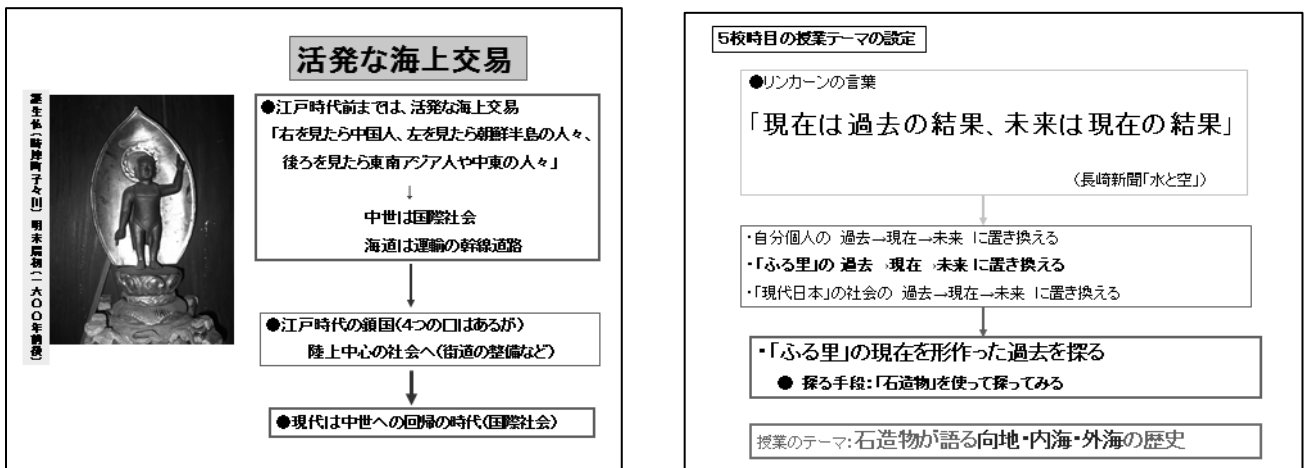
これは長崎歴史文化博物館から研究員などの人材を講師として招へいし、特別講義をおこなってもらい、最新の知識や情報を生徒に提供してもらうことを目的とする。専門家を講師として迎えることで講座に厚みが加わり、生徒にもたらされる情報・知識の幅も飛躍的に広がる。残念ながら、「なんでも屋」=専門性に乏しい私の知識には限界があることは認めざるをえない。しかし博物館から人材を派遣してもらうことで、それを補ってもらおうということでもある。

平成22年度は、特別講師による授業を2回実施した。長崎歴史文化博物館の研究員深瀬公一郎氏による「出前授業“龍馬が生きた時代へタイムスリップ”」と長崎県文化スポーツ振興部（現・長崎歴史文化博物館研究グループ）大石一久氏による「石造物が語る向地・内海・外海の歴史／向地・内海・外海のキリシタン史」である。前者は年度当初の計画にはなかったのだが、NHK大河ドラマ「龍馬伝」と長崎歴史文化博物館のタイアップ企画に応募し、本校での実施が決定された。幕末の長崎について、映像資料や長崎歴史文化博物館が所有している実物教材などを利用し、坂本龍馬というタイムリーなテーマと長崎の歴史をうまく関連させて話をしていただき、生徒にも好評だった。

後者は当初から本講座の目玉に据えていた企画である。私がワークシートで講義をしてきた「長崎県の通史」は氏の講義への助走と言っても過言ではない。講師の大石氏は長崎県だけでなく全国的にも著名な石造物の研究者である。近年はキリシタン史の研究にも力を入れており、生徒の知らない視点から郷土の知られざる歴史に焦点をあて、紹介してくれることを期待しての人選であった。年度当初から氏と数回にわたり打ち合わせを重ね、講演の内容を詰めていった。大石氏に対しては「講演の内容はできるだけ平易を心掛けてほしい、しかし最新の研究成果などにも触れてほしい」という矛盾したことを、失礼を承知でお願いした。

また生徒の興味・関心を喚起させるため、本校生徒の多く居住している長崎市北部・時津町・長与町・西彼杵半島に関する歴史にも触れていただきたいということもお願いした。幸いにも氏は高校での教員生活も長く、またかつてその多くが大村藩領であった西彼杵半島は、現在の氏の研究テーマとも合致する部分もあり、私の無理な要求をことごとくクリアしていただき、2時間の講演であったが、充実した講演になった。

なおこの講義においては、生徒を通じ保護者への案内も行い、若干名の保護者の参加を得た。次はその講義で使われたスライドの一部である。



生徒の感想文より (抜粋)

- 今住んでいる「西海」が1600年代の地図に出ていたことを聞いてとても驚きました。「西海」は旧琴海町西海郷で、「郷」という地名がつくと大村藩領であったことや、今の佐世保～針尾くらいまで平戸藩領で、江戸時代の六藩五領一天領だったことを知ることができました。
- キリシタン時代は1) 救いの宗教、2) 南蛮貿易や南蛮貿易の手先となって動く活動家という2つの側面がり、どちらかを見るかによって印象が変わるために、ちゃんと2つの側面を見る必要があると先生はおっしゃっていました。この言葉は歴史を見るとときだけではなく、日常生活においても言えることだと思いました。
- 大石さんが最後に話した「歴史学の本領は、行動の意義を評価すること以上に行動の意味を理解すること」というのは、とても感動しました。今回のキリシタンの話でも良いのか悪いのか考えていきたいと思えます。
- 今回の話で一番印象に残っている話は「キリスト教の2つの顔」についてです。私は今までキリスト教は人々を救うために良いことをしてきたのだと思っていました。しかし、一方では仏像や寺を焼き払ったりするなど幕府が行った弾圧に近いことをしていたのだろ知り、驚きました。また、新しい歴史を知ることができ、自分の知っている歴史はほんの一部なのだ実感しました。大石先生のいうように「現代人が一番えらい」という先入観なしに客観的に歴史を見ることがとても大切なのだと実感しました。
- 今日の講座を聞いて私は歴史は深いなあと思いました。石造物だけでもさまざまな形や意味があり、その当時の背景を考えることができる大切な時代の足跡だと思いました。この足跡があるからこそ、今の自分たちの時代があるのだと、授業の最初に聞いたリンカーンの言葉「現在は過去の結果、未来は現在の結果」の意味がすごくよくわかりました。
キリシタン時代について、授業で少し学んでいたのも、すごく興味がありました。以外にもわりと近いところや知っているところに、キリシタン関係の碑やお墓があり、びっくりしました。まさか長与にあんなにキリシタンのお墓があることにとてもびっくりしました。か

つての人々の「無機物さえも有機物ととらえる豊かな感性」を今私たちは未来のために学ばなければならないな、と思いました。

- 私の地元である長与が先生が口にされるたびに、私は長与に16年も住んで育ててきたのに、こういったキリシタンのことについて全く知らなかったことを恥ずかしく思いました。このことについて講話を聞いて個人的に興味をもったことが何点かあるので、個人的に調べようと思います。



私はこれらの生徒の感想を読み、驚きを禁じ得なかった。というのは、当初の狙いであった長崎の歴史やキリスト教受容についての驚きや意外性はもちろんのこと、これらの感想が単なる郷土史の範疇を越えて、歴史の本質にまで言及されていると思ったからである。大石氏の講義の質の高さは言うまでもないが、それらを正確に感じ取ることができた生徒の力にも改めて驚かされた。これらの感想は私自身の授業だけでは決して得られるものではないことは確かだった。専門的な知識に裏打ちされた大石氏の郷土の歴史へかける情熱が生徒の心を動かしたのだ。

私を含め教師はときにプライドの塊であり、自分の授業方法に固執する傾向がある。しかしながら本講座のような総合的な知識を要求される授業については、こだわりを捨て一面ではファシリテーター役を演じ、積極的に専門家や研究者の協力を仰いだ方がよいと確信するようになった。これらの感想を得たことにより、次に計画する長崎歴史文化博物館での研修についても、かなりレベルの高いものが行えるという期待と弾みが生まれた。

(3) 長崎歴史文化博物館での研修

いよいよ教室を飛び出し、校外学習をおこなうときがやってきた。実際に長崎歴史文化博物館に訪れ、長崎の歴史と文化に触れようという企画である。それと同時に博物館という施設そのものに親しんでほしいという目的もあった。ここで留意すべきことは、漠然と博物館に行き、

展示物を眺めるだけでは、一般の観光客と同じであるということである。それでは学校教育の一環とは言えない。しかし生徒はこの企画を非常に楽しみにしており、その期待を裏切ってもいけない。そのための「仕掛け」を仕込まなければならない。そこで事前に博物館の教育グループの研究員の方と打ち合わせをおこない「仕掛け」を作った。また単なる物見遊山に終わらせないために、生徒に対しても入念な事前指導をおこなった。そのポイントを以下にあげると、

- ①研修の意義と目的を生徒に理解させる。
- ②ワークシートで見学のポイントを提示し、事後記入し提出させ、評価をおこなうことを確認する。
- ③事後、感想レポートの提出を求めることを確認
- ④研修の内容から定期考査の試験範囲とすること。
- ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査する。

郷土研究 WS	
於 長崎歴史文化博物館	
2 年 2 組 〇〇 番 氏名 〇〇〇〇	
1. 博物館とは (概要・機能・役割など)	
<p>博物館の主役は…「モノ」= 資料 モノを… 集める (収集) 未来に残す (保存) 調べる (調査研究) 見せる (展示) 伝える (教育) の5つが基本である。</p>	<p>《長崎歴史文化博物館》 2005年11月3日 開館 主に常設展示では、 ◎1500年代半ば～1600年代初め キリスト教伝来と広まり→禁教 ◎1600年代半～1860年代 オランダ・中国 ◎1850年代～1900年 日本の近代化に大きく貢献 の5つにわけて展示している。</p>
2. バックヤードツアーの感想	
<p>カビが生えない工夫がされている文書収蔵庫、収蔵庫はとても大きく、多くの歴史や長崎に関するものが保存されておりすごかった。 修復室では日常でも役に立つような化学のりと自然のりの違いなども教えていただき勉強になった。また、昔の人は最も良い方法(和紙と炭)で文書を残していき驚きがあった。 博物館は展示スペースの場所だけでなく、収蔵庫からの運び入れが最短でできるつくりになっていてすごいと思った。3500kgまで運べるエレベーターは印象に残った。</p>	

(図1 博物館で記入するワークシート)

これらの5つの点を事前に1時間をかけ説明し、生徒に対し、長崎歴史文化博物館での研修が単なる見学ではない「学習の場」であることを確認した。

実際の研修は3つの場面に分かれた。第1にオリエンテーションを兼ねて、研究員に博物館の目的・存在意義を語っていただいた。ここで生徒は改めて博物館が単なる見学の場でないことを知ることになる。

次に生徒を2つの班に分けて“バックヤード・ツアー”を実施した。これは通常の施設見学では決して立ち入ることの許されない「博物館の裏側」を見学するもので、今回の「仕掛け」

のひとつである。生徒は室温・湿度が厳重に管理され、セキュリティシステムに守られている収蔵庫に実際に入れてもらったほか、展示物運搬用の巨大な昇降機にも乗せてもらい、思わず息をのんでいた姿が印象であった（図3）。

また、別の部屋（古文書修復室）で見た古文書の修復は、全員が初めて見るものであった。傷んだ古文書を読める状態に復元するというその作業の意義や、細かな作業のノウハウを担当する職員から聞き、一番印象に残ったと感想を書いた生徒も多かった。（図4）



図2 オリエンテーション



図4 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー



図5 常設展示室見学

最後は、常設展と特別展「岩崎弥太郎と長崎」の見学である。常設展では研究員に解説を依頼し、基本的な知識の定着をはかった。常設展ではすべてを十分に見る時間的余裕がなかったので、自分の印象に残った展示物を3つ取り上げ、それを後にレポートにするという形をとった（図5）。研究員の解説を一通り聞いた後、生徒は思い思いの場所に散り、展示物のメモに余念がなかった。特別展である「岩崎弥太郎展」は特に縛りはかけずに自由に見学をおこなわせた。

この長崎歴史文化博物館での研修は14時集合、17時解散という短い時間ではあったが、内容の濃い研修ができた。以下に生徒の感想の一部をあげてみる。

○ 岩崎弥太郎展では、写真も多く展示してあって、岩崎弥太郎がどんな顔をしていたのかわかって面白かったです。また、そういった写真を見て気づいたのが、どの写真にも多くの確率で外国人が写っているということです。当時、長崎は中国やオランダとの交流があったことは知っていましたが、日本人と外国人が一緒に働いているとは全く想像しませんでした。出島や唐人屋敷はありますが、たんに外国人を「異国から来た人」と思うのではなく、お互いにあらゆる面で支え合うことの大切さを、岩崎弥太郎は三菱などを通し当時からたくさん

の人に伝えていたのかなあとと思うと、本当にすごいと思います。

- 今回の長崎歴史文化博物館の見学で博物館に対するイメージが大きく変わりました。そして歴史・長崎について今以上に興味を持つことができました。とても海外との貿易が盛んだった長崎。いろんな長崎を発見することができ、長崎をより好きになりました。見学により自分の視野を広げることができたと思います。
- まず最初に驚いたのは書庫の設備の厳重さです。厚手のドアや温度、湿度の調整、電子式の本棚など力の入った設備で、中の資料がどれだけ貴重なものだということが、ひしひしと伝わってきました。このような設備があるから未来にちゃんと残しておくことができるんだと思いました。この何百年前からの歴史の足跡を私たちが止めないように、自分たちも未来に残すということをちゃんと考えていかないといけないと思いました。
- 「学芸員」の方から教えてもらうことは何もかも新鮮でとても楽しかったです。長崎に城がない理由などあまり深く考えたことがありませんでした。幕府直轄の奉行所があったことを知り、なるほどと思いました。修復室は私が一番見てみたかった所なので、入れて嬉しかったです。すごくボロボロの書物をどうやって修復されるのか興味があったからです。泥水でペカペカのものや、虫に食われてボロボロなものたくさんありましたが、修復する人は慣れた手つきで修復していたので、やはりプロはすごいなと思いました。裏側から紙をはる作業もきっと私だったら、失敗してしまうんだろうなと思いました。見学できて良かったです。
- 生まれた地が長崎で18年間も過ごしてきたため、歴史には全くと言っていいほど興味がありませんでした。しかし、高校3年生で郷土研究の授業を受け、少しずつ長崎の歴史にも興味が出てきました。そこで講師の方が龍馬伝に関する説明をしに来てくださって、真剣に楽しみながら聴けました。話を聞くだけしかしなかったもので、今回の歴史博物館に実際にいくということは非常に嬉しかったです。中が広かったので疲れるだろうと思っていたにもかかわらず、学芸員の方の説明を聞きながら現物を見てまわっていると疲れを感じるどころか、時間も忘れて先生に迎えに来てもらっていました。
- 私が内定をいただいている三菱重工業長崎造船所のことがとても詳しく書かれていた。私はこの見学を通して、三菱重工の歴史や岩崎弥太郎が大隈重信と関係が深かったということも、改めて学び、とても良い見学となりました。
長崎の歴史はとても深く、これからも長崎で住んでいく私にとって学ばなければならなかったことですし、長崎の歴史を知ることによってできて本当に良かったです。これから卒業して、長崎のことを誰かから聞かれたときは、胸をはって答えられる自信ができました。

3. 平成23年度の取り組み

平成23年度は前年度の反省を踏まえて、教室での「長崎県の通史」に「長崎歴史文化博物館での研修および特別講師による講義」でアクセントを加えるという基本スタイルは踏襲しつつ、2つの点を新たに授業カリキュラムに加えた。

1つは長崎商工会議所主催の「長崎歴史文化観光検定3級」に合格することを目標に長崎の歴史・文化に対する知識を深めることである。検定合格を年度当初より目標として生徒に示し、生徒の“やる気”を喚起させることもねらいとしてあった。授業の中では「公式テキスト」を

用いて、問題演習をおこなった。また定期考査にも必ず検定問題を入れることによって、知識の定着をはかった。しかし受験日が他の検定と重なっていたり、さらに新人戦の日程などと重なってしまい、全員受験というわけにはいかなかったのが残念であったが、それでも7名が受験した。平成24年3月に発表される合否が待たれるところである。(※結果、合格者は2名、うち1名は私)

もう1点は巡検の充実である。平成22年度は3月に1回おこなったのみであったが、実際に史跡を探訪することは生徒へ残す印象も強いことから、平成23年度は7月と2月の2回おこなうことにした。これらの巡検は、授業で学習したことや文献に書かれていることを、実際に自分の目で確認・検証するという意味で、この講座にとっては非常に意義の大きいものである。また現在の街の様子から、古写真や古地図などを元に当時の様子をイメージさせることも、生徒の歴史的な想像力を膨らませるという意味で重要であると考えた。

7月は「東山手地区散策」、2月は「出島と新地中華街」…それぞれテーマを設定し巡検をおこなった。7月は炎天下、2月は酷寒という厳しい天候ではあったが、生徒は普段の教室での授業とは趣きが違うこともあって、目を輝かせながらのびのびと活動している様子が印象的であった。



(7月 東山手地区散策)



(2月 出島・新地中華街・唐人屋敷)

4. 総括および今後の展望

歴史や地理の授業でも常々感じることもであるが、この郷土研究の授業でも生徒が見たことも聞いたこともない史実および遺跡・史跡を、どのようにより具体的に掴ませるかという点で苦勞した。まだ実際に私自身が訪れたことのない県内の史跡も多く、資料や写真を参照させたとしても、それだけでは生徒の心には響かない。加えて、映像資料などを積極的に活用したいが、長崎県の歴史について系統的・地域的に編集した映像資料は今のところ見当たらない。(この点で私は、通史的または地域的に編集された長崎県全域における映像ソフトの登場を強くのぞむ)。

そのうえで当然のことながら、私自身がさらに研修を深め知見を広げないといけないのだが、長崎歴史文化博物館を訪れ、博物館の誇る貴重な人材を派遣していただいたことは、この講座の弱点＝私の弱点を、補って余り有る体験であった。このことは最後の授業で書かせた生徒の感想文からも見て取れる。

- 正直最初のほうは長崎のことについて調べるのはつまらないと感じていました。しかし、プリントや郷土学の教科書を見ていく中で、日本一や世界一が意外と多いなと感じたり、知

らなかった歴史や建造物を知ることによって興味を持つようになりました。初めて行った長崎歴史文化博物館では自分が持っていた博物館のイメージを変えるなど楽しく学ぶことができよかったです。

冬休みに行ったさるくでは、小学生・中学生で見学した時とは違う考えを持つことができるなど、実際に行ってみないと分からないと感ずることができ勉強になりました。自分が学習した知識を家族や友達に教えていきたいです。自分の郷土をより好きになることができよかったです。

○ 今まで長崎にずっと住んできたけど、長崎の知らないところがたくさんありました。受講していくうちに、初めて知ったり、興味を持てたりと、自分の知識が広まりました。

長崎歴史文化博物館へ行ったことはとても勉強になりました。展示されている物を見ても勉強になったけど、博物館の学芸員さんの話や、裏側を見てとても心に残りました。

○ 特に印象に残っているのが一度だけ校外に出た博物館へ行った事です。貴重な資料やそして弥太郎展も見ることができました。実際に裏でも細かな作業を行っている人がいるから、綺麗な形のまま、展示も見れるんだなあと思改めて感じました。

この講座を受講した最初に気持ちは、ただ地元長崎のことをもっとより深く知りたいと思ただけでしたが、今はそれ以上に、自分が卒業し、もし県外に出た時、長崎の良いところを伝えていき、また他の場所から見た長崎のイメージというのを感じてみたいと思いました。将来へつながる講座で受講してよかったと思いました。

○ 元々歴史が好きなほうだったので、博物館のバックヤードや岩崎弥太郎展は、すごく楽しく学ぶことができました。この郷土研究で長崎に興味を持った私は3年生の課題研究で「オリジナル長崎ガイドブック」を作ろうかと考えています。郷土研究をとったおかげで、自分に興味のあるものが増えて良かったなと思しました。

そもそも前任者の異動を受けて、急遽この講座を担当することになったのだが、準備不足は否めなかった。前任者が残してくれたプリントや資料をそのまま使ったとしても、同じスタイルで授業をすることは無理である。そこで、私はこれまで知りえた大石氏をはじめとする貴重な人材や、長崎歴史文化博物館を利用することで、この講座における自分の不足する部分を補おうと考えた。しかし実際は当初から常に自転車操業状態であって、綿密に計画的された授業とは言い難いものであった。ただ、その中でも私が授業の核としてずっと心においていたのは「郷土に対し自信と誇り」を持たせたいということであった。私の準備不足、力不足を補うのは「長崎に生まれてよかった」「長崎って君たちが思うより、ずっとすごいところだ！！」と実感してほしいという、押し付けがましくも熱い気持ちであった。生徒の感想文を読むと、当初考えていた授業の着地点の範囲内には到達し、おおむね私の思いは伝わったのではないかと感ずる。

本校の実態を踏まえると、生徒たちの約半分近くは高校卒業後長崎を離れることになるだろう。そしてそれぞれが進学・就職した土地で、郷土の長崎について語るときがいずれやってくる。そのときこの講座で見聞きしたことが役立ってくれたら、授業を担当した者としてこれほど嬉しいことはない。彼らのお国自慢を聞き、長崎に興味を持ち、実際に訪れる人が増えるなら、彼ら一人ひとりが本当の“長崎の宣伝マン”と呼ぶにふさわしい。

IV資料編

ワークシート……………	209 ～ 212
学校のための長崎歴史文化博物館利用ガイド……………	214
長崎歴史文化博物館学校向けプログラム……………	215 ～ 216



歴史文化ゾーン ワークシート 2 大航海時代



『南蛮屏風についてしらべましょう！』

これは今から400年ほど前の17世紀初め頃の作品です。当時「南蛮船」と呼ばれたスペインやポルトガルの船が日本の港に入る様子がえがかれています。



(探検地図の2のコーナー)

①屏風の中から船長(カピタン・モル)を探して、スポンをスケッチしましょう。



②日本人もえがかれています。首には何をさげていますか？



答え

③この建物の上にあるものは何でしょう？屏風を見てスケッチしましょう。



屏風を見て推理してみましょう。この建物は何をえがいていますか？ この建物は _____ です。

資料の前の機械を使って詳しく調べてみましょう。



歴史文化ゾーン ワークシート 3 朝鮮との交流



江戸時代、日本と朝鮮は正式に国同士で交流をしていました。幕府の将軍が代わる時には朝鮮から使節が来て、江戸まで行きました。



(探検地図の4のコーナー)

①朝鮮から日本にきた使節の名前を書きましょう。

朝鮮使

②江戸時代、幕府から朝鮮との貿易をすべて任されていた藩の名前を書きましょう。

藩

またその藩があった場所はどこでしょう？地図に色を塗りましょう。



③この使節は江戸時代に何回日本に来ましたか？また一度に約何人の人が来ましたか？

回 人

④朝鮮との貿易ではどのようなものが取引されましたか？2つずつ書きましょう。

- 1) 朝鮮からの輸入品 2) 朝鮮への輸出品



歴史文化ゾーン ワークシート 4 長崎貿易



江戸時代、長崎ではオランダや中国と貿易を行っていました。どんなものが外国から入ってきたのでしょうか。



(探検地図の4のコーナー)

①船の模型が2つ展示されています。模型を見て、気付いたことをまとめましょう。



2つとも1/50のサイズで作られています。左の船には大砲も備え付けてありますよ。



②オランダや中国からは運ばれてきたもの(輸入品)を展示の中から4つ探して、名前を書きましょう。

③当時中国やオランダから運ばれてきたものはいくらかの価格で取引されていましたか？はかりの前の画面で当時の価格をしらべましょう。

選んだもの 価格



④日本から外国に運ばれたものを2つ探して名前を書きましょう。



歴史文化ゾーン ワークシート 5 中国との交流



江戸時代、長崎ではオランダや中国と貿易を行っていました。長崎には中国の影響を受けたものがたくさんあります。



(探検地図の5のコーナー)

①長崎に来た中国人が暮らした、展示室内にあるこの模型の場所はなんと呼ばれましたか？



やしき屋敷

中国人はここでどんな生活を送っていたのでしょうか？絵巻や映像を見てみましょう。



- 2) この模型を見て気付いたことを3つ書きましょう。

②長崎に来た中国の商人やお坊さんが伝えた技術や文化はどういったものがありますか？4つ調べてまとめましょう。



歴史文化ゾーン ワークシート ⑥ 貿易都市長崎

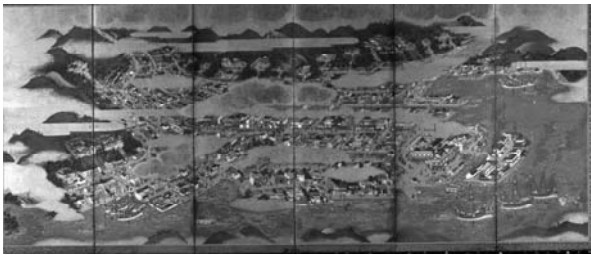


長崎に入港してくる中国船やオランダ船と、出島や長崎の町の様子がえがかれた「寛文長崎図屏風」をしらべましょう。



(探検地図の6のコーナー)

①オランダと貿易を行っていた「出島」の場所を探して、その場所を○で囲みましょう。



②この左右一対(2枚)の屏風にオランダ国旗をかかげた船は何せきかかれていますか?



せき

③屏風には長崎の有名な祭りもかかれています。お祭りの名前を書きましょう。(屏風の反対側の映像も参考にしてください。)

祭りの名前 _____

④この屏風には寛文13年(1673)頃の長崎の様子が描かれています。屏風を見て、新しく気付いたことや感想を書きましょう。

Blank box for student response

寛文13年頃の長崎の町は築城で築え、人口は約6万人だったといわれています。



歴史文化ゾーン ワークシート ⑦・⑧ 長崎の美術・工芸



ここでは主に江戸時代の長崎に関する工芸品や、絵画などの美術作品を展示しています。



(探検地図の7・8のコーナー)

①展示室の中で自分のお気に入りの作品を見つけて、スケッチしましょう。またその作品の名前も書きましょう。

Large grid for sketching and drawing

Box for writing the name of the artwork

②この作品のどんなところが印象に残りましたか? またスケッチをして新しく気付いたことをまとめましょう。

Box for writing impressions and observations



歴史文化ゾーン ワークシート ⑨ 町屋



江戸時代、長崎ではどんな行事が行なわれていたのでしょうか。町屋を見てしらべましょう。



(探検地図の9のコーナー)

①町屋の料理や飾りはどの行事のものでしょうか? 季節と行事名を書きましょう。

Table with columns for season and event name

②町屋の飾りつけで江戸時代と現在とを比べて同じところと違うところを1つずつ探しましょう。

Table with columns for same/different and location

③ ①の行事のとき、長崎ではどんな料理が食べられていましたか? 料理を見て思ったことをまとめてみましょう。(※料理が展示されていない場合もあります。)

Blank lines for student response

④町屋内の年中行事の映像を見てしらべましょう。



1) この行事の名前はなんですか?

行事名 _____

2) この行事が行なわれていた季節を○で囲みましょう。

春 夏 秋 冬



歴史文化ゾーン ワークシート ⑩ くんち



長崎くんちは1634年に始まった諏訪神社の秋のお祭りです。出しものには中国やオランダの影響を受けたものや、博多や京都のお祭りを参考にしたものもありました。



(探検地図の10のコーナー)

①展示してある傘ぼこをスケッチしましょう。

Large grid for sketching the umbrella float

②傘ぼこをスケッチして新しく分かったことをまとめてみましょう。

Box for writing observations about the umbrella float

傘ぼこは踊町の先頭に立つ町の印。重さは130~150キログラムとされています。



学校 年 組 名前



歴史文化ゾーン ワークシート 11 オランダとの交流



出島はヨーロッパに開かれた唯一の窓口でした。ヨーロッパの学問や文化は長崎を経由して日本に広まりました。



(探検地図の11のコーナー)

① 「絵巻が教えてくれること」のコーナーでは出島の生活の様子をパネルや機械で紹介しています。出島の様子について次のことをまとめましょう。

1) 出島での生活の様子について(食べ物・建物・オランダ人の服そうなど)

2) 出島で行われたスポーツについて(パネルで2つ紹介しています。)

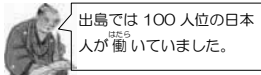


② 出島で医者として活躍した人が使っていた手術の道具です。この道具の持ち主は誰でしょう?名前を書きましょう。

Blank box for writing the name of the owner of the surgical tools.



③ 出島に来たヨーロッパの人々が日本で集めて、オランダに持ち帰ったコレクションを紹介しています。どんなものを集めていますか?展示されているものを書きましょう。



出島では100人位の日本人が働いていました。

学校 年 組 名前



歴史文化ゾーン ワークシート 13 長崎遊学



海外の情報や文化の窓口となった長崎には、最新の学問を学ぶため、たくさんの学者が集まりました。



(探検地図の13のコーナー)

① 長崎に来て学んだ人の中には、有名な人がたくさんいます。どんな人たちがいたのか、パネルを見ながら調べましょう。

「新たな学問や思想を広めた知の巨人」

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'Giants of Knowledge'.

シーボルトの鳴瀬塾でも勉強しました。

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'Giants of Knowledge'.

発明家としれも有名です。

② 幕末～明治維新の立役者たち

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'Key Figures'.

威風凛々の太平洋横断でも有名です。

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'Key Figures'.

薩摩藩と長州藩との仲を取り持ちました。

③ 「日本の近代化を推進した人々」

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'People who promoted modernization'.

「学問のすゝめ」を書いた人です。

名前 出身地

Blank circles for writing names and birthplaces of the 'People who promoted modernization'.

日本赤十字社の創始者です。

学校 年 組 名前



歴史文化ゾーン ワークシート 14 日本の近代化と長崎



幕末に長崎につくられた「伝習所」から広まった技術や産業を紹介しています。



(探検地図の14のコーナー)

① 長崎で活躍した2人についてしらべましょう。



1) 左の写真の人についてしらべましょう。

私は _____ です。

私はあることで有名です。それは次のうちどれでしょう?正解に○をしましょう。

A. 印刷技術 B. 英語の普及 C. 缶詰製造



2) 左の写真の人についてしらべましょう。

私は _____ です。

日本ではじめてのプロカメラマンと呼ばれた私が実際に使用したカメラが展示してあります。今のカメラと比べて、気付いたことを書きましょう。

Blank box for writing observations about the camera.



長崎には医学伝習所や英語伝習所、長崎製鉄所、勝海舟も学んだ海軍伝習所もこの時代に長崎に作られました。

学校 年 組 名前



奉行所ゾーン ワークシート A 長崎奉行所立山役所

長崎歴史文化博物館は、江戸時代には長崎の町の大事な仕事をした長崎奉行所がありました。その一部を再現しています。



(探検地図のAのコーナー)



長崎奉行所跡(博物館のまわり)をほってみると、江戸時代の人が使っていたいろいろな物が出てきました。写真の①～③は何でしょうか。

① []



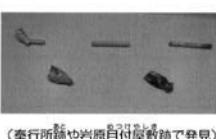
(昔は①の幅桁にありました)長崎奉行が町の安全などをいりました。

② []

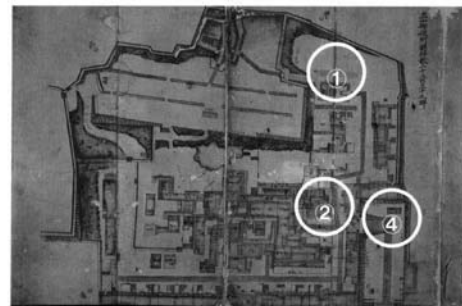


(今は②の場所などで再現)屋根の先にある瓦で、様のもようが特徴です。

③ []



(奉行所跡や岩原自付屋敷跡で発見)タバコを吸うときに使います。



④ 石垣、石畳

江戸時代のもので出てきました。

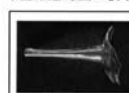


(石垣の復元整備の様子)

行ってみよう

- ① イベント広場
② 奉行所式台屋根
④ 奉行所正門石段

↑上の絵(江戸時代の奉行所の図面)も参考にしよう。関係ある場所を紹介しています。(「諸宮公衛図」)



クイズ これは何でしょう?

答え []

土の中から出てきました。ふいて遊びます。



映像にも注目!

学校 年 組 名前



奉行所ゾーン ワークシート B はんかちよう 犯科帳の世界

江戸時代の長崎では、いろいろな事件が起きました。起った事件は長崎奉行が裁判をして解決しました。



(探検地図のBのコーナー)



長崎では起った有名な事件やめずらしい事件について、江戸時代の新聞「かわらばん」にまとめてみよう。

- ① 事件はいつおこりましたか？
- ② 事件のタイトルを書こう
- ③ 事件の内容をまとめてみよう

① () 年

②

③

かわらばん

「伊藤小左衛門事件」のお騒ぎ (イメージ)

博多の商人(伊藤小左衛門)は武器を朝鮮に密輸出して逮捕されました。

クイズ これは何という記録でしょう？

答え ()
長崎で起った江戸時代のいろいろな事件をまとめたものです。2006年に国の重要文化財になりました。

白い行灯にも注目!

学校 年 組 名前



奉行所ゾーン ワークシート C れきだい 歴代長崎奉行

長崎奉行の主な仕事は、①長崎の町の安全を守ること、②中国とオランダとの貿易、③裁判、④キリスト教のとりしまり、などでした。



(探検地図のCのコーナー)



- ① 長崎奉行を1人選んで、名刺をつくってみよう。

家紋(マーク)を書こう

① 第 代 長崎奉行

② 名前

③ 在任期間(奉行の仕事をしていた期間)

(年 ~ 年)

家紋とはそれぞれの家のマークのことで

④ 住所(知行地)

() (現在の 都・府・県)



- ② 長崎奉行にインタビューをしています。インタビューする人になったつもりで長崎奉行に聞いてみたいことを考えよう。また、長崎奉行がどんなことをしたのか(業績)についてまとめてみよう。



あなたの質問を書きましょう

長崎奉行のした仕事(業績)

(奉行の名前.....)

.....

.....

.....

.....



クイズ この家紋を使った長崎奉行はだれ？
答え ()
立休翁道(3D)にも登場している奉行です。日記もこしてあります。

パソコンでも調べよう

学校 年 組 名前



奉行所ゾーン ワークシート D キリシタン関連資料

江戸時代にはキリスト教が禁止されていました。人々はキリスト教を信じていないことを証明するために、毎年正月には踏絵をふまされていました。しかし、それでもキリスト教を信じている人もいました。



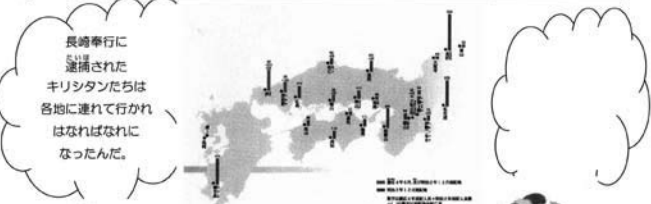
(探検地図のDのコーナー)



- ① 踏絵を見て思ったことを書いてみよう。



- ② 江戸時代の人々が、浦上事件について話をしています。何を話しているのでしょうか？セリフを想像して書いてみよう。



長崎奉行に逮捕されたキリシタンたちは各地に連れて行かれはなればなれになったんだ。

浦上事件とは、浦上村のキリシタンが発見されたいはされた事件です。江戸時代を通じて4回起りました。4回目は外国からも問題とされました。

踏絵はもともとは長崎奉行所で保管されていました。

クイズ 何の彫刻がしてありますか？
答え ()
服の中をよく見てみよう。(「メダイ」)

学校 年 組 名前



奉行所ゾーン ワークシート F~I 復元部分

奉行所内のたくさんの部屋を見てみよう。どんなことをしていたのでしょうか。



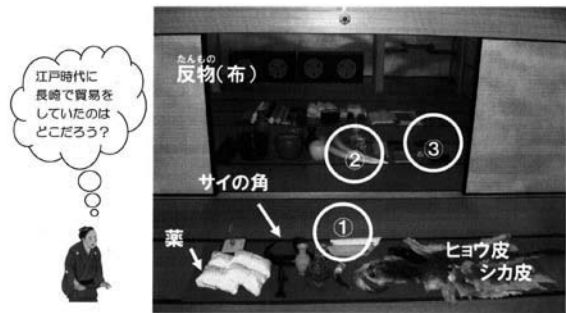
(探検地図のF~Iのコーナー)



この部屋(対面所)では外国からの貿易品を奉行が検査していました。①と②は何でしょうか。また、どこの国から輸入した貿易品が考えよう。

① ()	② ()	③ 硝・筆
本当はエイの皮です。表面はざらざらしています。飾りとして、刀の入れ物を作るときに使われ。当時は1本で1万2千円くらいでした。	印籠や小物などの工芸品をつくるために使われていました。とても貴重で、当時は1本30kgで65万円くらいしました。	硝・筆・墨・紙は文房具四宝といわれ、こっぴょうデザインのものも多く、とても人気がありました。

下の写真の貿易品はどこからの輸入したものでしょうか？ ()



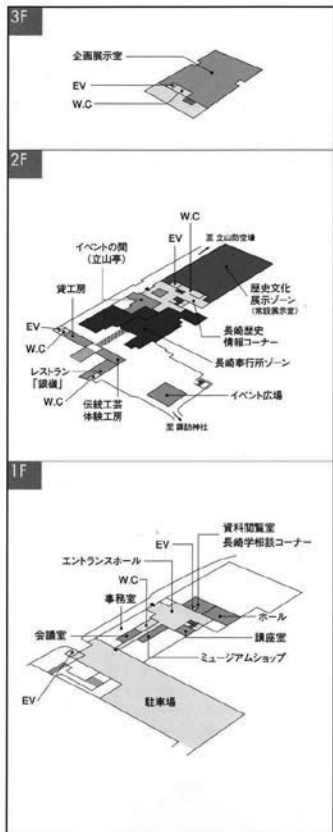
江戸時代に長崎で貿易をしていたのはどこだろう？

③の商品がヒントです



おしろいも御白洲も見学しよう

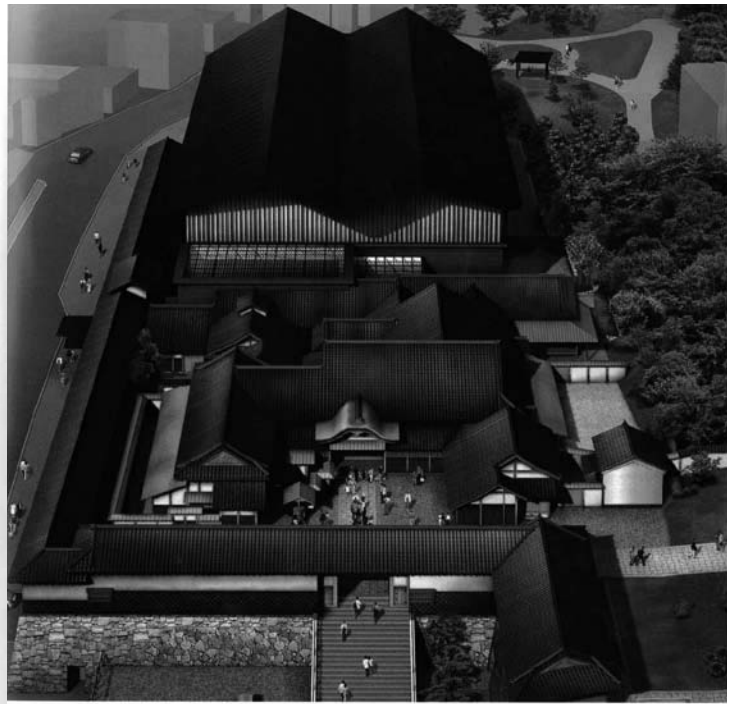
クイズ ここはなんという部屋でしょうか？
答え ()
奉行の仕事部屋です。福岡藩や佐賀藩の大名など、重要な人物と会うときにもつかわれました。



- 交通アクセス**
- からんバス「長崎歴史文化博物館」バス停下車。
 - 路面電車「桜町」電停下車、徒歩5分。
 - 路面電車「公会堂前」電停下車、徒歩7分。
 - 路線バス「桜町公園前」バス停下車、徒歩3分。
 - 長崎自動車道(長崎多良見IC)より、長崎バイパス経由。津島神社方面へ30分。
- 休館日**
- 毎月第3次曜日(祝日の場合は水曜日)
 - ※メンテナンスの為、休館する場合がございます
- お体の不自由な皆様へのご案内**
- 車椅子の無料レンタル(10台)
 - 車椅子専用トイレ(館内5箇所)
- サービス施設のご案内**
- 公衆電話(1階チケットカウンター横)
 - コインロッカー(1階チケットカウンター横・2階イベントの周圍)
- 観覧料(税込別)**
- | | | | |
|-------|-----------|-------------|--------|
| 個人 | 団体(15名以上) | 定額観覧料金(1年間) | |
| 高校生 | 400円 | 320円 | 1,200円 |
| 小・中学生 | 300円 | 240円 | 900円 |

緊急時の連絡先

- 長崎警察署 (☎095-822-0110)
- 長崎大学医学部・歯学部附属病院 (代表 ☎095-849-7200)
- 長崎県済生会病院 (代表 ☎095-826-9236)
- 長崎市中央保健センター (代表 ☎095-825-5151)
- 長崎市市民病院 (代表 ☎095-822-3251)



学校のための 長崎歴史文化博物館利用ガイド

博物館で学習し、博物館から長崎の歴史発見の旅に出かけよう。



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture
URL: <http://www.nmhc.jp>

所在地:〒850-0007長崎市立山1丁目1番1号 開館時間:8:30～19:00
TEL:095-818-8366 FAX:095-818-8407



- 1 長崎歴史情報コーナー**
長崎の歴史・文化情報のデータベース。長崎歴史デジタルミュージアム、県内各地の歴史と文化、テーマ検索、キーワード検索のメニューがあります。(無料)
- 2 大航海時代**
南蛮貿易を読み解く
長崎の海外交流の拠点。船隻の模型と実物展示や情報検索コーナーなどで紹介しています。
- 3 朝鮮との交流**
朝鮮通信使、日朝外交に活躍した南蛮商人を通して、日本と朝鮮半島との交流の一端を紹介します。
- 「朝鮮通信使」**
「朝鮮通信使」(長崎市立歴史資料館)を模倣したものに、通信使と日本人との交流の一端を紹介します。

- A 長崎奉行所立山役所**
長崎奉行所立山役所の復元。長崎の開港と発展を追いながら大きく発展しました。現在の役所の復元調査や再現過程を映像化し、出土品とあわせて紹介します。
- 奉行の役割**
長崎奉行の職務をおおむね紹介しています。
- B 「犯科帳」の世界**
「犯科帳」の犯科帳を展示するとともに、その中の特徴的な事件をアニメーション風効果音で紹介しています。

4 長崎貿易
オランダ商館で集められ、長崎に運ばれた貿易品をテーマにした、映像・実物あわせて展示しています。

オランダ船・唐船が進んできたもの

5 中国との交流
中国人の航海の守護神であった媽祖(媽祖)と、唐人屋敷に暮らしていた中国人が伝えた、芸術・文化を紹介します。

よみがえる唐人屋敷
復元した唐人屋敷模型と使ったバーチャルツアーで唐人屋敷へ入り込み、屋敷内の生活情景を体感できます。

6 貿易都市長崎
バーチャルウォークスルー
八丁町から見る町に発展した貿易都市長崎。そこに暮らす人々の生活の様子、まちの情景ややり取りを浮かびあがります。

7 美術展示
ヨーロッパの影響を受けた長崎の、中国の影響を受けた長崎の美術品を展示しています。長崎ゆかりの人物の肖像を展示します。

8 工芸展示
長崎の陶器・漆器・洋工・ガラス・木工・金工など、豊富な実物資料を数多く展示しています。それらによる職人の技の素晴らしさを紹介します。

9 町人文化体験ステージ
四季折々に演出された町屋の中で、町人の生活文化を体験できます。(詳細はお問い合わせ)

10 長崎くち
長崎の町を象徴する「くち」の歴史を紹介します。

11 オランダとの交流
当時、我が国最先端の学問であった蘭学を伝えた出島蘭館長や蘭館医士の功績を紹介し、蘭学発祥の地である長崎のオランダの姿を伝えます。

出島のくらし
貿易品だけでなく、後者の蘭館の入口でもあった出島の役割を紹介するほか、情報検索コーナーを使って、石巻の「蘭館図説」の中に描かれている出島の暮らしの様々な情報を加えることができます。

12 長崎警備
買付船・出島警備隊など、長崎の防衛の重要性を紹介します。

13 長崎遊学
平賀源一、蘭学博士の幕末・明治維新の近代日本の開港と蘭学との関係について紹介します。

14 日本の近代化と長崎
幕末の外交の舞台となり、日本の近代化の先駆けとなった長崎の様子を紹介します。

幕末・明治、激動の長崎

≡ 歴史文化展示ゾーン ≡
≡ 長崎奉行所ゾーン ≡

C 歴代長崎奉行
歴代奉行の紹介。情報検索コーナーを使って、歴代奉行について知る事が出来ます。

D キリシタン関連資料
長崎奉行の職の一つであったキリシタン取締り。ここでは、隠匿や没収したキリシタンなど、かつて長崎奉行所の宗門前庭に収められていたと思われる品々を紹介します。

E 長崎奉行所立体劇場
長崎奉行の年をドラマ化して、3D映像で上映します。

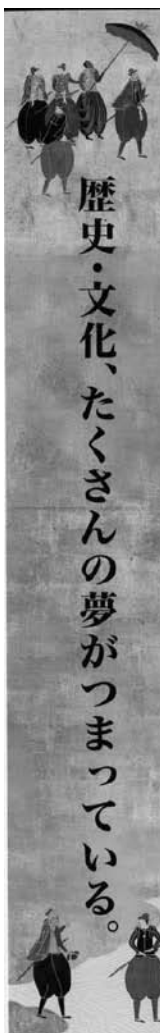
F 式台
幕末動乱「百鬼夜行」(長崎市立歴史資料館)に基づき復元した式台を展示しています。

G 対面所・次之間・使者之間
外国人との面会や貿易船が進んできた幕府を大改(長崎)する際に使用された部屋です。

H お白洲
長崎ならではの、密貿易者や豪商の私邸の風景を、寸劇で再現。(土・日・祝日のみ)

I 書院
オランダ貿易の発展などとの関係など、長崎奉行所としての重要な職能が反映されている部屋です。

J イベントの間(立山亭)
3階の町屋とつながり、宴会をはじめの生活や育ちの各様な文化・キルト活動に利用できます。



歴史・文化、たくさんの夢が詰まっている。

博物館がそのまま教室

豊富な資料、楽しめる情報検索、体験学習、各コーナーがそのまま教室に早変わり

●こんなことが学べます！

- ①キリシタンの世界
- ②西歌への窓・出島
- ③中国との交流
- ④長崎奉行の世界
- ⑤屋敷地の洋館
- ⑥殖産興業
- ⑦石橋



●注目！博物館で体験しよう！

展示館の模型組み立て

石橋のつくりかた、アーチ型の理由がわかります。

クロススタッフで航海体験

むかし航海道具を使って当時の航海技術がわかります。

守巻を見る

江戸時代の蘭刊の風景を創り、むかしの事件や蘭刊の様子が見えます。(土・日・祝日のみ実施)

伝統工芸体験

スタンププレス

陶器 瓦川焼

紙漉工

長崎判紙

文楽

ペーパー

はらもん染

藍染織造

陶器、スタンププレス、刺繍、染色、紙漉工、ペーパーなどを(指導をうけて)作成することができます。(材料費・送料が必要です) 体験メニューなどの詳細はホームページをご覧ください。

●もっと知りたい、調べたい！

レファレンス室で参考図書やビデオなどをさがして調べることができます。

●長崎県内の特色ある歴史を知るために！

展示室内のパソコンで情報検索ができます。長崎県内の歴史、県内の資料館の情報などがわかります。

博物館を探検しよう

目的、見学内容、時間などのご希望によりさまざまな見学計画を立てることができます。計画をたてる際の参考にしてください。詳しくはホームページで内容をご確認の上、当館の教育グループまでお問い合わせください。

見学例① じっくり見学コース (見学時間90分程度)

館内全体を見学します。江戸時代の海外交流や奉行所の歴史がよく分かります。歴史を勉強している学年におすすめの見学プランです。

ガイダンス

約10分 (観覧説明)

奉行所展示

約10分 (自由見学)

長崎奉行所ゾーン

約30分 (自由見学)

歴史文化展示ゾーン

約30分 (自由見学)

集合

約10分

見学例② テーマ学習、調べ学習コース (見学時間50分程度)

特定のテーマに関する展示コーナーを見学します。事前・事後学習のための資料や画像利用、参考図書の閲覧や質問などある場合には、事前にお問い合わせください。

ガイダンス

約10分 (観覧説明)

長崎奉行所ゾーン

約30分 (自由見学)

歴史文化展示ゾーン

約30分 (自由見学)

集合

約10分

見学例③ 体験コース (2時間以上)

館内で発展した伝統工芸について指導を受けながら作品を作ります。グループ単位で作品制作・博物館見学もできます。体験日、製作時間などの詳細はホームページをご覧ください。(材料費・送料が必要)

ガイダンス

約10分 (観覧説明)

作品制作

約45分 以上

長崎奉行所ゾーン

約30分 (自由見学)

歴史文化展示ゾーン

約30分 (自由見学)

集合

約10分

ここからスタート！長崎の歴史学習

博物館は市内の中心部にあり、各史跡まで電車や徒歩で行くことができます。博物館で学習した後、現地で歴史を体験しよう！

- ### 1 キリシタンの世界

博物館内 ①大航海時代 → ②長崎奉行所ゾーン(自由見学・キリシタン関連資料)

現地 ③セント・ドミング教会歴史資料館(無料小冊子) → ④イエス会本館跡(無料) → ⑤二十六聖人記念館 → ⑥大浦天主堂 → ⑦浦上天主堂
- ### 2 西歌への窓

博物館内 ⑧大航海時代 → ⑨長崎貿易 → ⑩オランダとの交流 → ⑪日本の近代化と長崎

現地 ⑫シーボルト記念館 → ⑬奉行所西役所跡(無料) → ⑭出島オランダ商館跡
- ### 3 中国との交流

博物館内 ⑮大航海時代 → ⑯(史料と)の交流 → ⑰長崎貿易 → ⑱中国との交流 → ⑲長崎の美術・工芸 → ⑳奉行所対面所(内部)

現地 ㉑興隆寺 → ㉒鐘巻橋 → ㉓稲荷寺 → ㉔新市街跡跡(無料小冊子) → ㉕唐人屋敷跡 → ㉖孔子廟
- ### 4 長崎奉行の世界

博物館内 ㉗長崎奉行所展示室(立体模型・自由見学・寸巻・祝日)

現地 ㉘長崎会所跡 → ㉙長崎奉行所跡(無料) → ㉚長崎奉行所跡(無料) → ㉛長崎奉行所跡(無料) → ㉜長崎奉行所跡(無料)
- ### 5 屋敷地の洋館

博物館内 ㉝オランダとの交流 → ㉞日本の近代化と長崎

現地 ㉟東山洋館跡 → ㊱グラバー街 → ㊲旧香港上海銀行長崎支店記念館
- ### 6 殖産興業

博物館内 ㊳オランダとの交流 → ㊴日本の近代化と長崎

現地 ㊵船田吉造製薬所跡(日本銀行系統跡) → ㊶酒蔵伝習所跡 → ㊷海軍伝習所跡(無料)



博物館の学校向けプログラム

ガイダンス等が必要な場合は、3週間前までにご連絡ください。

- ### 1 ガイダンス

館内の施設や見どころについてご案内いたします。(所要時間約10分)
- ### 2 資料解説/テーマ解説

展示資料または展示に関するテーマについて当館職員が解説いたします。(所要時間約30分)
- ### 3 ワークシート

見学のワークシートを用意しています。ホームページからダウンロードしてお使いください。
- ### 4 教材の貸出し

当館収蔵資料の写真を拡大したパネルやビデオDVDなどを学校に貸出いたします。詳しくは当館ホームページをご覧ください。
- ### 5 出前授業(講師派遣)

学校での授業に当館の職員を講師としての派遣を希望される場合にはご相談に応じます。(長崎県内のみ)
- ### 6 教員向け説明会

博物館の展示や事業を授業に活用していただくために教員を対象とした説明会を当館にて実施いたします。
- ### 7 夏休みの自由研究

夏休みの自由研究について当館職員が相談に応じます。
- ### 8 各種研修の受け入れ

博物館で各種研修の際に当館の職員が講師となります。

見学までの流れ

団体での見学の場合

- ① 見学計画の決定
- ② 申し込み (FAXにて)
- ③ 団体申込書をお送り下さい (HPからダウンロードできます)
- ④ 学校での事前学習
- ⑤ 見学プランの協議、確認
- ⑥ 事前見学をおすすめしています
- ⑦ 見学確認書の送付
- ⑧ 乗 館
- ⑨ 学校での事後学習

グループでの見学の場合

(メンバー)

複数の班に分かれて見学する場合は、左記項目を記入した「班別入場券」を作成して、博物館へ事前にFAXして下さい。当日は各班の代表者を持たせて来館して下さい。(先生の場合は「教員」お書き下さい)

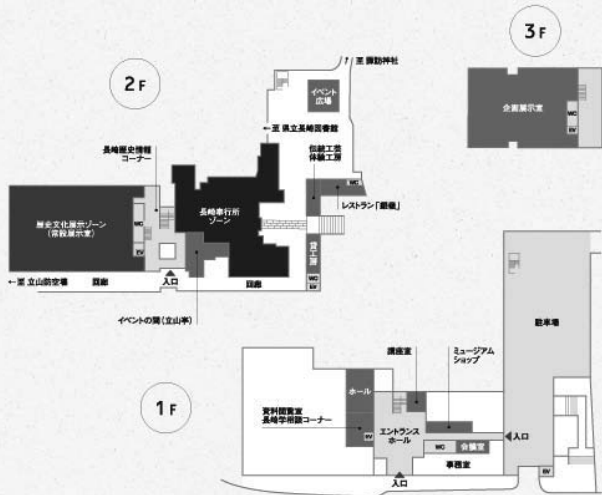
見学時の注意

1. 資料保護のため展示室内での飲食・撮影はご遠慮ください。(記録用の際はご相談ください)
2. ボールペン・マシンの使用はご遠慮下さい。その他見学マナーを守って楽しい見学となるようご指導をお願いいたします。

引率の先生へ

- 質問などの聞き取り調査がある場合は先生がひとまとめご連絡ください
- 学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲学校・聾学校・養護学校が利用する場合、観覧料(常設展)は無料です。
- 教員が学校行事の一環として小・中・高・盲学校・聾学校・養護学校を引率する場合は、観覧料(常設展)は無料です。

お問い合わせは教育グループへ
TEL : 095-818-8366



長崎歴史文化博物館
〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL 095-818-8366 FAX 095-818-8407
URL : http://www.nmhc.jp
E-mail info-his@nmhc.jp

○開館時間
8:30~19:00
○資料閲覧室 9:30~18:00
○レストラン(常設) 10:30~21:00

○休館日
毎月第3火曜日(夜日の場合は翌日が休館日となります)
※メンテナンスのため、休館する場合がございます。

○観覧料
【2階常設展示室】
個人 団体(15名以上)
おとな 600円 480円
高校生 400円 320円
小・中学生 300円 240円

○アクセス
JR利用の場合 JR長崎駅より、西宝電車「長町電停」下車、徒歩7分。
バス利用の場合 路線バス「長町公園前」下車、徒歩3分。
らんらんバス「長崎歴史文化博物館」下車。
○車利用の場合 長崎自動車道多良見ICより長崎バイパス(西山トンネル)経由、霧島神社方面へ30分。
○駐車場(有料)
台数/一般車両:62台、大型観光バス:5台 合計67台
※駐車場に限りがございますので、できる限り公共交通機関をご利用ください。



長崎歴史文化博物館 学校向けプログラム

Nagasaki Museum of History and Culture School Program



申込方法

- ステップ1 教育グループにお電話ください。**
お電話にて実施予定日、人数、プログラム等のご希望をご相談ください。
- ステップ2 FAXにて申込**
ご希望日の1ヶ月前までに、所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXにて教育グループ宛にお送りください。
- ステップ3 打ち合わせ**
教育グループの担当者と内容・日程など打ち合わせ後に、正式受付とさせていただきます。
- *①知るプログラムの「博物館探検」、③学ぶプログラム、④お仕事プログラムにつきましては、必ずご担当の先生との打ち合わせが必要です。
 - *申込みが重なった場合や、プログラム、人数などによってはご利用をお断りする場合がございますので、ご了承ください。

博物館での約束

- 博物館を気持ちよく見学するために、学校での見学マナーの指導をお願いいたします。
- 展示室内での飲食はご遠慮ください。
- 展示室内にボールペン・マジックの持込はできません。メモをとられる場合には鉛筆・シャープペンシルをご使用ください。
- 他のお客様の迷惑となりますので、展示室内で大声で話したり、走り回ったりしないでください。

よくある質問

- Q1 見学時間はどれくらい必要ですか?**
A 常設展示室の見学は1時間~1時間30分程度が一般的です。
- Q2 昼食がとれる場所がありますか?**
A 館内での飲食は原則としてご遠慮いただいております。ゴミはお持ち帰りください。
・雨天時は、館内のイベント広場または立山防空壕広場で飲食いただけます。雨天時についてはお問い合わせください。
- Q3 展示室内で写真はとれますか?**
A 引率の先生またはカメラマンが児童生徒の活動の様子を記録する際に限り許可をしております。以下の事項をご確認ください。
・所定の腕章を着用してください。受付にお申し付けください。
・フラッシュ撮影はご遠慮いただいております。(ただし、奉行所ゾーンの優元部分を除く)
・集合写真は奉行所石段下または奉行所ゾーンの御白洲をおすすめしております。
- Q4 車椅子で入場できますか?**
A 館内はバリアフリーとなっております。車椅子用のトイレは館内4箇所ございます。(車椅子無料貸出10台)
- Q5 体調が悪くなった場合の休憩場所がありますか?**
A 1階事務所に休憩室がございます。最寄のスタッフにおたずねください。
- Q6 3Dシアター「長崎奉行の一年」の上映はどのようになっていますか?**
A 上映時間は約12分で、40名~50名まで見学可能です。
・上映時刻をご確認ください。事情により臨時の上映も可能です。
・平日 9時以降毎時 15分~、45分~
・土日 9時以降毎時 00分~、20分~、40分~
- Q7 寸劇はいつ上演していますか?**
A 土日祝日の11時、12時、14時、15時、16時から上演となっております。

長崎歴史文化博物館学校向けプログラム 申込書

申込日 平成 年 月 日

ふりがな 団体名	
ふりがな 引率者氏名	ふりがな 代表者氏名
小 / 中 / 高 人数 引率者(教員) (合計 名)	名 名 学年
〒	-
TEL	FAX
来館日時	平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分 ~ 午前・午後 時 分
体験希望 内 容	①知るプログラム (博物館についての学習) 博物館ガイドス/展示室案内/博物館探検 ②つくるプログラム (作品制作) 長崎短組/拓本/べっ甲/佐世保こま/ばらもん紙/鍛冶工/陶芸(現川集)/ 長崎両鐘/長崎の染物/ステンドグラス [希望時間 時 分~] ③学ぶプログラム (テーマにそった学習) 長崎の人物調査/テーマ学習、聞き取り調査 具体的なテーマをお書きください。例:唐人屋敷について ④お仕事プログラム 博物館スタッフ体験(1日/半日)/博物館お仕事インタビュー
打ち合わせ	①下見・打ち合わせ希望日 平成 年 月 日 () 時頃 ②電話のみ
その他	

詳細は教育グループまでお問い合わせください。

申込先
長崎歴史文化博物館
〒850-0007 長崎県長崎市立山1-1-1
TEL:095-818-8366 FAX:095-818-8407

長崎歴史文化博物館では、
展示や博物館の仕事について楽しく学んでいただくために、
学校向けの様々なプログラムをご用意しています。
教科学習や総合的な学習、職場体験、クラブ活動などでぜひご利用ください。



オーダーメイド
学習内容に即したプログラムのオーダーメイドも承っております。事前・事後の学習にも博物館の学習素材を利用することで、本の資料と人を通じた学習をより充実させることができます。ご希望の方は当館教育グループまでお問い合わせください。



所要時間 ④ 定員 ⑤ 対象学年 ⑥ 料金 ⑦ 場所 ⑧ 備考

Program 1 知る プログラム

博物館ガイダンス

博物館見学の前には博物館の概要や見どころ、見学マナーについて説明します。

- ④ 15分程度
- ⑤ 140名まで
- ⑥ なし
- ⑦ ホール、講義室、エントランス



展示室案内

展示室の案内を聞きながら、展示資料についてじっくり学びます。

- ④ 約1時間～1時間半
- ⑤ 40名以内 1グループ20名以内
- ⑥ なし

博物館探検

荷物用エレベーターや収蔵庫、修復室など展示室以外の博物館施設を見学します。

- ④ 30分～1時間
- ⑤ 20名以内 1グループ10名以内
- ⑥ 小学4年生以上

Program 2 つくる プログラム

長崎版画

長崎版木の「唐船図」「ヲロシア人」を題材に、版木の磨り方の体験を行います。

- ④ 30分～1時間
- ⑤ 体験数は30～40分程度
- ⑥ 20名程度
- ⑦ 小学3年生以上
- ⑧ 100円 (材料費)



拓本

奉行所から出土した瓦の拓本を行います。
(拓本とは紙と墨を使って、模様をはっきりと写しあがらせる方法のことです。)

- ④ 30分～1時間
- ⑤ 20名程度
- ⑥ 小学3年生以上
- ⑧ 100円 (材料費)



べっ甲

毎月水曜日以外(第3火曜日を除く)

べっ甲でペンダントがストラップをつくります。

- ④ 約1時間
- ⑤ ①9:30～ ②11:00～ ③13:30～ ④15:00～ ⑤16:30～
- ⑥ 6名程度 (1回につき)
- ⑧ 1300円、2000円 (作品のサイズによって異なります。)
- ⑨ 費工房
- ⑩ ①(江べっ甲) 川口純史



佐世保こま

毎月第1・3・5水曜日

佐世保絨毯の紐付け体験です。

- ④ 20分程度
- ⑤ 9:30～16:30 (最終) ①9:30～ ②11:00～ ③15:00～ ④16:30～
- ⑥ 10名まで (1回につき)
- ⑧ 佐世保絨毯: [小]735円、[中]892円 [大]997円、[特大]1050円
手まわし絨毯: [小]945円、[大]1050円
手ひらき絨毯: [大]840円
最良絨毯: 1260円
- ⑩ ①(佐世保絨毯本舗) 三代目 山本貞右衛門



ばらもん風

毎月第2・4水曜日

五島の伝統的な凧「ばらもん風」の紐付けです。

- ④ 1時間～1時間30分
- ⑤ 9:00～14:00 (最終)
- ⑥ 10名まで
- ⑧ 1000円
- ⑩ ①(五島 ばらもん風 工業士) 野原智太郎



*天候により実施できない場合もございますのでご了承ください。

以下のプログラムについては実施日が決まっていますので、事前にご相談ください。
(体験人数等の調整は可能ですのでご相談ください。)

銀細工

ペンダントがストラップをつくります。

- ④ 1時間～2時間
- ⑤ ①10:30～ ②14:00～
- ⑥ 8名まで (1回につき)
- ⑦ 高校生以上
中学生は保護者同伴 (別項の先生など)
- ⑧ 1000円
- ⑩ 長崎銀細工研究塾



陶芸 (現川焼)

〇ろくろ体験 (茶碗やお皿などろくろを回してつくります)

- ④ 2時間
- ⑤ ①10:30～ ②14:00～
- ⑥ 4名まで
- ⑧ 1000円～



〇絵付け体験 (窯焼きの湯飲み、お皿などに絵付けします)

- ④ 1時間
- ⑤ ①10:30～ ②14:00～
- ⑥ 5名まで
- ⑧ 500円 (作品を郵送する場合には別途郵送料がかかります)
- ⑩ 長崎陶芸復興塾

*焼き上がりまでに2ヶ月ほどかかります。完成後お知らせします。
*作品を郵送する場合には別途送料がかかります。

長崎刺繍

〇刺繍体験 (桜・オリジナル立体型ペンギン)

- ④ 2時間～2時間30分
- ⑤ ①10:30～ ②14:00～
- ⑥ 12名まで (1回につき)
- ⑦ 小学5年生以上
- ⑧ 1000円



〇糸より・花びら刺繍体験

- ④ 糸より: 20分 随時
糸より+刺繍: 30分 随時
糸より+刺繍: 50分 (ご相談ください)
- ⑤ 糸より: 30人
刺繍: 15人
- ⑦ 小学以上
- ⑧ 100円～500円
- ⑩ 長崎刺繍再発見塾



長崎の染物

〇型絵染め

- ④ 30分程度
- ⑤ 10:30～15:00 (最終)
- ⑥ 10名まで (1回につき)
- ⑦ 小学生以上
- ⑧ 500円: コースター、エコ袋
600円: コースター (限付)
800円: ハンカチ
1500円: Tシャツ
- ⑩ *製作するものによって評判や体験料が異なります。



スタンドグラス

- 〇キーホルダー
- ④ 1時間程度
- ⑤ ①10:30～ ②14:00～
- ⑥ 6名まで
- ⑦ 小学4年生以上
- ⑧ 300円～400円
- ⑨ ①ラップ等
②2～3時間
③①10:30～ ④14:00～
④ 6名まで
⑤ 中学生以上
- ⑧ 3000円程度
- ⑩ 長崎やけんスタンドグラス塾



Program 3 学ぶ プログラム

長崎の人物調査

長崎の歴史上の人物について紹介した映像を見た後、展示室で解説資料を見学し理解を深めます。

- ④ 40分、DVD観賞は15分
- ⑤ 40名以内 1グループ20名以内
- ⑥ なし
- ⑦ ホール

①コース1 上野彦馬 (→歴史文化展示ゾーン 日本の近代化と長崎)
②コース2 天正遣欧少年使節 (→歴史文化展示ゾーン 大航海時代)
③コース3 松浦静山 (→歴史文化展示ゾーン オランダとの交流)



テーマ学習、聞き取り調査

特定のテーマに沿った学習や見学、聞き取り調査を行います。

- ⑤ 40名以内
- ⑥ 講義室、会議室、展示室など
- ⑦ コース1
・オランダや中国との貿易
・朝鮮通信使
・島崎半蔵
・長崎の美術など



中国 (商船船長) シーボルト

Program 4 お仕事 プログラム

博物館スタッフ体験

博物館の仕事を見学・調査したり、実際に体験します。

- 〇職場見学
1日コース、半日コースから選ぶことができます。
- ⑤ 40名以内 1グループ20名以内
- ⑥ 中学生以上

⑦ ①施設見学 (展示室・バックヤード見学)
②講義
③実務体験 (受付体験など)
④博物館紹介シートの作成
⑤質疑応答など

〇職場体験

1日以上での体験を希望される場合は、別途ご相談ください。



博物館お仕事インタビュー

博物館ではどんな仕事を行っているか聞き取り調査を行います。

- ④ 30分程度
- ⑤ 40名以内
- ⑦ 小学4年生以上

教育用資料の貸出しについて

当館収蔵資料の写真を拡大したパネルやDVD (ビデオ) など教材資料の貸出しを行っております。

学校貸出教材一覧

写真パネル	大航海時代 (アジア図/日本図/屏風) 中国との交流 (絵巻) オランダとの交流 (絵巻/見本)
	貿易都市長崎 (東文長崎図屏風/象図/ラクダ図/火船鳥図/見本帳)
	くんち (屏風/衣裳)
	長崎の美術・工芸 (南蛮漆器/陶磁器/貴賓細工) など
DVD・ビデオ	・長崎歴史文化博物館施設のご案内 ・歴史タイムトラベル1 上野彦馬 ・歴史タイムトラベル2 天正遣欧少年使節 ・歴史タイムトラベル3 松浦静山

1. 貸出期間
原則として2週間以内です。
2. 使用料
使用料は無料です。ただし、資料の運搬にかかる費用は学校側で負担していただきます。
3. 利用方法
(1) ご利用予定日の2週間前までに貸出教材使用申請書をご記入の上、お申し込みください。
(2) 輸送方法・日時について博物館のスタッフとご相談ください。
(3) 使用後は速やかに博物館までご返却ください。
4. 遵守事項
(1) 資料は利用目的に合わせ、正しく使用してください。
(2) 資料の転写または無断で複製 (写真撮影・録音等) しないでください。
(3) 万が一、資料を紛失・損傷した場合、庫中に博物館に報告してください。
5. その他
①申込書は当館ホームページよりダウンロードできます。
<http://www.nmhc.jp/>
(教育一学校の先生方へ) 教材資料の貸出し
②ワークシート
展示室の各コーナーに対応したワークシートを用意しております。(対象: 小学校高学年) ホームページよりダウンロードできます。
③印刷費 (20部) とクリップボード (40部) の貸出も行ってあります。ワークシート使用時などにご利用ください。

教育グループ 職員

教育・研究グループリーダー 竹内有理

(平成 17 年度～、平成 23 年度は教育グループリーダー)

教育グループ 研究員 下田幹子 (平成 17 年度～)

教育グループ 研究員 久保憲司 (平成 17 年度～平成 23 年度)

教育グループ 研究員 矢野香織 (平成 17 年度～平成 19 年度)

教育グループ 研究員 出口亮太 (平成 17 年度・平成 18 年度)

教育グループ 研究員 一瀬勇士 (平成 19 年度～)

教育グループ 研究員 加藤謙一 (平成 20 年度～、平成 23 年度は主任研究員)

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
出会いが生み出す学びのレシピ
～ 学校×博物館＝∞ ～

2013年3月発行

編集・発行 長崎歴史文化博物館
〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL 095-818-8366 FAX 095-818-8407

印刷 日本紙工印刷株式会社



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture